たいせつにします プライバシー
C820008(04)

＜自主研究＞

第３回
三宅島帰島住民アンケート調査
調　査　報　告　書

平成 19 年 7 月

株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

＜自主研究＞

第３回
三宅島帰島住民アンケート調査
調　査　報　告　書

平成 19 年 7 月

株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

目　　次

Ⅰ　調査概要

1　調査目的 …… 1
2　調査設計 …… 1
3　調査内容 …… 1
4　回収結果 …… 2
5　調査協力 …… 2
6　集計にあたって …… 2

Ⅱ　調査結果のまとめ

調査結果のまとめ　（東洋大学社会学部教授 田中 淳） …… 3

Ⅲ　回答者の属性

回答者の属性 …… 7

Ⅳ　調査結果

1　帰島の状況について …… 11
（1）帰島した家族の構成 …… 11
（2）まだ帰島していない家族 …… 13
（3）現在の不安 …… 21
（4）生活再建 …… 23
（5）警戒発令時の避難 …… 30
2　世帯の生計について …… 34
（1）噴火前と帰島後の主たる収入源の職業 …… 34
（2）噴火前と比べた経済状況 …… 36
（3）今後の生計の見通し …… 41
3　復興の状況について …… 44
（1）復興のための重視度 …… 44
（2）復興状況の満足度 …… 62
（3）復興支援として必要なもの …… 81
（4）復興状況の総合満足度 …… 83
（5）三宅村の将来像 …… 85
（6）復興への期待度 …… 87
（7）地域のまとまりの変化 …… 89
（8）生活をよりよくするために必要なこと …… 91
（9）復興したと感じる状態 …… 99
（10）三宅島への愛着 …… 101
（11）帰島してみての思い …… 103
（12）復興についての意見や要望 …… 105

付1　調査票（単純集計結果）

付2　サーベイリサーチセンターの業務案内

Ⅰ　調査概要

Ⅰ．調査概要

1　調査目的

帰島後 2 年が経過した今、三宅島の村民の意識や問題点を把握することで、今後の三宅村復興の基礎資料として提供するとともに、社会に対して現状を伝達することを目的とする。

2　調査設計

(1) 調査地域

島内全域

※立入禁止区域と危険区域、高濃度地区は除外した。

(2) 調査対象

平成 19 年 4 月 20～24 日で、帰島している世帯の全て

※下記世帯は対象外とした。

- 復旧関連事業に従事する本土からの来島者
- 三宅支庁などの本土からの出向者
- 噴火後の転入者

(3) 調査対象者

調査対象地域に居住する 20 歳以上の世帯主またはこれに準ずる者

(4) 調査方法

訪問面接法（一部、留置法を併用）

(5) 調査期間

平成 19 年 4 月 20 日（金）～24 日（火）

(6) 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

3　調査内容

調査内容は以下の通り。

- 帰島の状況について
- 世帯の生計について
- 復興の状況について

4　回収結果

有効回収数は 520 であった。

三宅村の帰島世帯確認調査によると、帰島世帯は平成 17 年 9 月 2 日現在で 1,247 世帯（うち外国人 15 世帯）。これに対する回収率は 41.7%である。

本社調べ（4 月 24 日時点）では、帰島世帯は推定で 1,245 世帯であった。三宅村が実施した帰島世帯数とほぼ同数である。しかし、現地では住民が帰島し居住しているかどうか判断できない住居も多々あり、これらの住居も含めてカウントし、推定数とした。推定帰島世帯数をもとにした回収率は 41.8%である。

5　調査協力

本調査は、東洋大学社会学部田中淳教授との共同研究として実施した。

6　集計にあたって

- 図表中の n は回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- 回答比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位までを表示している。このため、回答比率の合計が 100%にならないことがある。
- 2 つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- 世帯主年齢別や家族構成別の分析では、基数が少ないために、標本誤差が大きくなり厳密な比較をすることが難しい場合がある。その場合は、得られた回答の割合の傾向をみる程度にとどめる。

Ⅱ　調査結果のまとめ

Ⅱ　調査結果のまとめ

東洋大学社会学部教授　田中　淳

3 回目を迎えた今回の調査では、生活再建にやや足踏み感を感じさせる結果となっている。昨年の第 2 回目調査では、第 1 回調査と比べて、家族も戻りつつあり、不安も減少していた。しかし、その変化と比べると、今回の 1 年の改善幅は小さくなっている。例えば、「家族でまだ帰島」していない人がいると回答した世帯は、図 1 に示したように、第 1 回調査では 28.6%が、第 2 回調査では 18.8%へと大きく改善したが、今回の調査では 16.2%と若干の改善にとどまっていた。しかも、「息子・娘」が戻っていないという比率は、64.4%から、67.4%、そして今回の 77.4%へと高まっている。その理由も「避難先で就職したから」(41.7%)、「避難先で就学したから」(28.6%) をあげる島民が多い。その結果、戻っていない家族は「帰島しないだろう」とみる人は、28.8%から 35.9%、そして 40.5%へと増えている。当面、戻れる人は、昨年の時点でかなり帰島していたことになる。

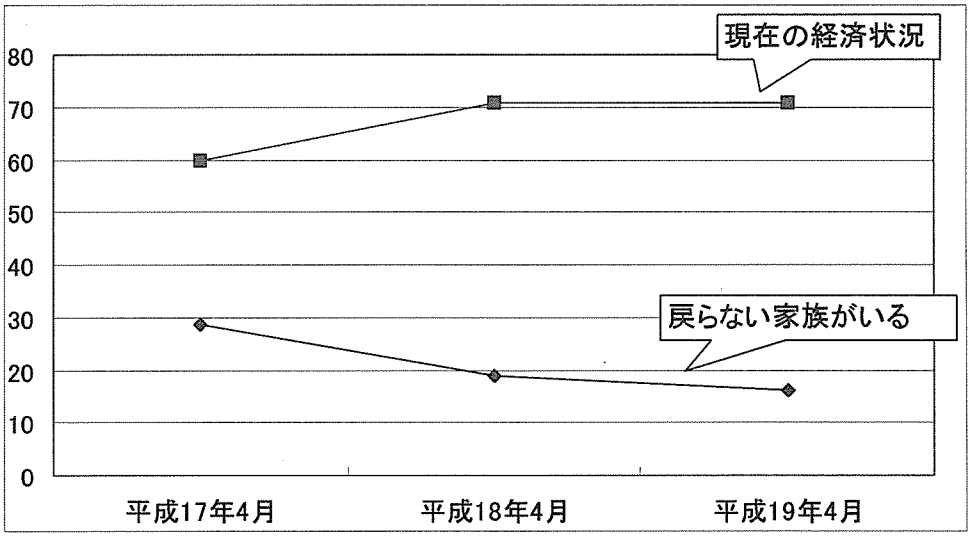


図 1　家族の復帰状況と経済状況

現在の経済状況も、噴火前を100とすると、図1に示したように、1回目は平均で59.8だったのが、昨年は70.7に改善した。しかし、今年も70.8であり、殆ど変化していない。もちろん、年金生活者が46.5%を占めていることも影響している可能性はある。しかし、3回の調査で年金生活者の比率は増えているわけではないので、それだけでは説明できない。観光客業や農林水産業の収入があると考えざるを得ない。

島での生活で感じる不安についても、改善されているものがある一方で、むしろ増加しているものもある。図2に示したが、「田畑の再建」や「自宅・店舗・民宿の再建」などはかなり進んでいる。生活基盤は回復してきている。その一方で、図の下側に示した「自分や家族の健康」や「火山ガスの発生」、「雄山の再噴火」などはむしろ不安が高まっている。依然として、火山ガスや噴火への不安は残り、高齢化とともに健康不安も高い水準のまま推移しており、しかもむしろ高まる傾向にある。さらに、「島の人口の減少」や「観光客の減少」、「自然環境の悪化」などは、2回目調査では改善したものの、今回再び不安が高まっている。U字型の傾向は、期待したものの、期待通りに進まない現状に直面した島民の気持ちを反映しているのかもしれない。

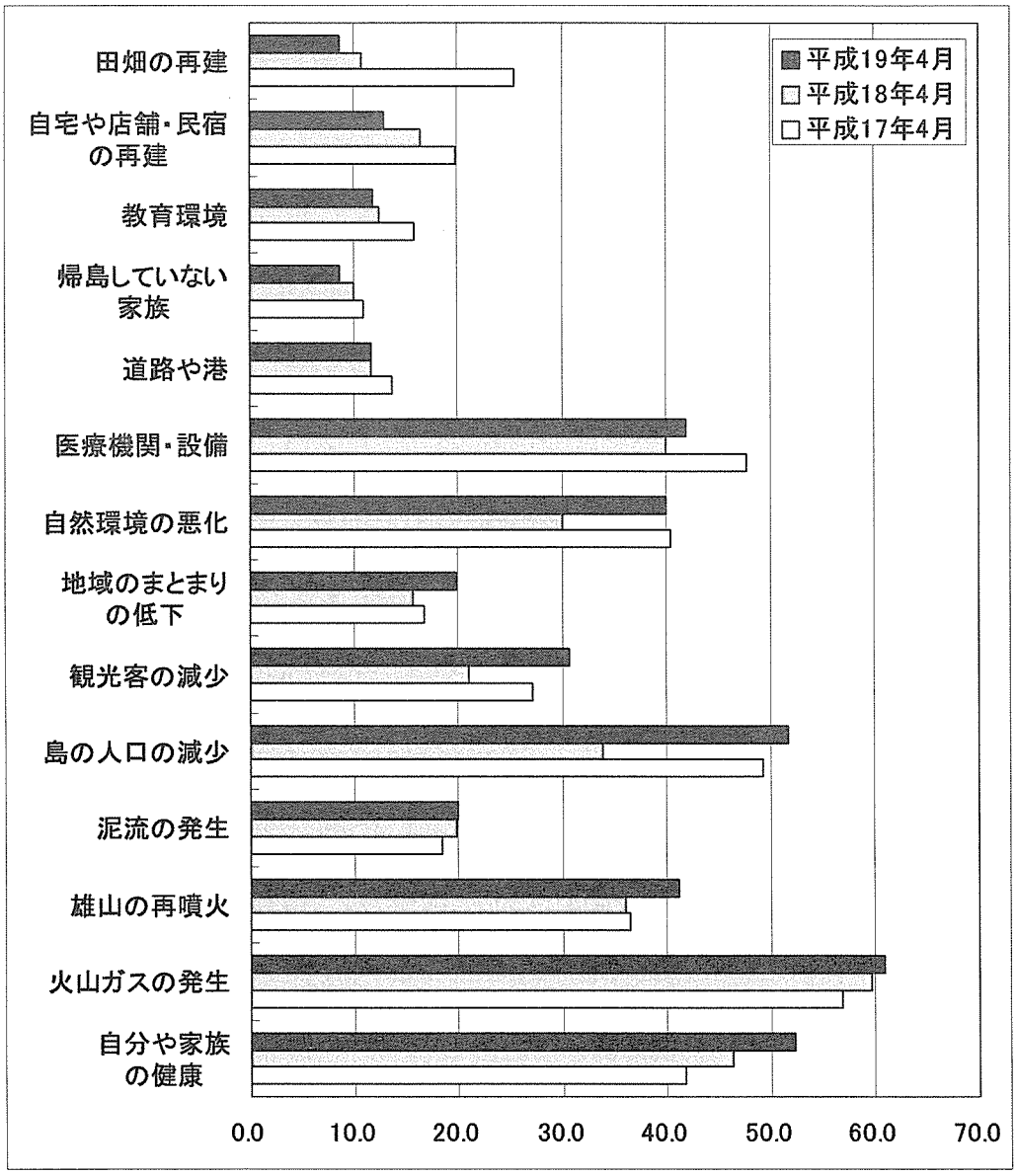


図２　現在の不安

今回の調査では新たな知見が２つ見いだされている。第１が、空路再開への強い要望である。第２に、火山ガス発生に伴う避難を確保する上で、避難の足の確保を求めている点である。最初の空路再開への要望は、復興のために重視する項目として、一番高く上げられたことに表れている。図３に示したように、「空港の再開」を「非常に重視」および「やや重視」する人は合わせて85.8%に達している。ついで、「医療機関・医療設備」が79.0%、「高齢者福祉の充実」が71.7%と続く。空港の再開は、「非常に重視する」人が77.3%と極めて高く、第２位の医療機関・医療設備の57.1%を20ポイントも上回っている。しかも、マイナスで示したが不満率でみても、空港の再開が一番高い。「非常に不満」および「やや不満」とした人が合わせて79.2%と、他の項目と比べて極めて高い。ついで、「医療機関・医療設備」の52.1%であることからみても、不満率は際だっている。また、どのような状態になったら復興したと感じるかに、「空路が再開されたとき」を61.7%があげている。ついで「立ち入り規制が解除されたとき」および「枯れ木がなくなり緑が回復したとき」の47.5%を大きく上回っている。さらに、観光客を増やすための対策として、「定期航空路が再開できないのであればセスナ機等を就航させる」を73.5%の人が上げている。「三宅島オートバイレースを成功させ、定着させる」の16.5%に比べて、評価は極めて高い。島民は空路の再開を強く望み、また島活性化の打開策と見ていることになる。

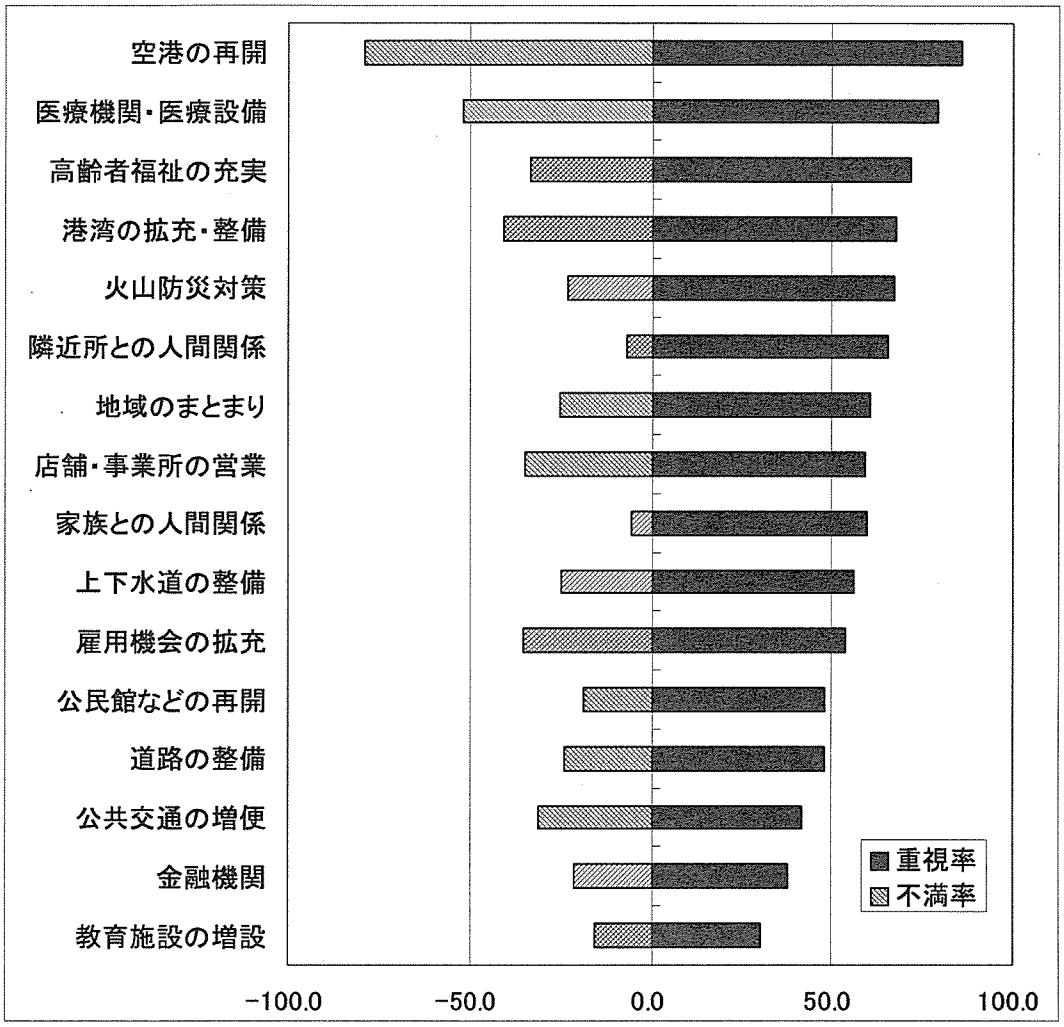


図３　復興で重視する項目、不満な項目

第2に、火山ガス発生時の避難に関しては、過半数の50.6%が「無事に避難できる」と考えている。1回目の調査で42.0%、2回目の調査で49.1%と徐々に安心感が高まっている。しかし、避難できない理由として、「交通手段がないから（歩けない）」を60.7%が上げている。1回目、2回目では「避難場所が遠いから」と「その他」が多かったが、今回はその比率が下がり、交通手段へと回答が移ったことになる。新たに設けた「交通手段」が実は本質的だったことがわかる。これらの知見は、徐々に、被災者のニーズが見えにくくなっていく中で、貴重なものと言えよう。

このほかにも、再建にかかった費用と住宅の修理にかかった費用の分布も明らかになった。図4に示したように、住宅の修理にかかった費用は100万円から200万円以内が最も多く31.5%、ついで200万円から300万円以内が18.2%を占める。200万円以下を合わせると46.5%を占め、300万円以下で64.7%を占める。その一方で、500万円以上かかった人も16%いた。また、生活再建にかかった費用は500万円以上が25.2%と一番多く、ついで200万円から300万円が24.9%と分かれる結果となった。300万円以下で51.7%を占める一方で、500万円を超える人も多かった。現在、見直しが検討されている被災者生活支援法との関連からみても貴重な情報といえよう。

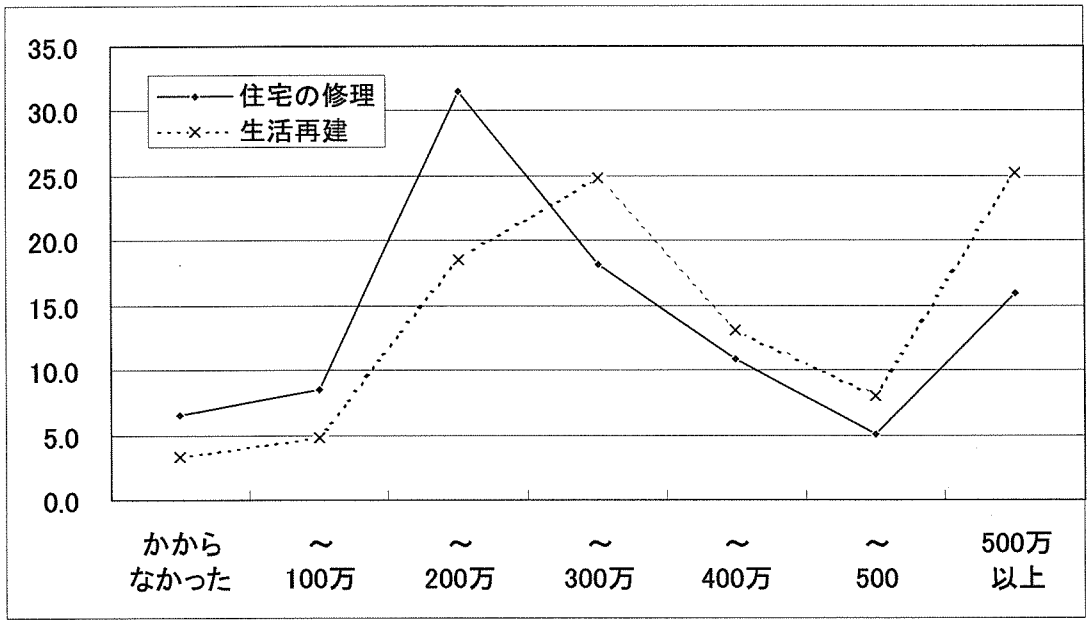


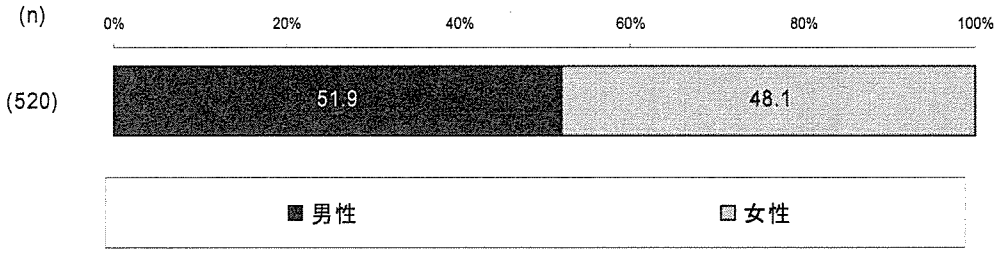
図４　再建費用

数字に表れている姿では、このようにやや再建のペースは落ち着いてきた１年だった。しかし、島への愛着を感じる人は、ほぼ９割で維持されているし、帰島して良かったと８割近くが回答している。また、細かに見ると、農業が 1.6%から 2.9%へ増えているなど少しづつ再建に向けての歩みは続けられている。社会の関心は徐々に薄れ、また被災者のニーズが見えにくくなっていく中で、これからも丹念に被災者の要望を拾い上げていく努力は必要であろう。三宅島島民が一日も早く復興したと確信できる日が一日も早く来ることを切に祈念する。

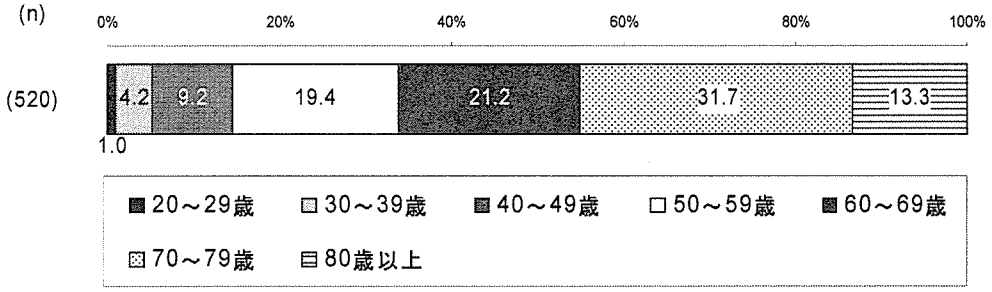
Ⅲ　回答者の属性

Ⅲ．調査回答者の属性

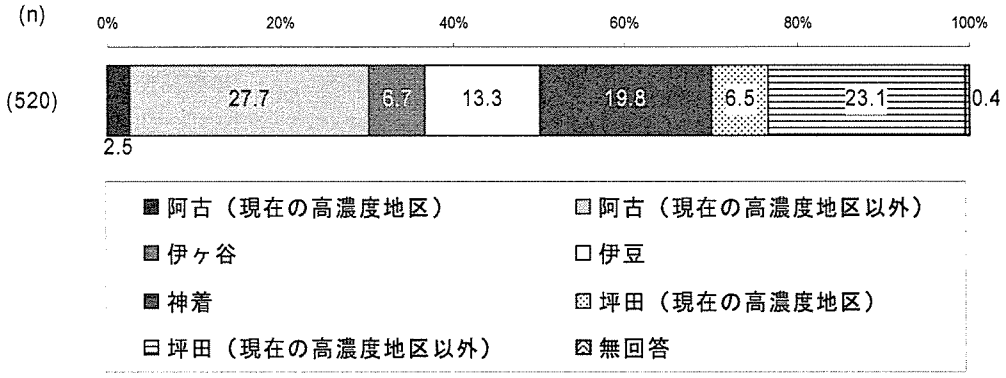
（性別）



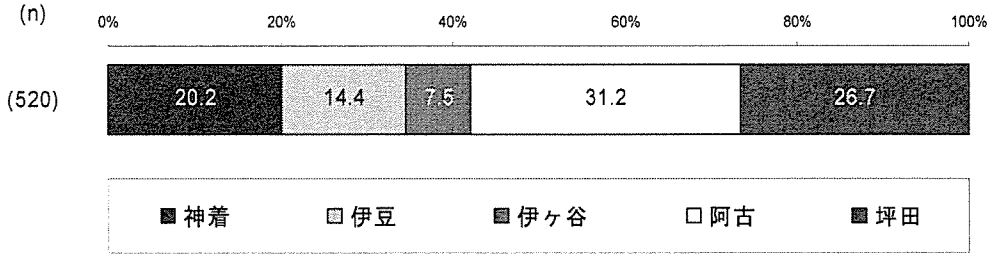
（年齢）



（噴火前の居住地区）



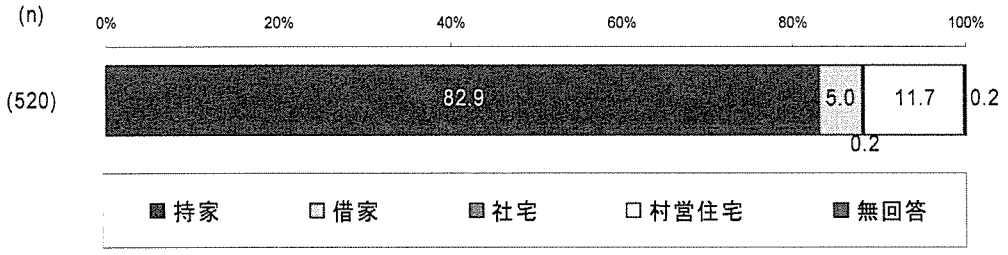
（現在の居住地区）



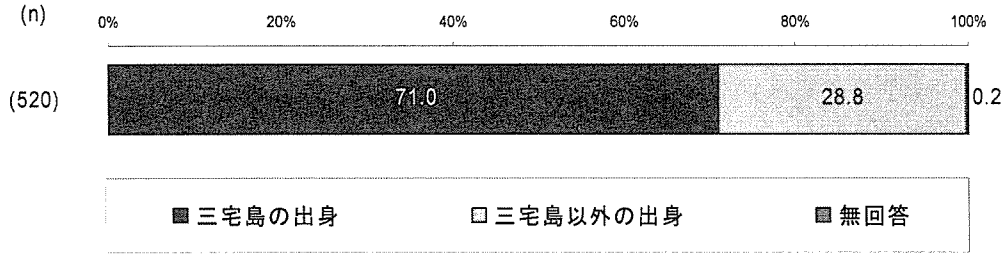
（居住地区の変遷）

		帰島後（現在）居住地区					
		調査数	神着	伊豆	伊ヶ谷	阿古	坪田
噴火前居住地区	全体	520	105	75	39	162	139
	神着	103	**95.1**	1.9	-	1.0	1.9
	伊豆	69	-	**100.0**	-	-	-
	伊ヶ谷	35	-	-	**100.0**	-	-
	阿古（計）	157	-	0.6	-	**97.5**	1.9
	高濃度地区	13	-	-	-	92.3	7.7
	高濃度地区以外	144	-	0.7	-	97.9	1.4
	坪田（計）	154	4.5	1.9	2.6	4.5	**86.4**
	高濃度地区	34	14.7	5.9	2.9	11.8	64.7
	高濃度地区以外	120	1.7	0.8	2.5	2.5	92.5

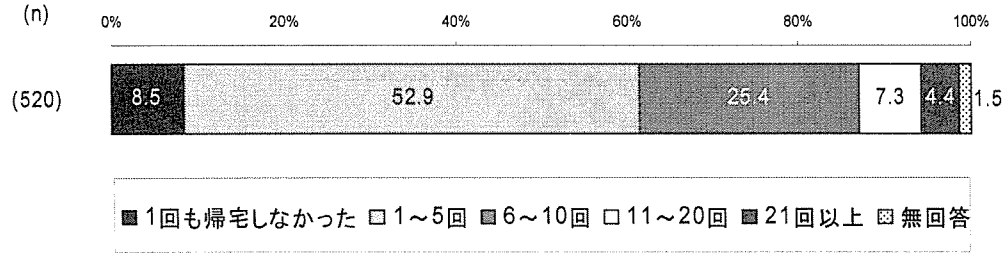
（現在の住居形態）



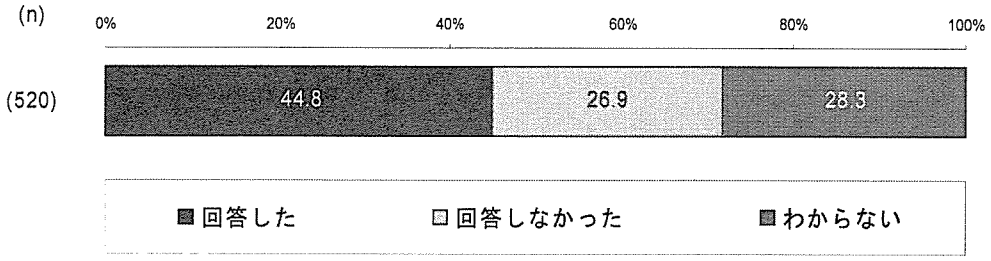
（出身地）



（避難中の一時帰宅の回数）



（前回調査の回答有無）



Ⅳ　調査結果

Ⅳ. 調査結果

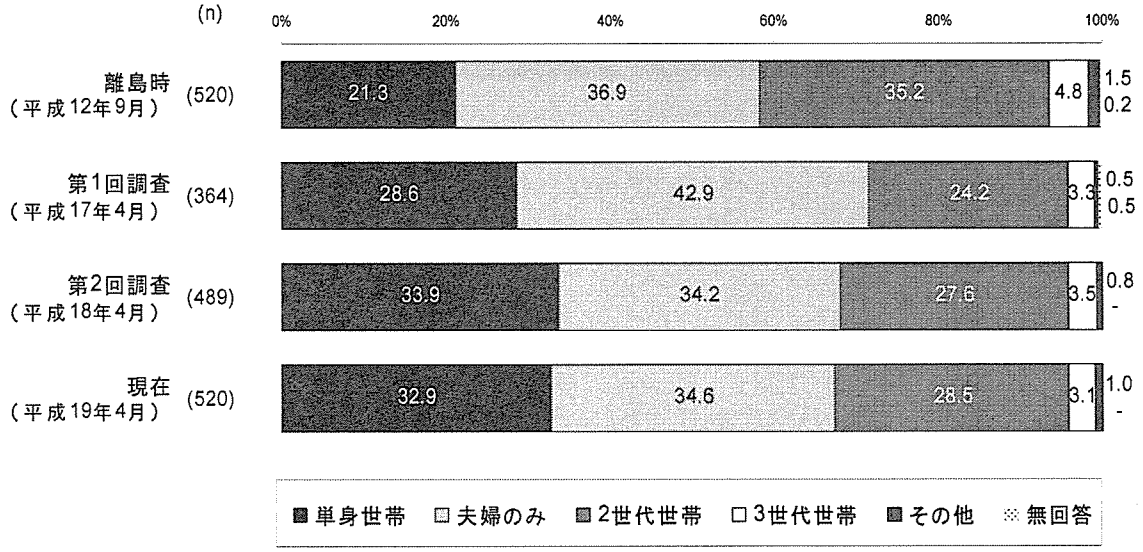
1　帰島の状況について

(1) 帰島した家族の構成

「単身世帯」は離島時 21%➔現在 33%

問1　現在、帰島されているあなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを１つお選びください。

問2　それでは、離島時のご家族の構成は次のどれでしたか。あてはまるものを１つお選びください。



回答世帯の家族構成について、平成12年9月に全島避難した離島時と、現在（帰島後）の状況を尋ねた。

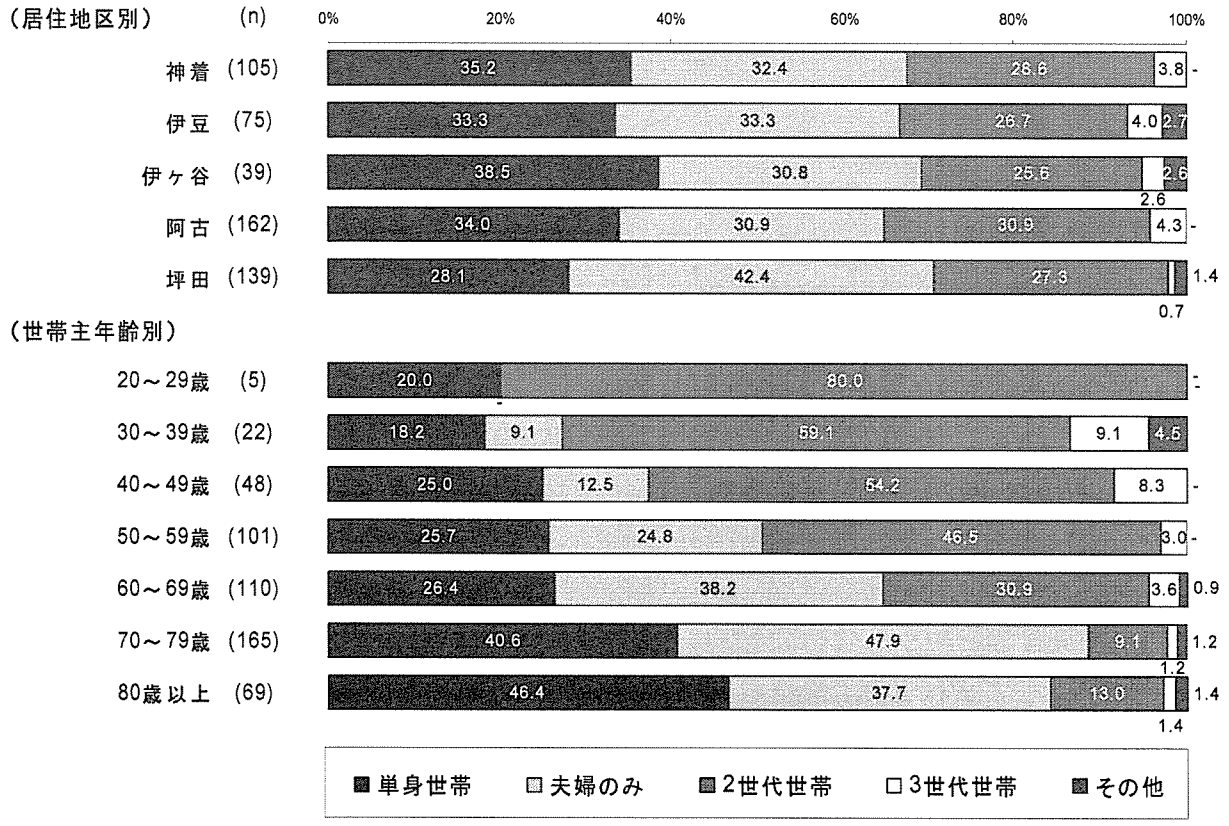
まず、離島時（平成12年9月）では、「夫婦のみ」(36.9%) との回答が最も高く、続く「2世代世帯」(35.2%) も3割台半ば、「単身世帯」(21.3%) は2割強であった。

次に、現在（平成19年4月）では、離島時と同様「夫婦のみ」(34.2%) との回答が最も高く、次いで高くなったのは「単身世帯」(32.9%) で3割強であった。離島時と比べると、「単身世帯」は12ポイント増である。一方、複数世代の世帯の割合が減少した。

現在の家族構成について居住地区別にみると、「単身世帯」との回答は伊ヶ谷地区（38.5%）で高く4割弱を占め、神着地区（35.2%）でも3割台半ばであった。

世帯主の年齢別にみると、「単身世帯」との回答は80歳以上の世帯（46.4%）、70～79歳の世帯（40.6%）で4割を超えている。

［現在：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）］

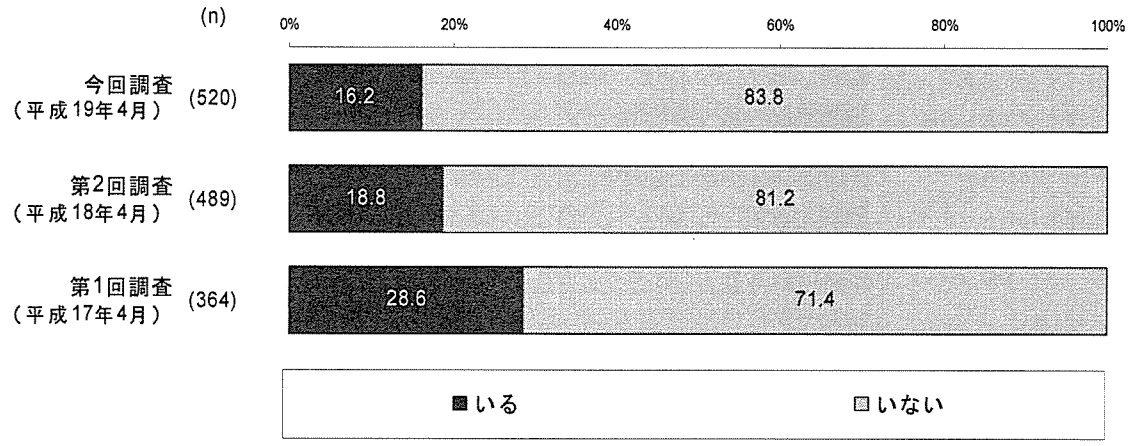


(2) まだ帰島していない家族

① 未帰島者の有無

「いる」が16%、帰島直後（第1回調査）から12ポイント減少

問3　あなたのご家族で、まだ帰島されていない方はいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。



まだ三宅島に帰島していない家族の有無を尋ねたところ、「いる」(16.2%) との回答は1割台半ばであった。

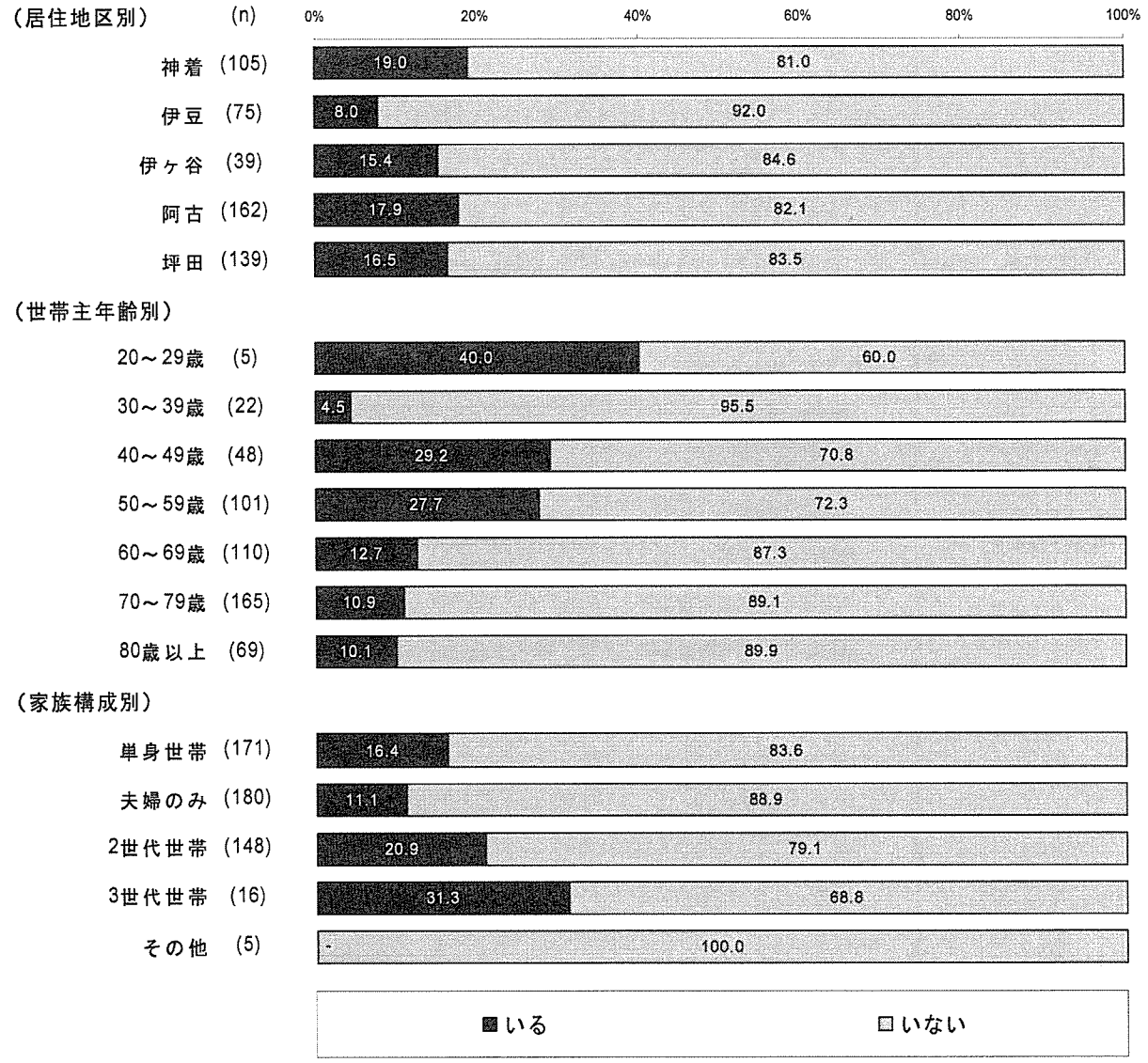
「いる」との回答は、昨年の第2回調査（平成18年4月）では18.8%であり、今回とそれほど差はなかった。一昨年の帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では28.6%であり、今回と比べると12ポイントの減少となっている。

居住地区別にみると、まだ帰島していない家族が「いる」との回答は神着地区（19.0%）で最も高く2割弱であった。以下、阿古地区（17.9%）、坪田地区（16.5%）の順となっている。

世帯主の年齢別にみると、「いる」との回答は40～49歳の世帯（29.2%）と50～59歳の世帯（27.7%）で3割弱となった。一方、60歳以上の世帯では1割程度であり、60～69歳で12.7%、70～79歳で10.9%、80歳以上で10.1%であった。

家族構成別にみると、「いる」との回答は2世代世帯（20.9%）で2割を超えた。単身世帯（16.4%）でも1割台半ばとなった。

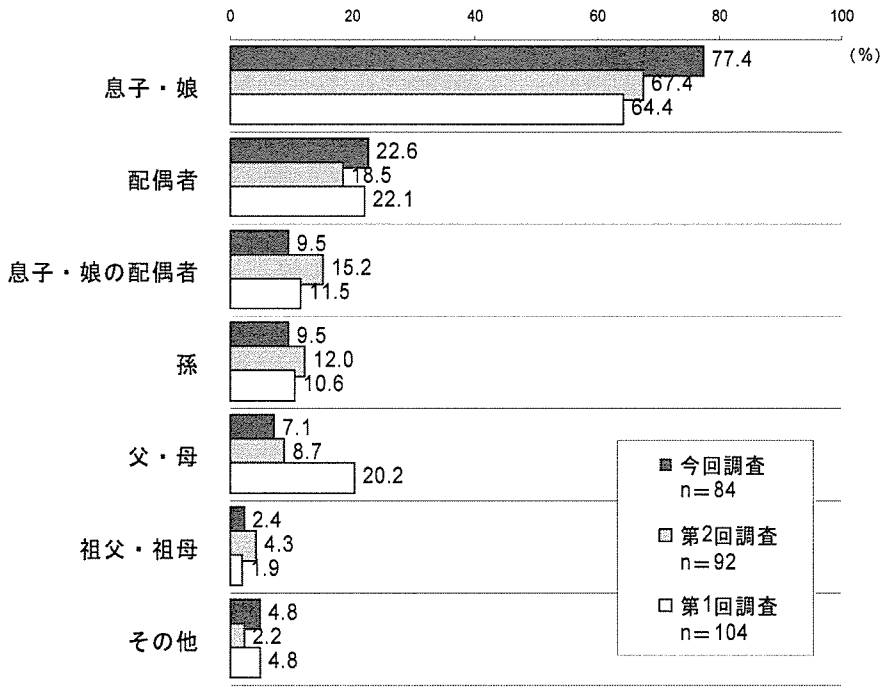
[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]



② 未帰島者

「息子・娘」が8割弱、「配偶者」が2割弱

問3－1　（問3で「1　いる」とお答えの方にお聞きします）
現在、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、それはどなたか尋ねたところ、「息子・娘」（77.4%）との回答が最も高く8割弱を占めた。次いで「配偶者」（22.6%）が2割強であった。また、「息子・娘の配偶者」（9.5%）、「孫」（9.5%）、「父・母」（7.1%）はいずれも1割弱であった。

これまでの調査結果と比較すると、「息子・娘」との回答は年々増加しており、第1回調査（平成17年4月）では64.4%、第2回調査（平成18年4月）では67.4%、今回は77.4%で昨年から10ポイント増加している。一方、「父・母」との回答は年々減少しており、第1回調査が20.2%で、今回は7.1%となり、13ポイントの減少となった。その他の「配偶者」や「息子・娘の配偶者」、「孫」との回答には傾向に変化はみられず、「配偶者」が2割程度、「息子・娘の配偶者」と「孫」は1割程度であった。

［属性別集計結果（世帯主年齢別）］　※　基数（%）小さいため参考にとどめる

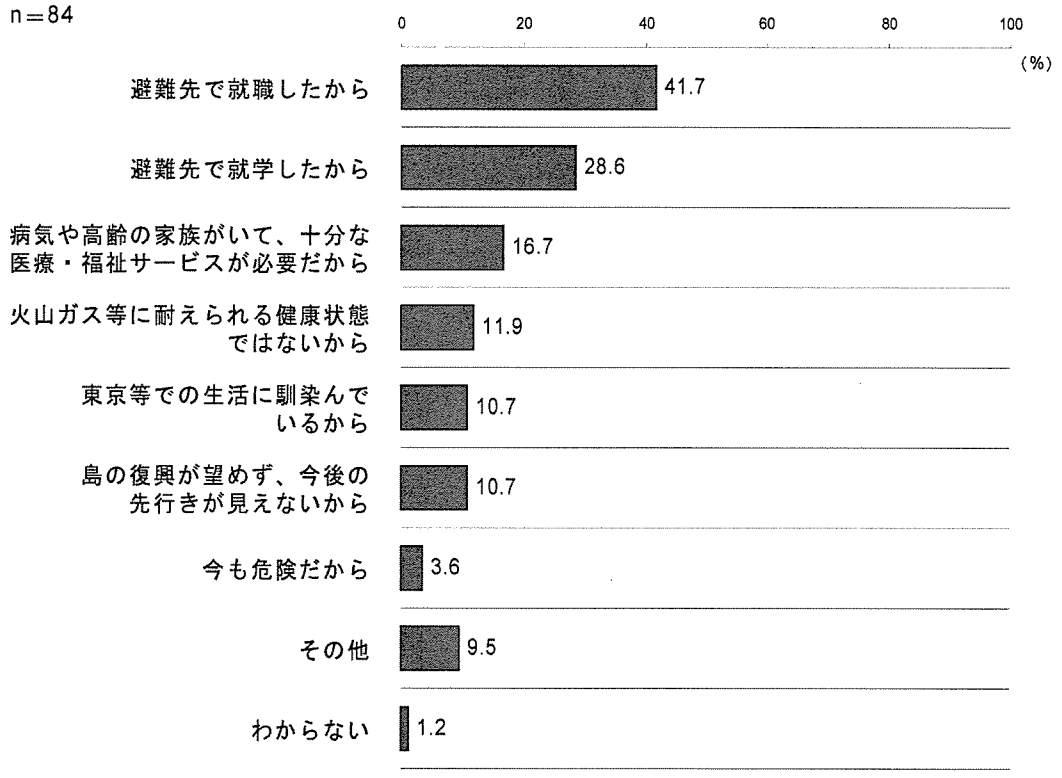
		調査数	配偶者	息子・娘	父・母	息子・娘の配偶者	祖父・祖母	孫	その他
	全体	84	22.6	77.4	7.1	9.5	2.4	9.5	4.8
世帯主年齢別	20～29歳	2	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
	30～39歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	40～49歳	14	28.6	85.7	7.1	-	7.1	-	-
	50～59歳	28	25.0	75.0	10.7	3.6	3.6	3.6	7.1
	60～69歳	14	28.6	85.7	14.3	7.1	-	-	-
	70～79歳	18	11.1	66.7	-	27.8	-	33.3	5.6
	80歳以上	7	14.3	85.7	-	14.3	-	14.3	-
家族構成別	単身世帯	28	57.1	71.4	7.1	3.6	-	7.1	7.1
	夫婦のみ	20	-	95.0	-	25.0	-	25.0	-
	2世代世帯	31	9.7	77.4	12.9	3.2	-	3.2	6.5
	3世代世帯	5	-	40.0	-	20.0	40.0	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに　　網掛け）

③ まだ帰島していない理由

「避難先で就業」4割強、「避難先で就学」3割弱

問3－2　（問3で「1　いる」とお答えの方にお聞きします）
現在帰島していないご家族の方が、帰島されない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、その家族が帰島していない理由を尋ねたところ、「避難先で就職したから」(41.7%) との回答が最も高く 4 割強を占めた。次いで「避難先で就学したから」(28.6%) が 3 割弱であった。また、「病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから」(16.7%)、「火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから」(11.9%) という健康・福祉の面での理由も 1 割を超えた。なお、「島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから」(10.7%) との回答は 1 割であった。

［属性別集計結果（世帯主年齢別）］　※基数（%）小さいため参考にとどめる

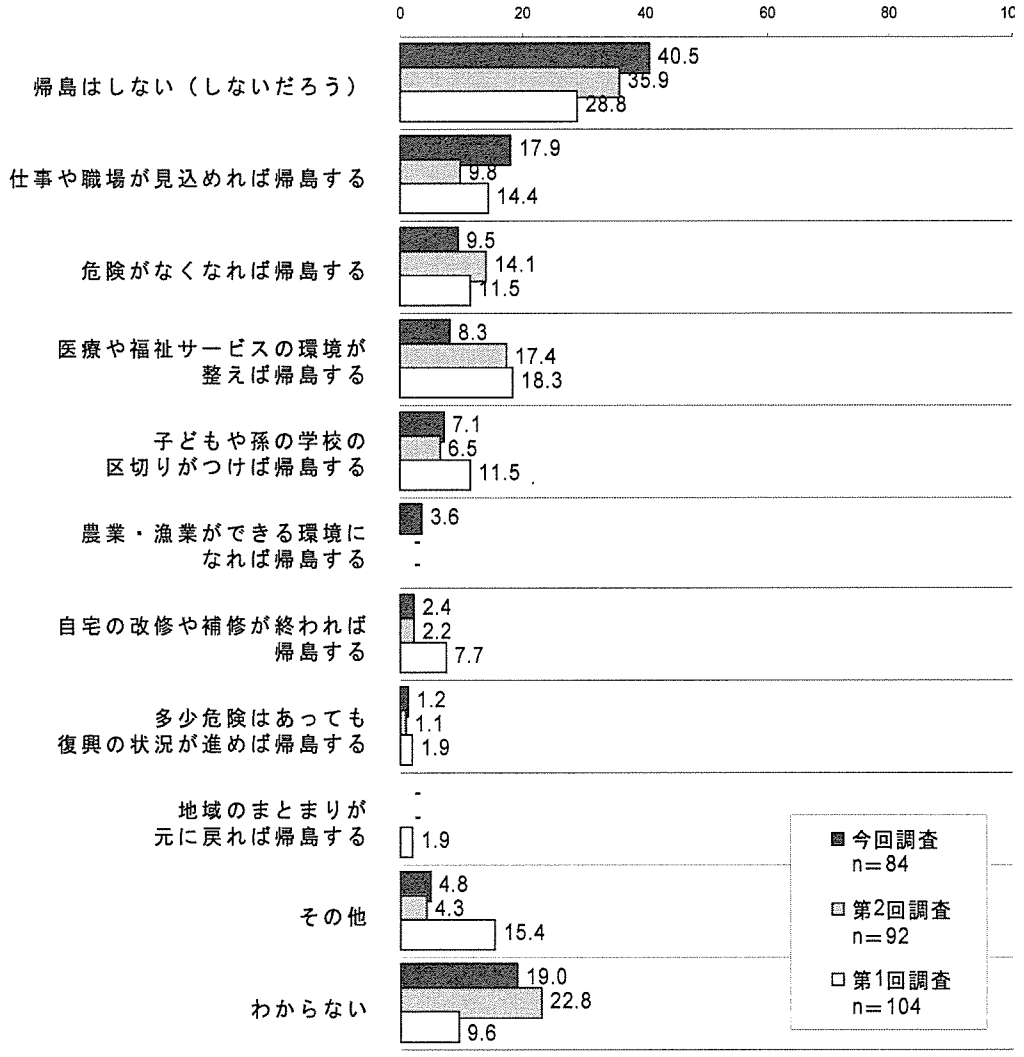
		調査数	今も危険だから	火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから	避難先で就職したから	避難先で就学したから	東京等での生活に馴染んでいるから	島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから	病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから	その他	わからない
	全体	84	3.6	11.9	41.7	28.6	10.7	10.7	16.7	9.5	1.2
世帯主年齢別	20～29歳	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	40～49歳	14	-	14.3	35.7	42.9	21.4	-	14.3	-	7.1
	50～59歳	28	3.6	14.3	39.3	39.3	7.1	3.6	25.0	17.9	-
	60～69歳	14	-	7.1	64.3	14.3	14.3	21.4	14.3	-	-
	70～79歳	18	5.6	11.1	27.8	16.7	11.1	16.7	11.1	16.7	-
	80歳以上	7	-	14.3	57.1	14.3	-	28.6	14.3	-	-
家族構成別	単身世帯	28	7.1	25.0	28.6	25.0	10.7	7.1	14.3	17.9	-
	夫婦のみ	20	5.0	-	45.0	35.0	-	25.0	5.0	5.0	-
	2世代世帯	31	-	6.5	54.8	29.0	12.9	6.5	22.6	6.5	3.2
	3世代世帯	5	-	20.0	20.0	20.0	40.0	-	40.0	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　網掛け）

④ まだ帰島していない家族の今後の帰島予定

「帰島はしない（しないだろう）」が4割

問3－3　（問3で「1　いる」とお答えの方にお聞きします）
現在帰島していないご家族の方の、今後の帰島のご予定はいかがでしょうか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、その家族の帰島予定を尋ねたところ、「帰島はしない（しないだろう）」（40.5%）との回答が最も高く4割を占めた。また「わからない」（19.0%）が2割弱となった。これらを合わせると6割弱、残りの4割程度は条件付きでの帰島予定と考えられる。条件付きの帰島予定としては、「仕事や職場が見込めれば帰島する」（17.9%）との回答がと最も高く2割弱となり、次いで「危険がなくなれば帰島する」（9.5%）、「医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する」（8.3%）、「子供や孫の学校の区切りが付けば帰島する」（7.1%）との回答が1割弱であった。

これまでの調査結果をみると、「帰島はしない（しないだろう）」との回答が年々増加しており、第1回調査（平成17年4月）では28.8%、第2回調査（平成18年4月）では35.9%、今回は40.5%で一昨年から

12 ポイントの増加をみている。また、「仕事や職場が見込めれば帰島する」との回答も増加傾向にあるといえる。一方、減少傾向にあるのは、「医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する」、「子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する」、「自宅の改修や補修が終われば帰島する」との回答であり、このような回答を挙げていた人々は、全島避難指示の解除から 2 年が経過する中で、既に帰島したものと推測される。

［属性別集計結果（世帯主年齢別）］ ※基数（%）小さいため参考にとどめる

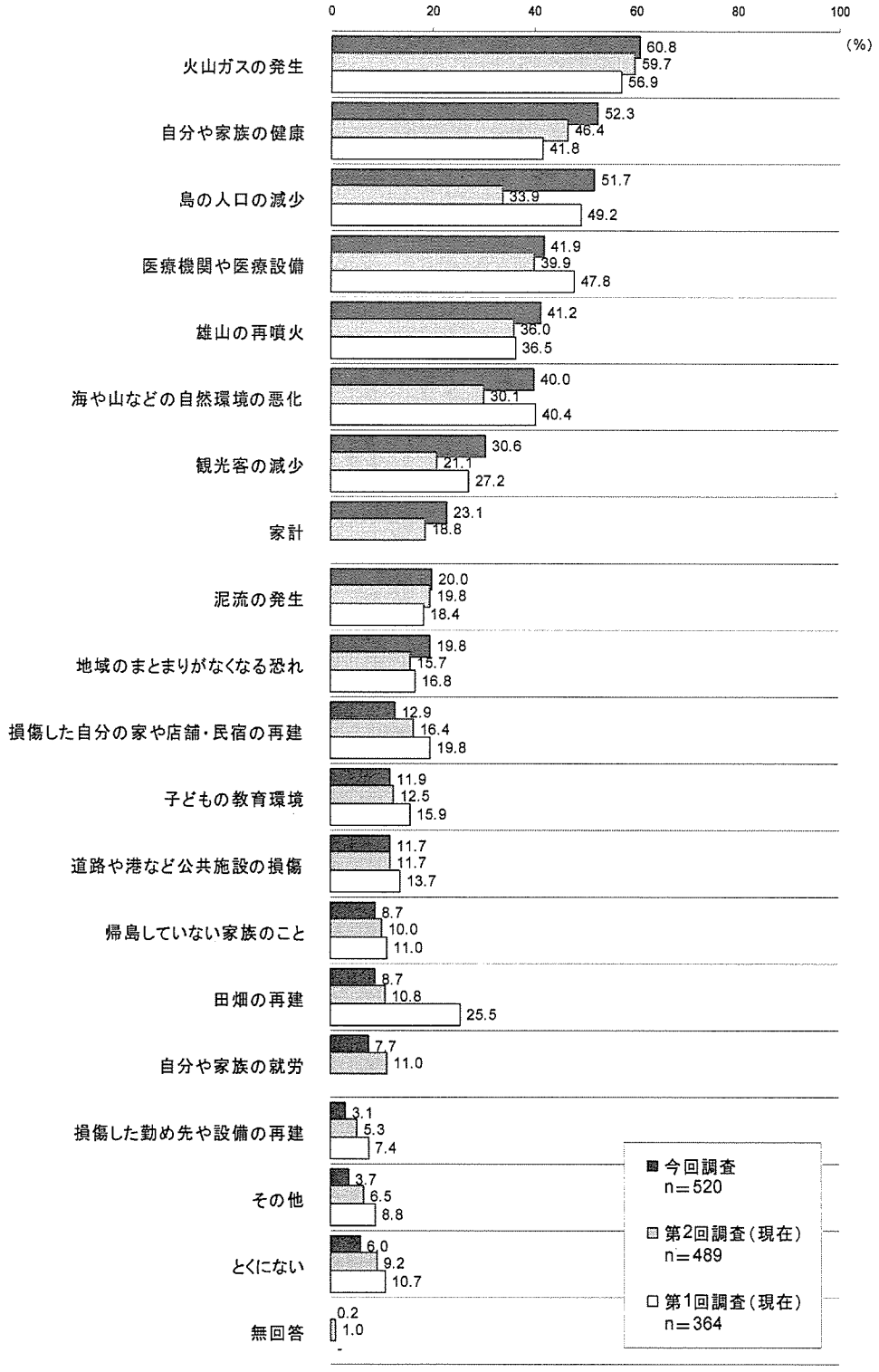
		調査数	危険がなくなれば帰島する	多少危険はあっても復興の状況が進めば帰島する	自宅の改修や補修が終われば帰島する	仕事や職場が見込めれば帰島する	農業・漁業ができる環境になれば帰島する	地域のまとまりが元に戻れば帰島する	医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する	子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する	その他	帰島はしない（しないだろう）	わからない
	全体	84	9.5	1.2	2.4	17.9	3.6	-	8.3	7.1	4.8	40.5	19.0
世帯主年齢別	20～29歳	2	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	30～39歳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	40～49歳	14	-	-	-	14	7.1	-	7.1	14.3	-	50.0	28.6
	50～59歳	28	14.3	-	7.1	21.4	3.6	-	17.9	3.6	-	39.3	14.3
	60～69歳	14	7.1	7.1	-	14.3	7.1	-	7.1	14.3	7.1	35.7	14.3
	70～79歳	18	11.1	-	-	22.2	-	-	-	5.6	16.7	38.9	11.1
	80歳以上	7	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	42.9	42.9
家族構成別	単身世帯	28	21.4	-	-	10.7	-	-	10.7	10.7	7.1	39.3	17.9
	夫婦のみ	20	5.0	5.0	-	15.0	-	-	-	5.0	5.0	45.0	20.0
	2世代世帯	31	-	-	3.2	29.0	9.7	-	9.7	6.5	-	35.5	22.6
	3世代世帯	5	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	60.0	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに 網掛け）

(3) 現在の不安

「火山ガスの発生」6割、「自分や家族の健康」「島の人口の減少」過半数

問4　帰島されてから、あなたは現在、どのようなことに不安を感じていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



帰島してから現在不安に感じている事柄としては、「火山ガスの発生」（60.8%）との回答がと最も高く6割を占め、次いで「自分や家族の健康」（52.3%）、「島の人口の減少」（51.7%）がともに過半数を占めた。また、「医療機関や医療設備」（41.9%）、「雄山の再噴火」（41.2%）、「海や山などの自然環境の悪化」（40.0%）も4割以上であった。

これまでの調査結果をみると、「損傷した自分の家や店舗・民宿の再建」、「田畑の再建」、「損傷した勤め先や設備の再建」といった生活基盤に関する不安は年々減少しており、再建が進んでいることがうかがえる。一方、「火山ガスの発生」、「雄山の再噴火」、「泥流の発生」といった災害についての不安や、「自分や家族の健康」、「家計」、「地域のまとまりのなくなる恐れ」といった生活に関する不安は増加する傾向にある。なお、「火山ガスの発生」との回答は毎回最も高い回答である。

世帯主の年齢別にみると、「火山ガスの発生」との回答はいずれの年齢の世帯でも最も高く、5割台半ばから6割台半ばを占めた。特に60～69歳（67.3%）、50～59歳（64.4%）で高い。また、「自分や家族の健康」との回答は80歳以上（60.9%）で最も高く6割を占め、年齢層が高くなるにつれ高くなっている。

［属性別集計結果（世帯主年齢別）］

		調査数	自分や家族の健康	島の人口の減少	観光客の減少	海や山などの自然環境の悪化	帰島していない家族のこと	損傷した自分の家や店舗・民宿の再建	田畑の再建	損傷した勤め先や設備の再建	道路や港など公共施設の損傷	火山ガスの発生	泥流の発生	雄山の再噴火
全体		520	52.3	51.7	30.6	40.0	8.7	12.9	8.7	3.1	11.7	60.8	20.0	41.2
世帯主年齢別	20～29歳	5	20.0	40.0	-	40.0	-	-	-	-	20.0	60.0	20.0	40.0
	30～39歳	22	36.4	40.9	31.8	18.2	13.6	4.5	-	-	22.7	54.5	13.6	18.2
	40～49歳	48	47.9	52.1	33.3	41.7	22.9	18.8	6.3	-	8.3	54.2	16.7	41.7
	50～59歳	101	50.5	60.4	40.6	46.5	8.9	8.9	6.9	2.0	14.9	64.4	26.7	50.5
	60～69歳	110	50.9	60.0	36.4	48.2	5.5	17.3	4.5	7.3	11.8	67.3	19.1	40.0
	70～79歳	165	55.2	47.9	23.0	37.0	7.3	13.9	12.1	2.4	9.7	57.0	20.0	41.2
	80歳以上	69	60.9	39.1	24.6	30.4	5.8	8.7	14.5	2.9	10.1	60.9	15.9	36.2

		調査数	地域のまとまりがなくなる恐れ	医療機関や医療設備	子どもの教育環境	自分や家族の就労	家計	その他	とくにない	無回答
全体		520	19.8	41.9	11.9	7.7	23.1	3.7	6.0	0.2
世帯主年齢別	20～29歳	5	-	40.0	20.0	-	20.0	-	-	-
	30～39歳	22	9.1	45.5	27.3	9.1	22.7	-	9.1	-
	40～49歳	48	10.4	45.8	20.8	6.3	27.1	8.3	6.3	-
	50～59歳	101	20.8	45.5	15.8	12.9	28.7	1.0	6.9	-
	60～69歳	110	22.7	45.5	10.0	11.8	25.5	2.7	2.7	-
	70～79歳	165	21.2	41.2	7.3	4.2	18.8	4.8	6.7	0.6
	80歳以上	69	21.7	29.0	8.7	2.9	18.8	4.3	7.2	-

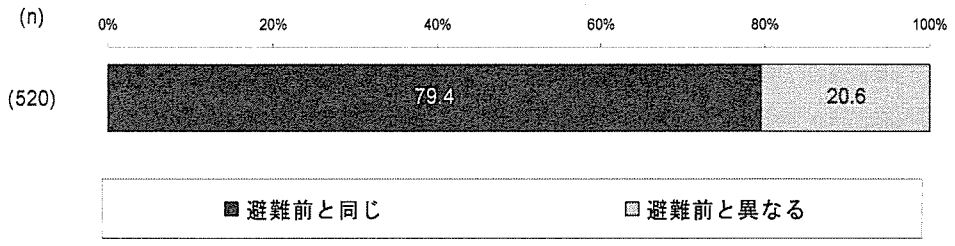
（全体と比べて10ポイント以上高いものに　　網掛け）

(4) 生活再建

① 現在の住居

「避難前と異なる」が2割

問5　今現在お住まいの住宅は、避難前と同じものですか。あてはまるものを1つお選びください。



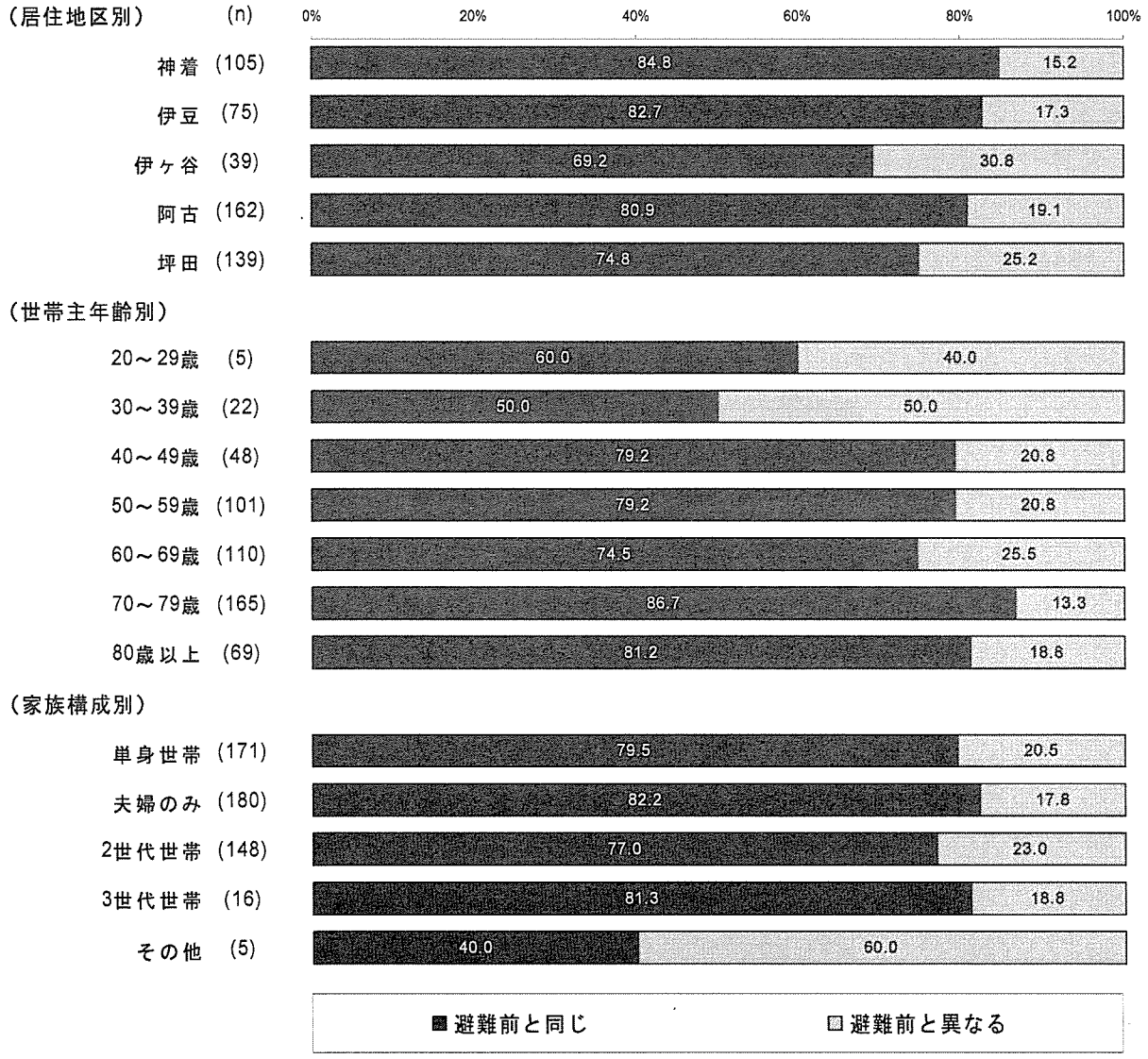
現在居住している住宅については、「避難前と同じ」との回答が79.4%、「避難前と異なる」が20.6%であった。

居住地区別にみると、「避難前と同じ」との回答は神着地区（84.8%）、伊豆地区（82.7%）、阿古地区（80.9%）では8割を超え高くなった。一方、「避難前と異なる」との回答は、噴火前に他の地区に居住していたということであるが、伊ヶ谷地区（30.8%）、坪田地区（25.2%）、阿古地区（19.1%）などで2割から3割となった。

世帯主の年齢別にみても、「避難前と同じ」との回答はいずれの年齢の世帯でも7割から8割を占めた。「避難前と異なる」との回答は60～69歳（25.5%）で4世帯に1世帯の割合、40～49歳と50～59歳（20.8%）では2割であった。

家族構成別にみると、いずれの家族構成でも全体と同じ傾向であった。

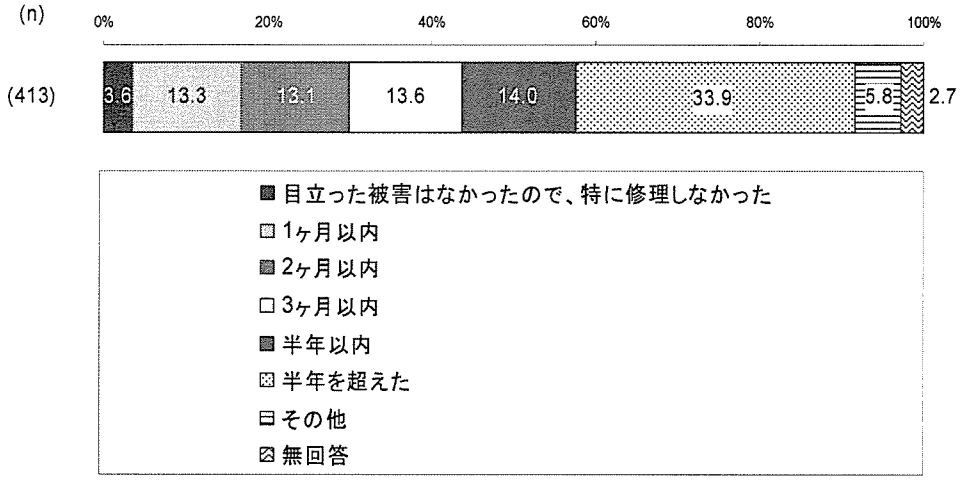
［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］



② 住居の修理期間

「半年を越えた」が３割強

問５－１　（問５で「１　避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）
家屋の修理には、帰島してからどれくらい時間がかかりましたか。あてはまるものを１つお選びください。

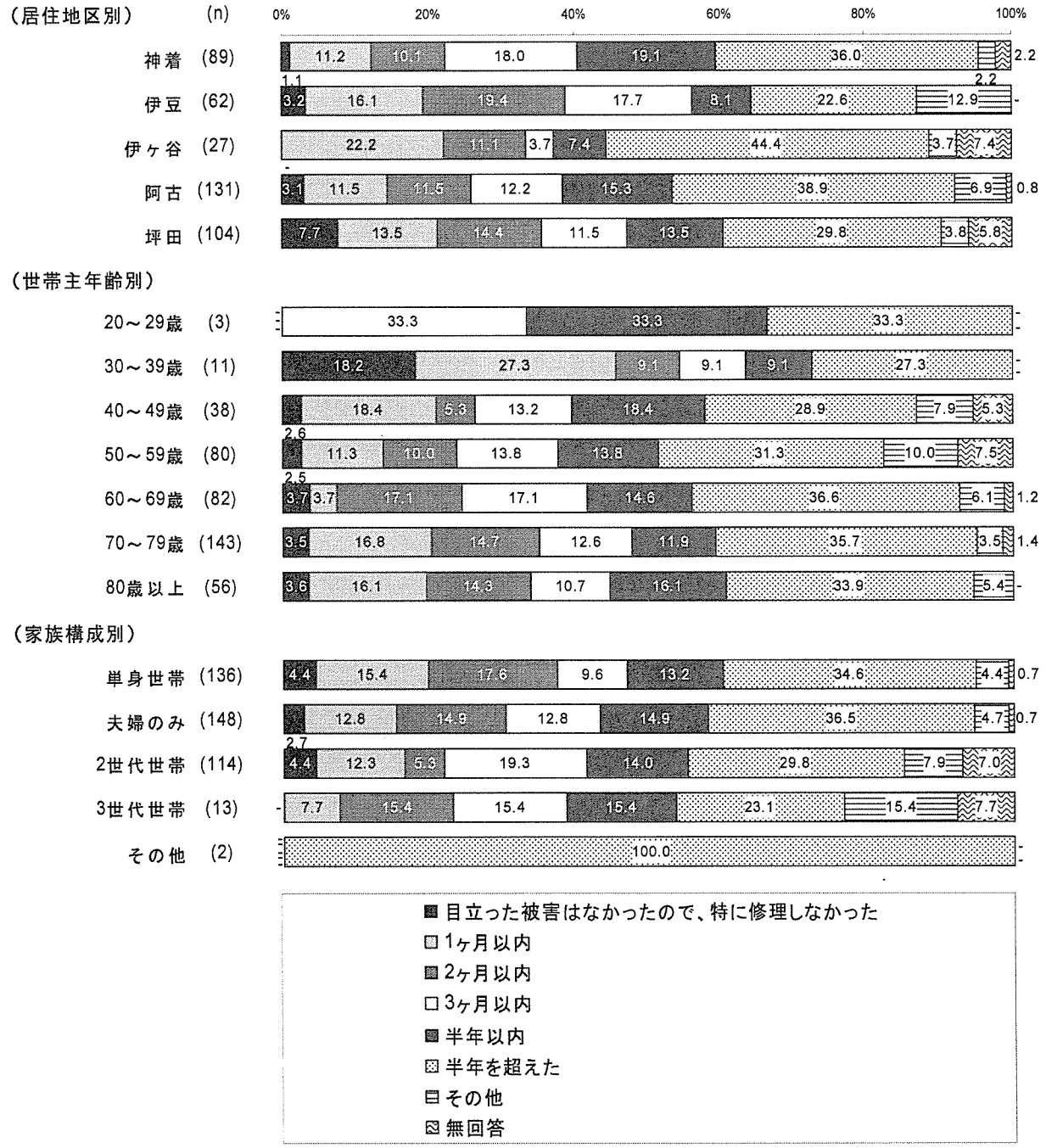


避難前と同じ住宅に住んでいるとした413世帯に対して、家屋の修理にかかった時間を尋ねたところ、「半年を超えた」（33.9%）との回答が最も高く3割強であった。「半年以内」（14.0%）、「3ヶ月以内」（13.6%）、「2ヶ月以内」（13.1%）、「1ヶ月以内」（13.3%）は1割強、「目立った被害はなかったので、特に修理しなかった」はわずか3.6%であった。

居住地区別にみると、「半年を越えた」との回答は伊ヶ谷地区（44.4%）で最も高く4割台半ばを占めた。阿古地区（38.9%）、神着地区（36.0%）でも4割に近くなった。一方、伊豆地区（22.6%）では2割を超える程度であり、6割強の世帯では半年以内に修理が終わっていた。

世帯主の年齢別にみると、「半年を越えた」との回答は 40～49 歳から 80 歳以上のいずれの年齢層でも最も高く 3 割程度であった。

[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]

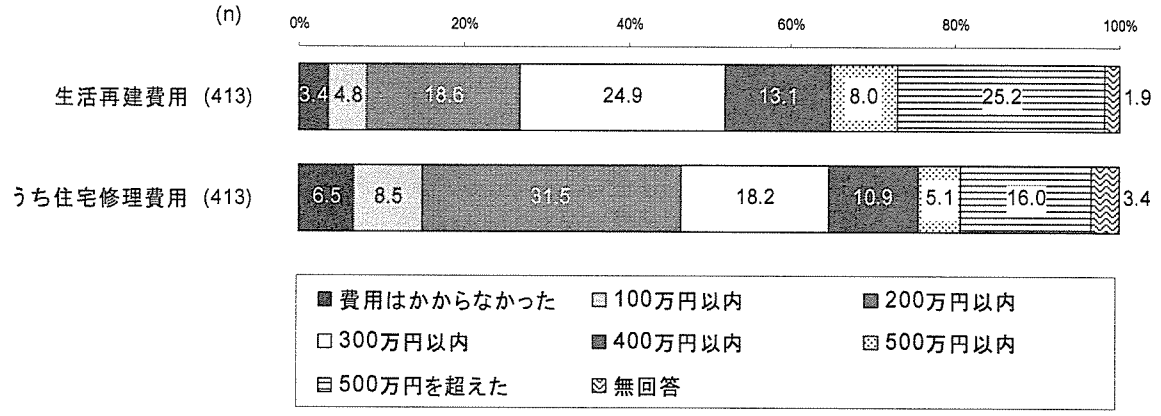


③ 生活再建にかかった費用

生活再建費用「500万を超えた」が4世帯に1世帯

問5－2 （問5で「1 避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）
帰島して、住宅の補修や電気製品の購入など生活再建にかかった費用は、おおむねどれくらいですか。あてはまるものを1つお選びください。

問5－3 （問5で「1 避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）
では、生活再建にかかった費用のうち、住宅の修理にかかった費用は、おおむねどれくらいですか。あてはまるものを1つお選びください。



避難前と同じ住宅に住んでいるとした413世帯に対して、住宅の補修や電気製品の購入などの生活再建にかかったすべての費用を尋ねたところ、「500万円を超えた」(25.2%) との回答が最も高く2割台半ばであった。次いで「300万円以内」が24.9%と僅差で続き、「200万円以上」は18.6%であった。なお、「費用はかからなかった」との回答はわずか3.4%であったが、300万円を超えた世帯（「400万円以内」、「500万円以内」、「500万円を超えた」の合計）が5割弱を占めた。

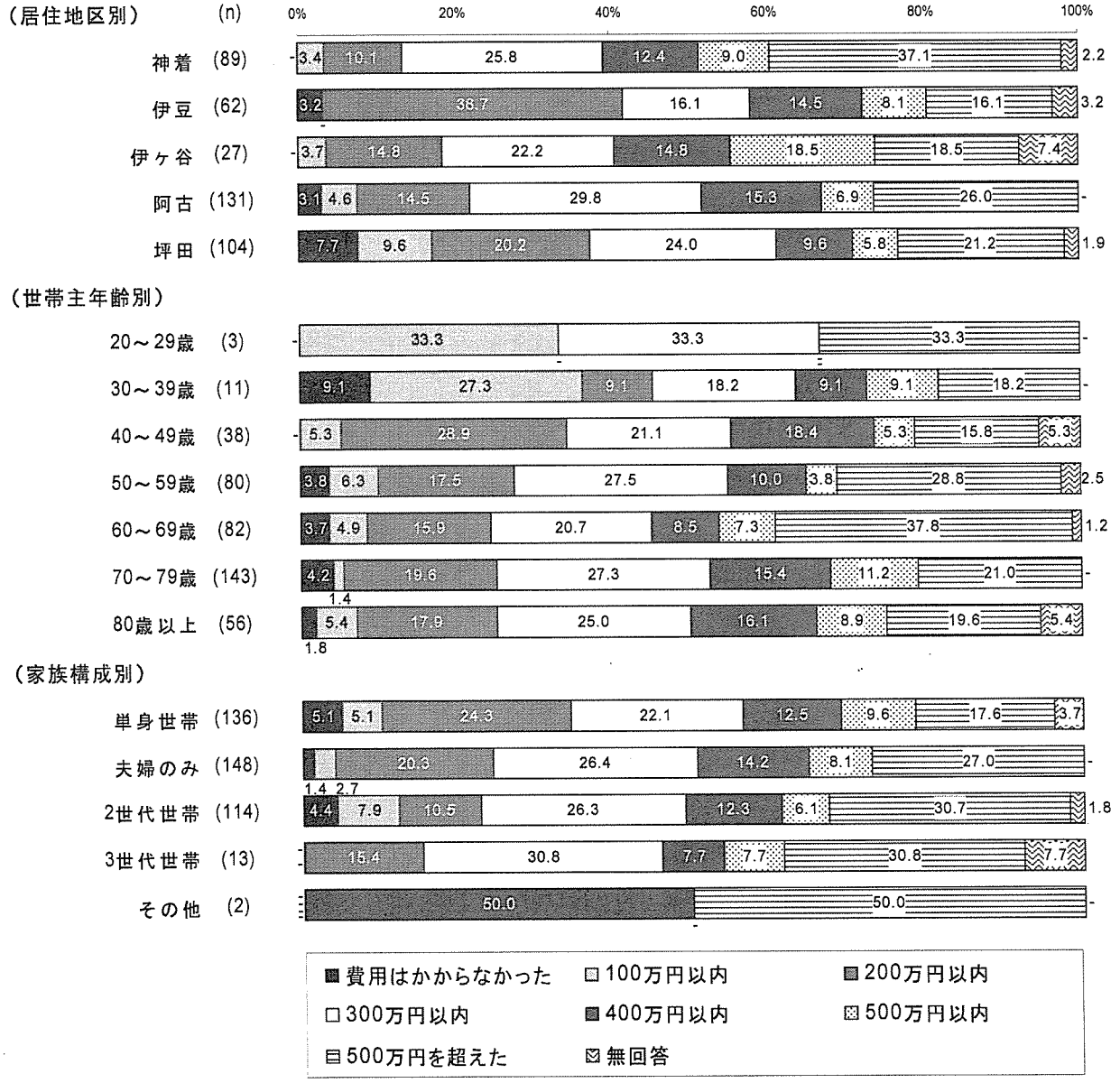
次に、生活再建にかかった費用のうち、住宅の修理にかかった費用を尋ねたところ、「200万円以内」(31.5%) との回答が最も高く3割強であった。次いで「300万円以内」(18.2%)、「500万円を超えた」(16.0%)、「400万円以内」(10.9%) が1割を超えた。「費用はかからなかった」は6.5%であった。

生活再建にかかった費用について居住地区別にみると、「500万円を超えた」との回答は神着地区（37.1%）で4割弱を占め、次いで阿古地区（26.0%）、坪田地区（21.2%）で2割以上であった。伊ヶ谷地区では18.5%と2割弱であったが、「500万円以内」との回答が18.5%と他の地区に比べ高い。

世帯主の年齢別にみると、「500 万円を超えた」との回答は 60～69 歳の世帯で 37.8%、50～59 歳の世帯で 28.8%とその他の年齢層と比べ高くなっている。

家族構成別にみると、「500 万円を超えた」は 2 世代世帯（30.7%）で 3 割、夫婦のみ（27.0%）で 3 割弱となった。一方、単身世帯（17.6%）では 1 割台半ばであった。

［生活再建費用：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］

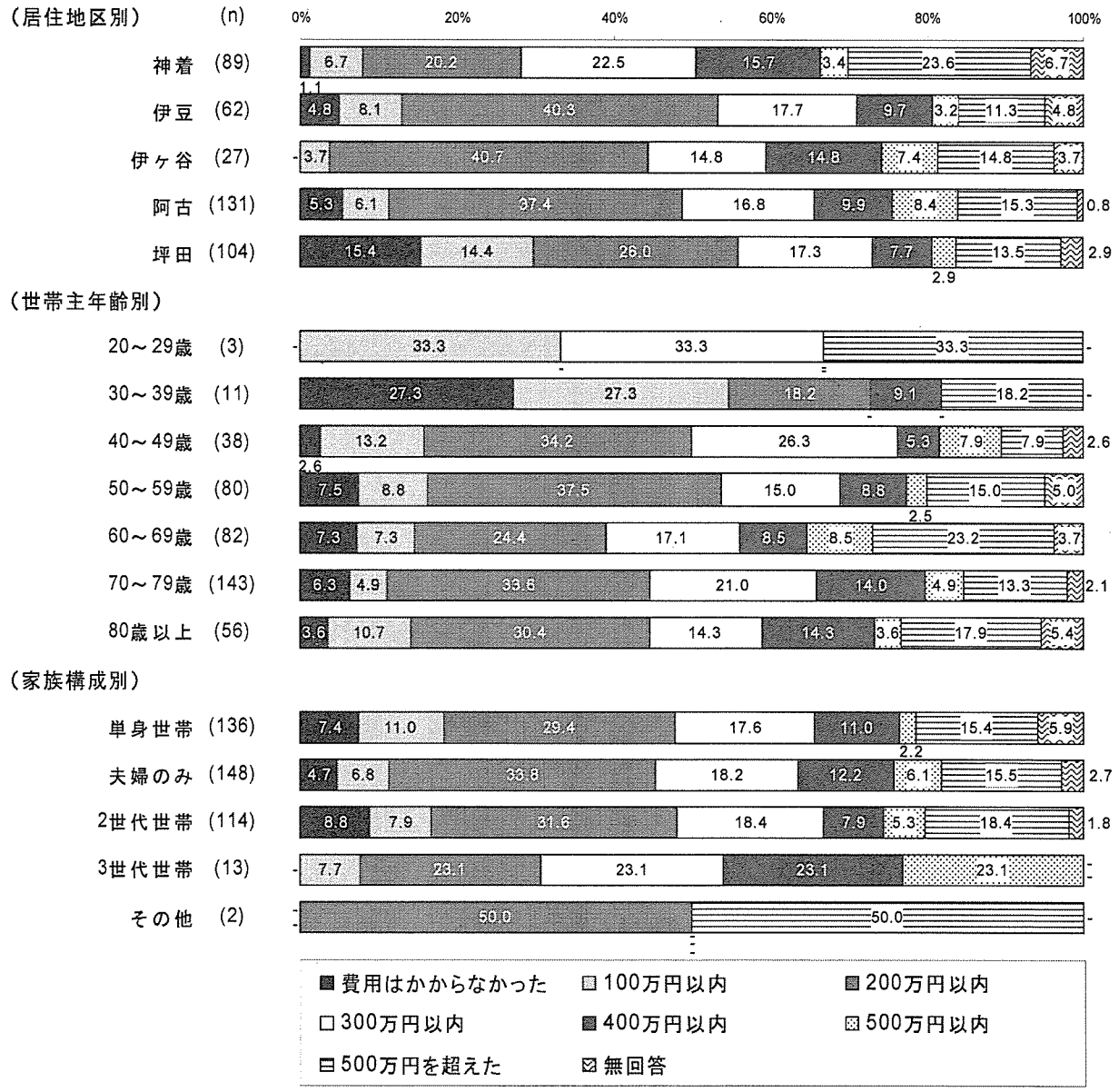


生活再建にかかった費用のうち、住宅の修理にかかった費用について居住地区別にみると、「200万円以内」との回答は伊ヶ谷地区（40.7%）、伊豆地区（40.3%）で4割を占め高くなった。また、阿古地区（37.4%）でも3割台半ばであった。なお、坪田地区では「費用はかからなかった」（15.4%）との回答が1割台半ばとなっており、他の地区と比べて高くなった。

世帯主の年齢別にみると、「200 万円以内」との回答は 60～69 歳を除いた年齢層で 3 割から 3 割台半ばであった。60～69 歳について他の年齢層と比べると、「200 万円以内」との回答は 24.4%と他の年齢層に比べ低いが、「500 万円を超えた」（23.2%）との回答がと 2 割超えている。

家族構成別にみると、いずれの家族構成でも全体と同じ傾向であった。

［うち住宅修理費用：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］

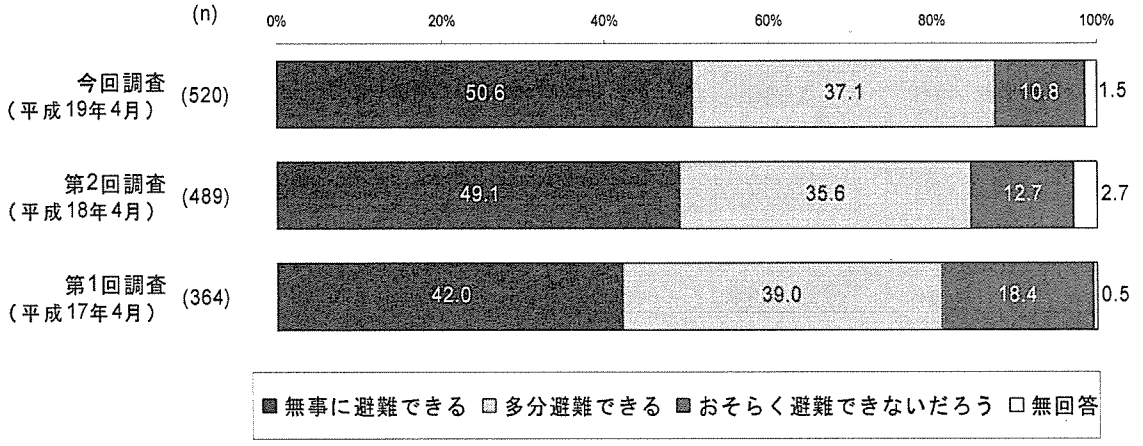


(5) 警戒発令時の避難

① 無事に避難できる可能性

「無事に避難できる」が過半数

問6　火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



火山ガスが発生し警報が発令された場合に無事に避難できるかどうかを尋ねたところ、「無事に避難できる」（50.6%）との回答が過半数となり、「多分避難できる」（37.1%）と合わせた『避難できる（計）』は9割弱（87.7%）となった。一方、「おそらく避難できないだろう」（10.8%）との回答は1割であった。

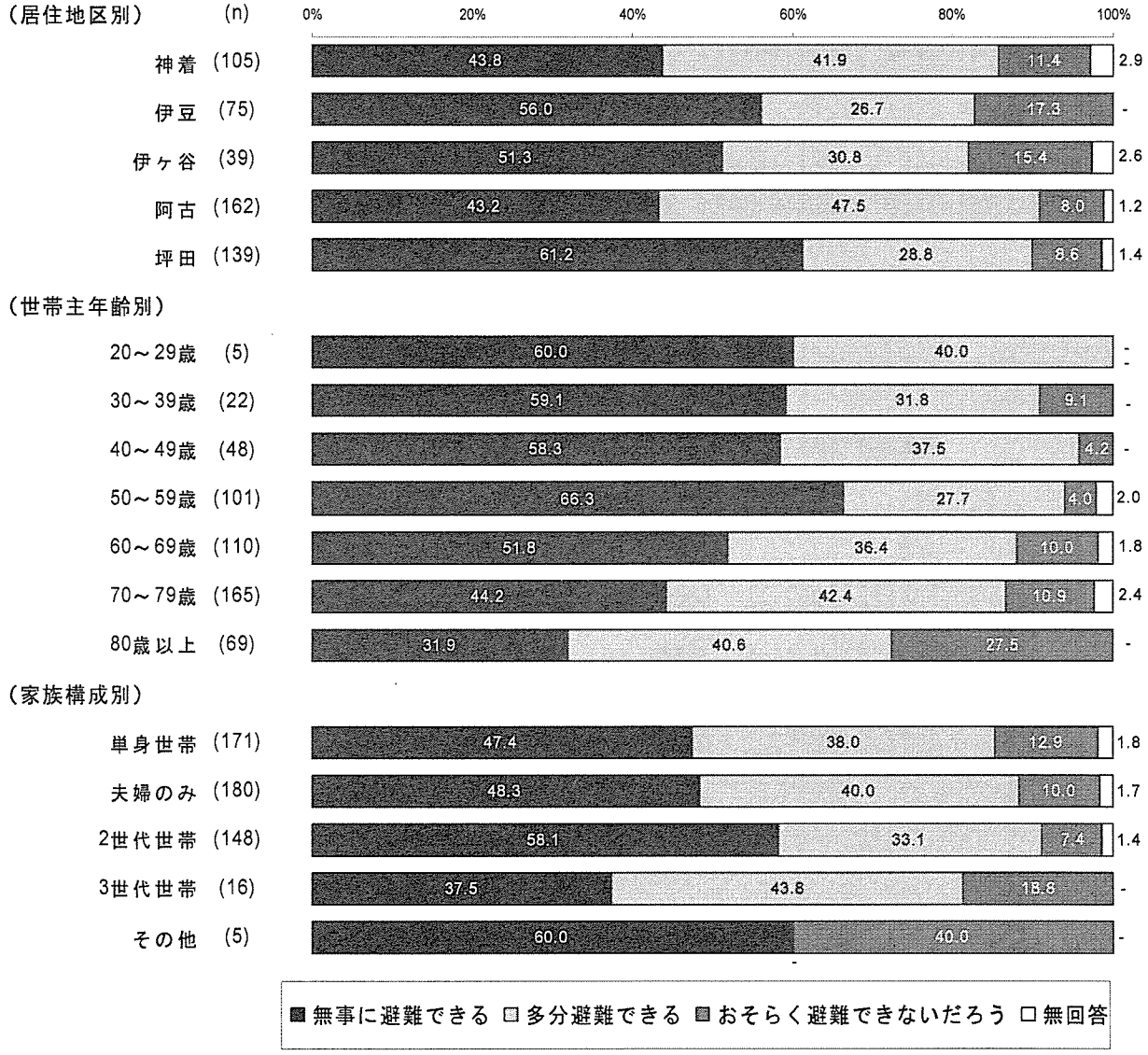
これまでの調査結果をみると、「無事に避難できる」との回答は年々増加しており、第1回調査（平成17年4月）では42.0%、第2回調査（平成18年4月）では49.1%と半数に満たなかった。また、第1回調査では「おそらく避難できないだろう」（18.4%）との回答が2割弱であった。

居住地区別にみると、「無事に避難できる」との回答は高濃度地区を内包する坪田地区（61.2%）で最も高く6割強を占めた。次いで伊豆地区（56.0%）、伊ヶ谷地区（51.3%）で5割以上となった。また、いずれの地区でも『避難できる（計）』は8割以上であった。なお、阿古地区では「無事に避難できる」（43.2%）との回答が地区の中で最も低くなっているが、「多分避難できる」（47.5%）を合わせると『避難できる（計）』（90.7%）との回答は9割強となった。

世帯主の年齢別にみると、「無事に避難できる」との回答は50～59歳の世帯で66.3%と最も高かった。60歳以上の年齢層ではこの回答は低くなって行き、60～69歳で51.8%、70～79歳で44.2%、80歳以上では31.9%となっている。一方で、「おそらく避難できないだろう」との回答の割合が高まり、60～69歳（10.0%）、70～79歳（10.9%）では1割であるが、80歳以上（27.5%）では3割弱を占める。

家族構成別にみると、「無事に避難できる」との回答は2世代世帯（58.1%）で最も高く6割弱を占めた。一方、「おそらく避難できないだろう」との回答は単身世帯（12.9%）、夫婦のみ（10.0%）でそれぞれ1割以上を占めた。

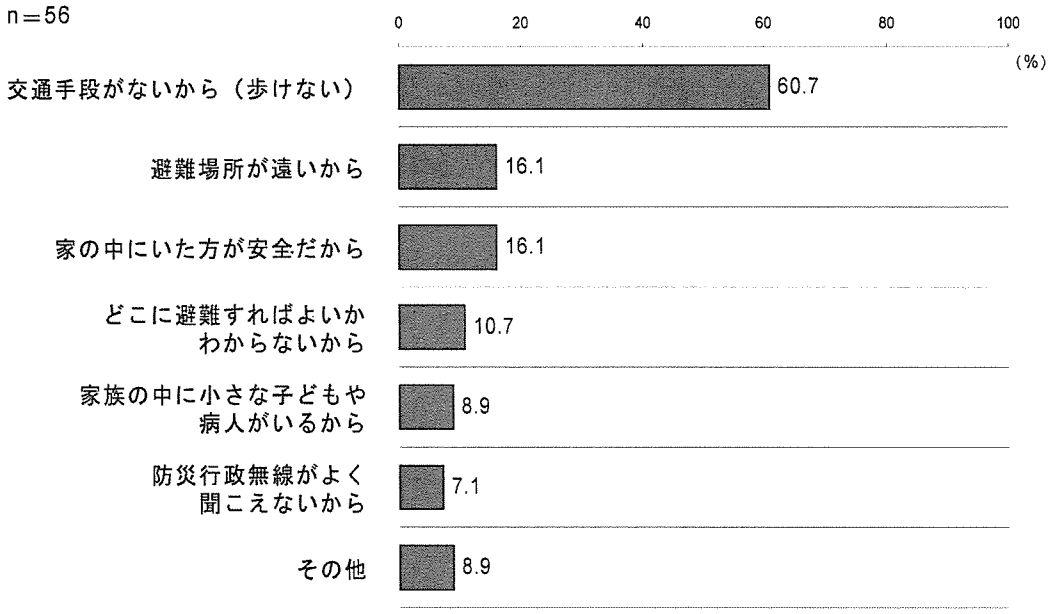
[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]



② 避難できない理由

「交通手段がないから（歩けない）」が6割

問6－1　（問6で「3　おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします）
避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



火山ガスが発生し警報が発令された場合に避難できないだろうとする56世帯に対し、その理由を尋ねたところ、「交通手段がないから（歩けない）」（60.7%）との回答が最も高く6割強を占めた。次いで「避難場所が遠いから」、「家の中にいた方が安全だから」（ともに16.1%）が1割台半ばとなっており、「どこに避難すればわからないから」（10.7%）も1割強となった。

［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］　※基数（%）小さいため参考にとどめる

		調査数	家族の中に小さな子どもや病人がいるから	避難場所が遠いから	どこに避難すればよいかわからないから	防災行政無線がよく聞こえないから	家の中にいた方が安全だから	交通手段がない（歩けない）から	その他
	全体	56	8.9	16.1	10.7	7.1	16.1	60.7	8.9
居住地区別	神着	12	8.3	8.3	16.7	25.0	8.3	41.7	8.3
	伊豆	13	15.4	7.7	-	-	15.4	69.2	7.7
	伊ヶ谷	6	-	16.7	16.7	-	16.7	100.0	-
	阿古	13	7.7	30.8	15.4	7.7	15.4	69.2	7.7
	坪田	12	8.3	16.7	8.3	-	25.0	41.7	16.7
世帯主年齢別	20～29歳	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-
	40～49歳	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-
	50～59歳	4	-	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	60～69歳	11	-	18.2	27.3	-	27.3	54.5	18.2
	70～79歳	18	5.6	11.1	11.1	11.1	16.7	66.7	5.6
	80歳以上	19	15.8	10.5	-	-	5.3	78.9	5.3
家族構成別	単身世帯	22	-	22.7	9.1	4.5	9.1	77.3	-
	夫婦のみ	18	16.7	5.6	16.7	11.1	16.7	61.1	11.1
	2世代世帯	11	9.1	18.2	9.1	9.1	36.4	36.4	18.2
	3世代世帯	3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3
	その他	2	-	-	-	-	-	100.0	-

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　網掛け）

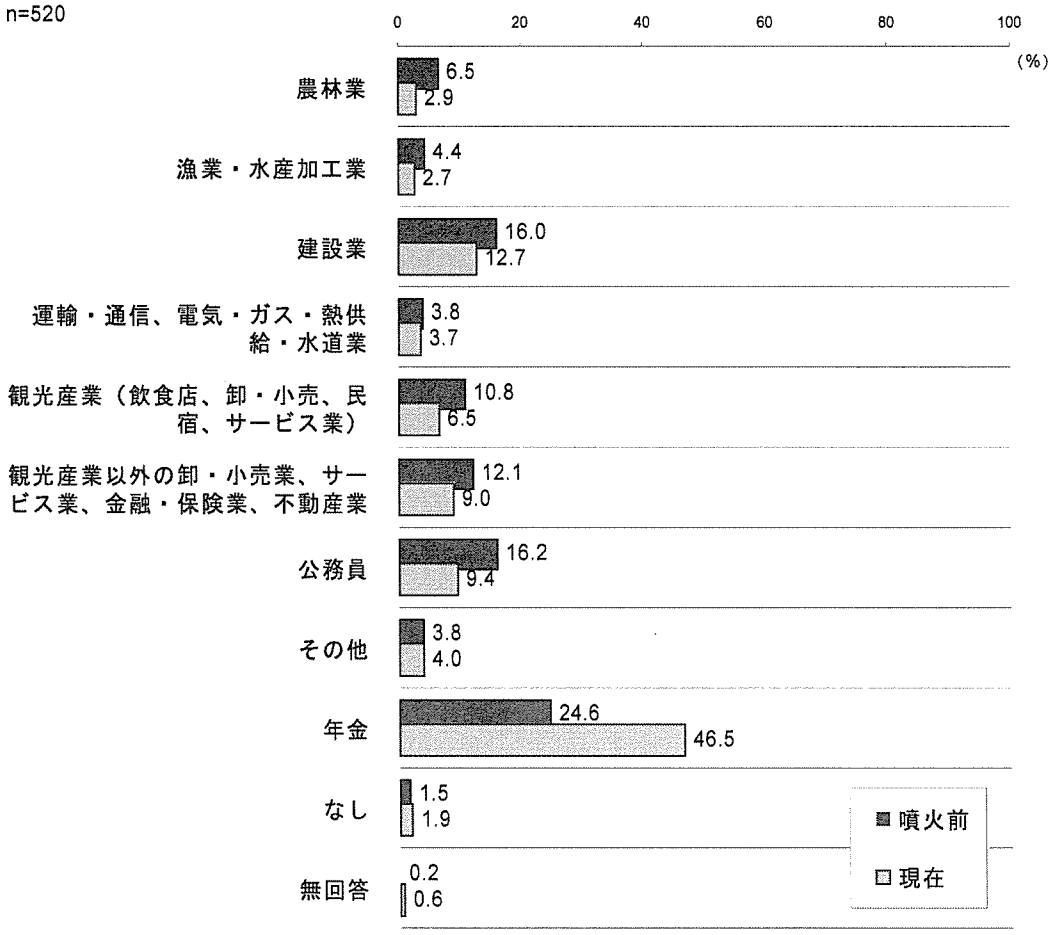
2 世帯の生計について

(1) 噴火前と帰島後の主たる収入源の職業

「年金」が帰島後（現在）47%とほぼ半数、噴火前から 22 ポイント増

問7 噴火前の、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを１つお選びください。

問8 それでは、帰島後（現在）の、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを１つお選びください。



世帯の主な収入源となっている職業について、噴火前と帰島後（現在）の時期ごとに尋ねた。

まず、噴火前では、「年金」(24.6%) との回答が最も高く4世帯に1世帯の割合であった。次いで「公務員」(16.2%)、「建設業」(16.0%)、「観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業」(12.7%)、「観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業)」(10.8%) が1割以上であった。

次に、帰島後（現在）では、「年金」(46.5%) との回答が最も高く半数近くを占めた。噴火前に比べると、22ポイントの増加である。「年金」以外の職業では、「建設業」(12.7%)、「公務員」(9.4%)、「観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業」(9.0%) などであった。

噴火前と帰島後（現在）では「年金」との回答以外は軒並み減少した。「年金」は噴火前の4世帯に1世帯の割合（24.6%）から帰島後（現在）には5割弱（46.5%）を占め、22ポイントの増加となった。一方、減少率の大きな収入源としては、「公務員」の7ポイント（噴火前16.2%／帰島後（現在）9.4%）、「観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業）」の4ポイント（噴火前10.8%／帰島後（現在）6.5%）などとなっている。

［噴火前：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］

		調査数	農林業	漁業・水産加工業	建設業	運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業	観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業）	小売業、サービス業、不動産業、金融・保険業	観光産業以外の卸・	公務員	その他	年金	なし	無回答
	全体	520	6.5	4.4	16.0	3.8	10.8	12.1	16.2	3.8	24.6	1.5	0.2
居住地区別	神着	105	2.9	7.6	8.6	5.7	11.4	19.0	19.0	3.8	21.0	1.0	-
	伊豆	75	8.0	1.3	9.3	4.0	4.0	9.3	22.7	4.0	36.0	1.3	-
	伊ヶ谷	39	7.7	-	12.8	2.6	15.4	7.7	10.3	5.1	33.3	5.1	-
	阿古	162	4.3	4.9	24.1	3.1	13.0	9.9	11.7	4.3	23.5	1.2	-
	坪田	139	10.8	4.3	16.5	3.6	10.1	12.2	17.3	2.9	20.1	1.4	0.7
世帯主年齢別	20～29歳	5	-	-	40.0	-	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-
	30～39歳	22	4.5	4.5	27.3	4.5	9.1	13.6	36.4	-	-	-	-
	40～49歳	48	6.3	-	25.0	6.3	20.8	6.3	22.9	10.4	2.1	-	-
	50～59歳	101	5.0	-	26.7	6.9	8.9	13.9	29.7	5.0	-	3.0	1.0
	60～69歳	110	0.9	4.5	19.1	5.5	14.5	14.5	16.4	3.6	19.1	1.8	-
	70～79歳	165	7.3	9.7	7.9	1.2	7.9	11.5	9.7	1.8	41.8	1.2	-
	80歳以上	69	17.4	1.4	2.9	1.4	8.7	10.1	-	2.9	53.6	1.4	-
家族構成別	単身世帯	171	5.8	5.8	8.8	2.9	9.4	9.9	9.4	7.6	38.0	2.3	-
	夫婦のみ	180	7.2	5.0	14.4	2.2	11.1	12.2	17.2	1.7	27.2	1.1	0.6
	2世代世帯	148	5.4	2.7	25.7	6.1	10.8	14.9	23.6	2.0	7.4	1.4	-
	3世代世帯	16	12.5	-	25.0	12.5	12.5	6.3	12.5	6.3	12.5	-	-
	その他	5	20.0	-	-	-	40.0	20.0	-	-	20.0	-	-

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに　網掛け）

［現在：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］

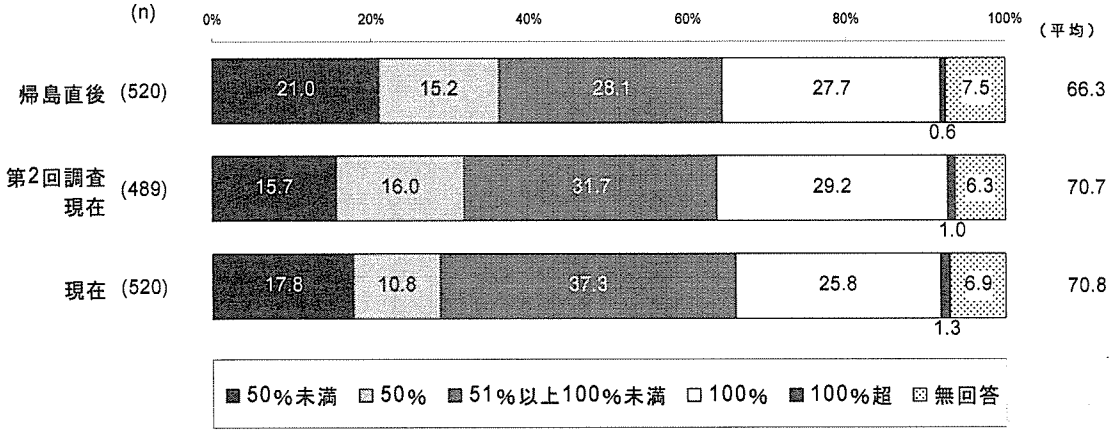
		調査数	農林業	漁業・水産加工業	建設業	運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業	観光産業（飲食店、卸・小売、民宿、サービス業）	小売業、サービス業、不動産業、金融・保険業	観光産業以外の卸・	公務員	その他	年金	なし	無回答
	全体	520	2.9	2.7	12.7	3.7	6.5	9.0	9.4	4.0	46.5	1.9	0.6
居住地区別	神着	105	-	5.7	5.7	5.7	9.5	16.2	11.4	2.9	42.9	-	-
	伊豆	75	1.3	-	10.7	2.7	1.3	2.7	12.0	2.7	64.0	2.7	-
	伊ヶ谷	39	5.1	2.6	10.3	-	7.7	7.7	5.1	2.6	56.4	-	2.6
	阿古	162	0.6	3.7	22.2	3.7	7.4	5.6	7.4	4.9	42.0	2.5	-
	坪田	139	7.9	0.7	8.6	3.6	5.8	11.5	10.1	5.0	42.4	2.9	1.4
世帯主年齢別	20～29歳	5	-	-	80.0	-	-	-	20.0	-	-	-	-
	30～39歳	22	-	4.5	22.7	4.5	18.2	18.2	27.3	-	4.5	-	-
	40～49歳	48	2.1	-	25.0	8.3	16.7	8.3	20.8	10.4	6.3	-	2.1
	50～59歳	101	2.0	1.0	23.8	8.9	5.0	17.8	24.8	5.9	4.0	5.0	2.0
	60～69歳	110	1.8	4.5	14.5	4.5	9.1	9.1	4.5	4.5	46.4	0.9	-
	70～79歳	165	3.0	4.2	3.0	-	3.0	4.8	1.2	2.4	75.8	2.4	-
	80歳以上	69	7.2	-	-	-	2.9	4.3	-	1.4	84.1	-	-
家族構成別	単身世帯	171	2.3	2.3	7.6	3.5	4.7	5.8	5.8	5.8	59.1	2.3	0.6
	夫婦のみ	180	3.9	2.2	10.0	1.1	6.7	8.3	6.7	2.8	57.2	0.6	0.6
	2世代世帯	148	2.0	4.1	20.9	6.1	7.4	14.2	16.9	4.1	21.6	2.0	0.7
	3世代世帯	16	-	-	25.0	12.5	12.5	6.3	12.5	-	31.3	-	-
	その他	5	20.0	-	-	-	20.0	-	-	-	20.0	40.0	-

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに　網掛け）

(2) 噴火前と比べた経済状況

6割台半ばは噴火前の水準に戻っていない（100%未満）

問9　あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度（何%くらい）元に戻ったと思いますか。噴火前を100%としてお答えください。



噴火前の世帯の経済状況を100%とした場合の世帯の経済状況について、帰島直後と現在の時期ごとに尋ねた。

まず、帰島直後では、「51%以上100%未満」（28.1%）との回答が最も高く3割弱であった。噴火前と変わらないとする「100%」との回答は次いで高い27.7%、噴火前の半分の「50%」との回答が15.2%、噴火前の半分に満たないとする「50%未満」は21.0%であった。噴火前の水準に戻っていないとする、「50%未満」「50%」「51%以上100%未満」を合わせた『100%未満（計）』（64.3%）は6割台半ばを占めた。なお、回答の平均は66.3であった。

次に、現在では、帰島直後と同様に「51%以上100%未満」（37.3%）との回答が最も高く4割弱を占めた。次いで「100%」との回答が25.8%、「50%未満」との回答は17.8%、「50%」との回答が10.8%であった。『100%未満（計）』は65.9%で帰島直後よりやや増加した。なお、回答の平均では70.8であった。

帰島直後と現在を比較すると、「50%未満」との回答は帰島直後21.0%から現在17.8%と減少したものの、噴火前と変わらない水準となる「100%」との回答は減り、噴火前の水準に戻っていないという『100%未満（計）』との回答が増えている。特に両時期で最も高い割合だった「51%以上100%未満」との回答は28.1%から37.3%と9ポイントの増加となった。第2回調査（平成18年4月）での経済状況をみても、「51%以上100%未満」との回答が増加傾向にあることがわかる。

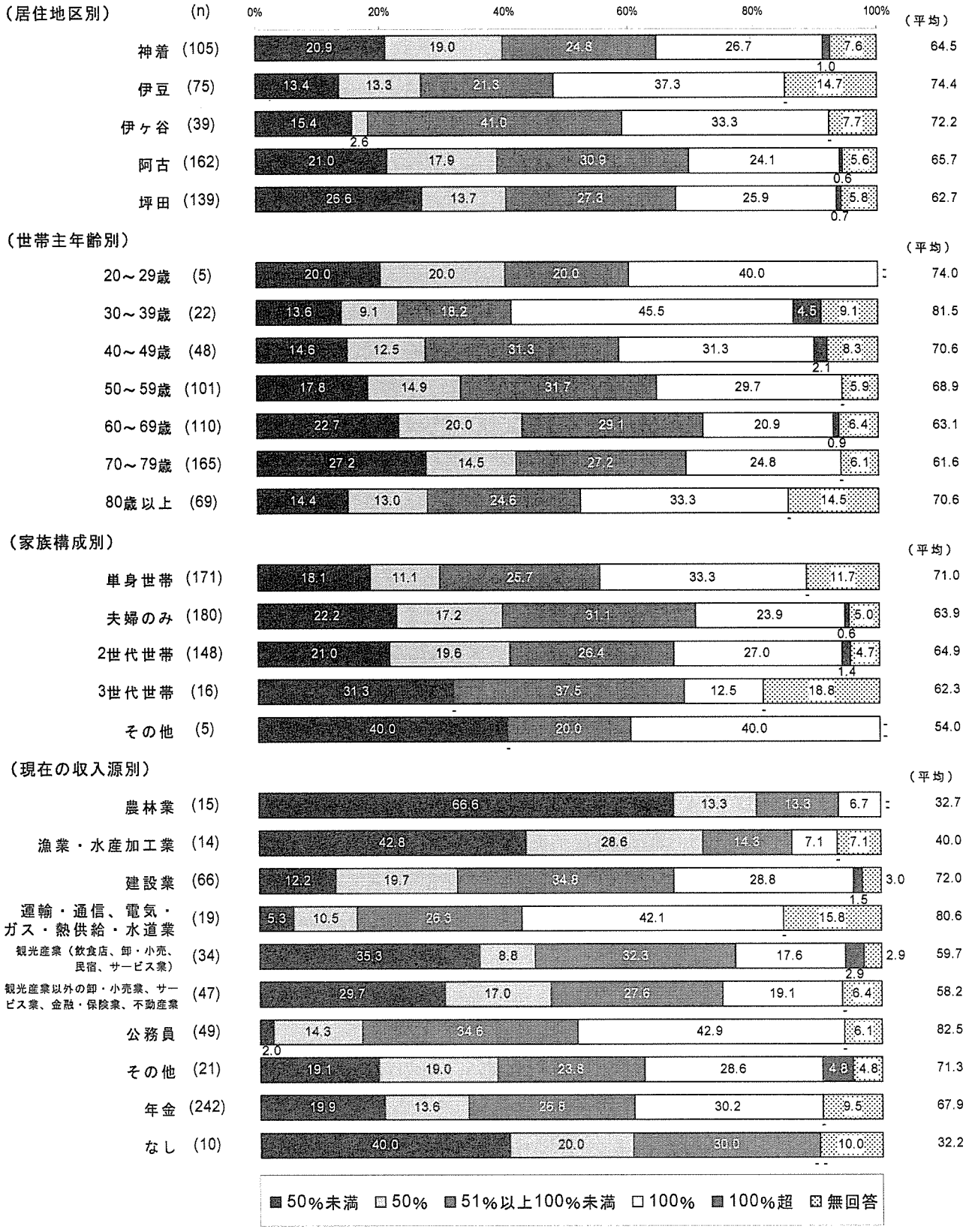
帰島直後の経済状況について居住地区別にみると、噴火前の水準に戻っていないとする『100%未満（計）』との回答は阿古地区（69.8%）で最も高く7割弱を占め、次いで坪田地区（67.6%）、神着地区（64.7%）となった。一方、伊豆地区、伊ヶ谷地区では「100%」との回答が3割以上となり、他の地域に比べて高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、『100%未満（計）』との回答は60～69歳の世帯（71.8%）で最も高く7割強を占めた。80歳以上の世帯では52.0%であるが、その他の年齢層ではおおむね年齢が上がるにつれて『100%未満（計）』の割合が増加する傾向にある。

帰島後の家族構成別にみると、『100%未満（計）』との回答は夫婦のみ（70.5%）で最も高く7割、2世代世帯（67.0%）では6割台半ばであった。なお、単身世帯（54.9%）では5割台半ばと比較的低くなった。

帰島後の収入源別にみると、『100%未満（計）』との回答は観光産業（76.6%）で最も高く、続く観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業（74.5%）とともに7割台半ばを占めた。なお、農林業と漁業・水産加工業は基数が小さいため参考にとどめるが、「50%未満」が他の収入源に比べて高く、農林業で66.6%、漁業・水産加工業で42.8%であった。

[帰島直後：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／現在の収入源別）]



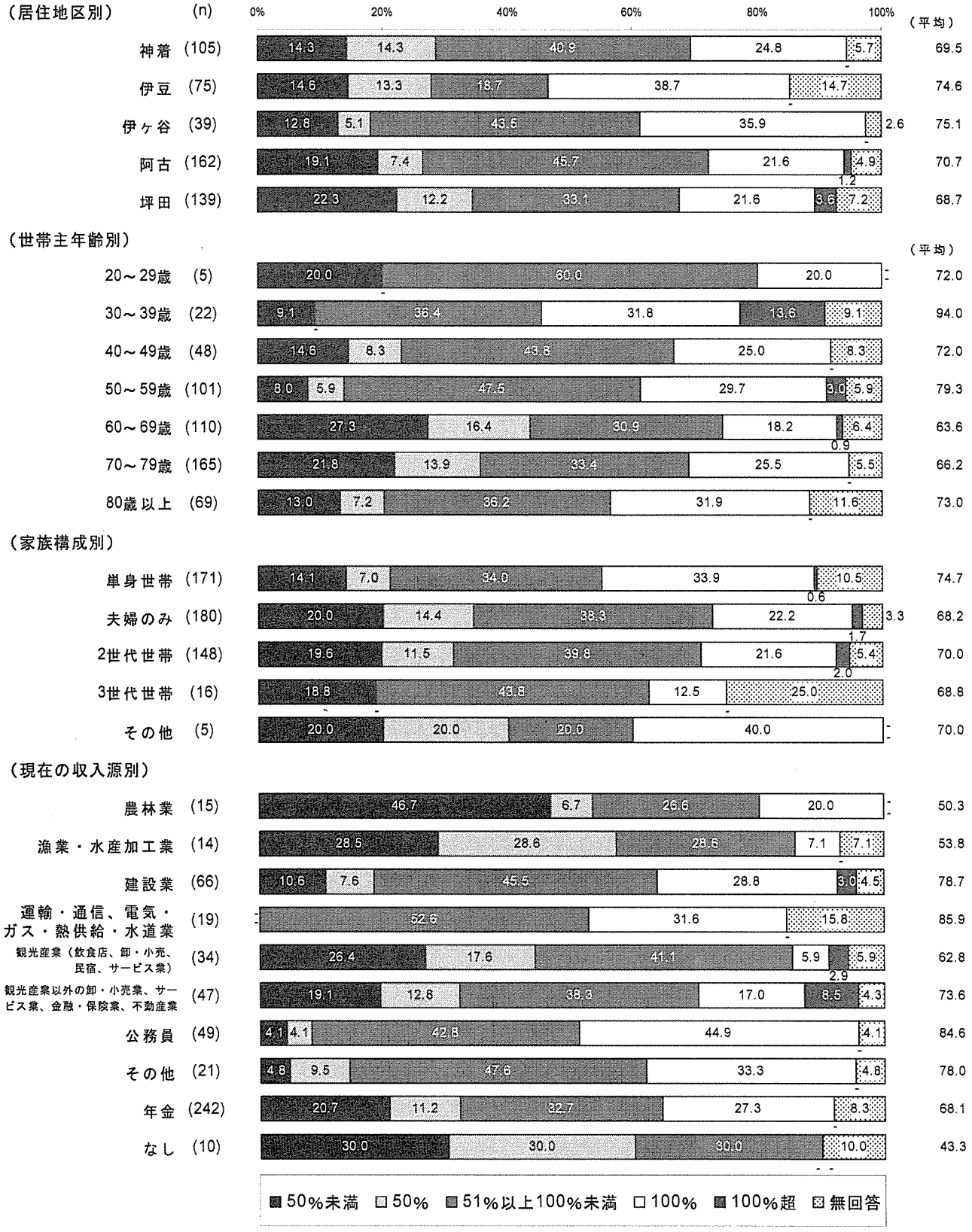
次に、現在の経済状況について居住地区別にみると、『100%未満（計）』との回答は阿古地区（72.2%）で最も高く7割強となり、次いで神着地区（69.5%）、坪田地区（67.6%）で7割弱となった。帰島直後と同様の傾向である。

世帯主の年齢別にみると、『100%未満（計）』との回答は60～69歳の世帯（74.6%）で最も高く7割台半ばを占め、70～79歳（69.1%）、40～49歳（66.7%）でも7割に近くなっている。

帰島後の家族構成別にみると、『100%未満（計）』との回答は夫婦のみ（72.7%）で最も高く7割強を占め、次いで2世代世帯（70.9%）でも7割となり、帰島直後と同様に高くなっている。

帰島後の収入源別にみると、『100%未満（計）』との回答は観光産業（85.1%）で最も高く8割台半ばを占めた。次いで観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業（70.2%）で7割となった。また、基数が小さいので参考にとどめるが、農林業（80.0%）、漁業・水産加工業（85.7%）でも状況は厳しく、8割以上となっている。

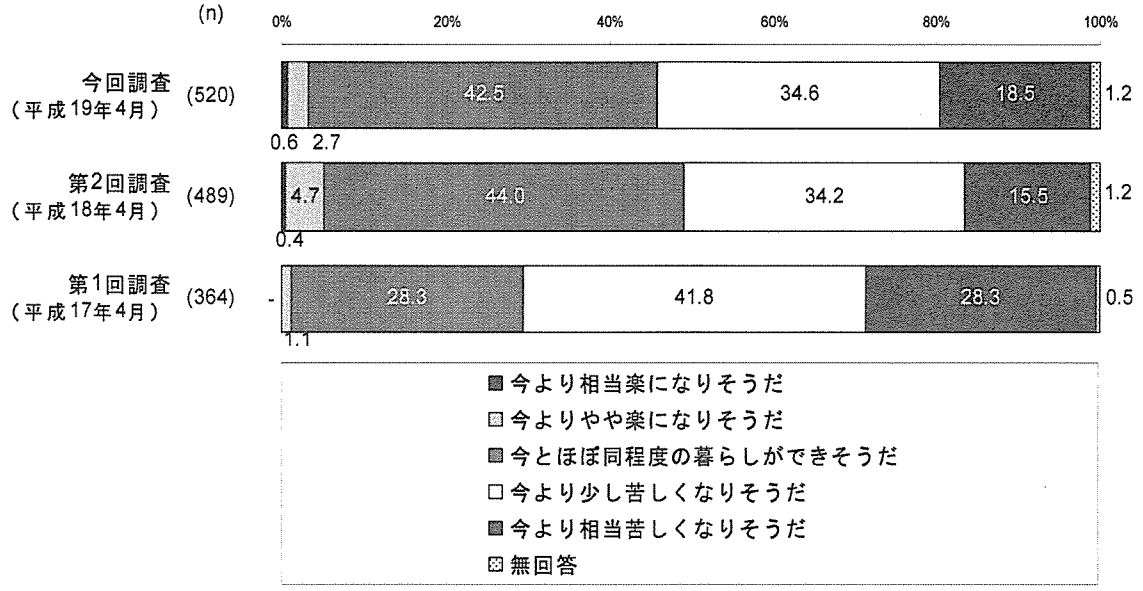
[現在：属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／現在の収入源別）]



(3) 今後の生計の見通し

今と「同程度」は4割強、依然として「苦しく」は過半数

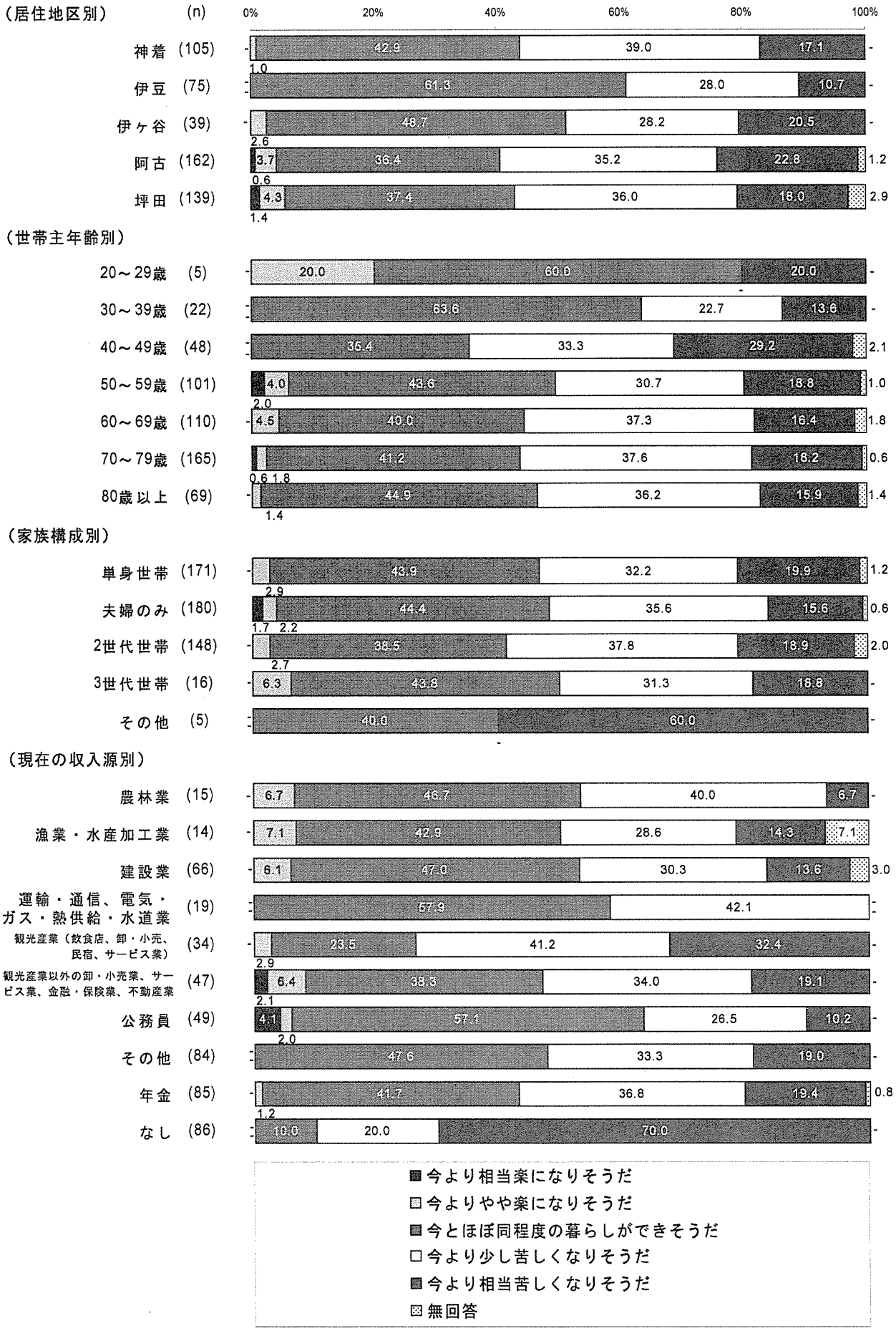
問10　今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。



今後の生計の見通しについては、「今とほぼ同程度の暮らしができそうだ」(42.5%) との回答が最も高く4割強を占めた。次いで「今より少し苦しくなりそうだ」(34.6%)、「今より相当苦しくなりそうだ」(18.5%) となった。「今より相当楽になりそうだ」(0.6%)、「今よりやや楽になりそうだ」(2.7%) を合わせた『楽になる（計)』はわずか3.3%にとどまり、「今より少し苦しくなりそうだ」、「今より相当苦しくなりそうだ」を合わせた『苦しくなる（計)』(53.1%) との回答が過半数を占めた。

これまでの調査結果をみると、帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では、「今より少し苦しくなりそうだ」との回答が41.8%と最も高く、次いで「今より相当苦しくなりそうだ」が28.3%となっており、『苦しくなる（計)』との回答が7割を占めていた。帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）になると、「今とほぼ同程度の暮らしができそうだ」との回答が44.0%と最も高くなり、『苦しくなる（計)』との回答は5割弱と減少した。今回は第2回調査と同じ傾向にあり、帰島して2年が経過したが、依然として半数程度の世帯では今後の生計の見通しに不安を抱いていることがわかる。

[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／現在の収入源別）]



居住地区別にみると、『苦しくなる（計）』との回答は阿古地区（58.0%）で最も高く6割弱を占め、神着地区（56.1%）、坪田地区（54.0%）でともに5割台半ばとなっている。

世帯主の年齢別にみると、『苦しくなる（計）』との回答は40～49歳の世帯（62.5%）で最も高く6割強を占めた。次いで70～79歳（55.8%）、60～69歳（53.7%）と続いており、いずれの年齢層でも5割から5割台半ばとなった。

帰島後の家族構成別にみると、『苦しくなる（計）』との回答は2世代世帯（56.7%）で最も高く5割台半ば、単身世帯（52.1%）、夫婦のみ（51.2%）で過半数を占めた。

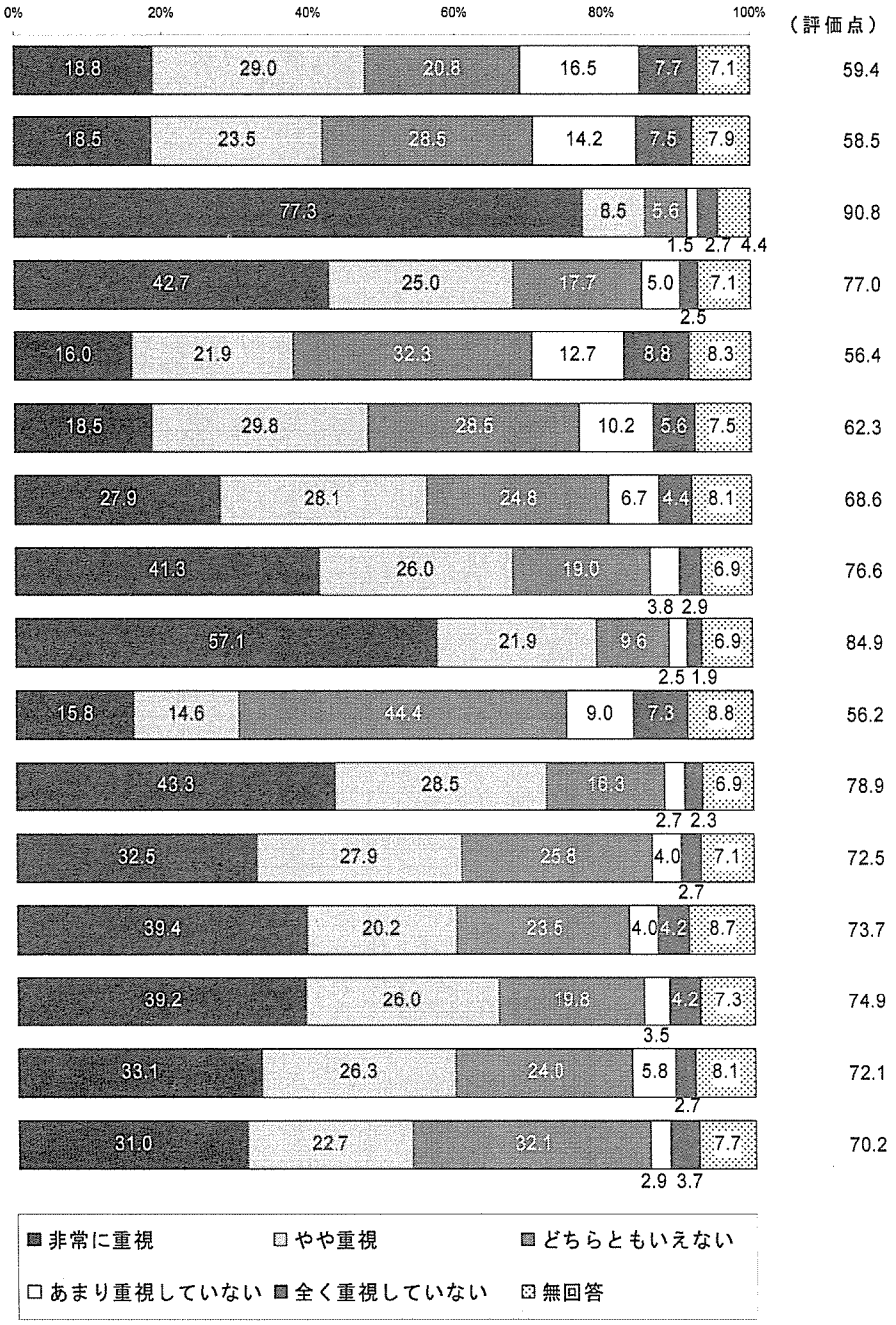
帰島後の収入源別にみると、『苦しくなる（計）』との回答は観光産業（73.6%）で最も高く7割強を占め、次いで農林業（62.5%）で6割強となった。また、年金（56.2%）、観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業（53.1%）で5割以上となった。

3 復興の状況について

(1) 復興のための重視度

島民の8割台半ばが「空港の再開」を重視

問11 三宅島（村）を復興させるためには、次のA～Pの項目それぞれをどの程度重視していますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけお選びください。



※ 評価点は、重視度を 100 点満点で測定するため、「非常に重視」100、「やや重視」75、「どちらともいえない」50、「あまり重視していない」25、「まったく重視していない」0 の重み点を与えて平均したもの。

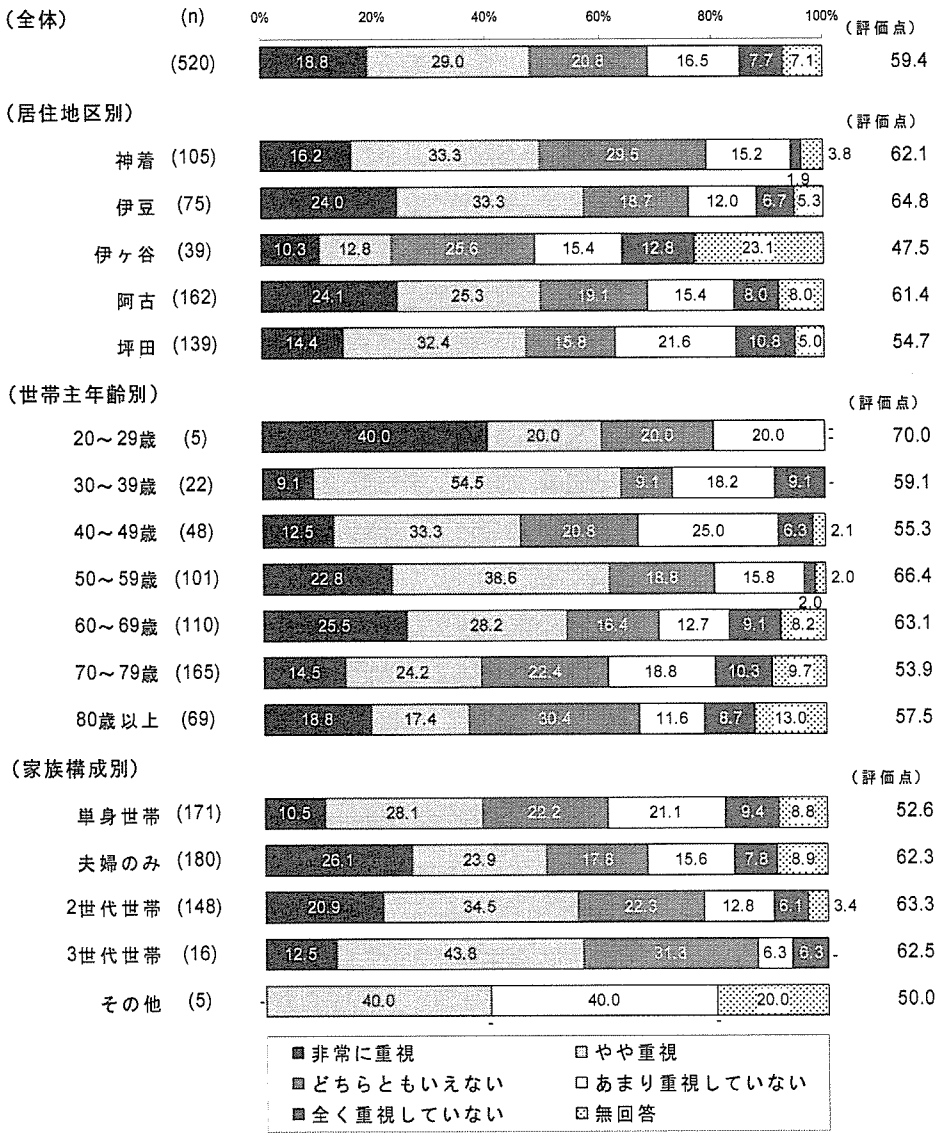
三宅島（村）を復興させるために何をどの程度重視しているか尋ねた。

「非常に重視」との回答は、空路の再開で77.3%と16項目のうち最も高かった。次いで医療機関・医療設備（57.1%）、高齢者福祉の充実（43.3%）、港湾の拡充・整備（42.7%）、泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策（41.3%）などの順であった。また、「非常に重視」「やや重視」を合わせた『重視（計）』でも、空港の再開（85.8%）で8割台半ばを占め最も高く、次いで医療機関・医療設備（79.0%）、高齢者福祉の充実（71.8%）となっている。

また、評価点の高い順に並べると以下のようになる。

重視度測定項目	重視度評価点
C. 空港の再開	90.8
I. 医療機関・医療設備	84.9
K. 高齢者福祉の充実	78.9
D. 港湾の拡充・整備	77.0
H. 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	76.6
N. 隣近所との人間関係	74.9
M. 家族との人間関係	73.7
L. 地域のまとまり	72.5
O. 店舗・事業所の営業状況	72.1
P. 雇用機会の拡充	70.2
G. 上下水道の整備	68.6
F. 公民館など住民が集まれる施設の再開	62.3
A. 道路の整備	59.4
B. 公共交通（バス）の増便	58.5
E. 金融機関の新設・再開	56.4
J. 子どもの教育施設（学校など）の増設	56.2

A. 道路の整備



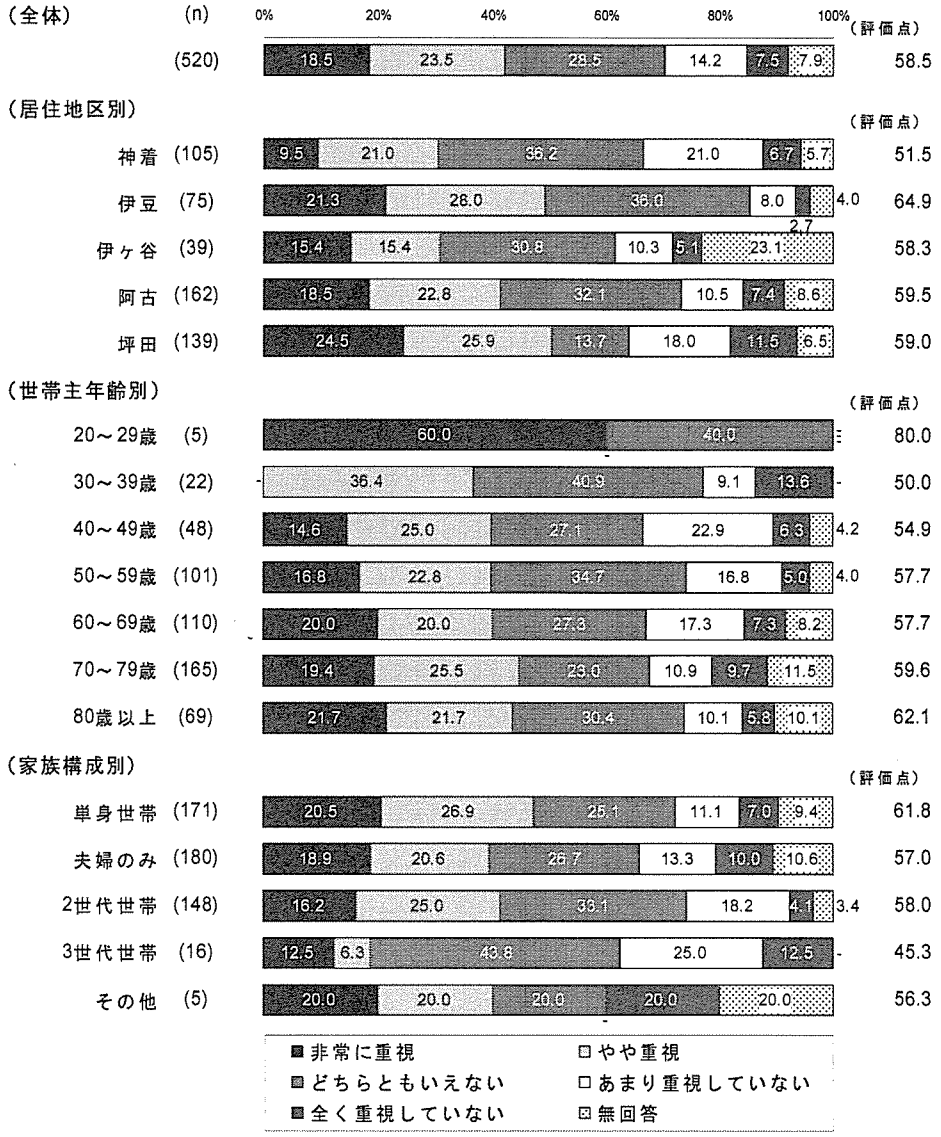
「非常に重視」(18.8%)、「やや重視」(29.0%) を合わせた『重視 (計)』(47.8%) との回答は5割弱を占めている。評価点は59.4点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (57.3%) で6割弱を占める。一方、伊ヶ谷地区では23.1%と他の地区に比べて低くなっている。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳で61.4%と最も高く、次いで60～69歳で53.7%であった。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は2世代世帯 (55.4%) で過半数、夫婦のみ (50.0%) で半数を占めた。

B. 公共バスの増便



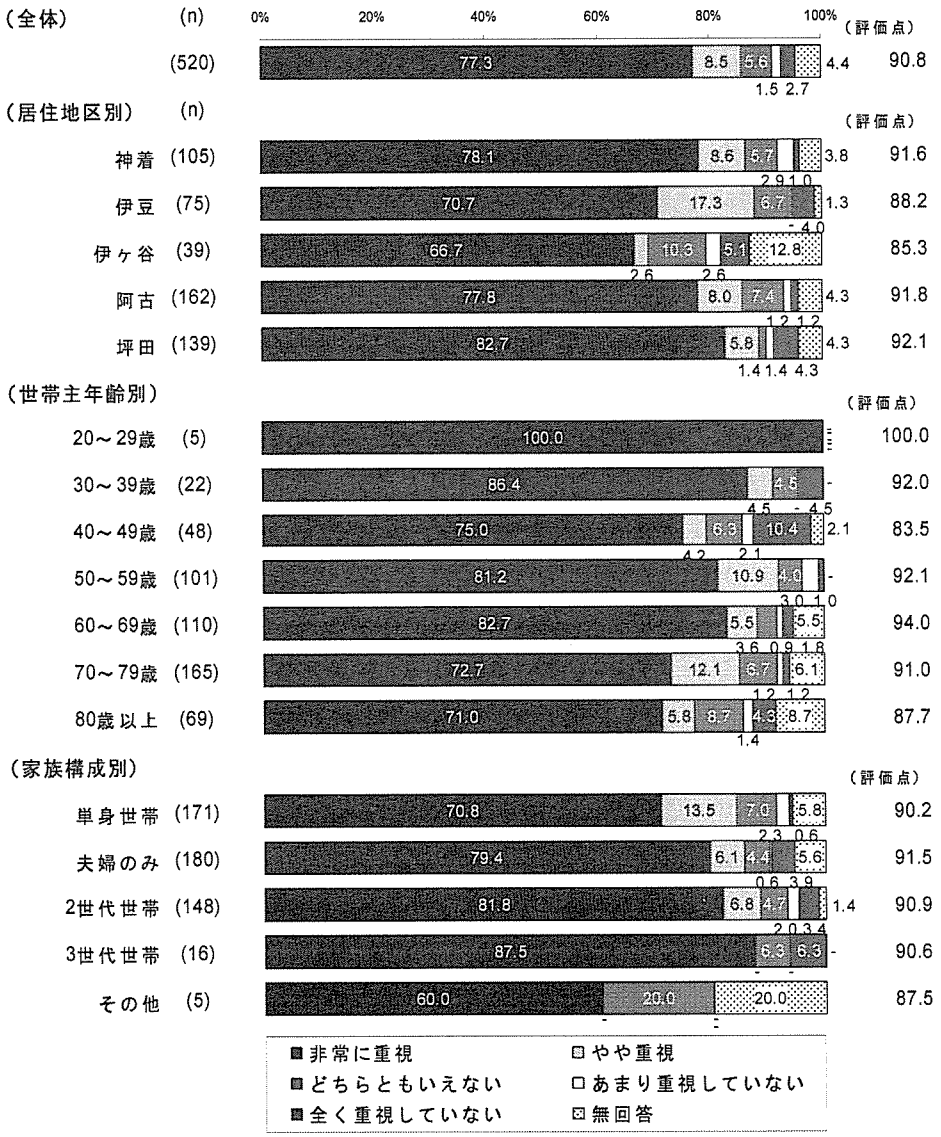
「非常に重視」(18.5%)、「やや重視」(23.5%) を合わせた『重視 (計)』(42.0%) との回答は4割強を占める。評価点は58.5点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は坪田地区 (50.4%) と過半数を占め最も高く、次いで伊豆地区 (49.3%) で5割弱を占めた。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は70～79歳で44.9%、80～89歳で43.4%と、高年齢層で重視する結果となっている。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は単身世帯 (47.4%) で最も高く4割台半ばを占めている。

C. 空港の再開



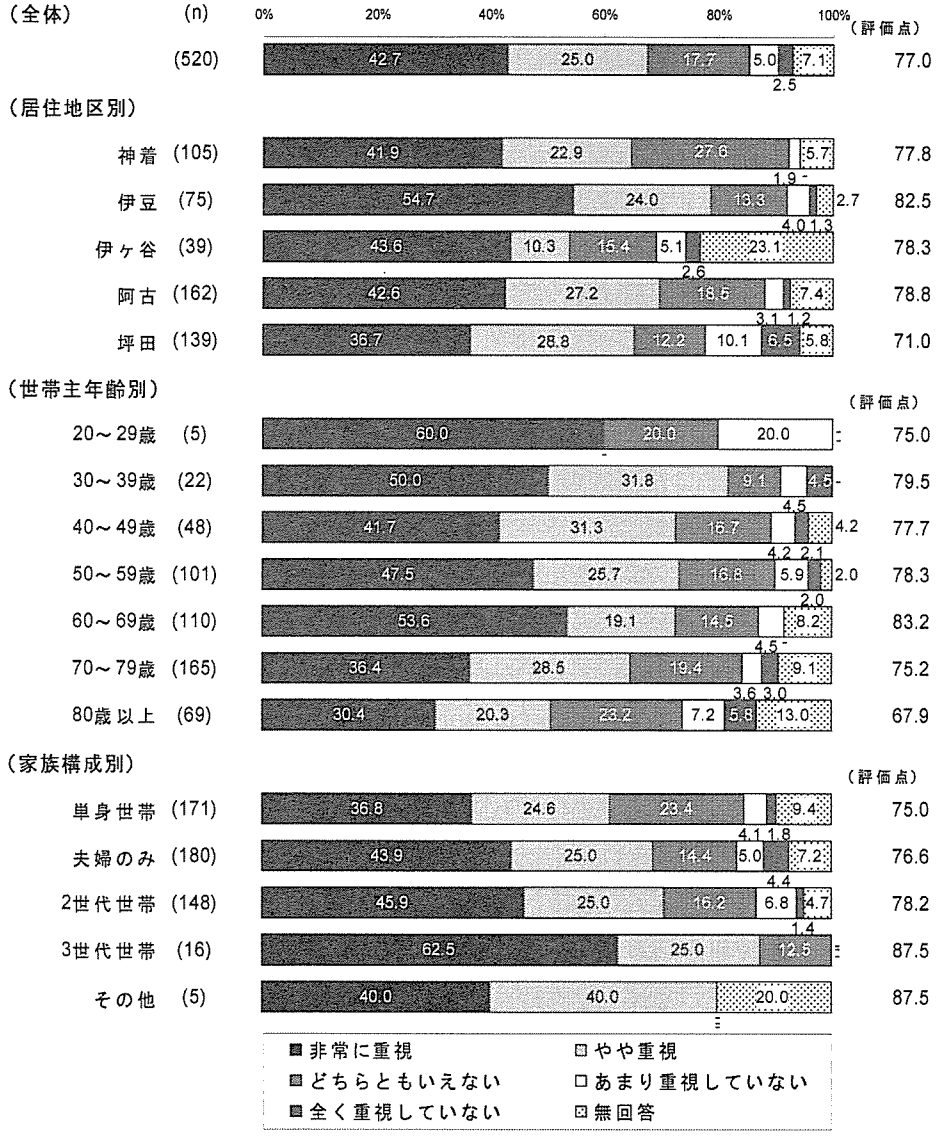
「非常に重視」(77.3%) との回答は7割台半ばを占める。「やや重視」(8.5%) を合わせた『重視 (計)』(85.8%) との回答は8割台半ばを占め、突出して高い。評価点は90.8点と高い。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は坪田地区 (88.5%) で9割弱を占めるほか、伊ヶ谷地区を除いて他の地区でも8割台半ばで高い。特に空港のある坪田地区では、「非常に重視」(82.7%) との回答が8割強を占めた。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳 (92.1%) で9割強を占め高い。また、「非常に重視」との回答は60～69歳 (82.7%)、50～59歳 (81.2%) で8割強を占め高くなっている。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は2世代世帯 (81.8%) で最も高く8割強を占めた。

D. 港湾の拡充・整備

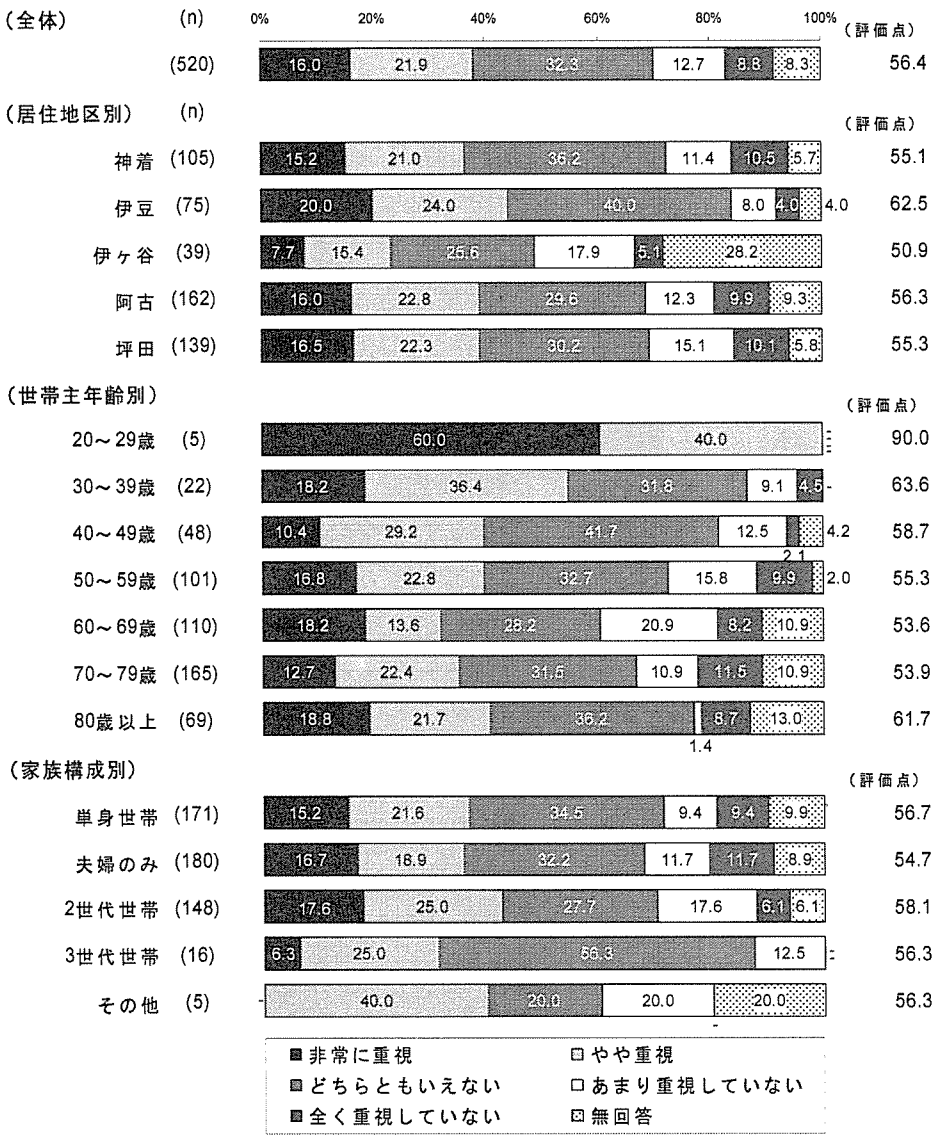


「非常に重視」(42.7%) との回答が4割強を占めた。「やや重視」(25.0%) を合わせた『重視 (計)』(67.7%) は6割台半ばを占める。評価点は77.0点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (78.7%) で最も高く8割弱を占める。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳 (73.2%)、40～49歳 (73.0%)、60～69歳 (72.7%) で7割強を占め高くなっている。

E. 金融機関の新設・再開



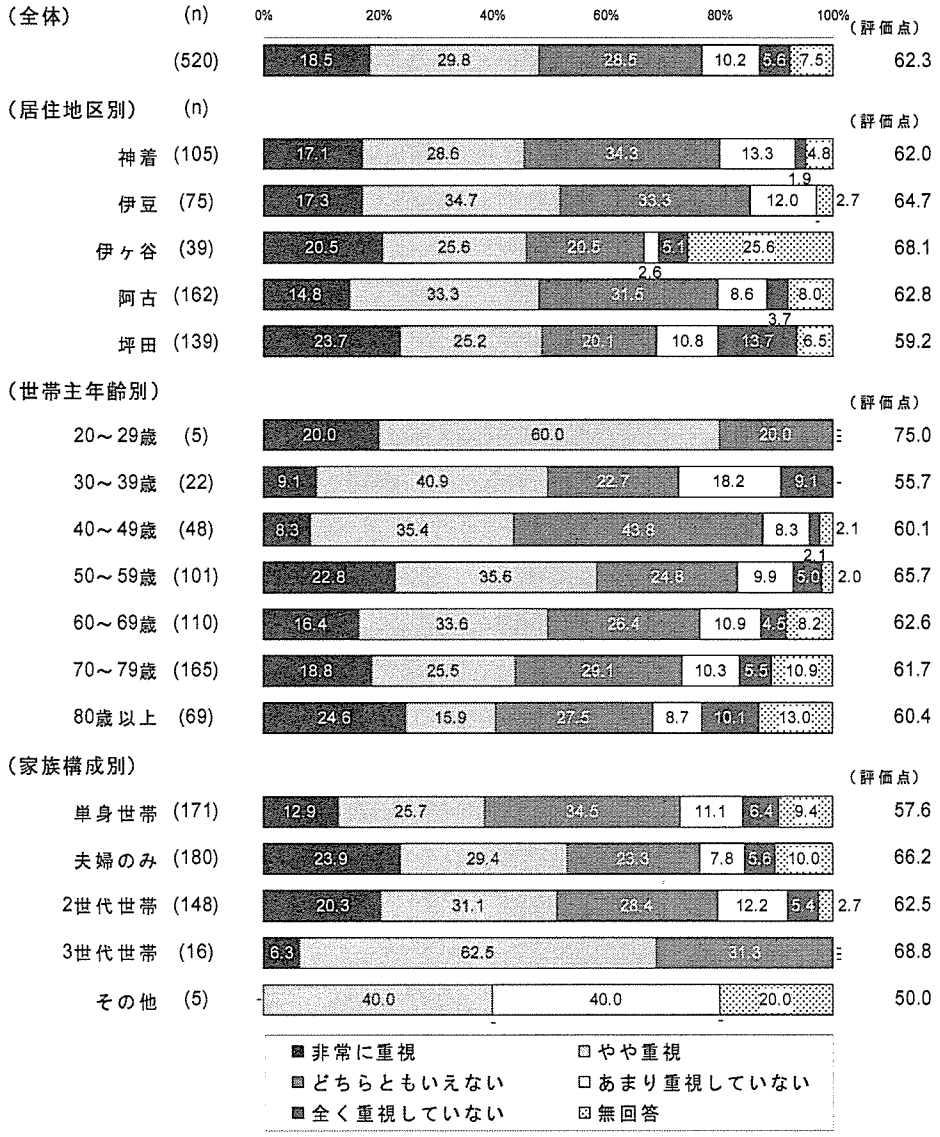
「非常に重視」(16.0%)、「やや重視」(21.9%) を合わせた『重視 (計)』(37.9%) は4割弱を占める。評価点は56.4点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区で44.0%と最も高かった。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は80歳以上 (40.5%)、40～49歳 (39.6%)、50～59歳 (39.6%) で4割前後であった。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は2世代世帯で42.6%と高くなっている。

F. 公民館など住民が集まれる施設の再開



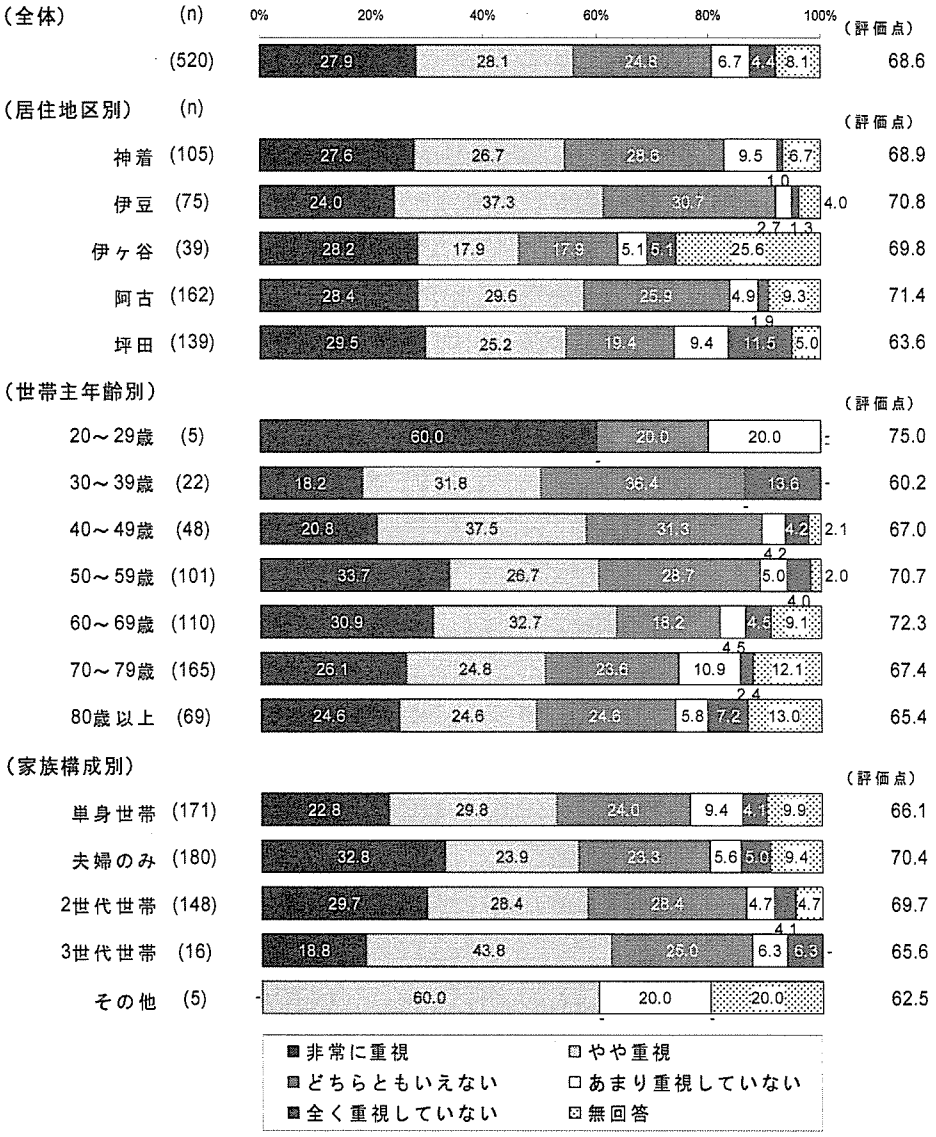
「やや重視」との回答が29.8%で最も高く、「非常に重視」（18.5%）を合わせた『重視（計）』（48.3%）は5割弱を占める。評価点は62.3点であった。

居住地区別にみると、『重視（計）』は伊豆地区（52.0%）で過半数を占める。

世帯主の年齢別にみると、『重視（計）』は50～59歳（58.4%）で6割弱を占め最も高い。一方、70～79歳では44.3%、80歳以上では40.5%と低い結果となった。

家族構成別にみると、『重視（計）』は夫婦のみ（53.3%）、2世代世帯（51.4%）でそれぞれ過半数を占めるが、単身世帯（38.6%）では4割に満たなかった。

G. 上下水道の整備

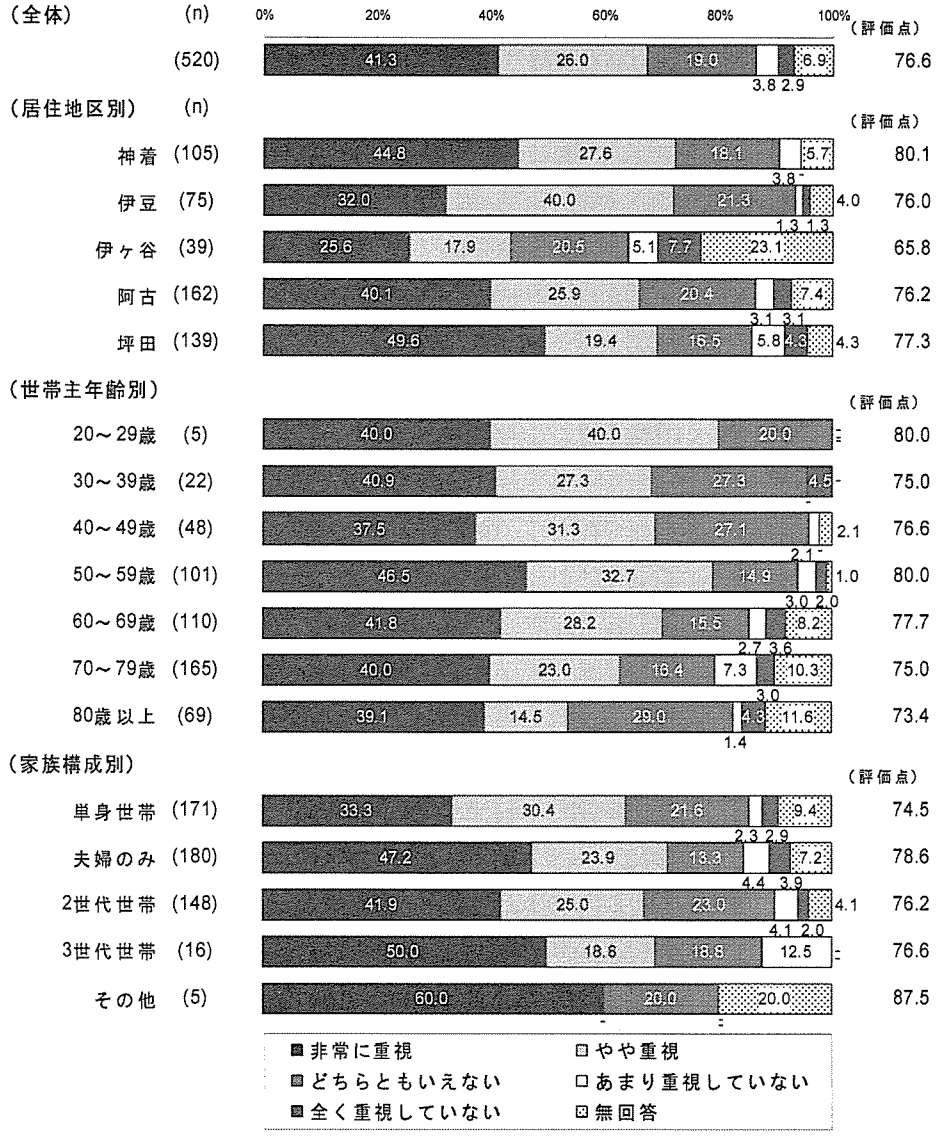


「やや重視」との回答が28.1%と最も高く、「非常に重視」(27.9%) と合わせた『重視 (計)』(56.0%) は5割台半ばを占めた。評価点は68.6点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (61.3%) で6割強を占めた。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は60～69歳 (63.6%)、50～59歳 (60.4%) で6割強を占め高い。

H. 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策



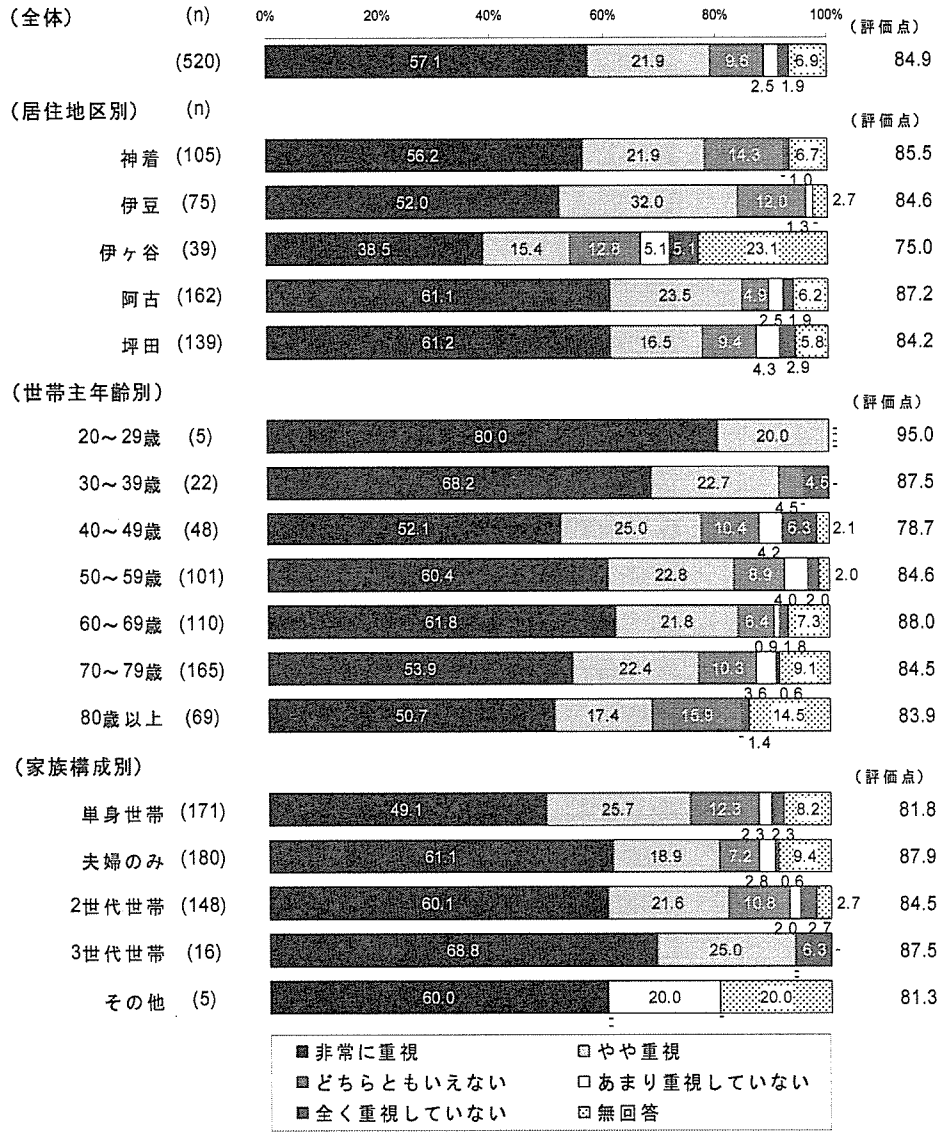
「非常に重視」との回答は41.3%で最も高く、「やや重視」（26.0%）と合わせた『重視（計）』（67.3%）は6割台半ばを占める。評価点は76.6点であった。

居住地区別にみると、『重視（計）』は神着地区（72.4%）、伊豆地区（72.0%）で7割強を占め高い。なお、「非常に重視」との回答をみると、坪田地区（49.6%）でほぼ半数を占め、次いで神着地区で44.8%となっている。伊豆地区では32.0%と低かった。

世帯主の年齢別にみると、『重視（計）』は50～59歳（79.2%）で8割弱を占め最も高く、次いで60～69歳（70.0%）が7割を占めて続いている。

家族構成別にみると、『重視（計）』は夫婦のみ（71.1%）で7割を超えた。

Ⅰ. 医療機関・医療設備



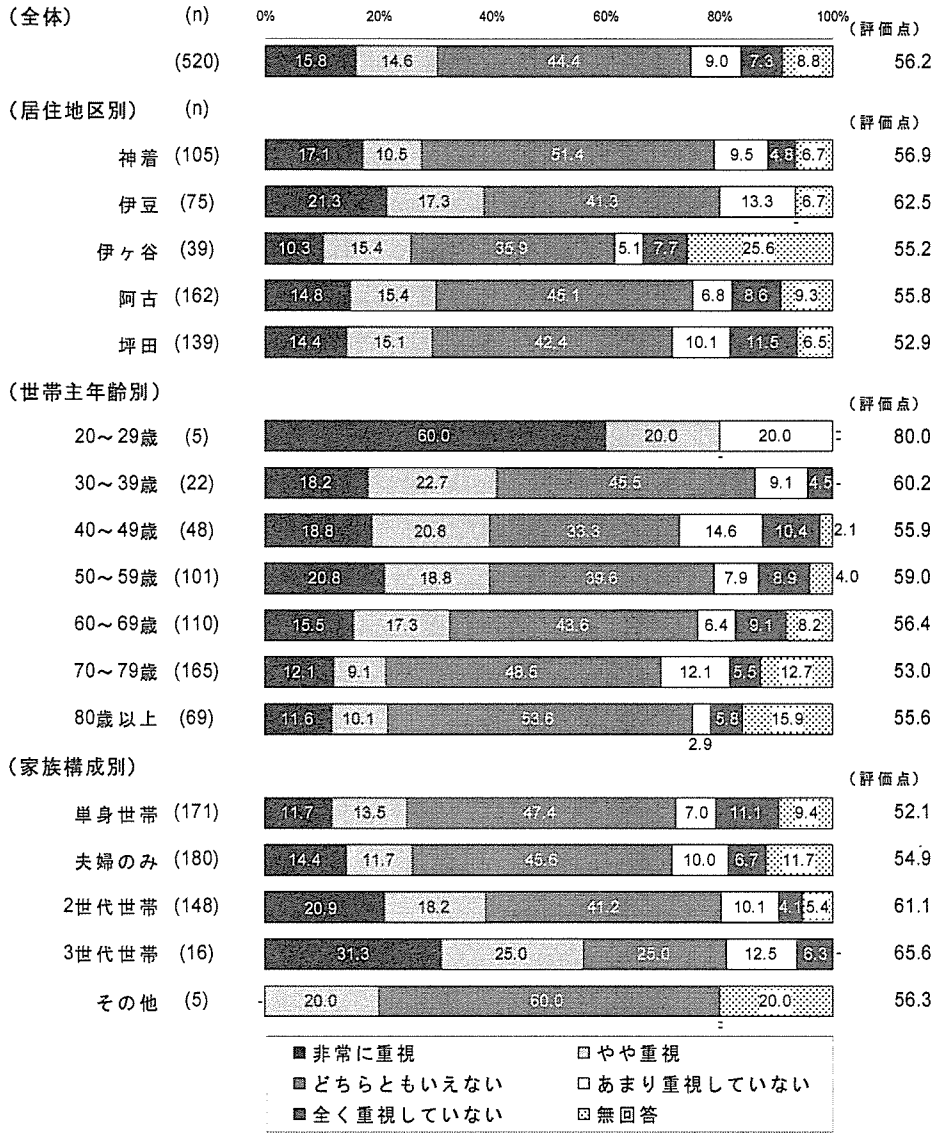
「非常に重視」（57.1%）との回答が5割台半ばを占め最も高く、「やや重視」（21.9%）と合わせた『重視（計）』（79.0%）は8割弱であった。評価点は84.9点と高い。

居住地区別にみると、『重視（計）』は阿古地区（84.6%）、伊豆地区（84.0%）で8割台半ばを占め他の地区に比べ高い。

世帯主の年齢別にみると、『重視（計）』は60～69歳（83.6%）、50～59歳（83.2%）で8割強を占め高い。

家族構成別にみると、『重視（計）』は2世代世帯（81.7%）、夫婦のみ（80.0%）で8割を占めた。

J. 子供の教育施設（学校など）の増設



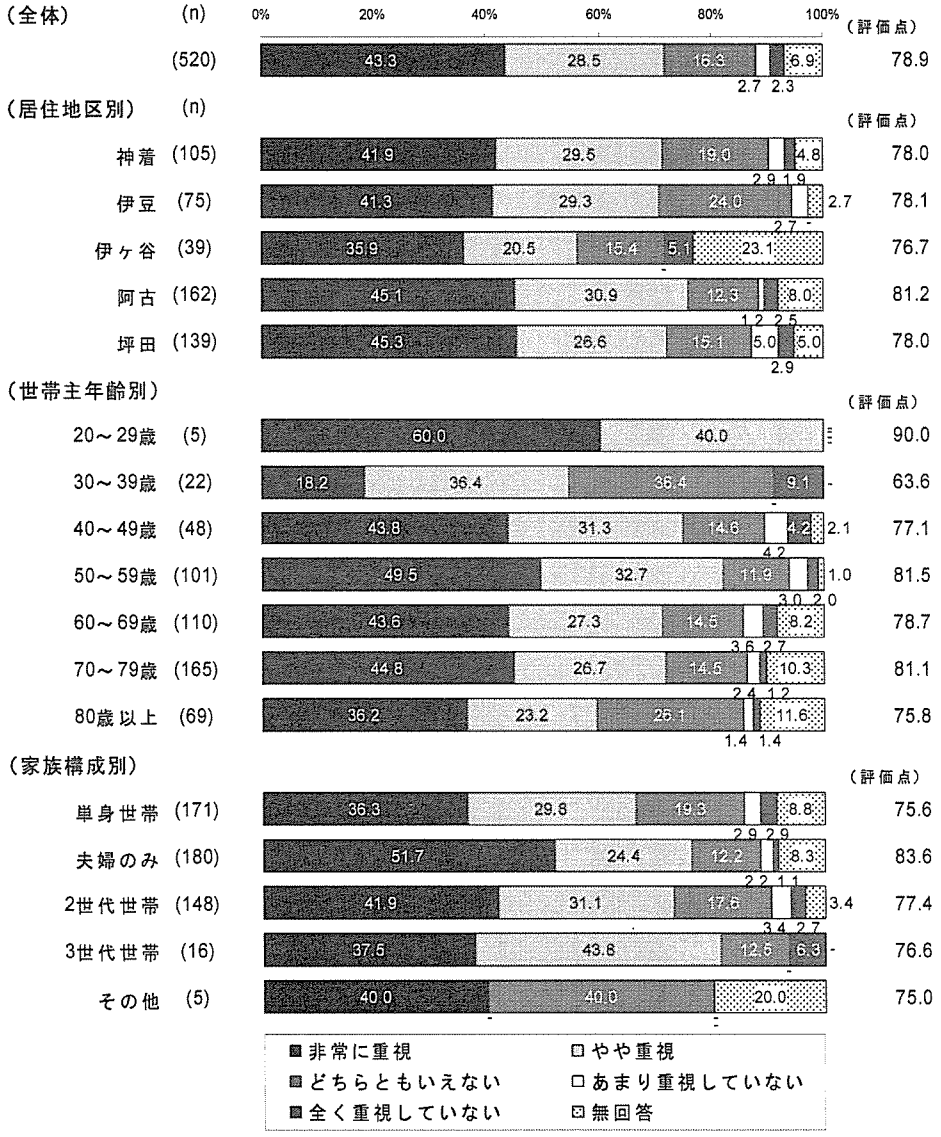
「非常に重視」（15.8%）、「やや重視」（14.6%）を合わせた『重視（計）』（30.4%）は3割となっている。なお、「どちらともいえない」（44.4%）が4割台半ばを占め高い。評価点は56.2点であった。

居住地区別にみると、『重視（計）』は伊豆地区（38.6%）で4割弱を占め高い。

世帯主の年齢別にみると、『重視（計）』は30～39歳（40.9%）、40～49歳（39.6%）、50～59歳（39.6%）で4割前後と高く、子育てをする年齢層において重視度が高い傾向にある。

家族構成別にみると、『重視（計）』は2世代世帯（39.1%）で4割弱を占め高くなっている。

K. 高齢者福祉の充実



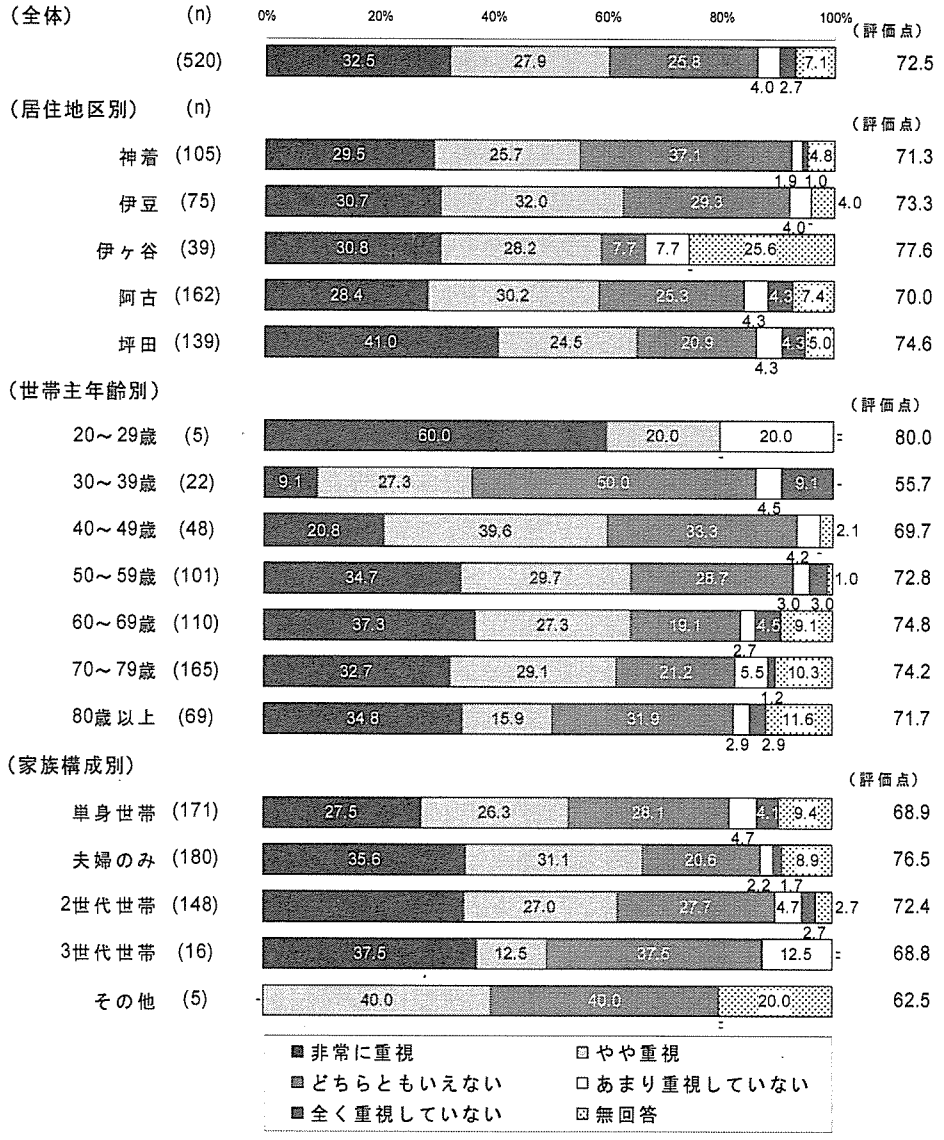
「非常に重視」(43.3%) との回答が5割台半ばを占め最も高く、「やや重視」(28.5%) と合わせた『重視(計)』(71.8%) は7割強であった。評価点は78.9点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は阿古地区 (76.0%) で7割台半ばを占め高い。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳で最も高く82.2%、次いで40～49歳で75.1%となっている。なお、80歳以上 (59.4%) では6割に満たなかった。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は夫婦のみ (76.1%) で7割台半ばを占め高い。

L. 地域のまとまり



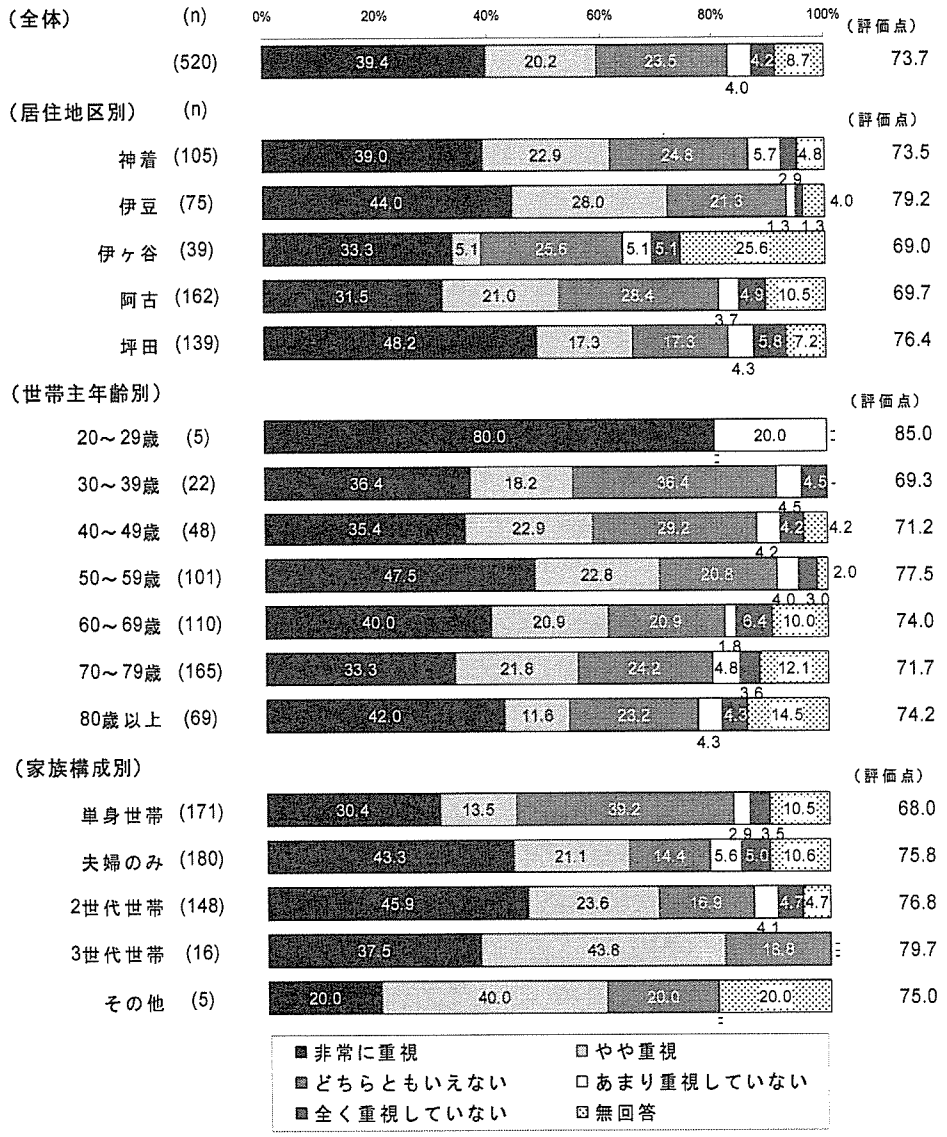
「非常に重視」(32.5%) との回答が3割強を占め最も高い。「やや重視」(27.9%) と合わせた『重視 (計)』(60.4%) は6割を占める。評価点は72.5点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は坪田地区 (65.5%) で6割台半ばを占め高い。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は60～69歳 (64.6%)、50～59歳 (64.4%) で6割台半ばを占めた。一方、80歳以上では50.7%と他の世代に比べやや低くなっている。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は夫婦のみ (66.7%) で6割台半ばを占め高い。

M. 家族との人間関係



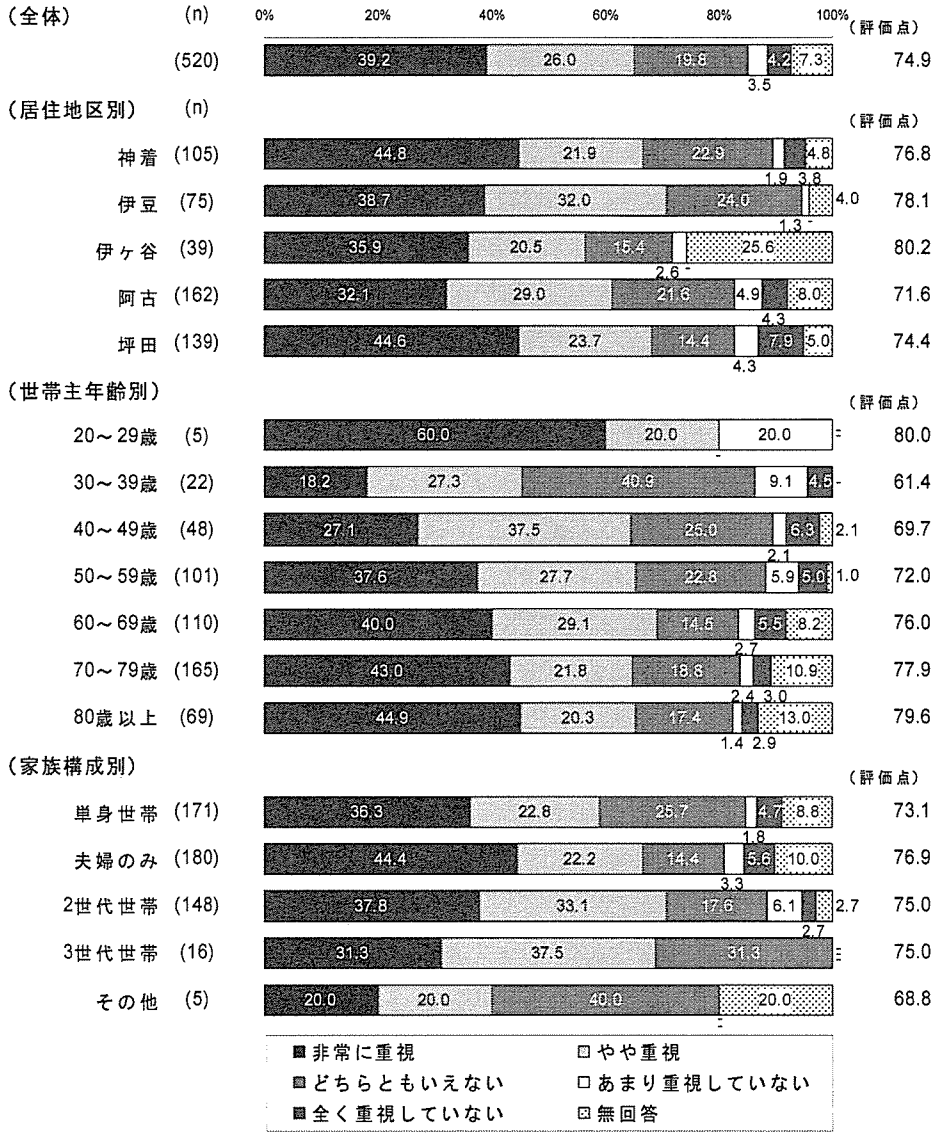
「非常に重視」(39.4%) との回答が4割弱を占め最も高い。「やや重視」(20.2%) を合わせた『重視 (計)』(59.6%) は6割弱を占める。評価点は73.7点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (72.0%) で7割強を占め最も高かった。一方、伊ヶ谷地区では38.4%と他の地区に比べ低くなっている。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳 (70.3%) で7割弱を占め高い。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は2世代世帯 (69.5%) で7割弱を占めている。

N. 隣近所との人間関係



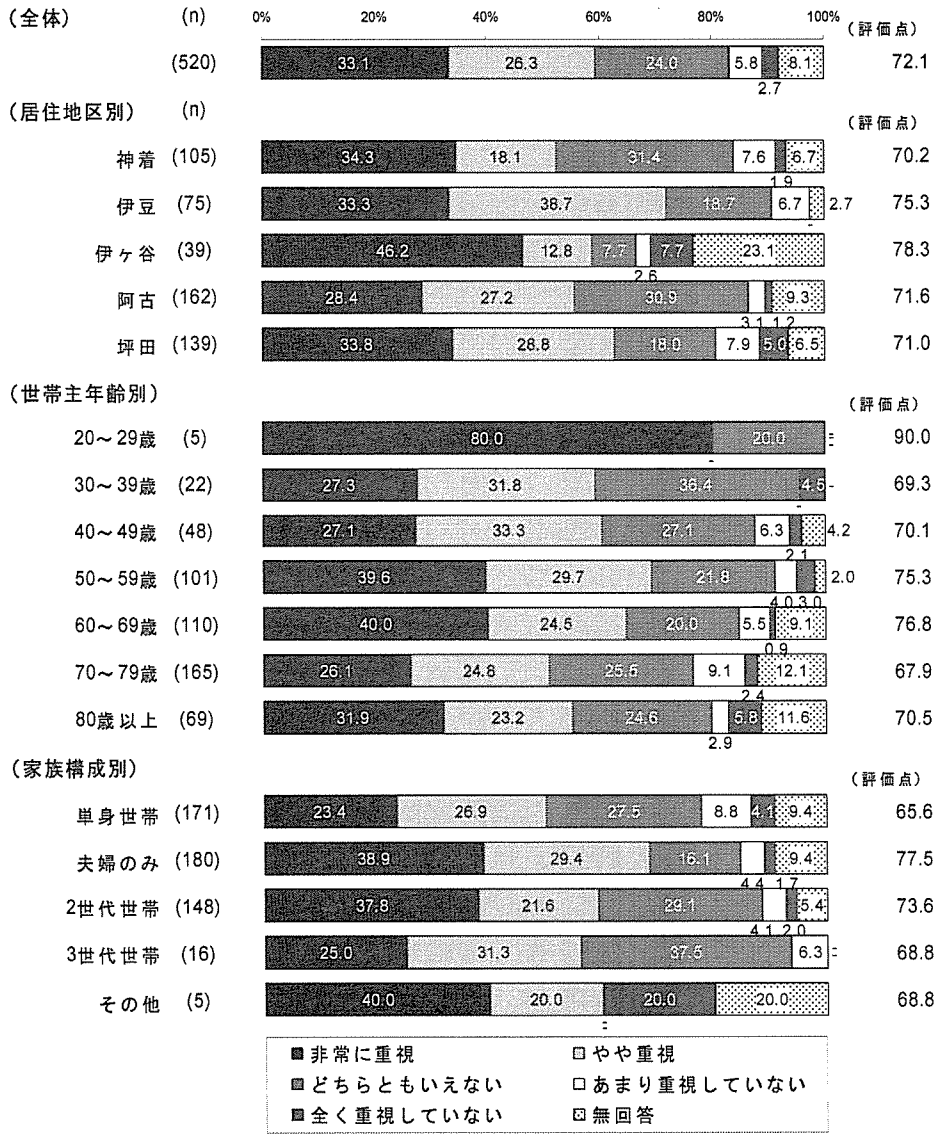
「非常に重視」(39.2%) との回答が最も高く4割弱であった。「やや重視」(26.0%) と合わせた『重視 (計)』(65.2%) は6割台半ばを占める。評価点は74.9点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (70.7%) で最も高く7割強を占めた。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は60～69歳 (69.1%) で7割弱を占め高い。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は2世代世帯 (70.9%) で7割強を占め高い。

O. 店舗・事業所の営業状況



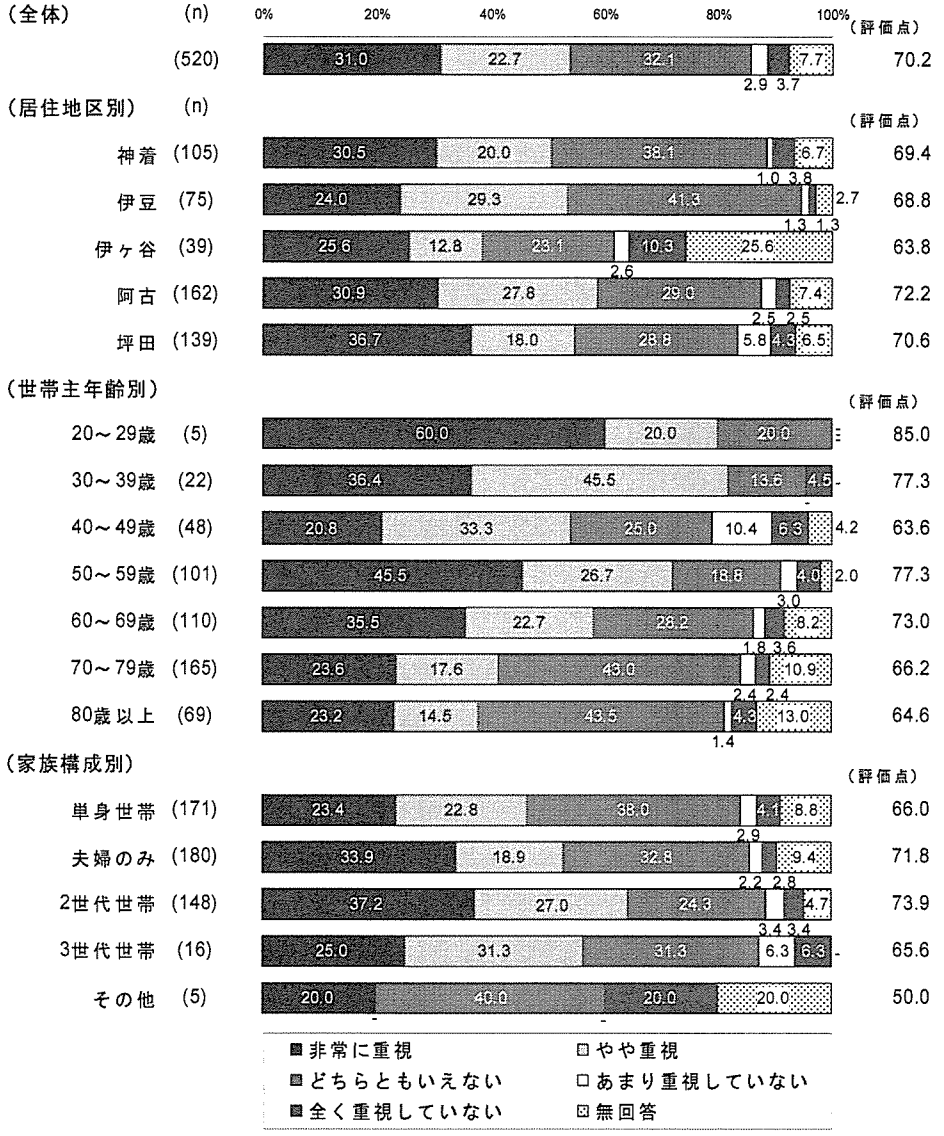
「非常に重視」(39.2%) との回答が4割弱で最も高い。「やや重視」(26.3%) を合わせた『重視 (計)』(59.4%) は6割弱を占める。評価点は72.1点であった。

居住地区別にみると、『重視 (計)』は伊豆地区 (72.0%) で7割強を占め最も高い。なお、伊ヶ谷地区の『重視 (計)』は59.0%と他の地区と比べそれほど高くないが、「非常に重視」(46.2%) が4割台半ばを占めた。

世帯主の年齢別にみると、『重視 (計)』は50～59歳で69.3%、60～69歳で64.5%と高くなっている。

家族構成別にみると、『重視 (計)』は夫婦のみ (68.3%) で7割弱を占め高い。

P. 雇用機会の拡充



「非常に重視」との回答が31.0%と高く、『重視（計）』（53.7%）は過半数に達している。評価点は70.2点であった。

居住地区別にみると、『重視（計）』は阿古地区（58.7%）で最も高く6割弱を占める。

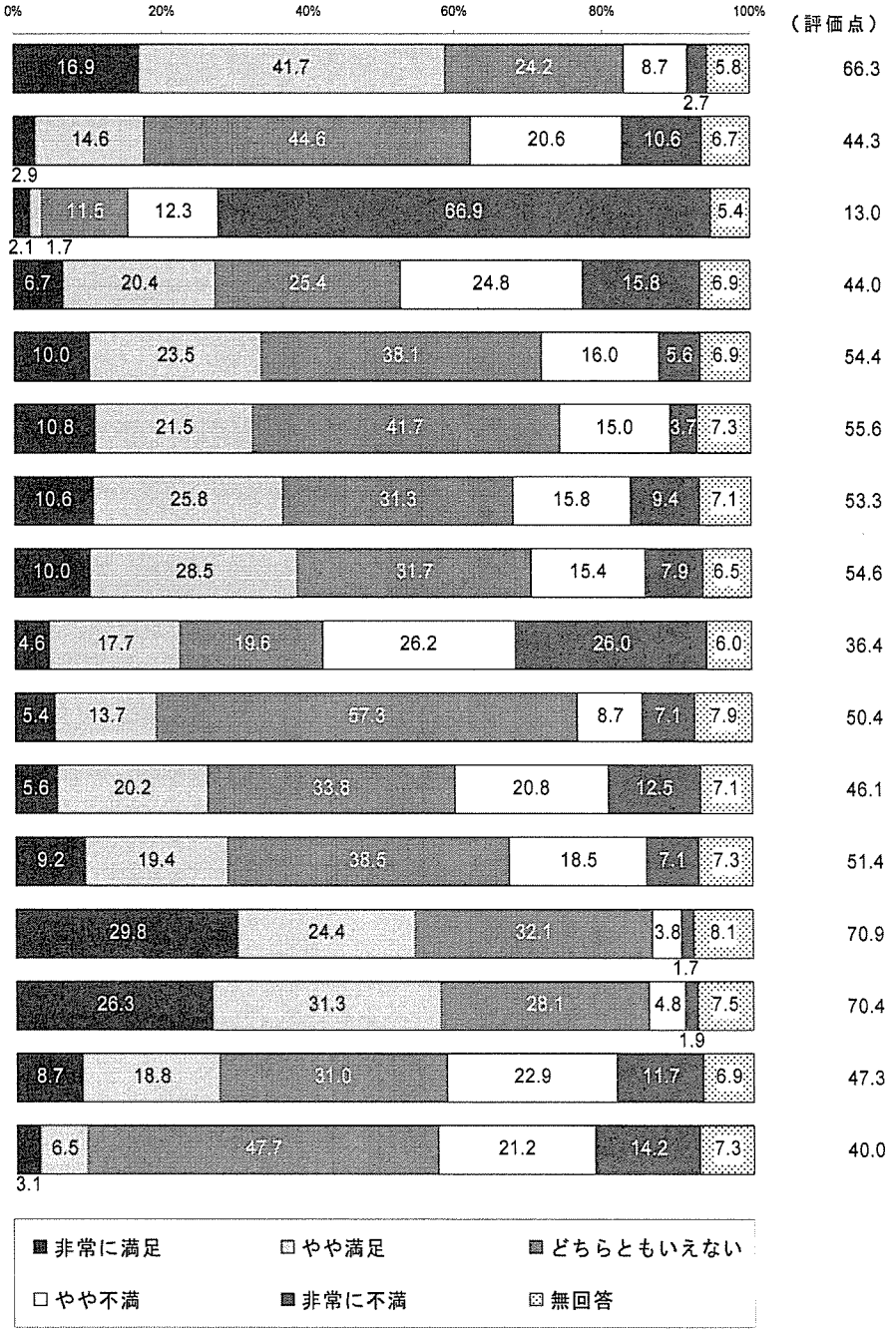
世帯主の年齢別にみると、『重視（計）』は50～59歳（72.2%）でもっとも高く7割強、次いで60～69歳（58.2%）で6割弱を占め高い。

家族構成別にみると、『重視（計）』は2世代世帯（64.2%）で6割台半ばとなっている。

(2) 復興状況の満足度

島民の8割弱が「空港の再開」について不満

問 12　それでは、現在の三宅村の復興状況について、あなたはどの程度満足していますか。問 11 との同様にA～Pの項目それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを１つだけお選びください。



※　評価点は、満足度を 100 点満点で測定するため、「非常に満足」100、「やや満足」75、「どちらともいえない」50、「やや不満」25、「非常に不満」0 の重み点を与えて平均したもの。

次に、現在の三宅村の復興状況について、何にどの程度満足しているかを尋ねた。

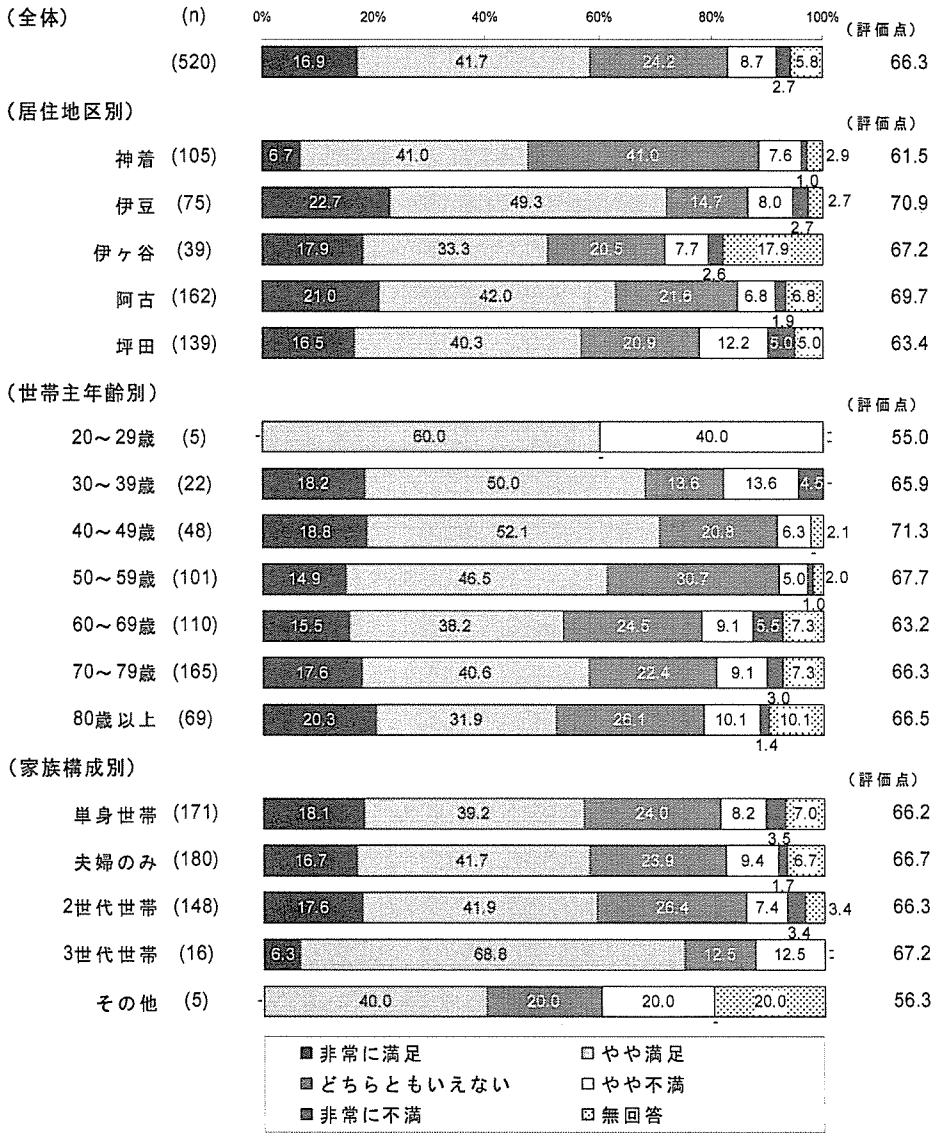
「非常に満足」との回答は、家族との人間関係（29.8%）が3割弱、隣近所との人間関係（26.3%）が2割台半ばと高かった。また、「非常に満足」「やや満足」を合わせた『満足（計）』は道路の整備（58.6%）が最も高く、次いで隣近所との人間関係（57.6%）、家族との人間関係（54.2%）の順となっており、いずれも過半数を占め高い。

一方、「非常に不満」は空港の再開（66.9%）で6割台半ばに上り突出している。次いで医療機関・医療設備（26.0%）が2割台半ばで高い。また、「非常に不満」「やや不満」を合わせた『不満（計）』は空港の再開（78.2%）が最も高く8割弱を占めた。次いで医療機関・医療設備（52.2%）、港湾の拡充・整備（40.6%）が続いている。

また、評価点の高い順に並べると以下のようになる。

満足度測定項目	満足度評価点
M. 家族との人間関係	70.9
N. 隣近所との人間関係	70.4
A. 道路の整備	66.3
F. 公民館など住民が集まれる施設の再開	55.6
H. 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	54.6
E. 金融機関の新設・再開	54.4
G. 上下水道の整備	53.3
L. 地域のまとまり	51.4
J. 子どもの教育施設（学校など）の増設	50.4
O. 店舗・事業所の営業状況	47.3
K. 高齢者福祉の充実	46.1
B. 公共交通（バス）の増便	44.3
D. 港湾の拡充・整備	44.0
P. 雇用機会の拡充	40.0
I. 医療機関・医療設備	36.4
C. 空港の再開	13.0

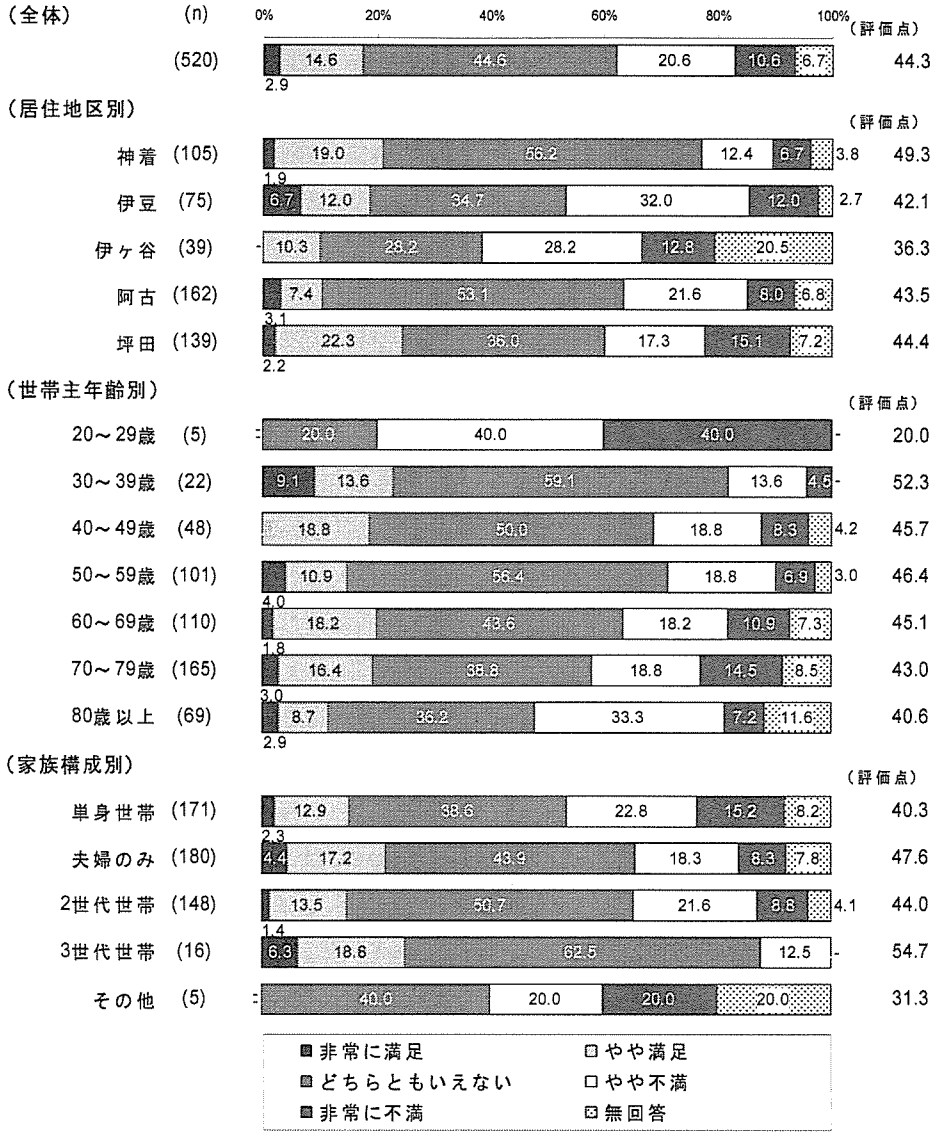
A. 道路の整備



「やや満足」(41.7%) との回答が最も高く4割強を占めた。「非常に満足」(16.9%) を合わせた『満足 (計)』(58.7%) は6割弱となっている。評価点は66.3点となった。

居住地区別にみると、『満足 (計)』は伊豆地区 (72.0%) で最も高く7割強、次いで阿古地区 (63.0%) で6割強を占めた。一方、神着地区 (47.7%) では5割に満たなかった。

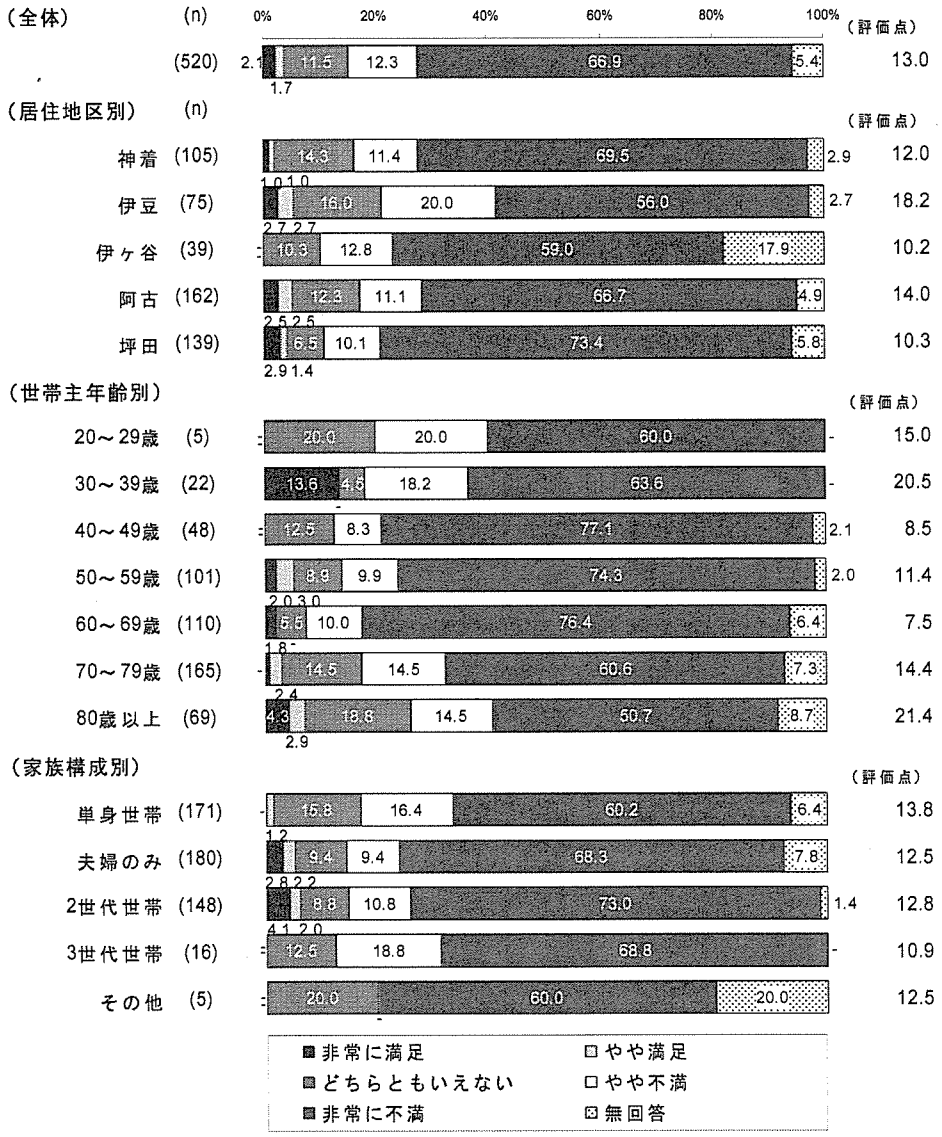
B. 公共バスの増便



『満足（計）』は17.5%、『不満（計）』は31.2%で、不満との意見が上回っている。なお、「どちらともいえない」（44.6%）との回答も多く、4割台半ばとなっている。評価点は44.3点であった。

居住地区別にみると、『不満（計）』は伊豆地区（44.0%）、伊ヶ谷地区（41.0%）で高く4割を超えた。なお、『満足（計）』は、伊ヶ谷地区（10.3%）と阿古地区（10.5%）では1割にとどまった。

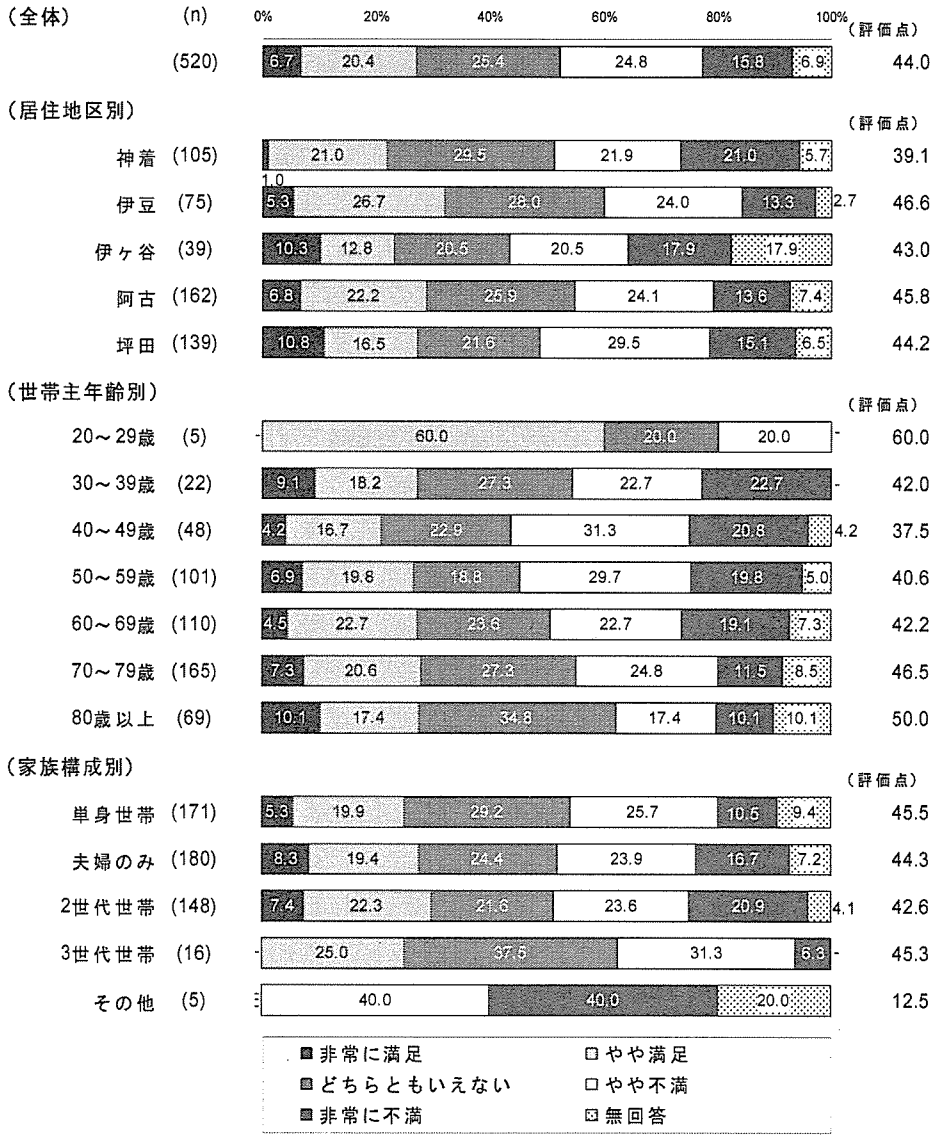
C. 空港の再開



「非常に不満」(66.9%) との回答が最も高く6割台半ばを占めた。「やや不満」(12.3%) を合わせた『不満 (計)』(79.2%) は8割弱となった。評価点はわずか13.0点であった。

世帯主の年齢別にみると、『不満 (計)』は60～69歳の世帯 (86.4%) で最も高く8割台半ばを占め、次いで40～49歳 (85.4%)、50～59歳 (84.2%) などで8割を超えた。ただし、70歳以上で若干低く、70～79歳で75.1%、80歳以上では65.2%となった。

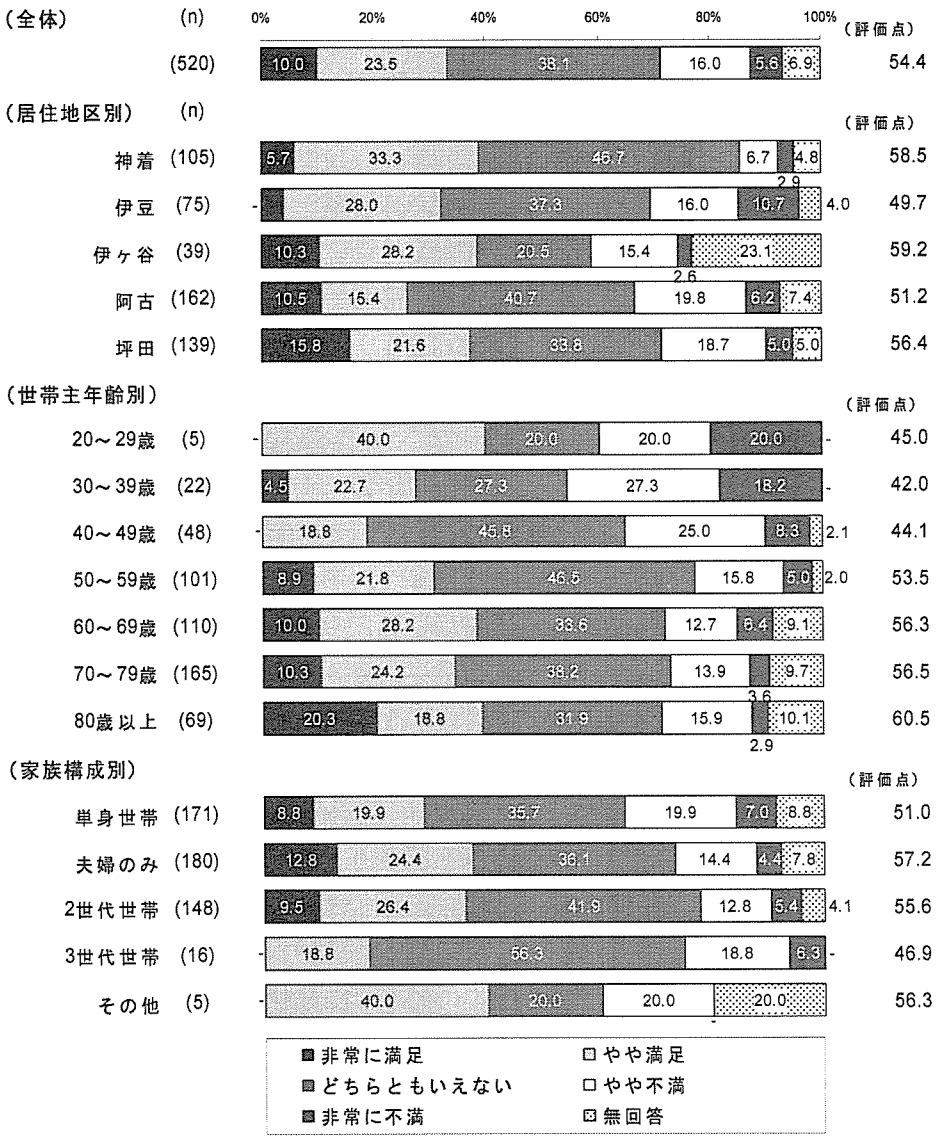
D. 港湾の拡充・整備



「非常に不満」(15.8%)、「やや不満」(24.8%) を合わせた『不満 (計)』(40.6%) は4割を占める。評価点は44.0点であった。

居住地区別にみると、『不満 (計)』は坪田地区 (44.6%)、神着地区 (42.9%) で4割を超え高くなった。

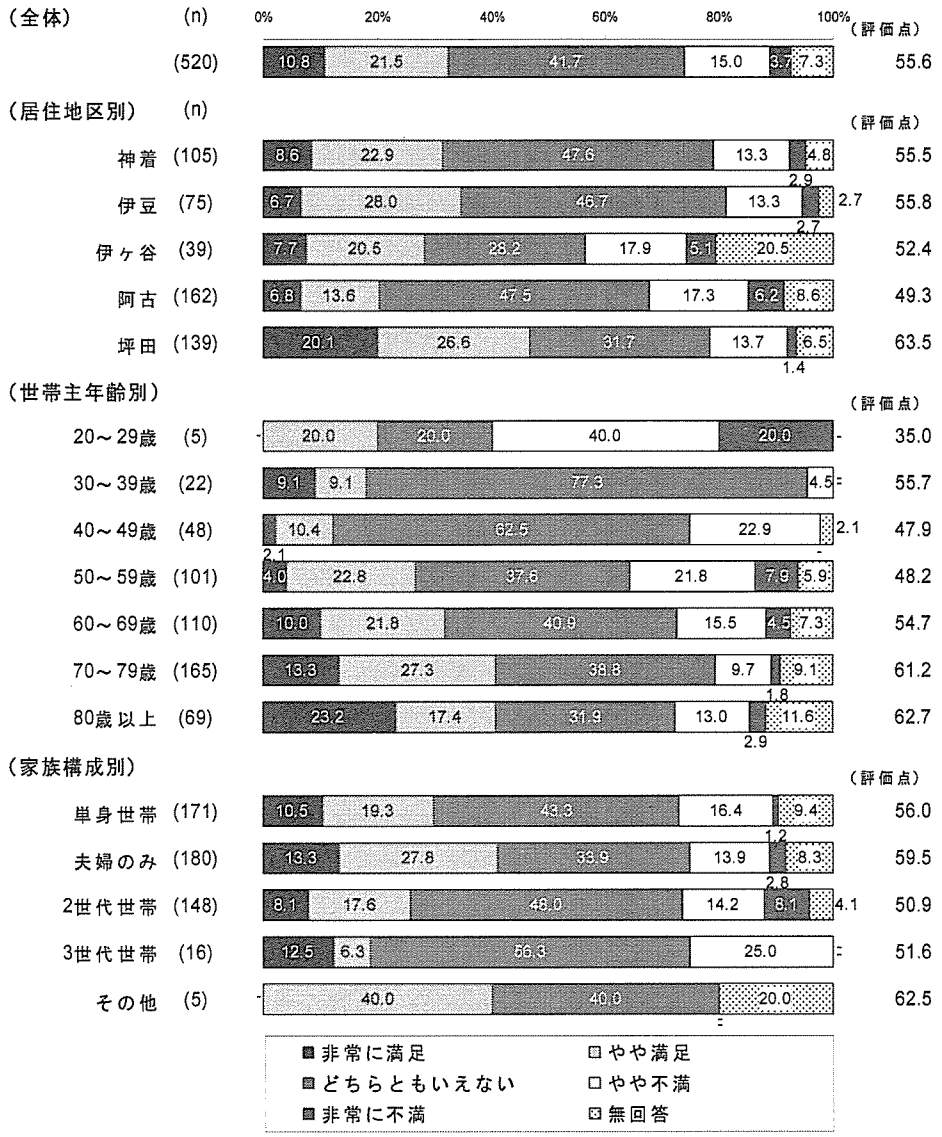
E. 金融機関の新設・再開



「非常に満足」(10.0%)、「やや満足」(23.5%) を合わせた『満足 (計)』(33.5%) と3割台半ばとなっており、『不満 (計)』(21.6%) を上回っている。なお、「どちらともいえない」(38.1%) も4割弱と高い。評価点は54.4点であった。

居住地区別にみると、『不満 (計)』は伊豆地区 (26.7%)、阿古地区 (26.0%) で比較的高く2割台半ばとなった。

F. 公民館など住民が集まれる施設の再開

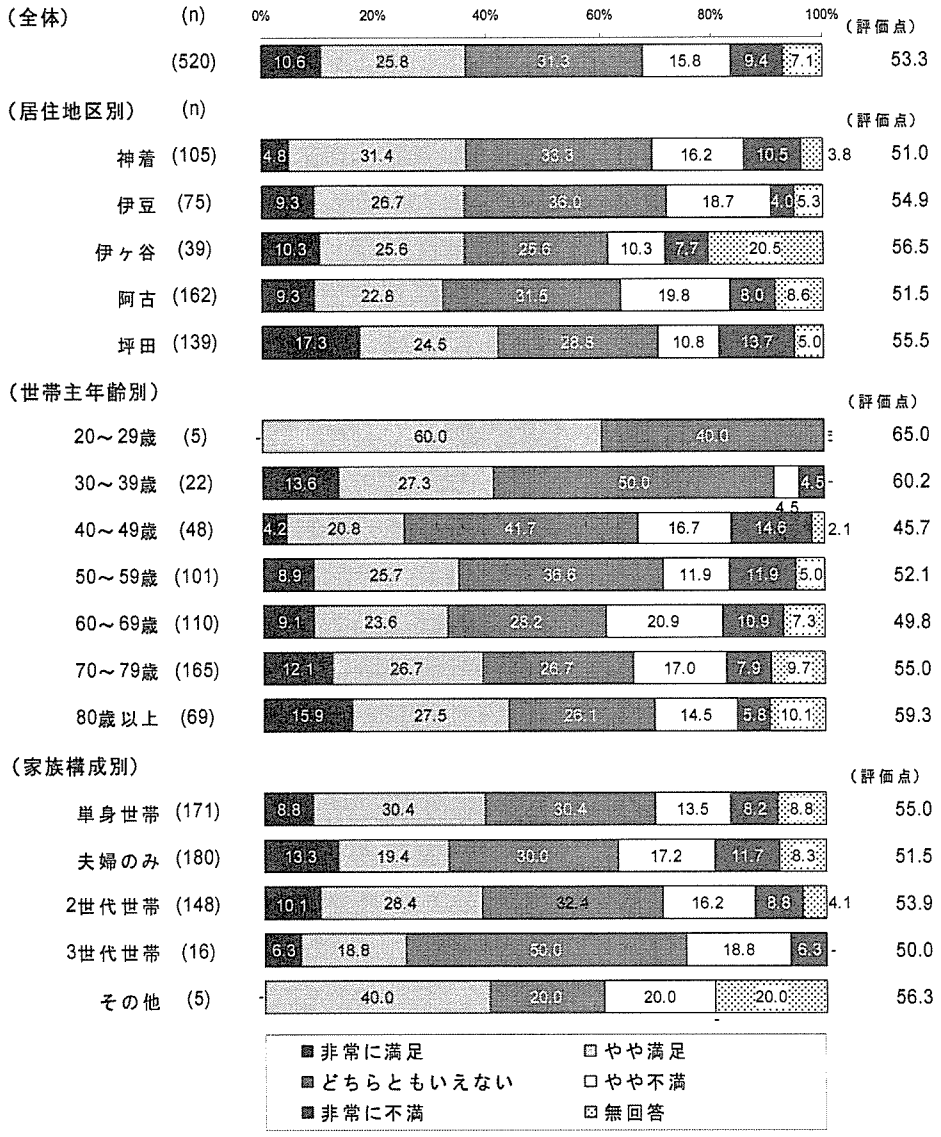


「非常に満足」(10.8%)、「やや満足」(21.5%) を合わせた『満足 (計)』(32.3%) は3割強となっており、『不満 (計)』(18.7%) を上回っている。「どちらともいえない」(41.7%) は4割強となっており、金融機関の新設・再開と同様の傾向であった。評価点は55.6点であった。

居住地区別にみると、『満足 (計)』は坪田地区 (46.7%) と最も高く4割台半ばを占めた。

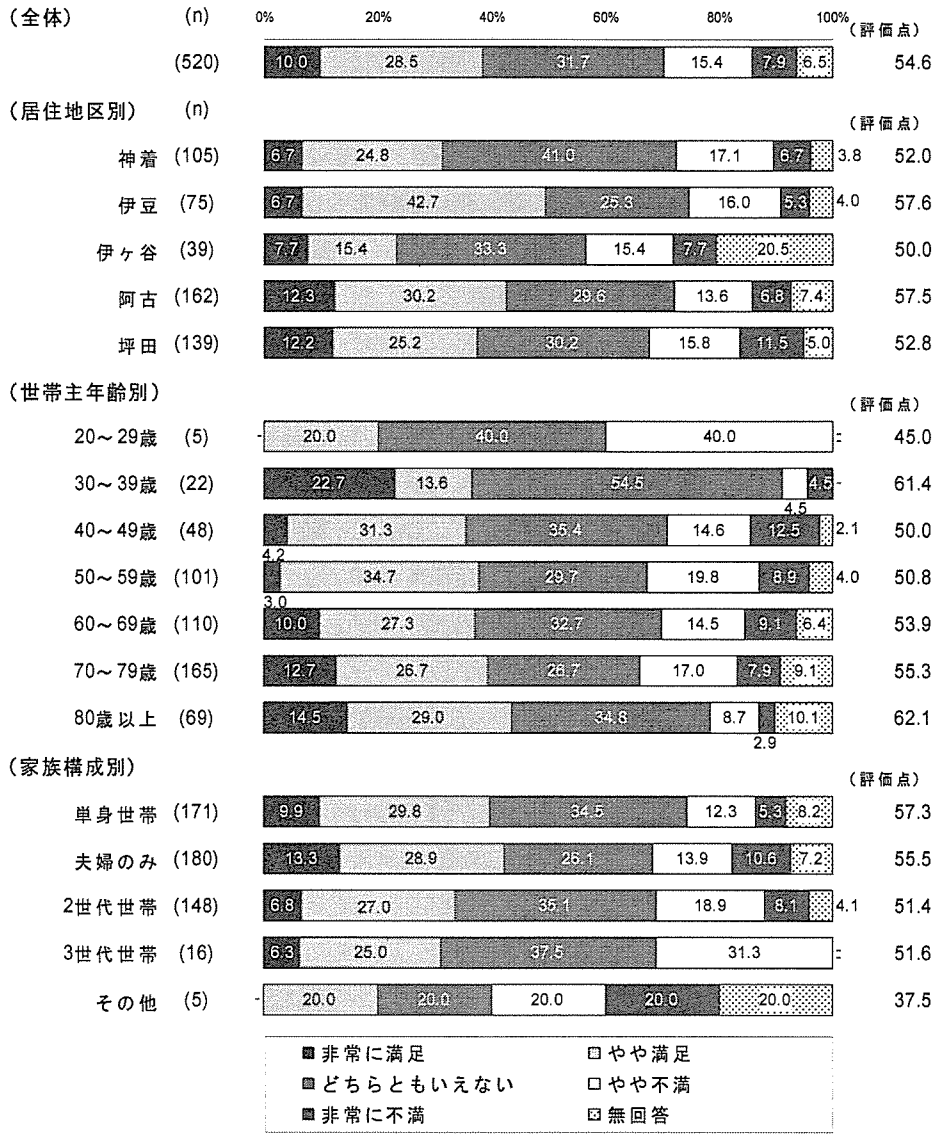
世帯主の年齢別にみると、『満足 (計)』は年齢層につれて高くなる傾向があり、70～79歳、80歳以上 (ともに40.6%) で4割となっている。

G. 上下水道の整備



「やや満足」との回答が25.8%と比較的高く、「非常に満足」（10.6%）と合わせた『満足（計）』（36.4%）は3割台半ばで、『不満（計）』（25.2%）を上回った。評価点は53.3点であった。

H. 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策

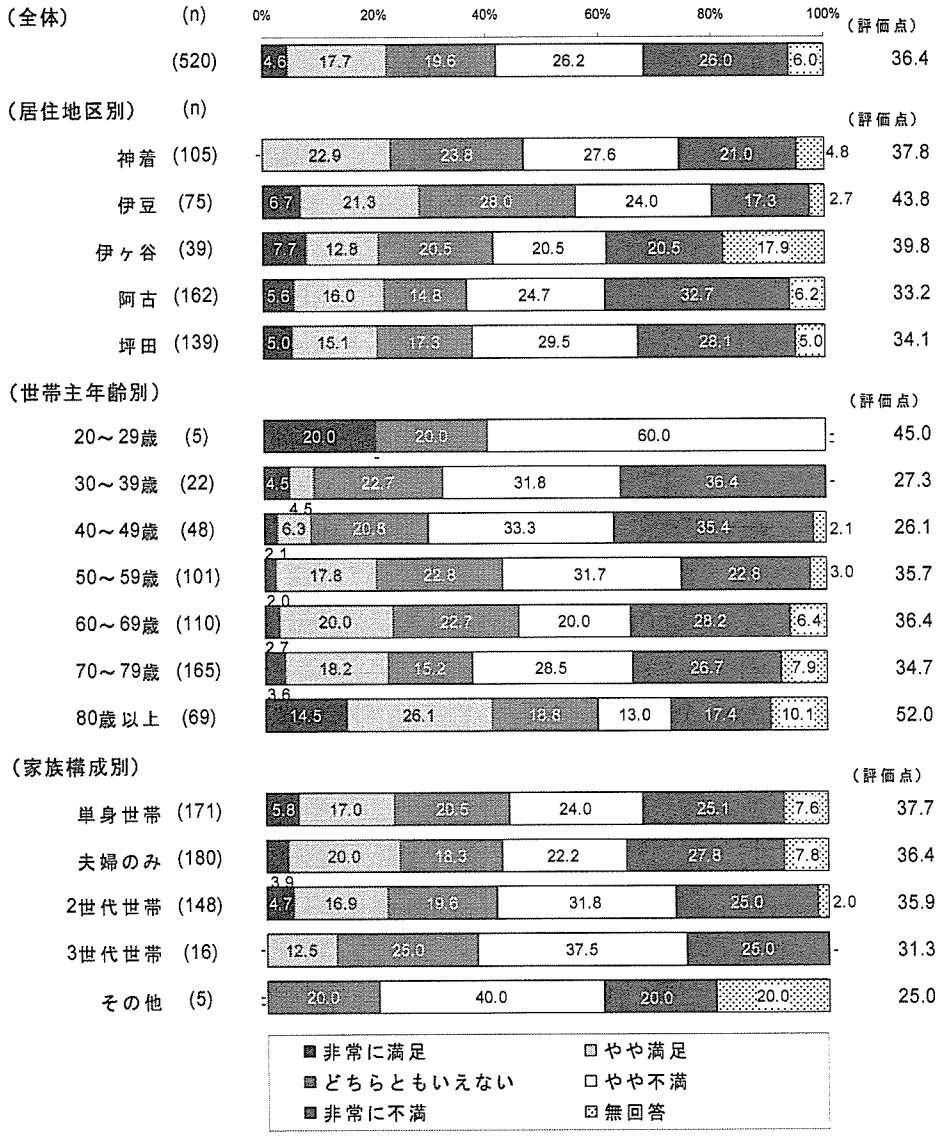


「非常に満足」(10.0%)、「やや満足」(28.5%) を合わせた『満足（計)』(38.5%) は4割弱となっており、『不満（計)』(23.3%) を上回った。評価点は54.6点であった。

居住地区別にみると、『満足（計)』は伊豆地区（49.4%）で高く半数近くを占めた。

家族構成別にみると、『満足（計)』は夫婦のみ（42.2%)、単身世帯（39.7%）で4割程度を占め高い。

Ⅰ. 医療機関・医療設備

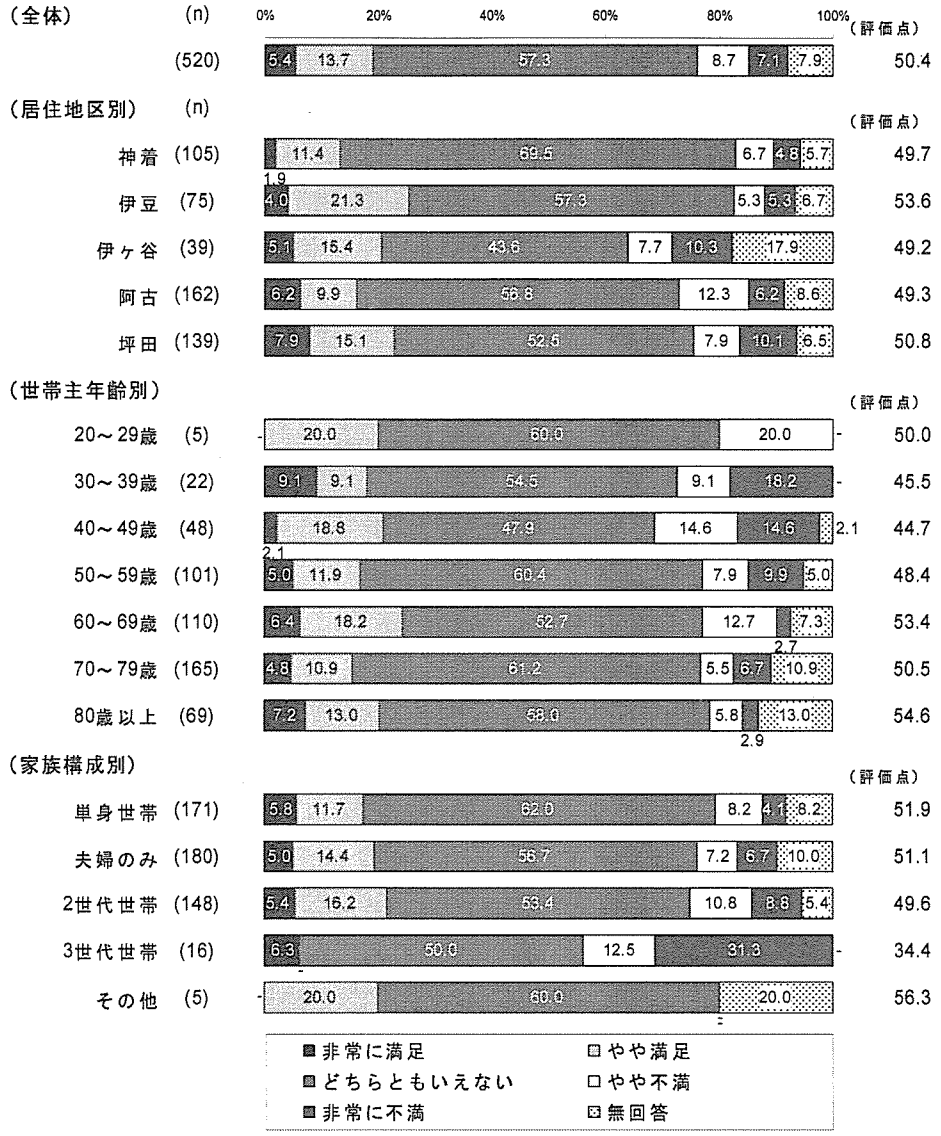


「やや不満」との回答が26.2%と最も高く、次いで「非常に不満」との回答が26.0%で続く。『不満（計）』(52.2%）は過半数を占め、『満足（計）』(22.3%）を大きく上回った。評価点は36.4点であった。

居住地区別にみると、『不満（計）』は坪田地区（57.6%)、阿古地区（57.4%）で比較的高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、『不満（計）』は40～49歳（68.7%)、30～39歳（68.2%）で7割弱を占め高くなっている。

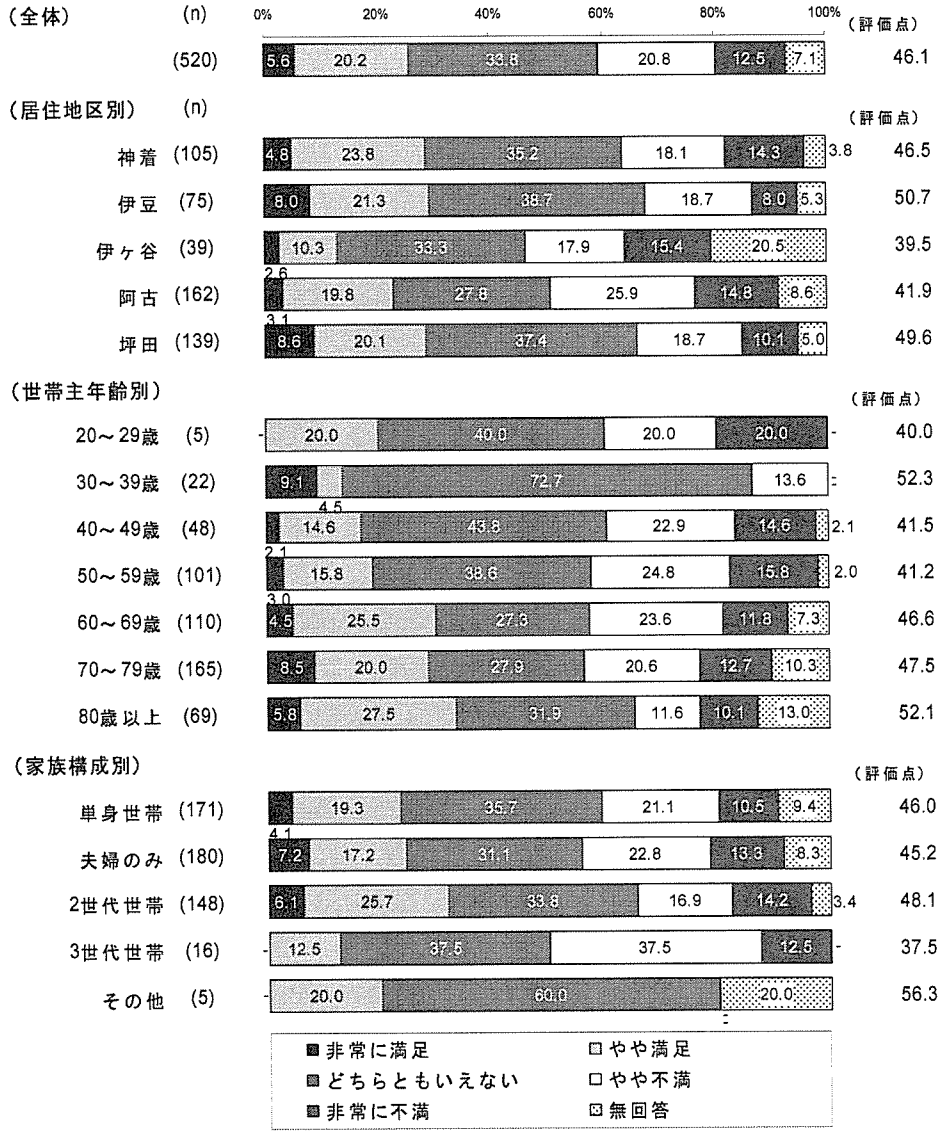
J. 子供の教育施設（学校など）の増設



「非常に満足」(5.4%)、「やや満足」(13.7%) を合わせた『満足（計)』は 19.1%で、『不満（計)』(15.8%) をやや上回っているが、「どちらともいえない」(57.3%) との回答も多く 5 割台半ばを占めた。評価点は 50.4 点であった。

世帯主の年齢別にみると、『不満（計)』が 40～49 歳で 29.2%と高くなっている。

K. 高齢者福祉の充実

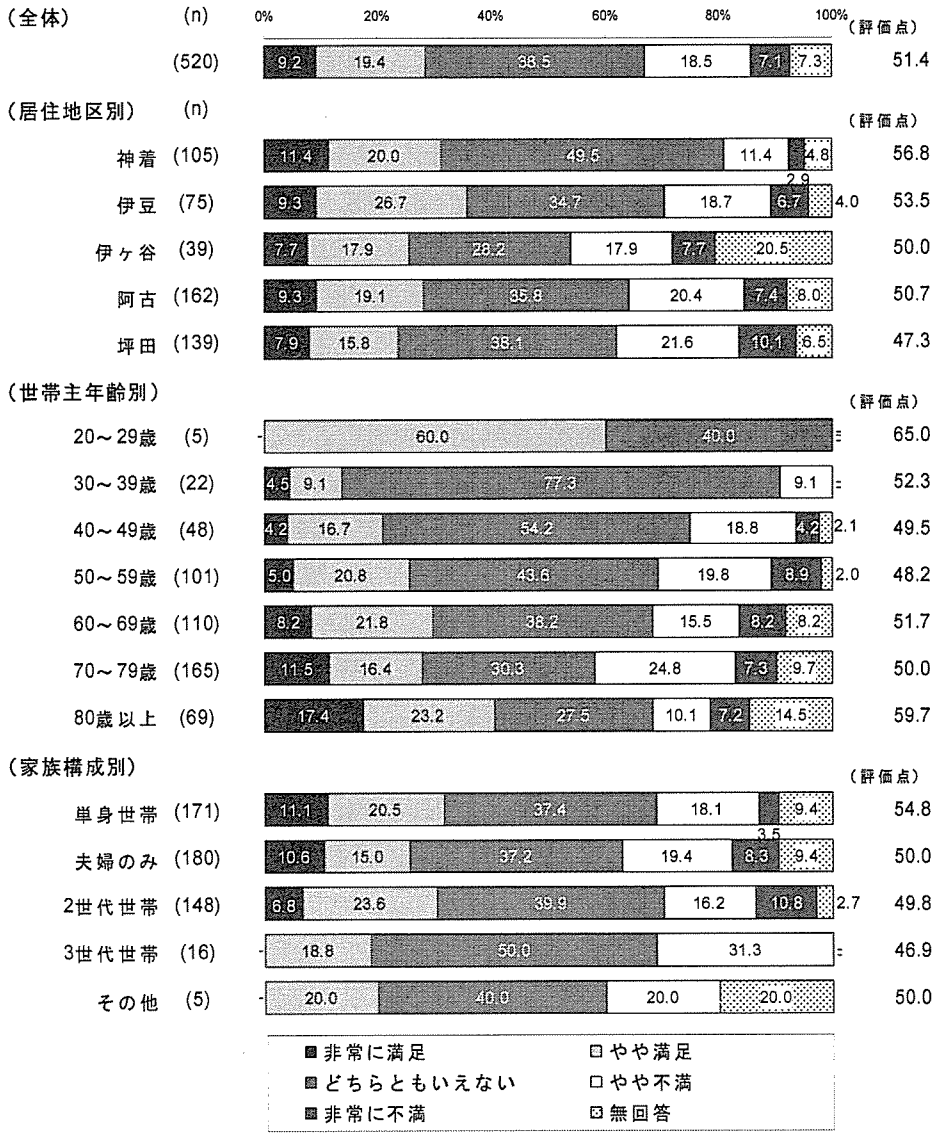


「非常に不満」(12.5%)、「やや不満」(20.8%) を合わせた『不満 (計)』は 33.3%で、『満足 (計)』(25.8%) を上回っている。なお、「どちらともいえない」(33.8%) との回答は 3 半ばとなっている。評価点は 46.1 点であった。

居住地区別にみると、阿古地区で『不満 (計)』(40.7%) が 4 割を超え、『満足 (計)』(22.9%) を上回った。

世帯主の年齢別にみると、『不満 (計)』が 50～59 歳で 40.6%と高く、『満足 (計)』(18.8%) を 22 ポイント上回っている。一方、80 歳以上では『満足 (計)』(33.3%) が『不満 (計)』(21.7%) をやや上回る結果となっている。

L. 地域のまとまり

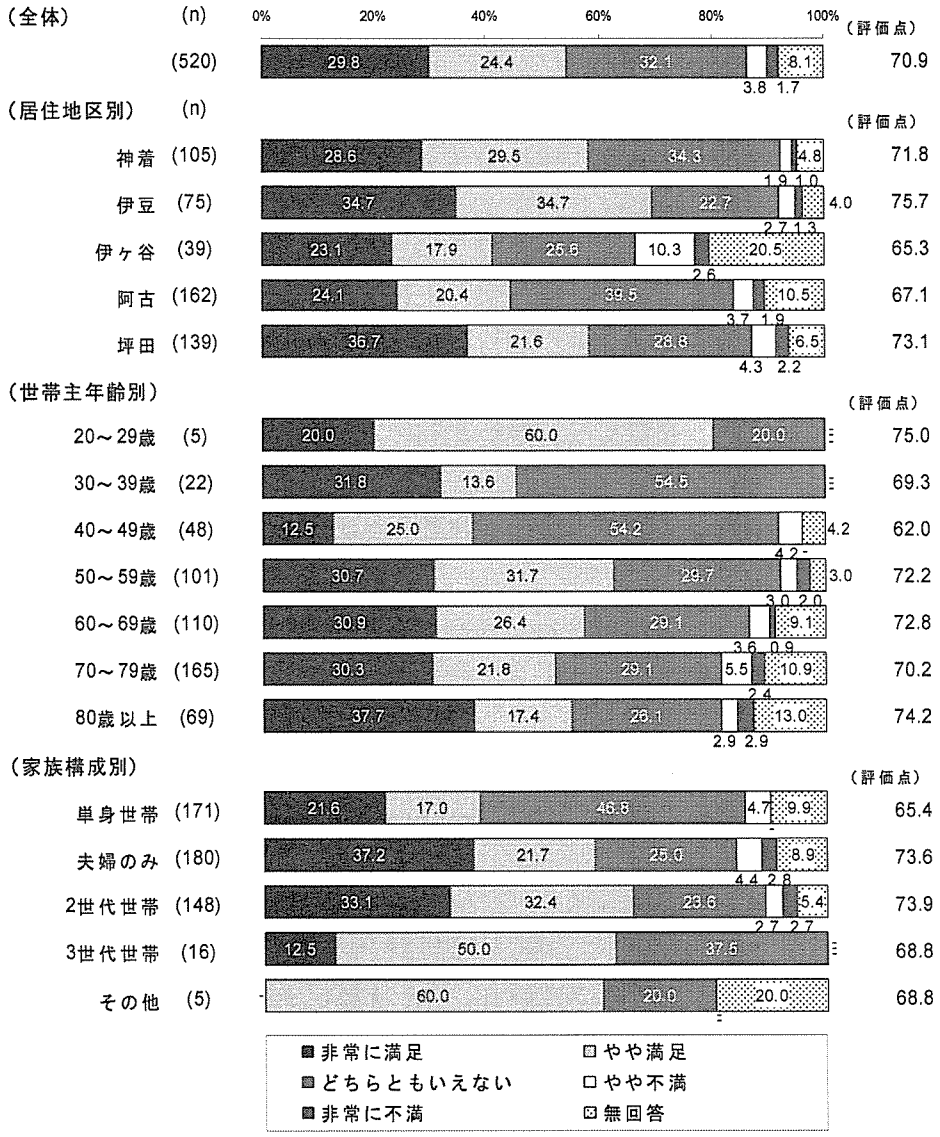


『満足（計）』は 28.6%、『不満（計）』は 25.6%と僅差であった。また、「どちらともいえない」（38.5%）との回答は 4 割弱を占める。評価点は 51.4 点である。

居住地区別にみると、伊豆地区（36.0%）、神着地区（31.4%）では『満足（計）』が比較的高く、それぞれ 3 割を超えた。一方、坪田地区では『不満（計）』（31.7%）が『満足（計）』（23.7%）を上回っている。

世帯主の年齢別にみると、『満足（計）』は、年齢層が上がるほど高くなる傾向にある。なお、『不満（計）』は 70～79 歳の世帯で 32.1%と高くなっている。また、若い年齢層ほど「どちらともいえない」の割合が高くなる傾向にある。

M. 家族との人間関係



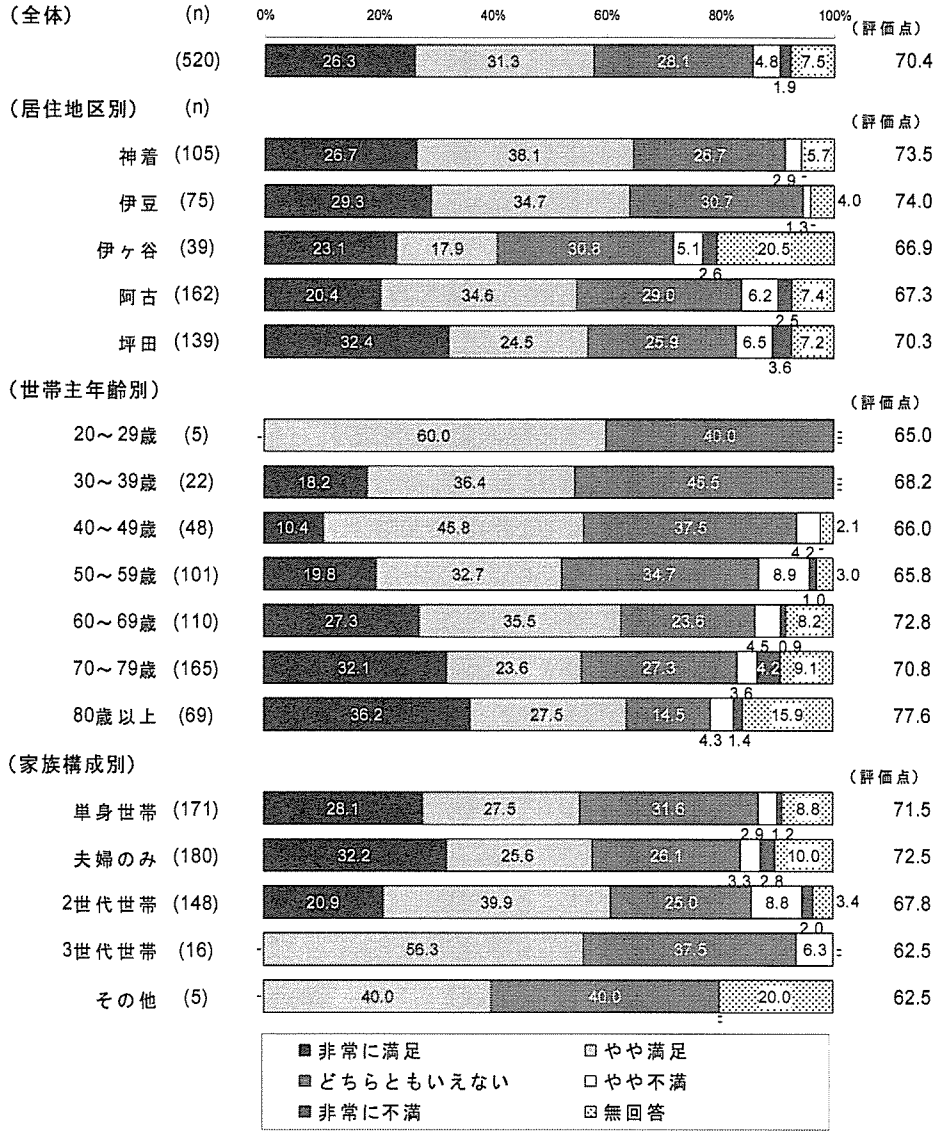
「非常に満足」(29.8%) との回答が3割程度で、「やや満足」(24.4%) と合わせた『満足 (計)』(54.2%) は5割台半ばを占めた。評価点は70.9点となっている。

居住地区別にみると、『満足 (計)』は伊豆地区 (69.4%) で7割弱を占め高い。

世帯主の年齢別にみると、40～49歳では「どちらともいえない」(54.2%) が5割台半ばを占め、『満足 (計)』(37.5%) は4割に満たない。

家族構成別にみると、『満足 (計)』は単身世帯 (38.6%) で4割に満たず低かった。

N. 隣近所との人間関係

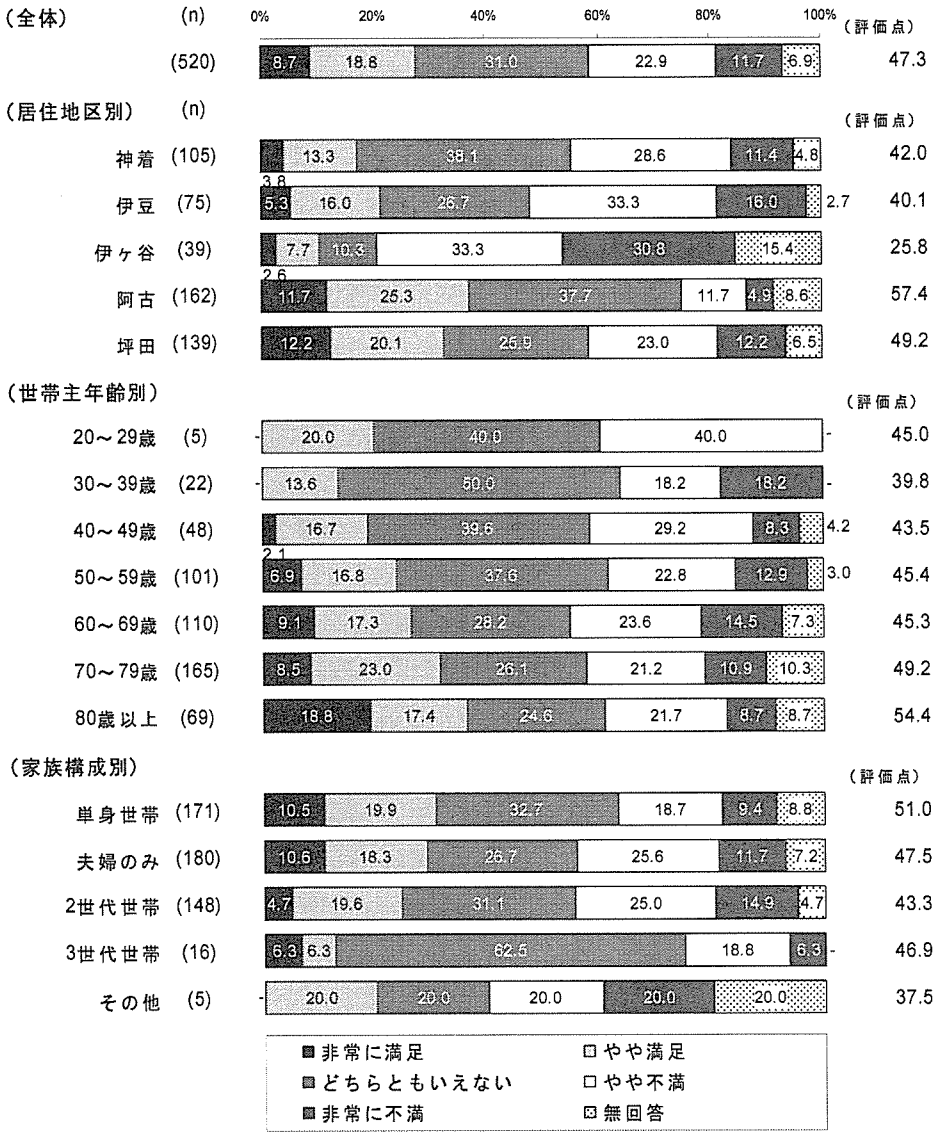


「やや満足」との回答が 31.3%と最も高く、「非常に満足」(26.3%) を合わせた『満足 (計)』(57.6%) は 5 割台半ばを占める。評価点は 70.4 点であった。

居住地区別にみると、『満足 (計)』は神着地区 (64.8%)、伊豆地区 (64.0%) で 6 割台半ばを占め高い。

世帯主の年齢別にみると、『満足 (計)』は 60～69 歳 (62.8%) で 6 割強を占め高い。また、「非常に満足」との回答は、年齢層が高くなるほど高くなる傾向にある。

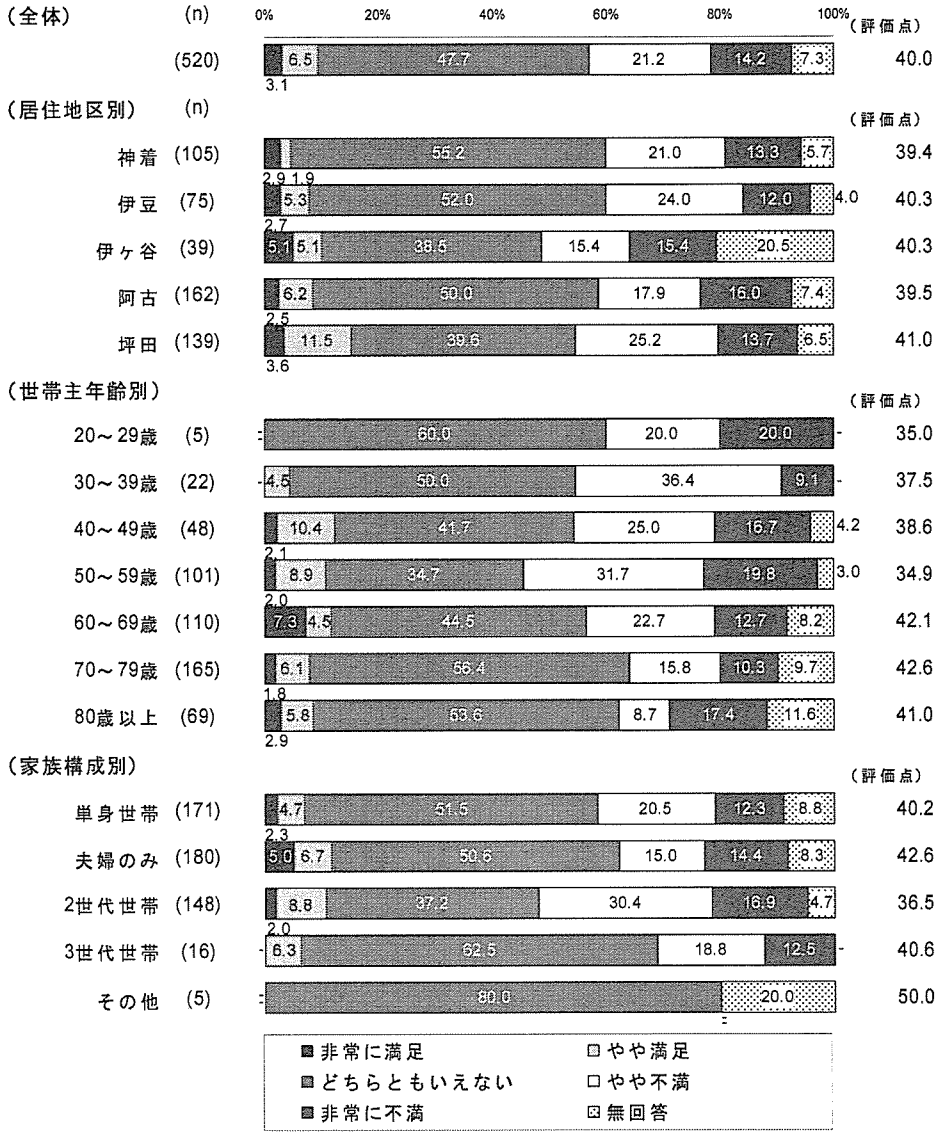
O. 店舗・事業所の営業状況



「非常に不満」(11.7%)、「やや不満」(22.9%) を合わせた『不満 (計)』は 34.6%で、『満足 (計)』(27.5%) を上回った。なお、「どちらともいえない」(31.0%) は 3 割強となっている。評価点は 47.3 点であった。

居住地区別にみると、『不満 (計)』は伊ヶ谷地区 (64.1%) で高く 6 割台半ばを占めた。

P. 雇用機会の拡充



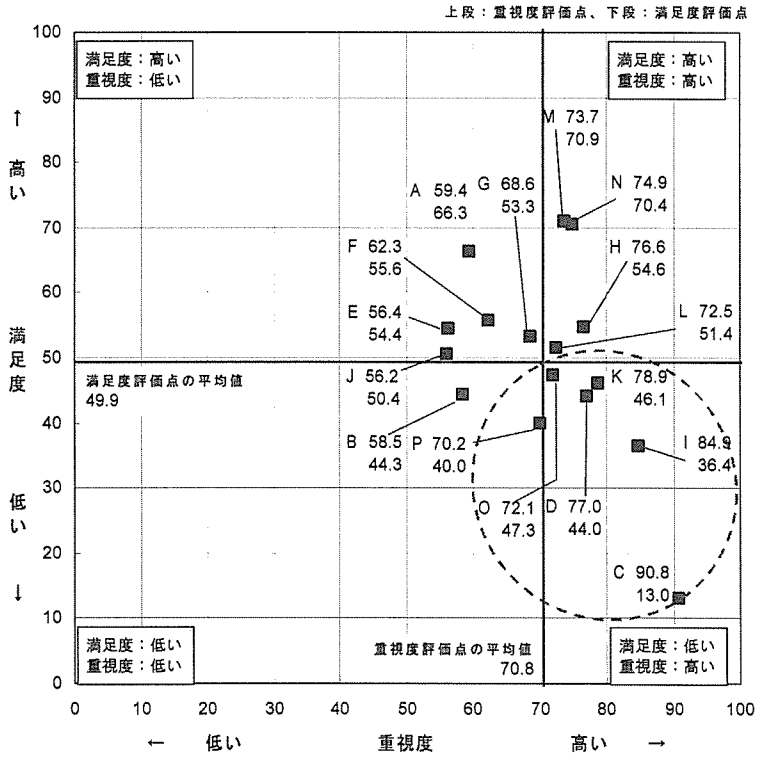
「非常に不満」(14.2%)、「やや不満」(21.2%) を合わせた『不満 (計)』(35.4%) との回答は3割台半ばで、『満足 (計)』(9.6%) は1割に満たない。なお、「どちらともいえない」(47.7%) との回答も多く、4割台半ばなっている。評価点は40.0点と低かった。

世帯主の年齢別にみると、『不満 (計)』は50～59歳 (51.5%) で過半数を占めた。

家族構成別にみると、『不満 (計)』は2世代世帯 (47.3%) で半数近くを占めた。

［重視度・満足度の関係］

「空港の再開」「医療機関・医療設備」の改善要求が強い



評価点結果一覧	問11 復興のための重視度	問12 復興状況の満足度
A. 道路の整備	59.4	66.3
B. 公共交通（バス）の増便	58.5	44.3
C. 空港の再開	90.8	13.0
D. 港湾の拡充・整備	77.0	44.0
E. 金融機関の新設・再開	56.4	54.4
F. 公民館など住民が集まれる施設の再開	62.3	55.6
G. 上下水道の整備	68.6	53.3
H. 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	76.6	54.6
I. 医療機関・医療設備	84.9	36.4
J. 子どもの教育施設（学校など）の増設	56.2	50.4
K. 高齢者福祉の充実	78.9	46.1
L. 地域のまとまり	72.5	51.4
M. 家族との人間関係	73.7	70.9
N. 隣近所との人間関係	74.9	70.4
O. 店舗・事業所の営業状況	72.1	47.3
P. 雇用機会の拡充	70.2	40.0
平均	70.8	49.9

復興への重視度（問 11）と復興状況の満足度（問 12）の評価点を基に、重視度評価と満足度評価を相関させた散布図を作成した。縦軸に満足度評価を、横軸に重視度評価をとったものである。

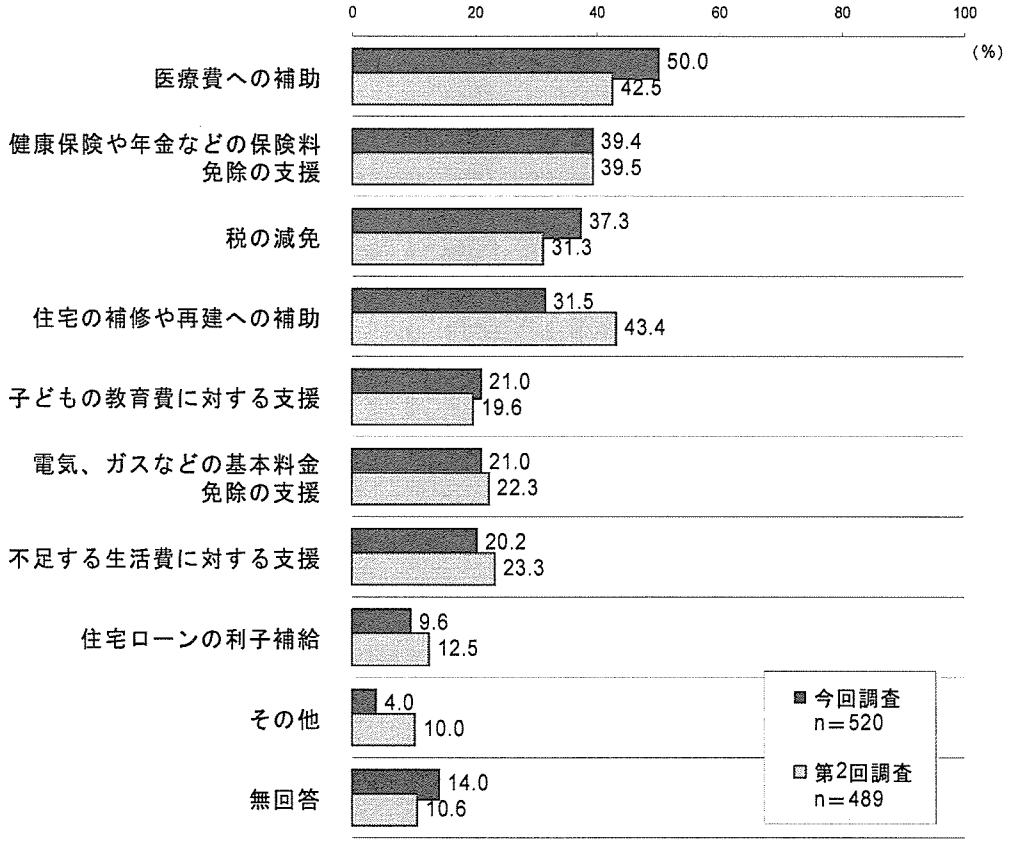
破線円内は、重視度の高さに比べて満足度が低い項目で、島民のニーズが比較的高く課題となるものと考えられる。この領域に入る項目として、空港の再開（C）、港湾の拡充・整備（D）、医療機関・医療設備（I）、高齢者福祉の充実（K）、店舗・事業所の営業状況（O）、雇用機会の拡充（P）が挙げられる。特に、空港の再開と医療機関・医療設備については、重視度の高さに比べ満足度が低く、島民からの改善要求が強いものと考えられる。

また、泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策（H）、地域のまとまり（L）、家族との人間関係（M）、隣近所との人間関係（N）については、重視度、満足度がともに高く、今後も維持・強化が必要と考えられる。

(3) 復興支援として必要なもの

「医療費への補助」が半数

問13　あなたは、行政等が行なう復興支援として、どのようなものが必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



行政等が行なう復興支援として必要と思う施策については、「医療費の補助」(50.5%) との回答が最も高く半数を占めた。次いで「健康保険や年金などの保険料免除の支援」(39.4%)、「税の減免」(37.3%)、「住宅の補修や再建への補助」(31.5%) の順であった。

これまでの調査結果をみると、帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）では、上位を占める項目は変わらないものの、「住宅の補修や再建への補助」との回答が43.4%と最も高くなっており、優先度が高かったことがうかがえる。今回は31.5%で12ポイント減少し、医療や福祉関連の復興施策の必要性が高まっている。

居住地区別にみると、「医療費の補助」との回答は伊ヶ谷地区（56.4%）、神着地区（52.4）、伊豆地区（52.0%）で5割以上となりやや高くなった。「健康保険や年金などの保険料免除の支援」との回答は伊豆地区（44.0%）、坪田地区（41.0%）、阿古地区（40.1%）で4割以上であった。

世帯主の年齢別にみると、「子どもの教育費に対する支援」との回答は40～49歳の世帯（43.8%）で最も高く4割強を占め、50～59歳の世帯（31.7%）でも3割強となった。また、40～49歳の世帯では「住宅の補修や再建への補助」との回答が50.0%と半数を占め、他の年齢層よりも高くなった。

家族構成別にみると、「医療費への補助」との回答は2世代世帯（54.1%）、夫婦のみ（52.8%）で5割以上を占めた。また、「子どもの教育費に対する支援」との回答は3世代世帯（37.5%）、2世代世帯（35.1%）で3割台半ばを占めた。なお、3世代世帯では「住宅の補修や再建への補助」（56.3%）との回答が5割台半ばを占め、他の家族構成世帯よりも高くなった。

［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］

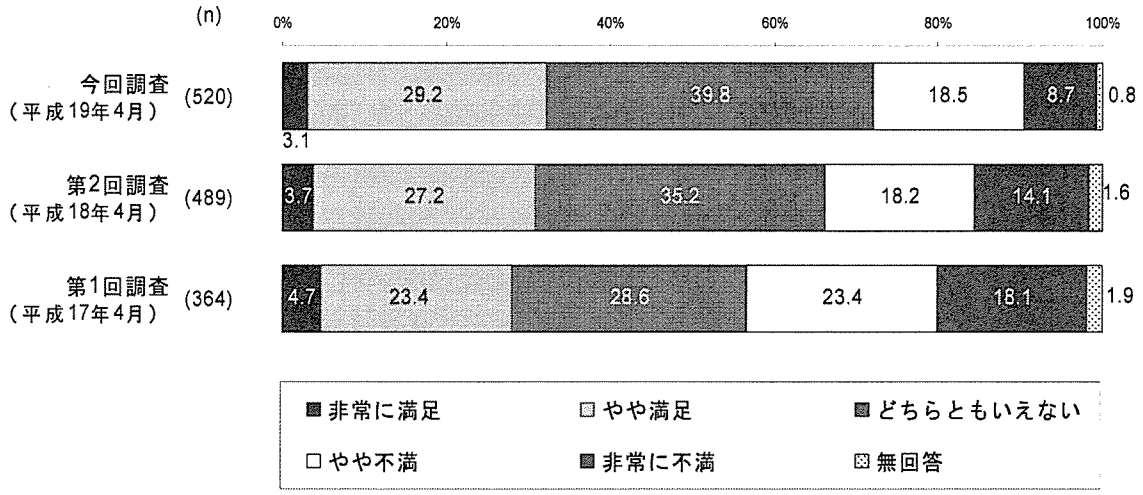
		調査数	子どもの教育費に対する支援	健康保険や年金などの保険料免除の支援	電気、ガスなどの基本料金免除の支援	住宅ローンの利子補給	税の減免	医療費への補助	不足する生活費に対する支援	住宅の補修や再建への補助	その他	無回答
	全体	520	21.0	39.4	21.0	9.6	37.3	50.0	20.2	31.5	4.0	14.0
居住地区別	神着	105	21.9	35.2	22.9	7.6	38.1	52.4	18.1	38.1	2.9	18.1
	伊豆	75	22.7	44.0	22.7	8.0	34.7	52.0	14.7	33.3	4.0	22.7
	伊ヶ谷	39	20.5	33.3	15.4	10.3	25.6	56.4	25.6	28.2	-	12.8
	阿古	162	20.4	40.1	21.0	11.1	37.7	48.8	22.2	27.8	4.3	11.1
	坪田	139	20.1	41.0	20.1	10.1	41.0	46.8	20.9	30.9	5.8	10.1
世帯主年齢別	20～29歳	5	60.0	40.0	40.0	20.0	80.0	100.0	80.0	40.0	-	-
	30～39歳	22	27.3	22.7	13.6	9.1	27.3	54.5	13.6	40.9	4.5	4.5
	40～49歳	48	43.8	33.3	16.7	16.7	22.9	43.8	16.7	50.0	4.2	10.4
	50～59歳	101	31.7	33.7	20.8	12.9	40.6	50.5	18.8	39.6	5.0	6.9
	60～69歳	110	20.9	40.0	18.2	11.8	40.9	49.1	18.2	37.3	4.5	13.6
	70～79歳	165	9.7	46.1	24.2	5.5	40.6	53.9	20.6	21.8	4.8	15.8
	80歳以上	69	11.6	40.6	21.7	5.8	29.0	40.6	24.6	17.4	-	27.5
家族構成別	単身世帯	171	15.2	40.9	19.3	6.4	36.3	43.9	19.9	22.2	7.0	18.1
	夫婦のみ	180	13.9	38.9	23.9	11.7	40.6	52.8	23.3	36.1	1.7	12.8
	2世代世帯	148	35.1	38.5	18.2	11.5	34.5	54.1	16.2	33.8	3.4	10.8
	3世代世帯	16	37.5	31.3	25.0	6.3	31.3	50.0	12.5	56.3	-	18.8
	その他	5	-	60.0	40.0	-	60.0	40.0	60.0	40.0	20.0	-

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　　網掛け）

(4) 復興状況の総合満足度

「どちらともいえない」が4割弱、満足が3割強、不満は3割弱

問14　それでは、全般的には、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。あてはまるものを1つお選びください。



現在の復興状況に対する全般的な満足度については、「非常に満足」(3.1%)、「やや満足」(29.2%) を合わせた『満足（計)』との回答は3割強、「やや不満」(18.5%)、「非常に不満」(8.7%) を合わせた『不満（計)』との回答は3割弱となり、満足との意見がやや上回った。

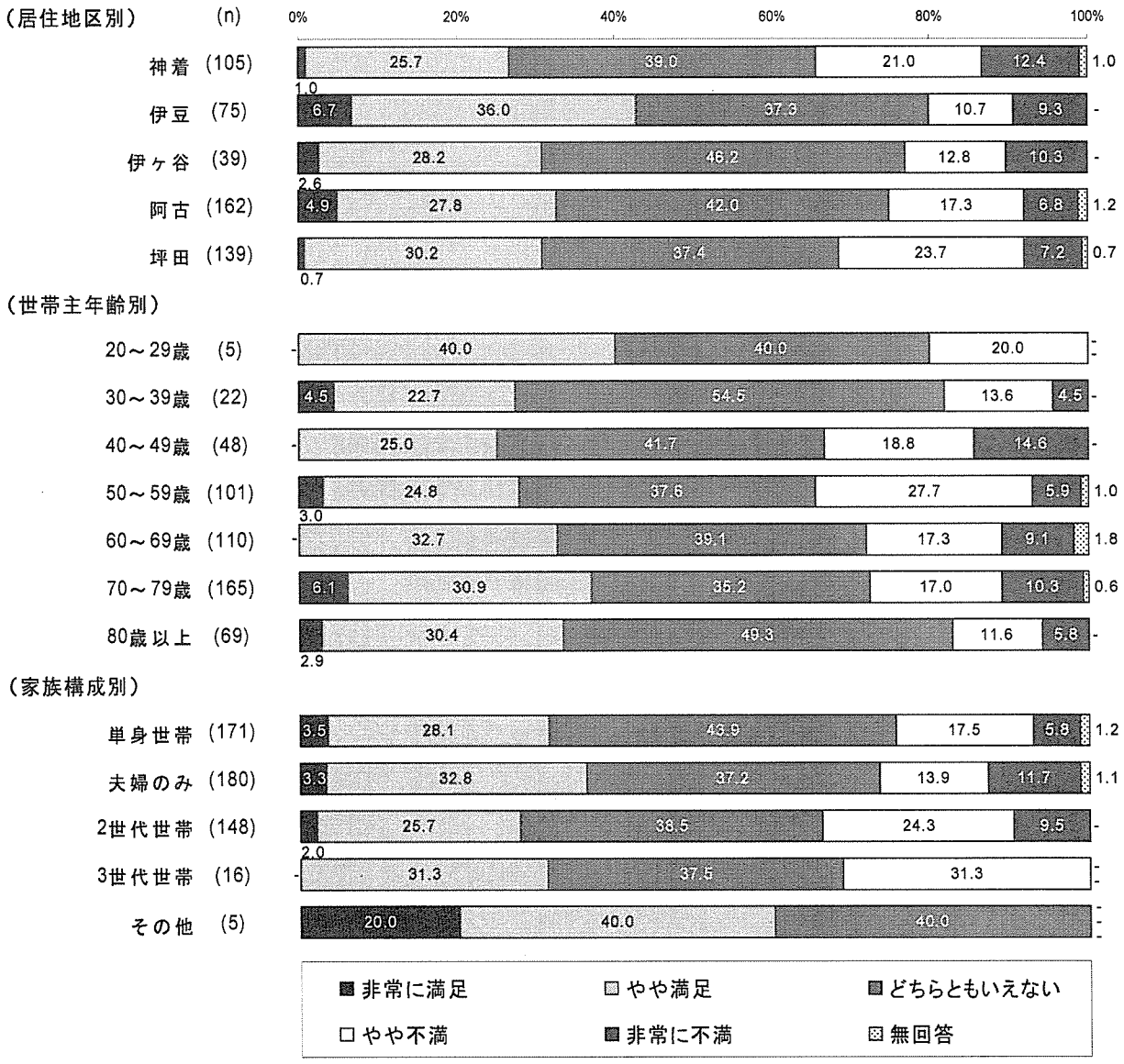
これまでの調査結果をみると、『満足（計)』との回答は年々増加し、『不満（計)』との回答は減少している。『不満（計)』は、帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では41.5%であったが、第2回調査（平成18年4月）では32.3%（9ポイント減)、そして今回27.2%（5ポイント減、第1回調査からは14ポイント減）と減少していく。一方、『満足（計)』は増加しているものの、「非常に満足」との回答は逓減しており、増加していくのは「どちらともいえない」との回答である。

居住地区別にみると、『満足（計)』との回答は伊豆地区（42.7%）で最も高く4割強を占め、神着地区（26.7%）で最も低く2割台半ばであった。一方、『不満（計)』との回答は神着地区（33.4%)、坪田地区（30.9%）で3割を超えた。

世帯主の年齢別にみると、『満足（計)』との回答は70～79歳の世帯で37.0%と最も高い。また、年齢層が高くなるにつれて高くなる傾向にあり、60～69歳（32.7%)、70～79歳（37.0%)、80歳以上（33.3%）で3割以上となった。一方、『不満（計)』との回答は50～59歳（33.6%)、40～49歳（33.4%）で3割を超え高くなった。なお、40～49歳の世帯では「非常に不満」(14.6%）との回答が1割台半ばとなった。

家族構成別にみると、『満足（計)』との回答は単身世帯で31.6%、夫婦のみで36.1%、2世代世帯で27.7%であった。それに対して、『不満（計)』との回答は単身世帯（23.3%)、夫婦のみ（25.6%）では『満足（計)』よりも低いが、2世代世帯では33.8%と『満足（計)』を上回った。なお、「非常に不満」との回答は夫婦のみ（11.7%）で1割を超え、2世代世帯（9.5%）でも1割弱となった。

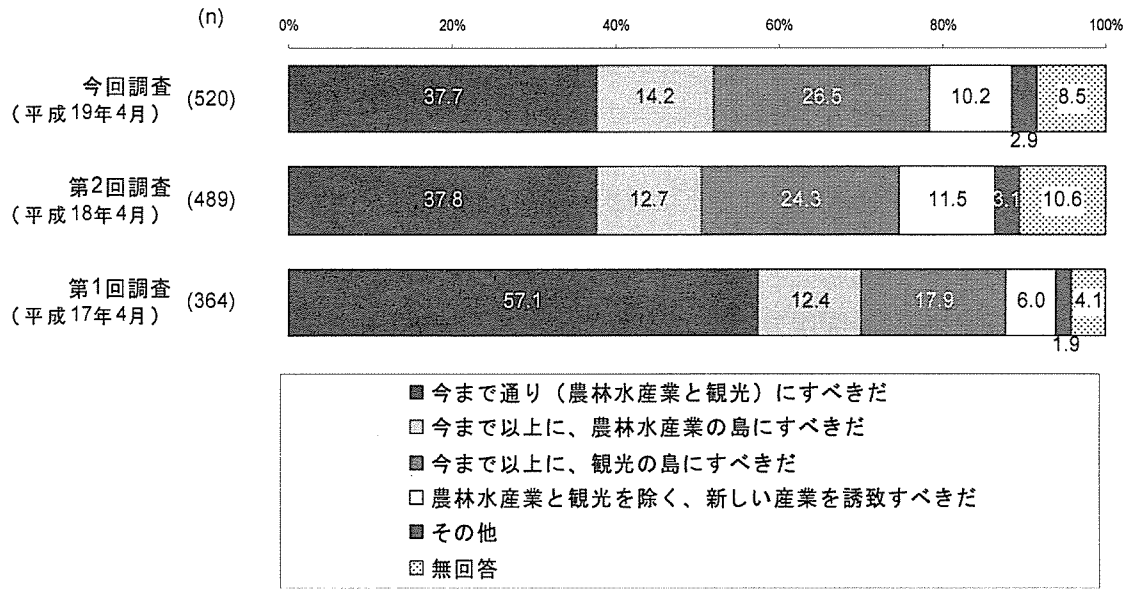
[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]



(5) 三宅村の将来像

「今まで通り」は4割弱、「今まで以上に観光」が2割台半ば

問15　三宅村の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを1つお選びください。



三宅村の将来像については、「今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ」（37.7%）との回答が最も高く4割弱となった。次いで「今まで以上に、観光の島にすべきだ」（26.5%）との回答が2割台半ばであった。「今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ」との回答は14.2%、「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」との回答は10.2%であった。

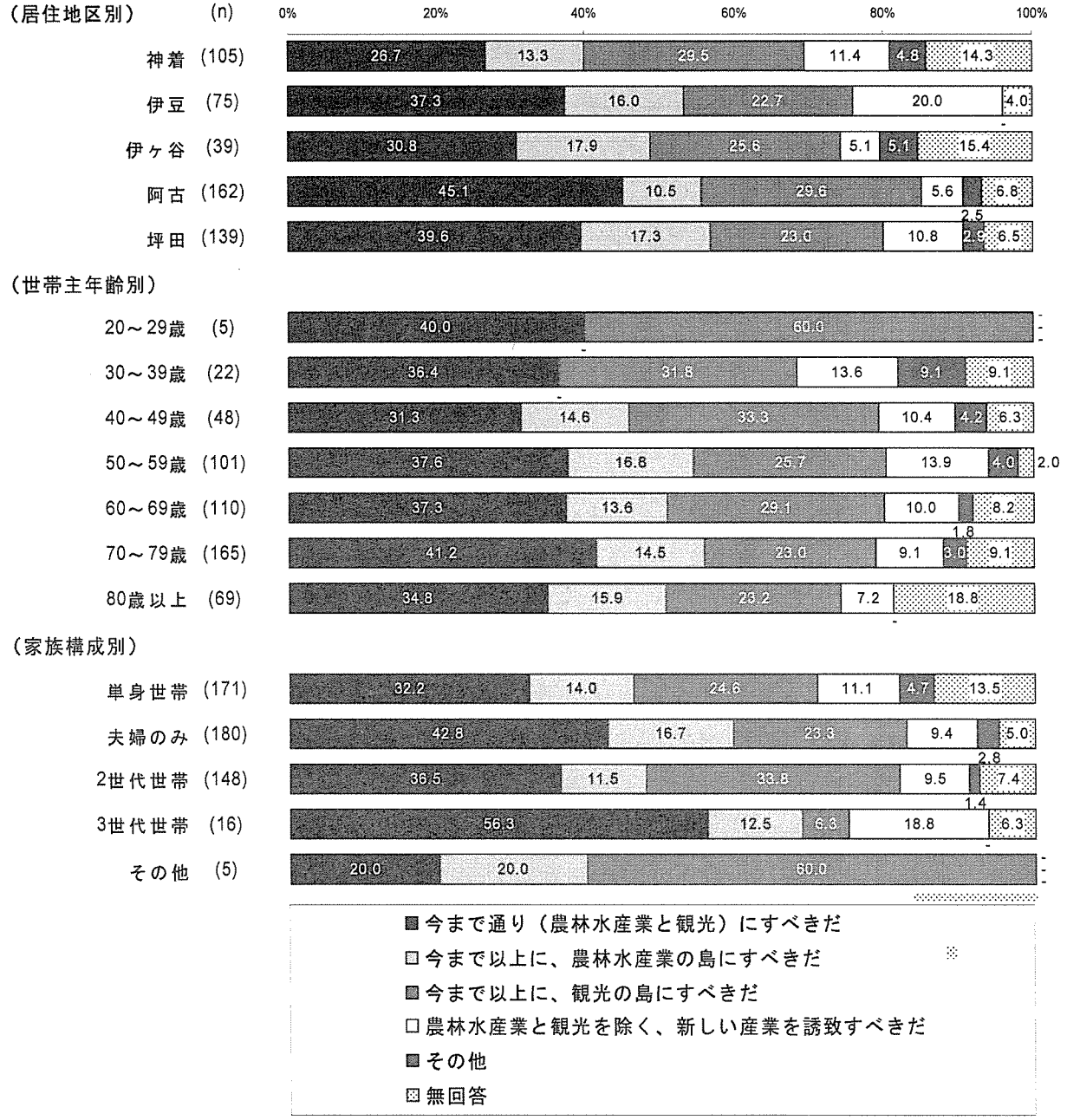
これまでの調査結果をみると、「今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ」との回答は、帰島直後の第1回調査（平成17年4月）で57.1%であった。しかし、帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）では37.8%と21ポイントの減少となり、今回はその傾向のままである。今まで通りの農林水産業と観光の島から、今まで以上に農林水産業あるいは観光業の島にすべきとの回答と、新しい産業を誘致すべきとの回答へ、徐々に分散している。ただ、第1回調査でわずか4.1%だった「無回答（＝拒否、わからない等）」が、第2回調査（10.8%）で1割に達し、今回（8.5%）も1割近くおり、将来像をイメージするのが難しい面もあるようである。

居住地区別にみると、「今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ」との回答は阿古地区（45.1%）で最も高く4割台半ばを占めた。坪田地区（39.6%）、伊豆地区（37.3%）でも4割弱となった。なお、伊豆地区では「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」との回答が20.0%と他の地区より比較的高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ」との回答は70～79歳の世帯で41.2%とやや高いものの、年齢層による大きな差はみられない。なお、80歳以上の世帯では「無回答」（18.8%）が2割弱となった。

家族構成別にみると、「今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ」との回答がいずれの家族構成でも最も高くなり、特に夫婦のみ（42.8%）では4割強を占めた。2世代世帯で36.5%と次いで高いが、「今まで以上に、観光の島にすべきだ」との回答が33.8%と僅差で続いており、意見が二分されている。

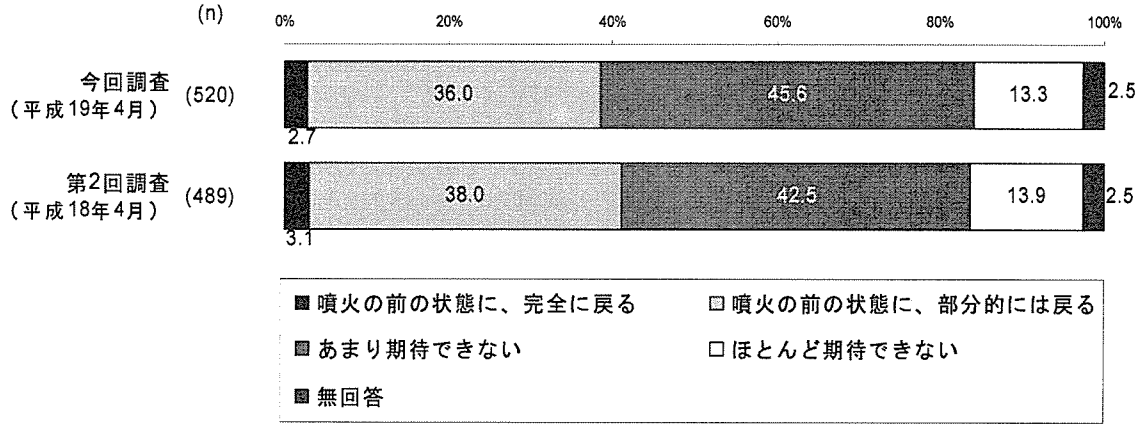
［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）］



(6) 復興への期待度

期待できない（「あまり期待できない」「ほとんど期待できない」）6割弱

問16　あなたは、三宅島の復興の状態について、今後、どの程度まで元に戻ると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



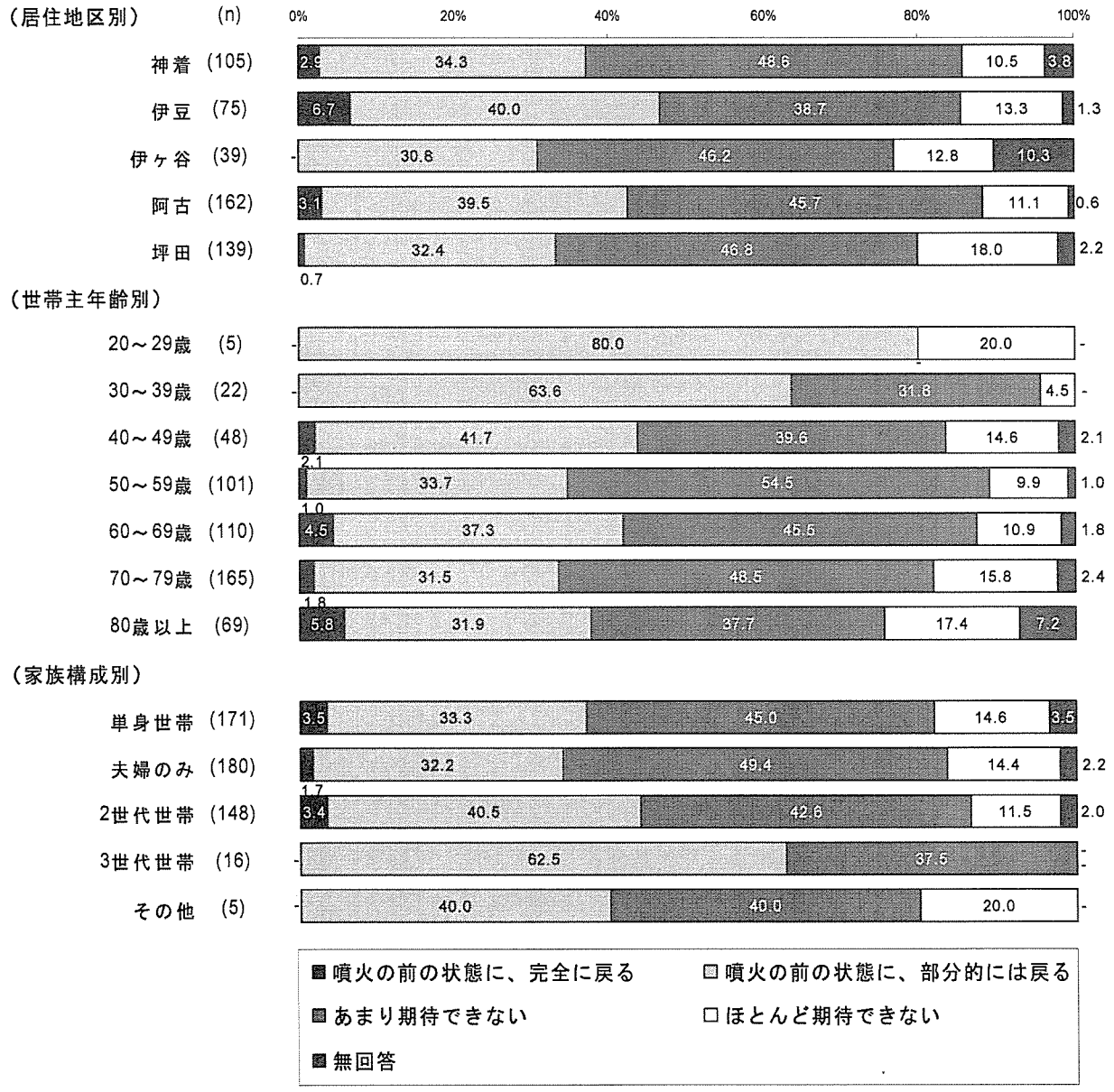
今後の三宅島の復興の状態がどの程度まで戻るかという期待については、「あまり期待できない」（45.6%）との回答が最も高く4割台半ばを占めた。「ほとんど期待できない」（13.3%）を合わせた『期待できない（計）』（58.9%）は6割弱であった。「噴火の前の状態に、完全に戻る」との回答はわずか2.7%、「噴火の前の状態に、部分的には戻る」は36.0%で、前回（平成18年4月）の調査結果からほとんど変化はみられない。

居住地区別をみると、『期待できない（計）』との回答は全体と比べそれほど違いはみられない。伊豆地区では「噴火前の状態に、完全に戻る」（6.7%）、「噴火前の状態に、部分的には戻る」（40.0%）との回答が他の地区と比べ高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、『期待できない（計）』との回答は50～59歳（64.4%）、70～79歳（64.3%）の世帯で高く6割台半ばとなった。また、「ほとんど期待できない」との回答は70～79歳（15.8%）、80歳以上（17.4%）で1割台半ばとなり、高年齢世帯で高い傾向にある。

家族構成別にみると、『期待できない（計）』との回答は夫婦のみ（63.8%）で6割強となり最も高くなった。次いで単身世帯（59.6%）で6割に近い。また、「ほとんど期待できない」との回答も、単身世帯（14.6%）と夫婦のみ（14.4%）では他の家族構成よりも高くなっている。

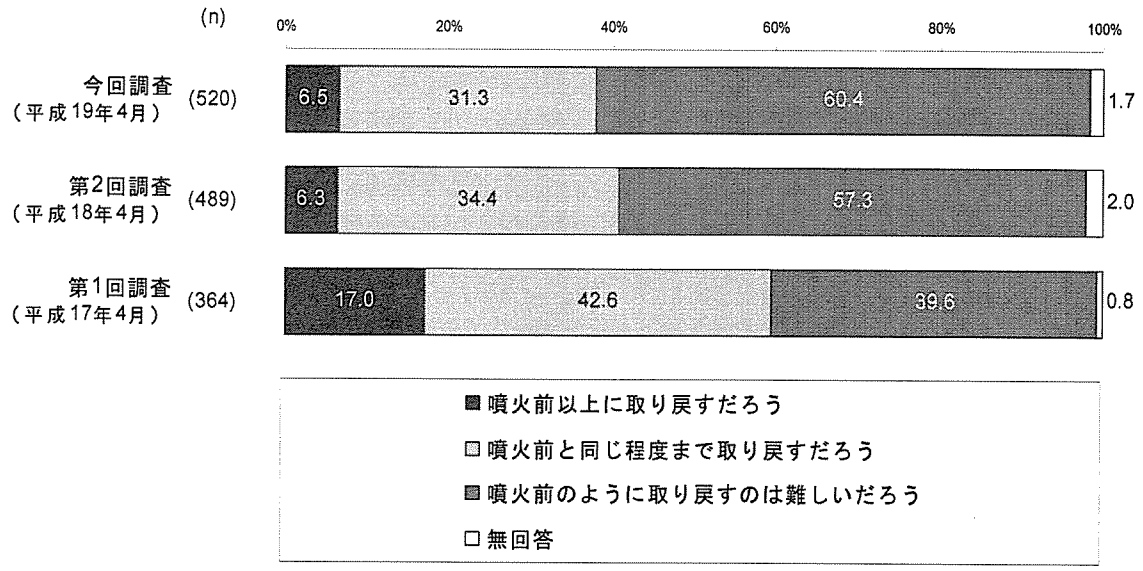
[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]



(7) 地域のまとまりの変化

「噴火前のように取り戻すのは難しい」が6割を超える

問17　あなたは、三宅島の地域のまとまりは、噴火前と比べて今後はどのようになると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



地域のまとまりが噴火前の状態と比較して今後どうなるかについては、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」（60.4%）との回答が最も高く6割強を占めた。「噴火前と同じ程度まで取り戻すだろう」（31.3%）は3割強、「噴火前以上に取り戻すだろう」はわずか6.5%であった。

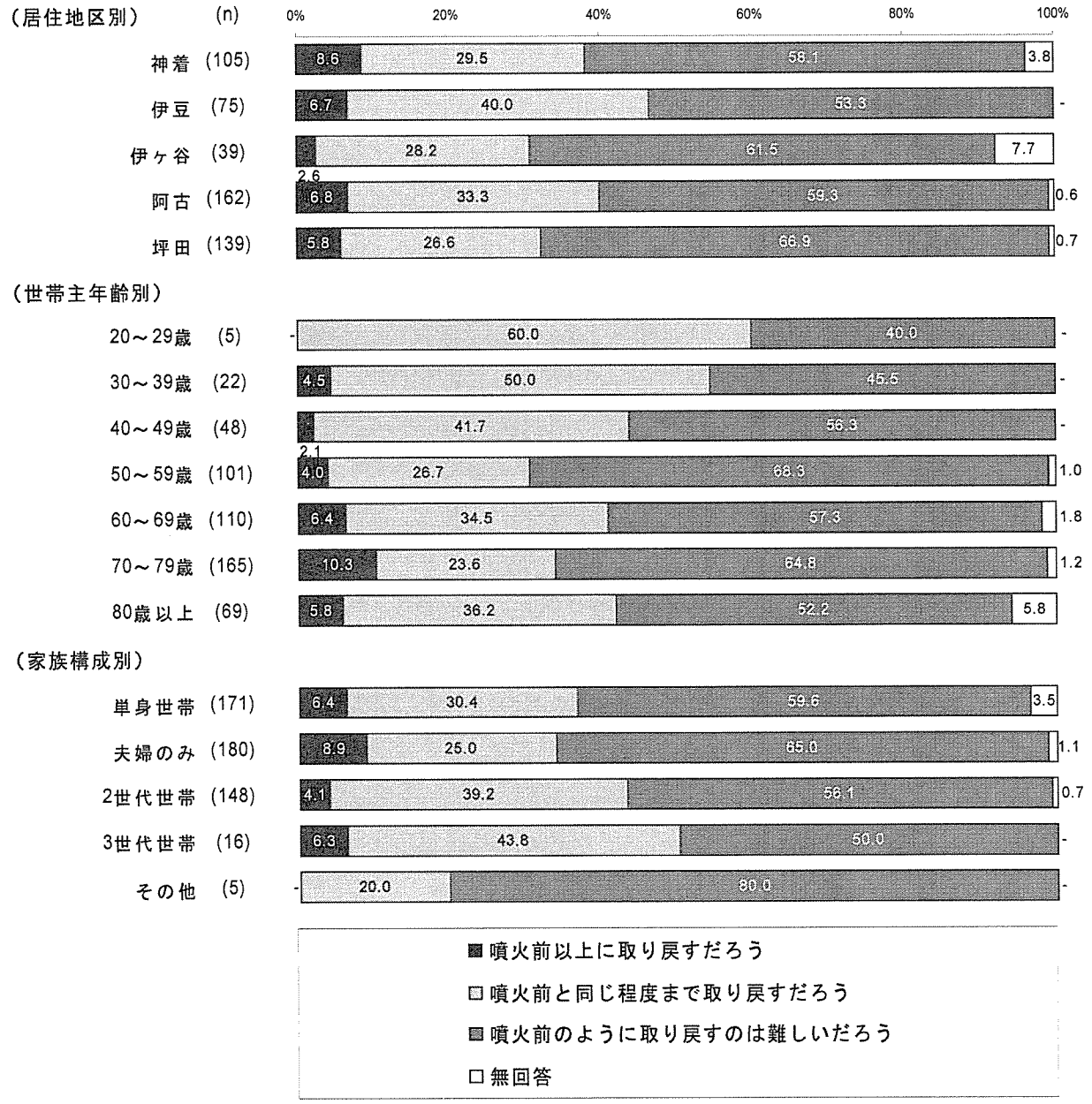
これまでの調査結果をみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では39.6%であったが、帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）で18ポイント増加し57.3%、そして今回さらに微増し6割を超えた。

居住地区別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は坪田地区（66.9%）で高く6割台半ばを占め、伊ヶ谷地区（61.5%）でも6割を超えて高くなった。

世帯主の年齢別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は50～59歳の世帯（68.3%）で高く7割弱を占め、70～79歳の世帯（64.8%）でも6割台半ばとなっており、高年齢世帯で高くなる傾向にある。

家族構成別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は夫婦のみ（65.0%）で最も高く6割台半ばを占め、次いで単身世帯（59.6%）で6割弱となった。

[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別）]

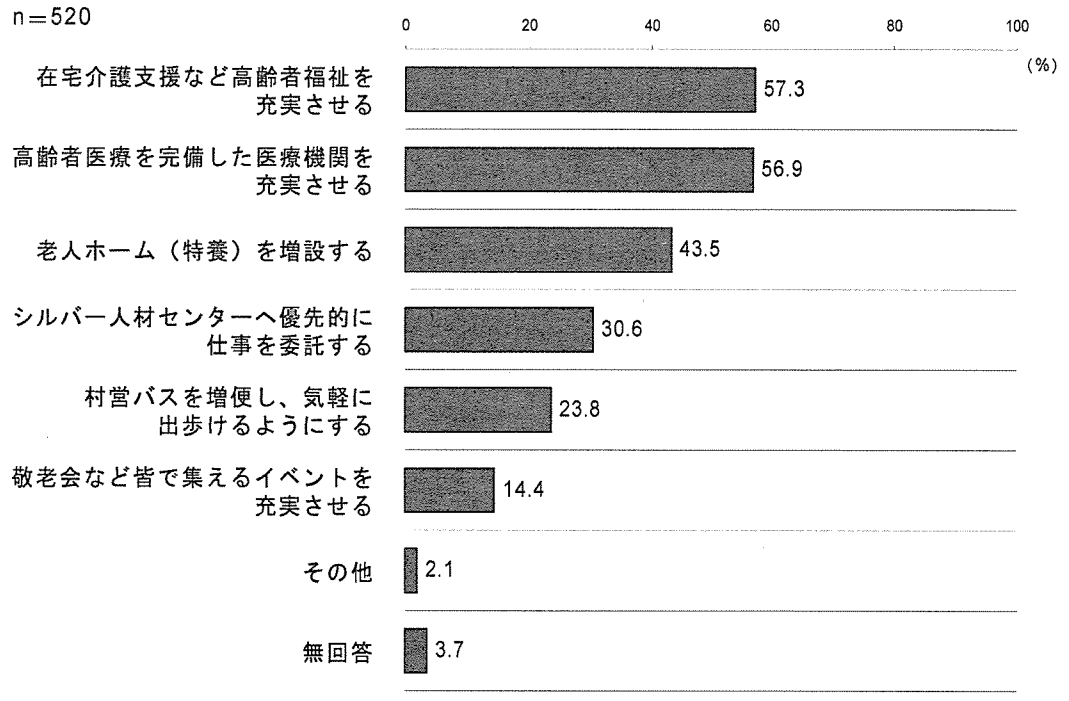


(8) 生活をよりよくするために必要なこと

① 高齢者が安心して楽しく暮らせるには

「在宅介護支援など高齢者福祉を充実」「高齢者医療を完備した医療機関を充実」が上位

問18 今後の三宅島での生活をよりよいものとしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。次の①から④について、あなたの考えに近いものをそれぞれ3つまでお選びください。



今後の生活をよりよいものとするために必要だと思うことを、「**①高齢者が安心して楽しく暮らせるには**」、「**②若者が戻ったり、新しく受け入れられるようにするためには**」、「**③子どもを安心して産み、教育できるようにするためには**」、「**④観光客が増えるようにするためには**」という4つの視点で尋ねた。

高齢者が安心して暮らせるために必要なこととしては、「在宅介護支援など高齢者福祉を充実させる」との回答が57.3%と最も高く、僅差で「高齢者医療を完備した医療機関を充実させる」との回答が56.9%と続いた。次いで「老人ホーム(特養)を増設する」(43.5%)、「シルバー人材センターに優先的に仕事を委託する」(30.6%)などが高くなった。

居住地区別にみると、神着地区で「在宅介護支援など高齢者福祉を充実させる」（63.8%）、「高齢者医療を完備した医療機関を充実させる」（63.8%）との回答がともに高く6割強を占めた。なお、神着地区では「老人ホーム（特養）を増設する」（57.1%）、伊豆地区では「村営バスを増便し、気軽に出歩けるようにする」（36.0%）、坪田地区では「シルバー人材センターへ優先的に仕事を委託する」（43.2%）などが他の地区に比べて高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「在宅介護支援など高齢者福祉を充実させる」との回答は50～59歳の世帯（70.3%）で高く7割を占め、次いで60～69歳の世帯（63.6%）で6割を超えた。「高齢者医療を完備した医療機関を充実させる」との回答は40～49歳（66.7%）、50～59歳（63.4%）で高くなっている。

［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）］

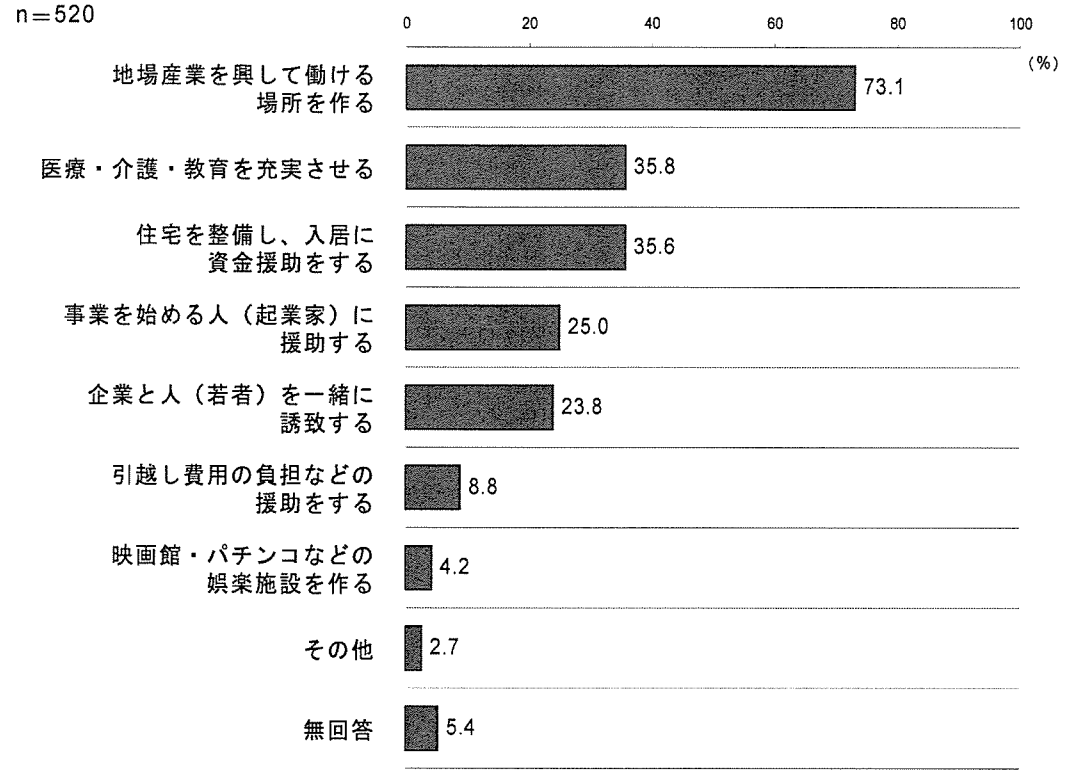
		調査数	シルバー人材センターへ優先的に仕事を委託する	老人ホーム（特養）を増設する	在宅介護支援など高齢者福祉を充実させる	高齢者医療を完備した医療機関を充実させる	敬老会など皆で集えるイベントを充実させる	村営バスを増便し、気軽に出歩けるようにする	その他	無回答
	全体	520	30.6	43.5	57.3	56.9	14.4	23.8	2.1	3.7
居住地区別	神着	105	22.9	57.1	63.8	63.8	8.6	21.0	2.9	5.7
	伊豆	75	32.0	40.0	56.0	53.3	13.3	36.0	-	1.3
	伊ヶ谷	39	12.8	38.5	56.4	53.8	17.9	28.2	-	7.7
	阿古	162	28.4	37.0	58.0	58.0	14.2	19.1	1.9	3.1
	坪田	139	43.2	43.9	52.5	53.2	18.7	23.7	3.6	2.9
世帯主年齢別	20～29歳	5	20.0	40.0	60.0	100.0	-	80.0	-	-
	30～39歳	22	31.8	27.3	54.5	45.5	27.3	31.8	9.1	-
	40～49歳	48	27.1	35.4	52.1	66.7	18.8	22.9	4.2	4.2
	50～59歳	101	32.7	50.5	70.3	63.4	10.9	22.8	2.0	1.0
	60～69歳	110	41.8	39.1	63.6	56.4	10.9	20.0	1.8	3.6
	70～79歳	165	28.5	45.5	52.1	54.5	17.0	23.0	1.2	4.8
	80歳以上	69	17.4	46.4	44.9	47.8	13.0	27.5	1.4	5.8

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　網掛け）

② 若者が戻ったり、新しく受け入れられるようにするためには

「地場産業を興し働ける場所を作る」が７割強

問18　今後の三宅島での生活をよりよいものとしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。次の①から④について、あなたの考えに近いものをそれぞれ3つまでお選びください。



若者が帰島してきたり、新しく受け入れられるようにするためには必要なこととしては、「地場産業を興して働ける場所を作る」(73.1%) との回答が7割強を占めた。次いで「医療・介護・教育を充実させる」(35.8%)、「住宅を整備し、入居に資金援助をする」(35.6%) などの順であった。

居住地区別にみると、「地場産業を興して働ける場所を作る」との回答は伊ヶ谷地区以外の地区では7割以上を占めたが、伊ヶ谷地区（53.8%）だけ過半数にとどまった。伊ヶ谷地区で他の地区よりも高かったのは、「企業と人（若者）を一緒に誘致する」(35.9%) で全体よりも12ポイント高かった。

世帯主の年齢別にみると、「地場産業を興して働ける場所を作る」との回答は60～69歳の世帯（80.0%）で最も高く8割を占め、次いで50～59歳（76.2%）、70～79歳（72.1%）、80歳以上（71.0%）でも7割以上となり、高年齢層で高くなった。

［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）］

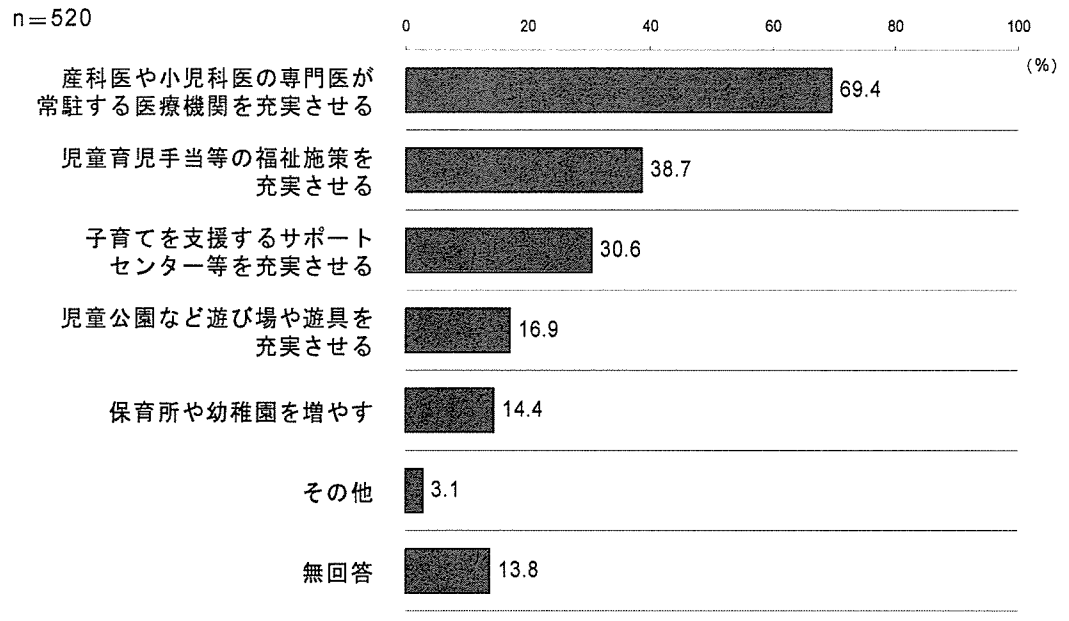
		調査数	地場産業を興して働ける場所を作る	医療・介護・教育を充実させる	住宅を整備し、入居に資金援助をする	事業を始める人（起業家）に援助する	引越し費用の負担などの援助をする	企業と人（若者）を一緒に誘致する	映画館・パチンコなどの娯楽施設を作る	その他	無回答
	全体	520	73.1	35.8	35.6	25.0	8.8	23.8	4.2	2.7	5.4
居住地区別	神着	105	72.4	37.1	37.1	27.6	11.4	20.0	3.8	1.0	9.5
	伊豆	75	73.3	34.7	34.7	26.7	10.7	26.7	5.3	4.0	5.3
	伊ヶ谷	39	53.8	25.6	23.1	23.1	7.7	35.9	5.1	-	15.4
	阿古	162	75.9	34.6	35.2	17.9	5.6	24.7	4.9	4.3	3.1
	坪田	139	75.5	39.6	38.8	30.9	10.1	20.9	2.9	2.2	2.2
世帯主年齢別	20～29歳	5	80.0	40.0	20.0	20.0	80.0	-	20.0	-	-
	30～39歳	22	50.0	45.5	36.4	36.4	9.1	45.5	18.2	9.1	-
	40～49歳	48	66.7	43.8	54.2	27.1	8.3	20.8	8.3	2.1	2.1
	50～59歳	101	76.2	43.6	42.6	30.7	9.9	37.6	4.0	4.0	1.0
	60～69歳	110	80.0	39.1	32.7	31.8	9.1	25.5	4.5	0.9	-
	70～79歳	165	72.1	31.5	29.1	20.0	7.3	18.2	0.6	2.4	9.7
	80歳以上	69	71.0	20.3	33.3	13.0	5.8	11.6	4.3	2.9	14.5

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに 網掛け）

③ 子どもを安心して産み、教育できるようにするためには

「専門医が常駐する医療機関を充実」が７割弱

問18　今後の三宅島での生活をよりよいものとしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。次の①から④について、あなたの考えに近いものをそれぞれ3つまでお選びください。



子どもを安心して産み、教育できるようにするために必要なこととしては、「産科医や小児科医の専門医が常駐する医療機関を充実させる」（69.4%）との回答が最も高く7割弱を占めた。次いで「児童育児手当等の福祉施策を充実させる」（38.7%）、「子育てを支援するサポートセンター等を充実させる」（30.6%）などの順であった。

居住地区別にみると、「産科医や小児科医の専門医が常駐する医療機関を充実させる」との回答は阿古地区（77.2%）で最も高く8割弱を占め、次いで坪田地区（71.2%）で7割強となった。一方、伊ヶ谷地区（48.7%）では他の地区と比べ低く5割に満たなかった。

世帯主の年齢別にみると、「産科医や小児科医の専門医が常駐する医療機関を充実させる」との回答は40～49歳の世帯（89.6%）で最も高く9割弱を占め、50～59歳の世帯（82.2%）でも8割を超えた。また、30～39歳の世帯では「児童育児手当等の福祉施策を充実させる」との回答が54.5%となっており、全体よりも38ポイントも高くなった。

[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）]

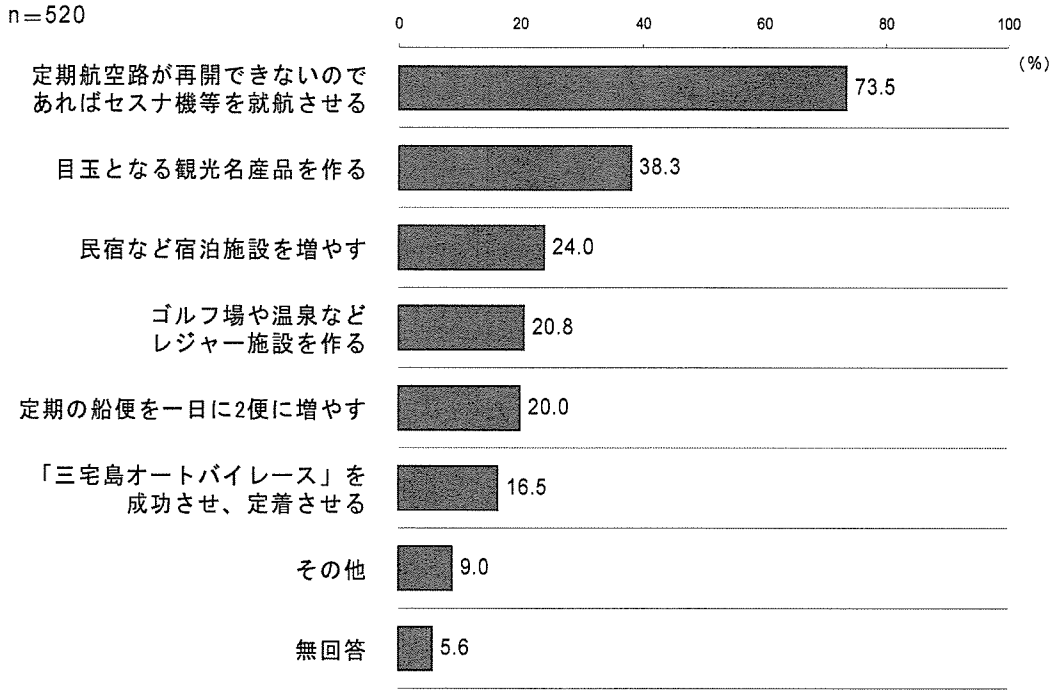
		調査数	産科医や小児科医の専門医が常駐する医療機関を充実させる	保育所や幼稚園を増やす	児童公園など遊び場や遊具を充実させる	児童育児手当等の福祉施策を充実させる	子育てを支援するサポートセンター等を充実させる	その他	無回答
	全体	520	69.4	14.4	16.9	38.7	30.6	3.1	13.8
居住地区別	神着	105	66.7	12.4	15.2	42.9	36.2	2.9	20.0
	伊豆	75	64.0	12.0	18.7	40.0	37.3	4.0	17.3
	伊ヶ谷	39	48.7	7.7	15.4	41.0	25.6	5.1	23.1
	阿古	162	77.2	19.1	13.0	35.2	25.9	2.5	8.6
	坪田	139	71.2	13.7	22.3	38.1	29.5	2.9	10.8
世帯主年齢別	20～29歳	5	100.0	60.0	60.0	80.0	-	-	-
	30～39歳	22	72.7	18.2	54.5	36.4	22.7	4.5	4.5
	40～49歳	48	89.6	20.8	20.8	37.5	35.4	-	-
	50～59歳	101	82.2	13.9	20.8	53.5	43.6	2.0	5.9
	60～69歳	110	74.5	12.7	10.0	43.6	37.3	2.7	9.1
	70～79歳	165	60.6	9.1	15.8	32.1	24.8	3.0	20.6
	80歳以上	69	46.4	21.7	7.2	23.2	15.9	7.2	30.4

（全体と比べて 10 ポイント以上高いものに　網掛け）

④ 観光客が増えるようにするためには

「定期航空路でなければセスナ機等を就航」が７割強

問18　今後の三宅島での生活をよりよいものとしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。次の①から④について、あなたの考えに近いものをそれぞれ3つまでお選びください。



観光客が増えるようにする為に必要なこととしては、「定期航空路が再開できないのであればセスナ機等を就航させる」（73.5%）との回答が7割強を占めた。次いで「目玉となる観光名産品を作る」（38.3%）、「民宿など宿泊施設を増やす」（24.0%）などの順であった。なお、「その他」（9.0%）との回答が1割弱あり、具体的な内容としては「民宿の質・サービスの向上・拡充」、「高速船の就航」、「海や火山を活かした観光施設」などの回答があった。

居住地区別にみると、「定期航空路が再開できないのであればセスナ機等を就航させる」との回答は神着地区（80.0%）で最も高く8割を占め、次いで坪田地区（77.0%）で8割弱であった。

世帯主の年齢別にみると、「定期航空路が再開できないのであればセスナ帰島を就航させる」との回答は60～69歳（80.9%）で最も高く8割強を占め、次いで50～59歳（79.2%）、40～49歳（79.2%）で8割弱となっている。

[属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）]

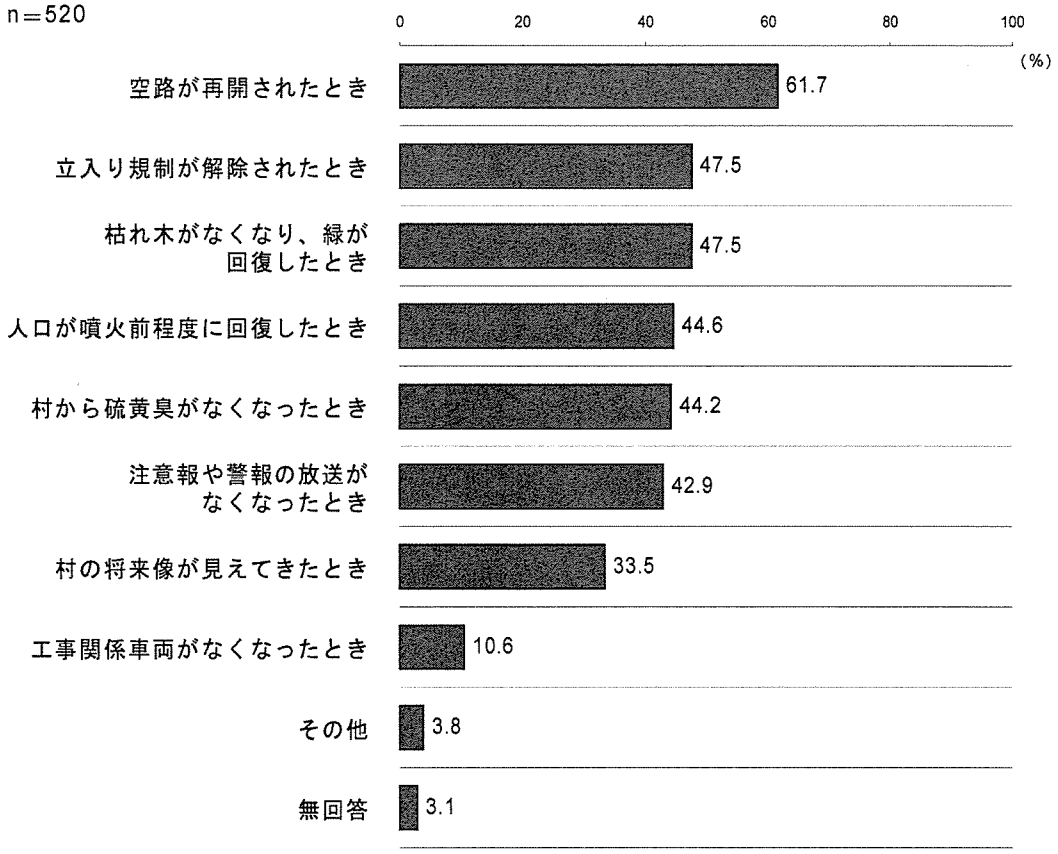
		調査数	定期の船便を一日に2便に増やす	定期航空路が再開できないのであればセスナ機等を就航させる	民宿など宿泊施設を増やす	目玉となる観光名産品を作る	ゴルフ場や温泉などレジャー施設を作る	「三宅島オートバイレース」を成功させ、定着させる	その他	無回答
	全体	520	20.0	73.5	24.0	38.3	20.8	16.5	9.0	5.6
居住地区別	神着	105	21.9	80.0	28.6	39.0	14.3	12.4	7.6	7.6
	伊豆	75	17.3	73.3	22.7	45.3	20.0	26.7	9.3	8.0
	伊ヶ谷	39	15.4	53.8	28.2	25.6	17.9	5.1	7.7	20.5
	阿古	162	19.1	71.0	19.8	37.0	19.1	22.8	8.6	2.5
	坪田	139	22.3	77.0	25.2	38.8	28.8	10.1	10.8	2.2
世帯主年齢別	20～29歳	5	-	80.0	20.0	80.0	60.0	20.0	-	-
	30～39歳	22	9.1	68.2	18.2	36.4	45.5	27.3	22.7	-
	40～49歳	48	33.3	79.2	4.2	47.9	33.3	12.5	10.4	4.2
	50～59歳	101	21.8	79.2	27.7	40.6	22.8	21.8	9.9	2.0
	60～69歳	110	22.7	80.9	28.2	34.5	19.1	14.5	10.0	3.6
	70～79歳	165	14.5	66.7	25.5	38.8	17.6	13.3	7.3	6.1
	80歳以上	69	21.7	66.7	24.6	30.4	8.7	18.8	5.8	15.9

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　網掛け）

(9) 復興したと感じる状態

「空路が再開されたとき」が6割強

問19　あなたは、村がどのような状態になったら復興したと感じると思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



三宅村がどのような状態になったら復興したと感じるか尋ねたところ、「空路が再開されたとき」(61.7%)との回答が6割強を占めた。次いで「立入り規制が解除されたとき」、「枯れ木がなくなり、緑が回復したとき」(ともに47.5%)との回答が5割弱、「人口が噴火前程度に回復したとき」(44.6%)、「村から硫黄臭がなくなったとき」(44.2%)、「注意報や警報の放送がなくなったとき」(42.9%)との回答も4割を超えた。「村の将来像が見えてきたとき」(33.5%)は3割強であった。

居住地区別にみると、「空路が再開されたとき」との回答はいずれの地区でも最も高いが、地区の中では空港のある坪田地区（67.6%）で高く7割弱を占めた。「枯れ木がなくなり、緑が回復したとき」との回答は坪田地区（55.4%）、阿古地区（53.7%）で高くなった。これに対し、伊ヶ谷地区では25.6%にとどまっている。なお、伊ヶ谷地区では「人口が噴火前程度に回復したとき」（51.3%）との回答が過半数を占め、他の地区に比べて高くなった。

世帯主の年齢別にみると、「空路が再開されたとき」との回答は年齢層を問わず高いが、60～69歳の世帯（70.0%）で最も高く7割を占め、80歳以上の世帯の53.6%と比べ16ポイントも高い。また、「人口が噴火前程度に回復したとき」との回答は60歳以の年齢層では5割弱を占めており、年齢が上がるにつれて高まる傾向がある。

［属性別集計結果（居住地区別／世帯主年齢別）］

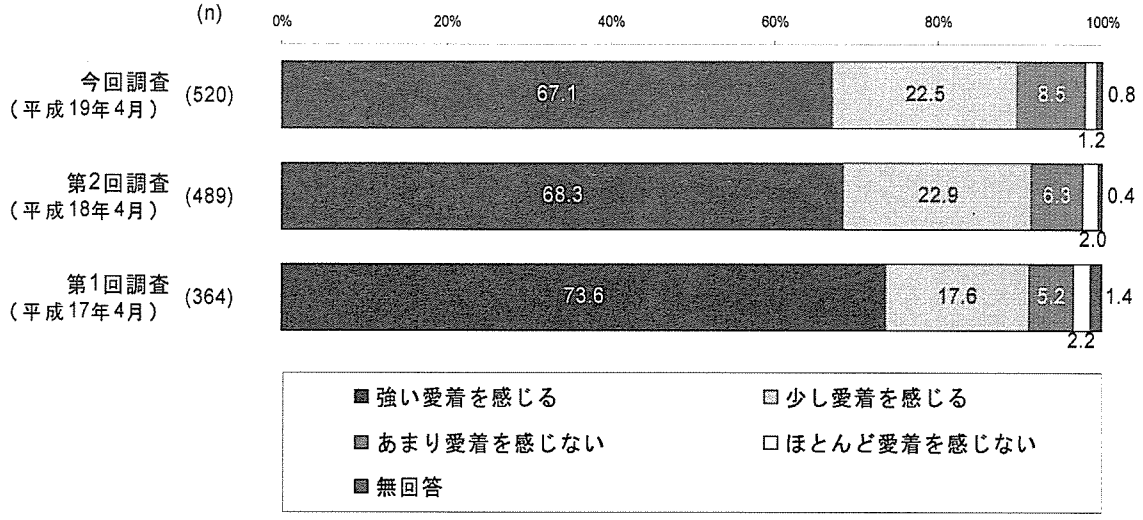
		調査数	人口が噴火前程度に回復したとき	空路が再開されたとき	立入り規制が解除されたとき	村から硫黄臭がなくなったとき	枯れ木がなくなり、緑が回復したとき	工事関係車両がなくなったとき	注意報や警報の放送がなくなったとき	村の将来像が見えてきたとき	その他	無回答
	全体	520	44.6	61.7	47.5	44.2	47.5	10.6	42.9	33.5	3.8	3.1
居住地区別	神着	105	49.5	62.9	45.7	45.7	39.0	12.4	45.7	36.2	4.8	1.9
	伊豆	75	49.3	60.0	48.0	49.3	42.7	13.3	46.7	40.0	2.7	4.0
	伊ヶ谷	39	51.3	64.1	41.0	43.6	25.6	7.7	35.9	33.3	-	-
	阿古	162	35.8	56.2	50.0	41.4	53.7	6.2	41.4	28.4	3.7	4.3
	坪田	139	46.8	67.6	47.5	43.9	55.4	13.7	42.4	33.8	5.0	2.9
世帯主年齢別	20～29歳	5	40.0	60.0	60.0	60.0	60.0	20.0	80.0	20.0	-	-
	30～39歳	22	18.2	63.6	54.5	40.9	36.4	4.5	45.5	22.7	4.5	4.5
	40～49歳	48	31.3	56.3	45.8	41.7	54.2	10.4	45.8	35.4	-	6.3
	50～59歳	101	40.6	66.3	51.5	51.5	50.5	9.9	44.6	34.7	2.0	1.0
	60～69歳	110	49.1	70.0	51.8	38.2	50.0	12.7	39.1	41.8	3.6	0.9
	70～79歳	165	49.7	58.2	43.6	44.8	46.7	12.1	42.4	34.5	5.5	4.2
	80歳以上	69	49.3	53.6	42.0	43.5	39.1	5.8	42.0	18.8	5.8	4.3

（全体と比べて10ポイント以上高いものに　網掛け）

(10) 三宅島への愛着

「強い愛着を感じる」が７割弱、しかし減少傾向に

問 20　あなたは三宅島に対して、どの程度愛着を感じていますか。あてはまるものを１つお選びください。

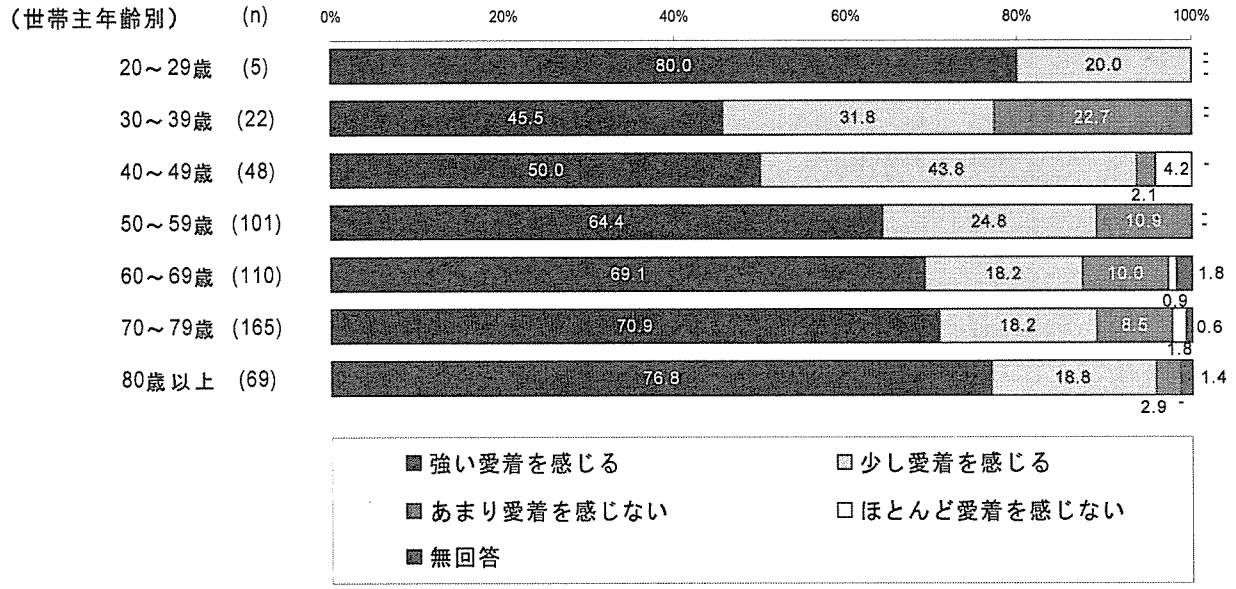


三宅島への愛着については、「強い愛着を感じる」（67.1%）との回答が最も高く7割弱を占めた。「少し愛着を感じる」（22.5%）を合わせた『愛着を感じる（計）』（89.6%）は9割弱となる。

これまでの調査結果をみると、『愛着を感じる（計）』との回答が年々減少している。「強い愛着を感じる」との回答は、帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では73.6%であり、「少し愛着を感じる」（17.6%）を合わせると9割を超えていた。帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）になると、「強い愛着を感じる」との回答が68.3%と5ポイント減少し、その分「少し愛着を感じる」（22.9%）が増加したと考えられる。『愛着を感じる（計）』との回答は第1回調査と同じ91.2%である。そして今回は「強い愛着を感じる」「少し愛着を感じる」ともにやや減少している。

世帯主の年齢別にみると、「強い愛着を感じる」との回答は30～39歳の世帯（45.5%）では4割台半ばであるが、40～49歳で50.0%、50～59歳で64.4%、60～69歳で69.1%、70～79歳で70.9%、80歳以上では76.8%と年齢が高くなるにつれて高まる傾向にあり、30～39歳と80歳以上では31ポイントの開きとなる。

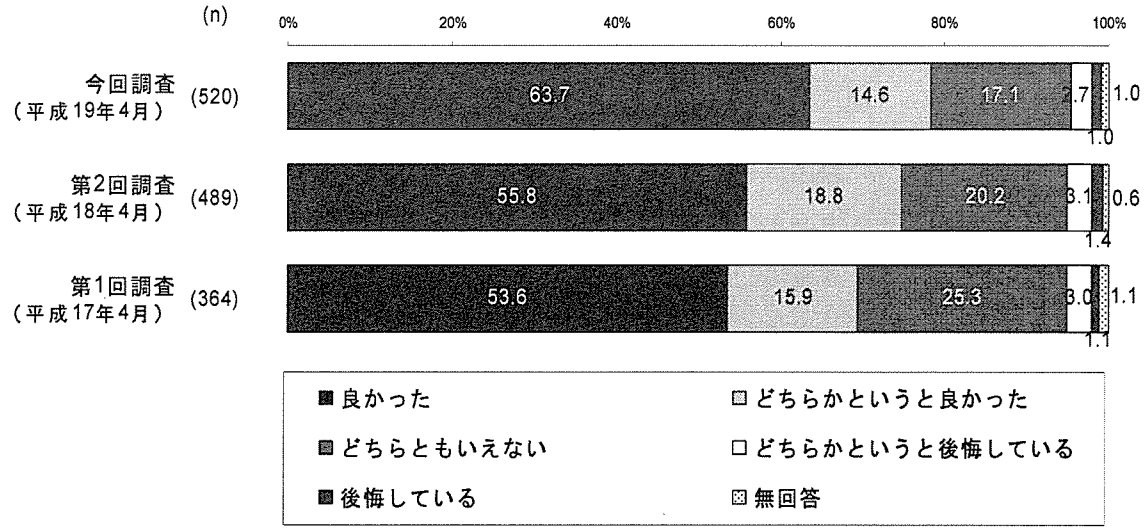
［属性別集計結果（世帯主年齢別）］



(11) 帰島してみての思い

「良かった」が6割強

問21　全体として、あなたは帰島されたことをどう思っていますか。あてはまるものを１つお選びください。

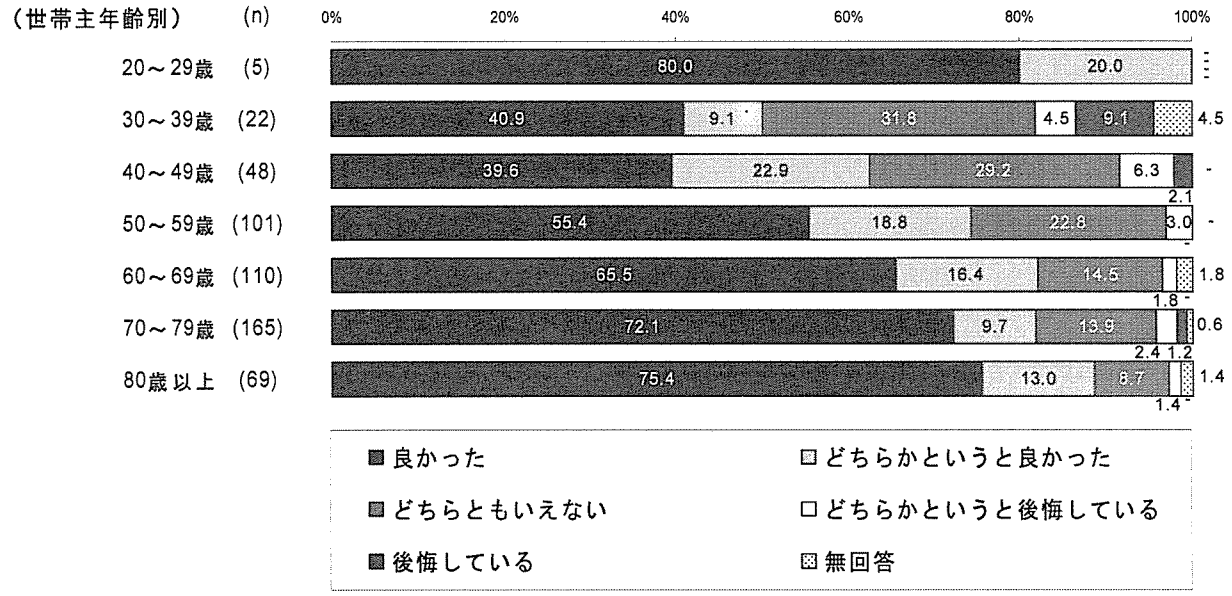


全体として、帰島したことを良かったと思っているかを尋ねたところ、「良かった」（63.7%）との回答が最も高く6割強を占めた。「どちらかというと良かった」（14.6%）を合わせた『良かった（計）』（78.3%）は8割弱となる。

これまでの調査結果をみると、『良かった（計）』との回答は年々増加している。帰島直後の第1回調査（平成17年4月）では、「良かった」との回答が53.6%で、「どちらかというと良かった」（15.9%）を合わせても、『良かった（計）』との回答は7割に満たない。帰島2年目の第2回調査（平成18年4月）では、「良かった」（55.8%）、「どちらかというと良かった」（18.8%）ともに微増し、『良かった（計）』は7割台半ばとなった。今回は、「良かった」との回答が63.7%で、第2回調査から8ポイント、第1回調査からは10ポイントの増加となっている。

世帯主の年齢別にみると、「良かった」との回答は年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。30～39歳の世帯（40.9%）では4割であるが、40～49歳で39.6%、50～59歳で55.4%、60～69歳で65.5%、70～79歳で72.1%、80歳以上では75.4%となっている。最も低い40～49歳と80歳以上の年齢層とは36ポイントの開きとなる。

［属性別集計結果（世帯主年齢別）］



(12) 復興についての意見や要望

問 22　今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

神着地区

- 理想を高く持っても、実行しなければ意味ない。今の考え方を変えなくてはダメ。今の考え方では経済的基盤がないので難しい。(神着／男性／40～49 歳)
- 空路、船便の設備の充実がカギ。(神着／男性／40～49 歳)
- 農林水産等、商工産業の復興の為に島民、行政が一丸となり取り組む。(神着／男性／40～49 歳)
- 飛行機（空路）を早く何とかして欲しい。船では本土から遠すぎる。不便だ。緊急の場合はどうするのか? ヘリは高すぎて使えない。観光客だっていつ止まるか分からない船では沢山来てもらうのは難しいだろう。（まぁ観光と言っても見せるものが何もないというのもあるが）とにかく飛行機を飛ばして欲しい。(神着／男性／50～59 歳)
- 製造加工業を振興すべき。そこで作られたものを島外出荷する。若年層の雇用に繋がる。観光以外の新規事業を。水産加工関係はまだまだやる余地がある。(神着／男性／50～59 歳)
- 早く空路が開かれ、東京都の行き来ができる様になるといい。老人対策をもっといろいろ考えて欲しい。(神着／男性／50～59 歳)
- 老人ホームを病院の近くに。火山ガスに耐える農作物を作る。新しい事業が必要。砂防ダムを増やして欲しい。(神着／男性／50～59 歳)
- 高齢化社会により福祉の充実。(神着／男性／50～59 歳)
- 村に特に言うことはない。自分でするしかない。(神着／男性／50～59 歳)
- 復興の 3 原則は、「1. 安全、2. 安心、3. 仕事」です。安全と安心は自己責任で帰島しているが、仕事についてはかなり条件が悪くても我慢しなければ見つからないのが現状のようだ（ガソリンが高いのに交通費は出ない。または夜 10 時過ぎても深夜手当はなし)。(神着／男性／60～69 歳)
- 行政の支援を受けつつも島民が足並みを揃え一丸となって復興及び将来の島作りを目指す。バラバラでは駄目。(神着／男性／60～69 歳)
- 人口が増えれば活気が出る。何か具体策があれば積極的に行うべき。(神着／男性／60～69 歳)
- 飛行場の再開を望む。(神着／男性／60～69 歳)
- まず住めない地域の人を自己責任という形で帰島させているので、住めない地域にも（現在の高濃度地区）クリーンルームを作り、自宅へ帰れるようにする。(神着／男性／60～69 歳)
- （高濃度地区の元住民なので）早く家に帰りたい。風向きで島全体にガスが回るのに何故坪田と阿古だけ指定解除されないのか。住宅に空きがなく、帰ってこれない人もいると聞く。ならば早く指定解除をして、家に帰れる人は帰って、空いた村営住宅にその人達を入れれば良い。（役場の都合で）私たちは帰られないだけなのに、帰られない家に対する税金は取ろうとする。道理に合わない。税金を取るなら家に帰してくれ。補助金のために指定解除しないのではないか？役場の都合のために住民を犠牲にするな。(神着／男性／70～79 歳)
- 人口を増やす事を考えて欲しい。(神着／男性／70～79 歳)
- 役所に頑張って欲しい。(神着／男性／70～79 歳)
- 若者を受入れる仕事を作って欲しい。若者がどうしたら帰ってくるのか考えて欲しい。(神着／男性／70～79 歳)
- ガスがこないこと。高濃度地区がなくなることを望む。(神着／男性／70～79 歳)
- 人数が増えることが第一。集まる人がいない。(神着／男性／70～79 歳)
- 高濃度地区への帰還を望む。(神着／男性／70～79 歳)
- 早くもとの人口に戻ることを祈っています。(神着／男性／70～79 歳)
- 凪の時でも早く船が帰ることがある。航空路再することを望む。村も力をいれているが、漁業と農業を強化することを望む。(神着／男性／70～79 歳)
- 若い人に帰ってきて欲しい。でも働く所がない。あるのは土建ばかりだが、それもいずれは少なくなる。(神着／男性／80 歳以上)

- 乗り物を良くして欲しい（バス等）。体がよくなればいい。（神着／男性／80 歳以上）
- 携帯の電波を入れて欲しい（ドコモの FOMA）。老人が安心して生活できるために行政も働いて欲しいです。（神着／女性／20～29 歳）
- 子供の教育、医療、子育てに関して保育園、幼稚園、遊び場の充実が若い人を集めるのには必要だと思います。（神着／女性／30～39 歳）
- 島にあまり魅力が感じられない。（神着／女性／30～39 歳）
- 今現在生活している人達の、必要な人に充分な補助を願いたい。繁忙期の船便の増加、空路。（神着／女性／40～49 歳）
- 私達の世代は帰島しましたが、子供達の帰島については強い希望はありません。今後、噴火ガスについて子孫に心配があります（健康面）。自然とケンカしても仕方ないです。島外で生活基盤を築いて欲しいと思います。（神着／女性／40～49 歳）
- 砂防ダムはもういらない。お金のかけすぎ。（神着／女性／50～59 歳）
- 勤労福祉会館にあったような娯楽施設を使って欲しい。観光客、一般人を含め、雨が降ったら何もする場所がない。物価が高い。（水が悪いから）水を買う羽目になる。毎日必要なものだからかなり負担になる。交通の便を良くしてもらいたい。（神着／女性／50～59 歳）
- 観光するにも目玉となるものがない。公共の遊べる（レジャー）施設を作らないと（特に雨の時など）室内でする事が何もない。以前あったボーリング場など作るべき。（神着／女性／50～59 歳）
- 働き口がない（帰ってくる人の）。空路の再開を望む。（神着／女性／50～59 歳）
- 若い人が帰ってきて働ける場所が欲しい。行政はやる事に対して納得できる説明をして、やって欲しい。（神着／女性／50～59 歳）
- 何をやるにも三宅村や農協、漁協に人や金がないので、アイディアや工夫でやれることもあるので、村がリードして考えて欲しい。（神着／女性／60～69 歳）
- 何でもそうだが、作っただけではダメ。活用しなければ意味がない。例えば野外施設などあるのに使われていないものが多い。（復興について）人口を増やす。その為には若い人を呼ばなくてはいけない。→仕事を増やす。育児施策の充実。学校、保育園を増やすなど。高齢者でも（豊かにとは言わないでも）何とか暮らせるだけの支援を。高齢者でも働きたいと思っている人にはもっと仕事を与えて欲しい。地域のつながりが弱くなったというが、本当にそうなのか？（噴火によって）経済的に苦しくなり、忙しく働きまわっているので、昔のような隣の家に菓子を持って行って云々というわけにはいかなくなっただけ。だから今でも地域のつながりは弱いとは思わない。（神着／女性／60～69 歳）
- （高濃度地区の元住民のため）家があるのに住めない。他の地域とそんなにガスレベルは変わらないのに、何故指定が外れないのか。住めるはずの家に役場の決めたことのために住めず、その上（今の家の）家賃も払わなくてはならない。東京に避難していたころは免除だった。おかしくはないか？負担が重く、辛い。これから先の見通しが分からず、不安。この生活がいつまで続くのか。もう少し道筋をつけてもらいたい。（神着／女性／60～69 歳）
- 泥流対策の為、ダムや橋ができていいとは思うのですが、海の中に流れ込む水の水質が変わり魚貝類等にかなりの悪い変化をもたらしているように思う。もうダム等造られることはないのかもしれないが、山からの恵美が壊れないように海に流れるようにして頂けると嬉しい。土建屋さんの考えだけではなく、海に詳しい人も交えていいものを造って欲しいです。（神着／女性／60～69 歳）
- 警報が鳴った時にクリーンハウスが閉まっている時があった。村の姿勢を正して欲しい。行政がもっと民主的になって欲しい。力のある人が身内を優先して採用している。適材適所になっていない。（神着／女性／60～69 歳）
- 雨が降ると泥流が出るが、コンクリートの砂防はあまり作りすぎないで欲しい。コンクリートばかりにしたくない。無駄な建設を行い、お金を無駄にして欲しくない。（神着／女性／60～69 歳）
- 人間関係を上手くやっていきたい。（神着／女性／60～69 歳）
- 住宅の補修、農業用ハウスの建設等、業者があまりにも多忙であった為か？誠意が見られず、二度三度繰り返し補修。行政側は「個人の責任」と無視された。高額の支払いに対し、半年も持たない破損状況にどうすれば解決するのでしょうか。これでは住民が復興について不満がつのり離島すること以外は安心、安住の地は求められないのでしょうか。発掘で再び得た温泉を活用して、高齢者、障害者用のウォーキング。歩行訓練用のプールの建設を強く要望します。そして高齢化が進む中で「自然に恵まれた三宅島の観光客誘致の一助にもなるのでは」と信じています。村が年間 1 億数千万の負担（支払っている）している高齢者の医療関係費が激減するのでは？島内で中央診療所で多くの杖を必要としている高齢者が水中ウォーキングで元気になればどんなにか明るく楽しい生活が蘇るのでは。私は避難する時は松葉杖でやっと移動でしたが、避難したところでプールで毎日午前 1 時間、午後 1 時間水中ウォーキング。おかげで現在は杖

を何処へ忘れても大丈夫とよく言われています。歩行訓練のお手伝いのボランティア（日赤のインストラクター）の資格もありますので、一人でも多くの人に観光客も交えての交流の場と健康に協力をしたいと願っています。村長に集会で発言、提案したのですが、今の所見通しもなく残念です。温泉を唯、入浴するだけでなく広く活用できるのに残念です。（神着／女性／70～79 歳）

- 池ケ谷港の整備。あんなに穏やかな海なのに何故整備しないのか？他の 2 つの港より、よほど使いやすい。船が入港できないなんてことが起こりにくくなる。（神着／女性／70～79 歳）
- 船を何とかして欲しい。もう少し安全性を。欠航しやすいので、東京に行く時に予定が立てられない。（神着／女性／70～79 歳）
- 若い女性が来てくれない。娯楽がない。（神着／女性／70～79 歳）
- 島全体からガスが出ているので変わらない。高濃度地区へ希望のある人は帰して欲しい。役場を元の位置に戻して欲しい。（神着／女性／70～79 歳）
- 船にバスが間に合わない時がある。何とかして欲しい。（神着／女性／70～79 歳）
- 若者が戻って来れるように施策を講じて欲しい。対策をとって欲しい。（神着／女性／80 歳以上）
- 村自体が大変な状況なので、今の程度で結構。（神着／女性／80 歳以上）
- 老い先短いので言う事はない。（神着／女性／80 歳以上）

伊豆地区

- 村もよくやっていると思う。周りはいろいろ言っているだろうが、子供、老人の医療を充実、福祉の充実が必要。(伊豆／男性／40～49 歳)
- 若い人に戻ってきて欲しい。飛行機の再開。働く居場所の確保。(伊豆／男性／50～59 歳)
- 若い人の人口が増えるような政策をして欲しい（働く場所など)。噴火の周期が短くなっていることが心配。(伊豆／男性／50～59 歳)
- 村民との連携がない。自分達だけでこそこそ何かをやっている。村のこれからの方針が見えてこない。半分以上の村民が村役場離れを考えている。(伊豆／男性／60～69 歳)
- 1. 島民が自然に感謝の言葉が言えるようになること。2. お互いに足を引っ張り合わないこと。3. 村議会が私利私欲を捨て、正常な判断力を持つこと。(伊豆／男性／60～69 歳)
- 高齢化の進んだ島になることは、今後益々深刻な問題が生じるものと思われるので、まず第一にこの問題をどのように解決するかを考えるべきである。次に島の経済に対する考え方、農林水産業について共に就労者がいない（高齢化の為)。環境としては大いに可能な面（遊休地が多量、好漁場がすぐ近く）を取り入れる（島外より)。募集する等（支援制度等）により就労者の育成、生産物の島外搬出のルート化（港湾、空路の確立）を早急に確立し、農水業で生活可能な状態にさせる。又、観光面においては冬場の釣り客等の安定（数は少ないが）した客を誘致できるような、三宅島の自然を生かした観光施策（施設、イベント、教室等）を実施。(伊豆／男性／60～69 歳)
- 元の家に早く帰して欲しい。少しぐらいのガスなら…。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 今でも充分やっている方だと思う。財政も厳しいだろうし。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 二重生活をしている人がまだいるから、そういう人がいなくなるような施策。避難前の仕事がなくなっているから働き場所が必要。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 60 歳以上が多いので高齢者の就労の確保をして欲しい。温泉開発の再開。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 復興の為の基盤は人。それを増やす対策が必要。そして働き場所を増やす。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 観光といっても食事処、宿泊施設など基礎ができていないことが問題。(伊豆／男性／70～79 歳)
- 行政、議会、島民が一体になること。(伊豆／男性／70～79 歳)
- ハコモノはもう作らなくても良い。体育館などもう作らなくても良い。いらない。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 人口が増えることが一番。永住への住宅、宅地への支援。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 行政は良くやっている。それを継続して欲しい。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 長続きする産業を必要としている。基幹産業が必要。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 緑の回復。下水道の整備。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 医療機関の充実が必要。子供の遊び場所の整備。(伊豆／女性／30～39 歳)
- 空港の再開。病院施設の充実。(伊豆／女性／30～39 歳)
- 飛行機を早朝に飛ばして欲しい。(伊豆／女性／40～49 歳)
- 子供が遊ぶ所をもっと増やして欲しい。噴火以前に比べると少なくなっている。(伊豆／女性／40～49 歳)
- 現状で何とも言えない。一生懸命やってくれているので。(伊豆／女性／60～69 歳)
- 若い者が帰ってこれるようにする施策が必要。子供が生める人が必要。(伊豆／女性／60～69 歳)
- 若い者が帰ってこられるようにする。(伊豆／女性／60～69 歳)
- 地場産業にもっと力を入れてもらいたい。いつまでも支援と言っていないで自力での復興を頭に入れて頂きたいと思う。観光はやはり交通の便が優先ではないかと思います。国の補助は受けられず、税金は取られる。少しでも（気持だけでも）支援があれば、気が済むのに。バランスを考えた支援を。(伊豆／女性／60～69 歳)
- 毎日が何とか基地をイメージする生活で、大雨警報等には屋根が瓦の為、ジャージになって床をとらず、朝までそのままで過ごす。振動でズレる TV もカチャカチャになる。砂、ホコリは入る。風向きによってはポタポタもれるではなく、まとまって漏れてくる。その為補強済み（70 万円）でもたしているが（施工 2 年目)。工事車がブロック群を越して往来しているが、それも日曜祭日なしで。住人人間は高感受性者（軽）になってしまったが（1 年間で。2 年目の検診結果が 3 年目の 3 月に届いた)。これで良いのか、何の為、家を守る為、老後の生活を静かな所に帰島を、と体力の衰退と共にいやでも考えさせられ、はかないマボロシを追ってきたのかな？という。復興畑（契約時の約束ごとで。5 年間は頑張らねばと力んだが）意地でやっているのか。戦闘基地での毎日の生活。いつになったら畑にいたほうが気休めになるという生活が

- なくなるのか（這いつくばる）日々の生活で犠牲者がいることを行政には強く訴えたく記した。（伊豆／女性／60～69 歳）
- 空路の再開。船の増便。（伊豆／女性／60～69 歳）
- 帰りたいけど、高濃度地区に家があるため帰らせてもらえない不満。それなのに村営住宅では家賃を取られるというのが分からない。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 何で歩道ばかり作るのか疑問。必要ない。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 人口を増やして欲しい。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 絶望だと思う。今のままでは悪くなる一方だと思う。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 三宅島は他の島より、いろんな面で噴火前から発展が切れているように思う。それゆえ、尚更空路が開港されなければ発展に繋がらないように感じる。観光面では温泉も大事な癒しの場と思う。新しい産業を誘致すべきだと考える。観光名産品もあまりないので、考える必要が欲しいです。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 要望は若い人達が帰ってきて下さり、島共々に若返ってもらわないと、行く先の少ないものは心配でならない（どうぞそうするには、と良いお力をかして下さい）宜しくお願い申し上げます。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 空路の再開。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 今まで通りに安心して住みたい。防災対策をしっかりして欲しい。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 下水道の整備が必要（→自然環境の汚染につながる）。農協のサービスの向上。防災対策の具体化（地域単位での具体的な逃げ方、自動車の乗り合いなど）。（伊豆／女性／70～79 歳）
- 後々の代にちょっとでも良くなるように色々考えてやって欲しい。（伊豆／女性／80 歳以上）
- 人が来ないとどうにもならない。住宅が足りてない。（伊豆／女性／80 歳以上）
- 5 年ほどの避難中に子供達がストレスを受けたのではないか。夫婦関係も難しいものがあり、子供達がかわいそう。温かい家族の再建が必要。（伊豆／女性／80 歳以上）
- 財政との問題なので、復興は大変。村長さんは大変。（伊豆／女性／80 歳以上）
- 交通機関の充実が必要。島へのアクセスの充実。（伊豆／女性／80 歳以上）

伊ケ谷地区

- 交通機関と医療をもっと改善して欲しい。診療所の技術が不十分（改善を）。飛行機の再開を。（伊ヶ谷／男性／40～49 歳）
- 危険なオートバイレースでケガ人が出たら誰が責任を取るのか。危険性は専門家が指摘している。即刻中止の良心英断を期待する。島の自然を島の人間（グループ）と島外の有識者グループの両方に予算をつけて調査させ、結果を公表→関係各位（友好部・団体）へ出かけ、有識者と島民による講演会などさせてもらい発表。島でうわさのあるイルカを飼うなど、時代に逆らう最悪なこと。（伊ヶ谷／男性／40～49 歳）
- 航空路を再開して欲しい。船が欠航しないように、3 つの港を使い分けて欲しい。島の産業が定着すれば若者が戻るのではないか（島外の若者も定着して欲しい）。（伊ヶ谷／男性／60～69 歳）
- 三宅村職員の皆さんに頑張って欲しい。（伊ヶ谷／男性／60～69 歳）
- 噴火の終息に帰着するが政治的に乏しくビジネスビジョンがない。2 案、3 案と 1 年、3、5 年と地産業と観光業、過去に執着することなく行政自身の復興が最優先です。（伊ヶ谷／男性／70～79 歳）
- 行政職員の人数を減らして、その給料を復興に回すべきだ（行政は何もしない、信用できない。そんな人々に金を払いたくない）。（伊ヶ谷／男性／80 歳以上）
- 伊ヶ谷港を使えるようにして、3 つの港で波の静かな港を選び、船の欠航がないようにして欲しい。飛行機の再開。（伊ヶ谷／女性／60～69 歳）
- もとの状態に戻れば、それだけでよい。（伊ヶ谷／女性／70～79 歳）
- 若者が戻って働くところができれば一番よい。（伊ヶ谷／女性／80 歳以上）
- このままでは皆帰ってこない。どうしてよいか分からない。（伊ヶ谷／女性／80 歳以上）

阿古地区

- 今現在、島の人達の危険性が薄れてきている。危険性を住民に認知させるべき。(阿古／男性／20～29 歳)
- 本屋がない。スーパーが少ない。嫁不足（役場が合コンを開く)。噴火前よりきれいになった、良くなった。道路もダムも良くなった、満足している。(阿古／男性／30～39 歳)
- 砂防ダムがいっぱいできた影響で海に全て砂が流れてしまい、海産物が取れなくなった。海が荒れ放題になっている。その事を村がどう考えているのか聞きたい。(阿古／男性／30～39 歳)
- 早く航空路の再開をする事が必要だと思う。(阿古／男性／40～49 歳)
- 若者を迎える為、地場産業の開発。外資とか自分達で稼げるようにする。組織作り、株式会社的な農業。育てる漁業。(阿古／男性／40～49 歳)
- オートバイレースが成功することを祈ります。(阿古／男性／50～59 歳)
- バスを大型ではなく、マイクロバスに変える。費用がかかるし、利用者も少ないようなので、マイクロバス等を使うようにしてもっと効率的にして欲しい。(阿古／男性／50～59 歳)
- 高濃度地区の規制を解除して欲しい。今後の島のビジョンを模索し、明らかにして欲しい。(阿古／男性／50～59 歳)
- 空路の確保（観光にも地場産業にも）→観光の為にも地場産業活性化の為にも空路の確保をして欲しい。(阿古／男性／50～59 歳)
- 農業をしていたのですが、今の火山ガスが止まらないと何を作るにもすぐかれてしまい困っているところです。全く困った状態です。復興は進んでいるのですが、職業によっては大変な人もいます。(阿古／男性／50～59 歳)
- 行政の立ち遅れを早く回復させ、住民が安心して暮らせるようにして欲しい。(阿古／男性／50～59 歳)
- 火山ガスとの共存で農作物がガスに弱いので将来的に厳しい。火山ガスが 1 日も早くなくなること。(阿古／男性／50～59 歳)
- 最近船の欠航が多いので、まず最低 1 回は必ず東京～三宅島間を通るようにして欲しい。カジノのような大きなものを作って、人工を増やすことが一番ではないか。ガスを早く止めることをして欲しい。老人ホームなどたくさん作って、人口を増やして欲しい。(阿古／男性／50～59 歳)
- 早くガスが止まり、緑が戻ってくる島にしたい。昔のように皆で楽しく住みたい。(阿古／男性／60～69 歳)
- 道路整備されすぎていて、夜間速度を出しすぎる人がいる。道路工事等ではなく、住民が「よりよくしていこう」という気持ちにしていく、心の工事が必要。今の島民は行政に対して甘えすぎていると思う。いつまでも甘えているのではなく、自立していくことが必要。村の方向性を明確にして、住民に認知させて欲しい。(阿古／男性／60～69 歳)
- ガスが止まることを祈ります。(阿古／男性／60～69 歳)
- 役所の住民がもっと一体になって協力する。飛行機、船をもっと回復。(阿古／男性／60～69 歳)
- 今までの考えを行政も民間も 180 度発想の転換が必要。オンリーワン「老人の島」つくり「世界一の長寿の島」「平均年齢 100 歳の島」つくり構想あり。テクノスーパーライナーを活用して、伊豆諸島船路は海上カジノ船化。この「PS2」購入に関しては機械化、島民は都民の「株」発行で参加。(阿古／男性／60～69 歳)
- 東京の病院に定期的に通っている人が多く、島の中に専門医が常時いてくれると助かります。(阿古／男性／60～69 歳)
- オートバイレースは危ない。(阿古／男性／60～69 歳)
- 小型バス（ちぃバスのようなもの）に変えて、便の回数を増やして欲しい。病院に行くまでバスが使えないのでタクシーを利用していて、一万円かかる。収入が少ないので厳しい。(阿古／男性／70～79 歳)
- 火山ガスの中でも暮らせる道を探さぬ限り、老齢過疎で島の将来は先細り。火山ガスがおさまった時に（50 年後とか 100 年後）復興する息の長い子孫教育が必要。例）青ヶ島は昔 50 年間噴火で無人の末、再建を果した。ガスに強い特産品（アシタバ）を健康食品として加工出荷。これで全島民食べていけないか。(阿古／男性／70～79 歳)
- 医療機関（診療所の再開希望)。(阿古／男性／70～79 歳)
- 若い人に戻ってきて欲しい。役場があまり親切でない。改善して欲しい。(阿古／男性／70～79 歳)
- 海、山、自然の環境の悪化によって、農業漁業関係はダメージを受けている。海山の環境改善をして欲しい。雇用の促進。高齢者向けの仕事が建設業にとられてしまったので、働けない。「あおむし」「はもぐり」

- が農作物を喰ってしまって困っている。駆除をお願いしたい。農業用道具レザーファームの改良したものを作って欲しい（ガスに耐久性のあるもの）。観光施設の建設（他の地域にはないようなものを）。（阿古／男性／70～79 歳）
- 先の見通しが分かりません。高齢ではあるけれど、避難が長く、帰島しても働く場所がなく、生活をしていくことで頭の中がいっぱいです。（阿古／男性／70～79 歳）
- 満足している。（阿古／男性／70～79 歳）
- 今までやってもらっているので、良かったとおもう。（阿古／男性／70～79 歳）
- 島は 40%近くが高齢者の福祉と観光の島として全国の模範になることを目指して欲しい。亜熱帯の常春の素晴らしい特色ある観光、福祉に力を入れて欲しい。また 1 千万人を超える東京都の人たちが老後や定年後の人生を島で癒せるような受入方法を考える必要がある。人口増加にも繋がる。例えば、分譲造成地や建売住宅が安価に手安く入手出来るようなことまで観光協会を通じて斡旋業者を紹介するなど。磯釣り客が圧倒的に多いし、団魂定年者を多く受入れる為の施策を強力に展開することなど。移住者には勿論自給自足に役立つ農地の借用紹介斡旋など。（阿古／男性／70～79 歳）
- オートバイレースをやる予算があるならば、そのような危険の住民の不安を伴う事業より、必要とされる数億円を未帰島者や住宅に困っている住民等に住宅を。税、国保、福祉等に回した方がよほどいい。（阿古／男性／70～79 歳）
- 若者が戻れる（戻ってもいいと思える）島にすべき。雇用機会の拡充を早急にして欲しい。（阿古／男性／80 歳以上）
- 国や都にヘリや飛行場は最優先課題。（阿古／男性／80 歳以上）
- 誰もが住みやすいまちづくりになって欲しい。三宅に島民が帰ってくる為には生活が安定できる様に仕事・産業を増やすようにして欲しい。緑が回復して欲しい。ガスがなくなって欲しい。（阿古／男性／80 歳以上）
- そういうことを考えない。年をとったので、若者に任せる。若い人たちの働く場所を作るべき。（阿古／男性／80 歳以上）
- 漁業、農業の建て直しをするべき。噴火以前は海水や土壌が良くて作物や魚がとれていた。しかし噴火後は全くとれなくなり、それにより民宿の多くが店をたたんでいる（自給自足で作物を作り、料理を客に提供していたが、今は店で高い値段で仕入れている為）。このままでは観光がダメになる。なので、漁協、農協が研究して、漁民、農民に教え、安心できるようにすればよい（神津島を参考に）。（阿古／男性／80 歳以上）
- 三宅島の火山噴火活動は現在も続いているので、三宅島の復興は火山ガスの噴出がなくならない限り完全復興はありえない。火山ガスと共存する住民生活、産業の復興には行政の今まで以上の手厚い援助が必要と考えられます。（阿古／男性／80 歳以上）
- 若い人達の雇用先の確保。子供を産めない環境にあるので、病院や保育園等を増やすべき。（阿古／女性／20～29 歳）
- 村は住民の意見をもっと聞き、その考えを吸い上げた上で復興に取り掛かって欲しい。現状は、行政が単独で動いているとしか思えない。又、村が所有管理している建物等の有効活利用、及び郷土資料館の設立＝今ある「島役所跡」は重要文化財にも指定されているにも関わらず、内部は非公開となっている。人が住んでいる為、いた仕方ないと思うが、話し合い、どうにかならないものかと常々思っている。（阿古／女性／40～49 歳）
- 大型バス廃止。小型化して欲しい。手を挙げても止まってくれるような小さなバス（ちぃバスみたいなバス）。（阿古／女性／40～49 歳）
- 自転車レース（5 月、6 月にやっていたのを再開）。高齢者が多いから後 10 年先、20 年先の事が心配。（阿古／女性／50～59 歳）
- 大型バスを小型バスに変えて、便を増やす。健康の為の高齢者も利用できるスポーツクラブを作る。高齢者の方も働けるような仕事を何か見つける。（阿古／女性／50～59 歳）
- 阿古薄木地区は高濃度地区で立入制限されていますが、この地区内の住宅を所有している世帯はガスに問題のない時には自宅で過ごすことが出来るよう“自己責任”で自分の生命も財産も守るということで、規制を考え直すような形にしてあげたらと思います（去年の火事で痛感しました）。（阿古／女性／50～59 歳）
- もう、道はいい。福祉関係の仕事を増やして、更に仕事に島民を使って欲しい。外部の人間を使いすぎ。（阿古／女性／50～59 歳）
- 生活保護を出して欲しい。車とかの基準で決めないで欲しい。自分も配偶者も病気で歩けなくて、仕事ができず、苦しい。（阿古／女性／60～69 歳）

- 復興の為に行政にお金を使わせすぎるのは申し訳ないので、もう工事は充分です。(阿古／女性／60～69歳)
- 雨が降ると山から水が押し寄せてくる。改善して欲しい。医療機関を増やして欲しい。今の状態じゃ不便でしょうがない。物価が高すぎる。地域の班が分からない。まとまり、区切りが分からない。本土に残っている人に帰島してきてもらいたい。雇用の充実、若い人も高齢者も。(阿古／女性／60～69歳)
- 植樹が必要（今もやっているけど)。(阿古／女性／60～69歳)
- 雄山の現実を島民に見せるようにした方がいい。噴火の跡や泥流を見せることにより、島民の危機感を思い出させて、考え方を変えさせた方がいい。そうすれば島民みんなが前向きに考えられるだろう。(阿古／女性／60～69歳)
- 自分が弱くなって初めて気付いたが、隣近所と助け合いが増えれば良いと思う。その為には地域のまとまりが強くなる場所がある。(阿古／女性／60～69歳)
- 皆頑張っているから、特にない。しいて言うならば、若者に期待している。(阿古／女性／60～69歳)
- 村民が安心して暮らせる環境を作って欲しい。行政が何をしているのか、住民にわかる様に説明して欲しい。何をしているのか分からないと、住民は不安である。例えば、住民説明会の時間を長くし、返答を丁寧にして欲しい。(阿古／女性／60～69歳)
- 若者に戻ってきて欲しい。(阿古／女性／60～69歳)
- とにかく空路再開を1日も早くして欲しい。(阿古／女性／60～69歳)
- 現状のまま復興してくれたら良い。(阿古／女性／70～79歳)
- 若い人が帰ってきて、その人達が仕事が出来る環境になって欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- 在宅介護をして欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- 東京の病院に行くことがあるから、島の設備を充実して欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- とにかく飛行場が早く再開して欲しい。あと船を2便にして欲しい。そのことにより本土と交流が盛んになる。火山ガスがなくなって欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- 漁業設備を何とかして欲しい（冷蔵庫等)。設備がないとどうしようもないので。(阿古／女性／70～79歳)
- 病院が遠いし、バスの便も少ないのでなかなか病院に行けない。病院に行くのを我慢している。診療所の再開をして欲しい。週に1回でも、10日に1回でも良いので出張して診察して欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- 役場の人は良くやってくれている。感謝している。福祉のお陰で今、生活できている。行政に感謝しているので、文句は言えない。老人クラブが毎月15日にある。それを楽しみに生きている。(阿古／女性／70～79歳)
- むしろ、ここまで支援してくれて役所、行政に感謝しています。意見、要望なんてありません。(阿古／女性／70～79歳)
- 定期航空路を早く再開して欲しい。(阿古／女性／70～79歳)
- 阿古村に診療所を再開してくだされば幸いと思います。(阿古／女性／70～79歳)
- 生協（coop）が欲しい。(阿古／女性／80歳以上)
- 人口がないと何をやっても難しい。(阿古／女性／80歳以上)
- 家からあまり出ないので、不満を感じない。具合が悪い時は1ヶ月に1回、ケアマネージャーがくるから心配していない。(阿古／女性／80歳以上)
- 生活をしっかりやっていけるように。(阿古／女性／80歳以上)

坪田地区

- よくみなさんから助けてもらっている。してもらうばかりではいけないので、要望はない。（坪田／男性／30～39 歳）
- “癒し”をテーマにした地域・国には観光客が増えています。三宅村もその路線で進んでみたら面白いと思います。（坪田／男性／30～39 歳）
- やはり車がないと生活できないので、道路整備はこれからも必要。でも、無駄な道路はいらない。（坪田／男性／30～39 歳）
- 単身で暮らしている。子供が全員学校の関係で避難場所で馴染んでしまった。でも、両親が三宅に帰りたいと言ったので、子供は妻に任せて親の為に帰ってきた。子供の健康にも気がかりだし。親の老後も不安。老人ホームも入れない人でいっぱいだと聞く。（坪田／男性／40～49 歳）
- 若い人の仕事がないのが気になる。（坪田／男性／40～49 歳）
- 一番願うのは、前の家が空港あたりなので早く立入規制が解除されること。（坪田／男性／50～59 歳）
- 行政の仕事に関して、何が必要なのかは住民が決めることなので住民とよく話し合って決めて下さい。全て勝手に決めている。避難マップ作り、レース、一方的な押し付けだった。表向きは協働だったが。都に対しての顔立てみたいだ。（坪田／男性／50～59 歳）
- 飛行機が一番。これでは観光客も来ない。（坪田／男性／50～59 歳）
- まぁ満足している。（坪田／男性／50～59 歳）
- 人口と住宅を増やすことが必要。働きたい人がいても無条件に入れる住宅がなく、島に来ることが難しい。本土に行かなくても手術等ができるようにして欲しい。避難中の車両税をとるのはおかしいのでは。産廃や米軍基地等を誘致するのもひとつの手。リスクを負うと金が入る。早期にそうゆうものを誘致していれば、復興は早かっただろう。羽田に直接行ける空路が欲しい。（坪田／男性／50～59 歳）
- ガスが止まらない限り難しい。自然のことですから望むべきものもありませんが、リスクを覚悟で放出口から噴火、沈静化の後、ガス放出が止まるというシナリオしかないのではと考えています。現状では、ガスに強い植物、例えば榊の植林に力を注ぐべきなのではないでしょうか。緑が復活しない限り、本当の意味での三宅島の復興はないと私は考えております。（坪田／男性／50～59 歳）
- 飛行機が早く飛んで欲しい。（坪田／男性／50～59 歳）
- 建設ばかり重視しないで、住民のことを考えて欲しい。お金の使い方を考えて欲しい。（坪田／男性／50～59 歳）
- 海岸をキレイにする（ボランティア）。都道周辺をキレイにし、島の植物等を植え、キレイな島にする。観光客を暖かく迎え、サービスを良くする（郷土料理を出す）。箱ものを造る時には収支がマイナスにならないよう予算を含め、他施設との関連も含め、よく検討してから造る。エコツーリズムの実施（検討委員会を作る）。（坪田／男性／50～59 歳）
- 医療の充実。交通（飛行機、船の両方）。物価が高い。（坪田／男性／60～69 歳）
- 高濃度地区に対して問題が山積みされている。都、国から規制を村が住民に対し制限をしているが、長期ともなれば住民の生計も考え、都、国へ解除に向け住民の要望をかなえるよう、緩和できることもあるので変えて欲しい。（坪田／男性／60～69 歳）
- 車を持ってない人にとってはバスの本数が少ないことはとても不便である。港にフェリーがつけない日が多く、不便である。若い人達が村に帰ってくるためにも雇用機会の見直しを。（坪田／男性／60～69 歳）
- 子供がいないのが寂しい。人口減少（特に若い人）の加速に歯止めを。（坪田／男性／60～69 歳）
- 観光重視の復興政策を立てる。医療方面重視（専門医を増やす）。（坪田／男性／60～69 歳）
- 現状では見通しがつかないので分からない。早く立入規制を解除して欲しい。高濃度地区の家の手入れが必要で 2 重生活。（坪田／男性／70～79 歳）
- 住宅の整備。坪田に帰りたい人が住めない。神着へ行ってしまっている。後継者が住める家を作って、戻ってきてもらう。事業の指導。そうしないとこの島はダメになる。飛行機がとにかく必要。なぜあるものを使用しないのか。こんな無駄はない。早急に。（坪田／男性／70～79 歳）
- 再生と復興のために責任の伴った、いつまでに誰が何をするかという具体的なアクションプランが必要。島民の協力が必要。火山ガスの安全宣言を早く出すべき。危機管理の徹底。CS 対策が不充分。「さすが三宅だ」といわれるように、村、農業者組合、漁業組合がまとまって考えるべき。（坪田／男性／70～79 歳）
- 自分たちが生活するくらいの食物を村で生産出来るようにして、物価が安くなれば良い。（坪田／男性／

70～79 歳）

- 脱硫施設を各地区ひとつずつ欲しい。島内に一ヶ所でいいので、中身のしっかりした病院が欲しい。（坪田／男性／70～79 歳）
- ムダな道路工事をやめた方がいい。三宅の人以外が工事しているのはおかしい。開墾はしたけど、すべてを作っているわけではない。老齢かも原因だが。どの産業も後継者がいないから 5 年、10 年後はどうなるのだろうか不安。何か対策はあるのか。役場の人が直接話を聞きに来たほうがいい。苦しみを知ったほうがいい。火山ガス放送のせいで人が来ないので、やめた方がいい。（坪田／男性／70～79 歳）
- 帰島して家を修理する時に所得制限があり、該当しなかった。ほんのちょっとオーバーしただけであるのに。今後は所得制限をなくすべきだ。又、国の被災者生活再建支援は住宅本体の修理等には出ないが、この制限も外すべきである。村の復興についての考え方、との場合もそうだが公道でのオートバイレースを起爆剤にしようとしているが、オートバイレースでは起爆剤には決してならない。年に一回のイベントでできるような簡単なものではない。もっと地に足の着いた考え方をもち、何を復興するのかをしっかり村民の意見を聞いて結論を出すべきである。（坪田／男性／70～79 歳）
- 高齢者にもっと雇用の機会を作って欲しい。（坪田／男性／70～79 歳）
- オートバイレースについては賛成できない。→一時的なものにしかすぎないので。復興、災害時のマスタープランをしっかり作成していない。（坪田／男性／70～79 歳）
- 若い人の力が欲しい。若い人を誘致して仕事をさせてあげる。農業や漁業において、若い人に仕事を与える（してもらいたい）。（坪田／男性／70～79 歳）
- 阿古の高濃度地区の居住禁止を早く解除すべき。三宅の中でもあしたばなどの園芸の先進地なのだから。（坪田／男性／70～79 歳）
- 道は充分、もっと他にお金を回す。砂防ダムももういらない。（坪田／男性／70～79 歳）
- あの世が近いんだから、もう何もいらない。（坪田／男性／80 歳以上）
- 高齢者の食事は栄養面がよくない→給食に出来ないだろうか。病気を予防することに重点を置いて欲しい。栄養についての講習会が必要。現時点、島の財政や老齢化により自力での復興は難しいので、発想の転換をしたほうがよい（ＮＬＰをもう一度考え直して欲しい）。新しい産業の為に本土の産業廃棄物の処理施設を誘致。噴火を先取って、マグマのエネルギーを利用することが望ましい→地熱発電、国際的な火山研究所の設置。部落のつながりが必要。（坪田／男性／80 歳以上）
- 農、漁業の復興をはかり、これに支えられる観光を考えるべきだと思う。足元の固まらない観光だけを考えても島の復興は計れない。（坪田／男性／80 歳以上）
- 今、銀行が分散していて遠くて不便である。学校 3 ヶ所が 1 ヶ所にまとまり、子供が通うのが大変そうである。（坪田／男性／80 歳以上）
- 郵便局が土日が休みなので、不便である。どうにかして欲しい。（坪田／男性／80 歳以上）
- 高濃度地区の村民を無視したままの復興はない。ライフラインばかりお金をかけても自営業者にとっては無しに等しい。問 5 の質問ではナニが意味があるのだろうか。住みたくても住めない人のことが一つも質問の中に入っていない。阪神や能登の中にも復興という言葉の中で今なお苦しんでいる人々は多いはず。そういう人達のアンケートがあってもいいはずでは。今は三宅島の復興という言葉では受入れられない人がいることを分かって欲しいので、復興に対して要望はない。（坪田／女性／40～49 歳）
- 私達が高校を卒業する時は島を出ることが当たり前でした。今は状況も変わり、島に残る若者も増え、またこの災害で“我が島”への思いというものが若い人達に大きく大きく感じられているように思いました。これからは若者たちが三宅島の将来を担っていくことになるので、行動が出来るような、起こせるような対応をして欲しいと思う。若い人の雇用。復興したら若者が増えるので、このチャンスを活かす。坪田は老人の町になっている。（坪田／女性／40～49 歳）
- 胃腸炎と三宅の病院で言われたが、東京の病院に行くとポリープができていた。半月板が割れたときも検査に 2 週間待たされ、松葉杖も貸してもらえなかった。設備も悪くて、胃カメラ等すごくデカイ。東京まで行って最新の設備を求めて行く。バリウムも三宅にはない。専門医がいない。子供もいるのに…。子供ぜん息、月 1 で東京に行かないといけない。八丈島では風邪と診断された。医者も 2 年居れば長いほう。2、3 ヶ月でいなくなるものしばしば。信頼関係を結べない。（坪田／女性／40～49 歳）
- 空路を早く再開して欲しい。そこからいろいろ始まる気がするので。人の出入が多くなり、人口も変化し、島が潤う。（坪田／女性／40～49 歳）
- 元の状態になるべく早く戻して欲しい。→観光客が来る島にして欲しい。（坪田／女性／40～49 歳）
- 観光はガスが出るうちは難しい。自分の家の仕事は上手くいっている（復興の為の仕事だから）。今は以前の近所がバラバラに暮らしているので、気持ちが一つにならない。収入、家がもとに戻った人との差。小さい頃に避難した子供は三宅の記憶がない。戻ってくる気がしないだろう、寂しい。（坪田／女性／50～59 歳）

- 夜中のガス情報発表を該当地区だけにして欲しい。「火山ガス＝毒ガス」という認識をもっと。子供が真似をしてしまうので、大人は外出する時にはガスマスクを必ず持つ。ボーリング場等、レジャー施設を再開して欲しい。（坪田／女性／50～59 歳）
- いつまでも自立生活ができるように健康センターを作り、トレーニングや体力を作る場が欲しい。（坪田／女性／50～59 歳）
- 医療機関が充実していない。医者によい先生がいないので不安である。定着型の医療設備（1 週間とかで変わる）。（坪田／女性／50～59 歳）
- 3 年たったのだから、皆落ち着いて生活している。まぁ大丈夫である。噴火した時の為に避難訓練（全体の避難訓練をしよう）。（坪田／女性／50～59 歳）
- 帰島されて良かったかというより、三宅島産業の活性化を図る為、特産品の販路開拓の為に会社を設立。現在は生産者と共に島外からの経済を三宅島に取り込むことで島民（生産者）の生活のレベルアップを図っております。行政については現状においてあまり期待出来る状態ではない。（坪田／女性／50～59 歳）
- 村営住宅の家賃。立ち入り禁止区域に家がある。早く解除して欲しい。物価が高い。店舗が少ないので価格が下がらない。運賃って言ったってティッシュが東京より 2 倍はおかしい。（坪田／女性／60～69 歳）
- 道路はよくなりすぎ（掘り返しを繰り返している）。余分なお金があるなら福祉に使って。港、ダムなどもう充分。島にこれ以上お金をかけなくていい。恵まれない子供や老人ホームなどがいい。避難中、東京の病院に行っていたがとても良かった。（坪田／女性／60～69 歳）
- 村場の職員、もっとしっかりしろ。要望に対して中途半端。外部から来ているので、内情を知らない。もっと外も見て。（坪田／女性／60～69 歳）
- ①特に個人の住宅ローンの免除（高濃度地区）。②高濃度地区の住宅再建についてアンケートはとらないのですか。再建をする為に費用は 500 万どころではないです。（坪田／女性／60～69 歳）
- 空路の再開がどうしても必要です。そして、島全体が緑におおわれるよう地道な努力をすべきだと思います。（坪田／女性／60～69 歳）
- 富士銀行 ATM が少ないので、増やして欲しい。信金 ATM 土日も営業して欲しい。（坪田／女性／60～69 歳）
- 避難する場所を地区ごとに作って欲しい。バスの本数を増やして欲しい。（坪田／女性／60～69 歳）
- バスしか足がないので、せめて 1 時間に 1 本ほしい。訓練する時は全ての住人で（寝たきりなどの老人も含め）訓練しないと意味がない。（坪田／女性／60～69 歳）
- 車がない人にとって不便なので、バスを増便して欲しい。若者が来たりして村を活性化させる。（坪田／女性／60～69 歳）
- 仕事が減ってきている不安。もっと働かして欲しい。（坪田／女性／70～79 歳）
- 高濃度地区の実家。荒廃しているのが不安。役所が積極的に対処してくれず、すごく不満。料金が高くても飛行機が欲しい。坪田区の避難訓練と言いつつ、実は中区と東区だけの対象だった。メディアとかにその点も言ってなかった。西区は除かれた。自治会があまり助けてくれない。グループを作って安否を気遣うとかして欲しい。連絡網を作るとか。あまりにもスローペース。（坪田／女性／70～79 歳）
- 下水道の排水口に所々フタがなく、夏場は悪臭がひどい。村の苦しい立場は分かっているのであまりぜいたくを言わない。世話になる立場なので、文句言わない。（坪田／女性／70～79 歳）
- 火山ガスが問題であるが、村のあちこちに空き家が目立ちます。すでに亡くなってしまい主のない家です。学生さんや会社の合宿に利用できないか、季節によって夏の合宿等には大いに受入れることができないか。若い人の声が島のあちこちから聞けるようになったら少しは島の息吹きが甦る気が致します。（坪田／女性／70～79 歳）
- バスの本数増、コース増。仕事がない。交通は全て車なので、乗れない人にとっては不便。（坪田／女性／70～79 歳）
- 行政の手助けも必要だけど、自分で出来ることは自分ですべき。そのバランスが大事。年金＋貯金で生きている人は貯金がなくなった時に死ぬ。近くに身内がいたり、人が生きていけるような支援が必要。このアンケートのように役場の人が 1 軒、1 軒まわって聞き取り調査を行うべき。（坪田／女性／70～79 歳）
- 農協、漁業、森林組合、商工会、自治会、議員も行政も何をやっているのか。住民に分からないことばかりが多い。若者が帰島して欲しいと思う。三宅島に早く帰島したくなるような、若者が子育ては三宅が一番となるような、具体的に（保育園児は入園から卒園まで無料）（小学生から中学卒業まで給食費無料とする）（バス代も演じ、小学生、中学生は無料とする）その他。高齢者が多いため、空き家も多い（空き家を無料で若者に使わせる）。無料とする費用はシルバー人材センターの仕事でシルバーに出来ないような仕事を若者にお手伝いしてもらう。（坪田／女性／70～79 歳）
- 若者が戻ってきて欲しい。隣近所との関係が欲しい（昔のような状態に戻りたい）。（坪田／女性／70～79 歳）

- 今は満足している。特に心配はない。(坪田／女性／70～79 歳)
- 道路、歩道を作る為に土地を取られた。今、東京などに出ている家族のために空港を早く再開して欲しい。(坪田／女性／70～79 歳)
- バスの本数を増やす。小さいバスでも欲しい。病気になった時に不安である。銀行が遠い。(坪田／女性／70～79 歳)
- 子供の数を増やすためにも教育施設をしっかりして欲しい。(坪田／女性／70～79 歳)
- 病院が欲しい。(坪田／女性／70～79 歳)
- 船のようなあしが大切だ。温泉のような施設が欲しい。(坪田／女性／70～79 歳)
- 病院の出張所が欲しい。農道の整備が必要。(坪田／女性／70～79 歳)
- 西区だけ避難訓練をしなかった。バスに人が乗り切らないからという理由だったが、その場合にどうするか訓練するものではないか。おかしい。(坪田／女性／70～79 歳)
- 飛行機が早く欲しい。(坪田／女性／80 歳以上)
- 飛行機がないと不安。倒れて何度もヘリコプターを呼んだことがある。緊急時などはどうしても必要。(坪田／女性／80 歳以上)
- 現状に満足している。これ以上は望まない。村に迷惑をかけないように生きているだけ。(坪田／女性／80 歳以上)
- 早く飛行機を出して。並みの具合で東京に出たら、いつ帰れるか分からない。値段は高くてもいいから、とにかく欲しい。(坪田／女性／80 歳以上)
- 東京と医療が全然違う。ひざが悪いので三宅の病院では不安。トラックが危なくて道を歩けない。トラックに迷惑をかけると思って道路を歩くのをやめている。在宅介護の人が一度来たきり、来なくなった。(坪田／女性／80 歳以上)
- 道路の整備を進めすぎ。そこに投資できるのであれば、別のことに有効に使うべき。(坪田／女性／80 歳以上)
- ノンステップバスを増やして欲しい。(坪田／女性／80 歳以上)

Ⅴ　調査票（単純集計結果）

三宅島帰島住民アンケート調査

実施主体：　株式会社　サーベイリサーチセンター
共同研究者：　東洋大学社会学部　教授　田中　淳
調査協力：　三宅村役場

調査日	地区名	調査員名
／		

◎ 帰島についてお伺いします。

問１　現在、帰島されているあなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを１つお選びください。

1　単身世帯　32.9	2　夫婦のみ　34.6
3　２世代世帯（親と子ども）　28.5	4　３世代世帯（親と子どもと孫）　3.1
5　その他（具体的に：）　1.0	

問２　それでは、離島時のご家族の構成は次のどれでしたか。あてはまるものを１つお選びください。

1　単身世帯　21.3	2　夫婦のみ　36.9
3　２世代世帯（親と子ども）　35.2	4　３世代世帯（親と子どもと孫）　4.8
5　その他（具体的に：）　1.5	

無回答　0.2

問３　あなたのご家族で、まだ帰島されていない方はいらっしゃいますか。あてはまるものを１つお選びください。

1　いる　16.2	2　いない　83.8

問３－１　（問３で「１　いる」とお答えの方にお聞きします）

現在、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1　配偶者　22.6	2　息子・娘　77.4	3　父・母　7.1
4　息子・娘の配偶者　9.5	5　祖父・祖母　2.4	6　孫　9.5
7　その他（具体的に：）　4.8		

（次ページへ）

問3－2　（問3で「1　いる」とお答えの方にお聞きします）

現在帰島していないご家族の方が、帰島されない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	今も危険だから	3.6
2	火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから	11.9
3	避難先で就職したから	41.7
4	避難先で就学したから	28.6
5	東京等での生活に馴染んでいるから	10.7
6	島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから	10.7
7	病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから	16.7
8	その他（具体的に：）	9.5
9	わからない	1.2

問3－3　（問3で「1　いる」とお答えの方にお聞きします）

現在帰島していないご家族の方の、今後の帰島のご予定はいかがでしょうか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	危険がなくなれば帰島する	9.5
2	多少危険はあっても復興の状況が進めば帰島する	1.2
3	自宅の改修や補修が終われば帰島する	2.4
4	仕事や職場が見込めれば帰島する	17.9
5	農業・漁業ができる環境になれば帰島する	3.6
6	地域のまとまりが元に戻れば帰島する	-
7	医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する	8.3
8	子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する	7.1
9	その他（具体的に：）	4.8
10	帰島はしない（しないだろう）	40.5
11	わからない	19.0

問４　帰島されてから、あなたは現在、どのようなことに不安を感じていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	自分や家族の健康　52.3	2	島の人口の減少　51.7
3	観光客の減少　30.6	4	海や山などの自然環境の悪化　40.0
5	帰島していない家族のこと　8.7	6	損傷した自分の家や店舗・民宿の再建　12.9
7	田畑の再建　8.7	8	損傷した勤め先や設備の再建　3.1
9	道路や港など公共施設の損傷　11.7	10	火山ガスの発生　60.8
11	泥流の発生　20.0	12	雄山の再噴火　41.2
13	地域のまとまりがなくなる恐れ　19.8	14	医療機関や医療設備　41.9
15	子どもの教育環境　11.9	16	自分や家族の就労　7.7
17	家計　23.1	18	その他（具体的に：）　3.7
19	とくにない　6.0		

無回答　0.2

問５　今現在お住まいの住宅は、避難前と同じものですか。あてはまるものを１つお選びください。

1　避難前と同じ　79.4	2　避難前と異なる　20.6

問５－１　（問５で「１　避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）

家屋の修理には、帰島してからどれくらい時間がかかりましたか。あてはまるものを１つお選びください。

1	目立った被害はなかったので、特に修理しなかった　3.6		
2	１カ月以内　13.3	3	２カ月以内　13.1	4	３カ月以内　13.6
5	半年以内　14.0	6	半年を超えた　33.9		
7	その他（具体的に：）　5.8				

無回答　2.7

問５－２　（問５で「１　避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）

帰島して、住宅の補修や電気製品の購入など生活再建にかかった費用は、おおむねどれくらいですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	費用はかからなかった　3.4				
2	100 万円以内　4.8	3	200 万円以内　18.6	4	300 万円以内　24.9
5	400 万円以内　13.1	6	500 万円以内　8.0	7	500 万円を超えた　25.2

無回答　1.9

問５－３　（問５で「１　避難前と同じ」とお答えの方にお聞きします）

では、生活再建にかかった費用のうち、住宅の修理にかかった費用は、おおむねどれくらいですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	費用はかからなかった　6.5				
2	100 万円以内　8.5	3	200 万円以内　31.5	4	300 万円以内　18.2
5	400 万円以内　10.9	6	500 万円以内　5.1	7	500 万円を超えた　16.0

無回答　3.4

問6　火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを１つお選びください。

1　無事に避難できる　50.6	2　多分避難できる　37.1
3　おそらく避難できないだろう　10.8	

無回答　1.5

問6－1　（問6で「3　おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします）

避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	家族の中に小さな子どもや病人がいるから　8.9
2	避難場所が遠いから　16.1
3	どこに避難すればよいかわからないから　10.7
4	防災行政無線がよく聞こえないから　7.1
5	家の中にいた方が安全だから　16.1
6	交通手段がないから（歩けない）　60.7
7	その他（具体的に：）　8.9

◎ 世帯の生計についてお伺いします。

問７　噴火前の、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	農林業	6.5
2	漁業･水産加工業	4.4
3	建設業	16.0
4	運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業	3.8
5	観光産業（飲食店、卸･小売、民宿、サービス業）	10.8
6	観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業	12.1
7	公務員	16.2
8	その他（具体的に：）	3.8
9	年金	24.6
10	なし	1.5

無回答　0.2

問８　それでは、帰島後（現在）の、あなたの世帯で最も大きな収入源になる職業は何ですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	農林業	2.9
2	漁業･水産加工業	2.7
3	建設業	12.7
4	運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業	3.7
5	観光産業（飲食店、卸･小売、民宿、サービス業）	6.5
6	観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業	9.0
7	公務員	9.4
8	その他（具体的に：）	4.0
9	年金	46.5
10	なし	1.9

無回答　0.6

問９　あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度（何%くらい）元に戻ったと思いますか。噴火前を 100%としてお答えください。

帰島直後　平均　66.3　%

現在　平均　70.8　%

問 10　今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	今より相当楽になりそうだ	0.6	2	今よりやや楽になりそうだ	2.7
3	今とほぼ同程度の暮らしができそうだ	42.5	4	今より少し苦しくなりそうだ	34.6
5	今より相当苦しくなりそうだ	18.5			

無回答　1.2

◎ 復興についてお伺いします。

問 11　三宅島(村)を復興させるためには、次のA～Pの項目それぞれをどの程度重視していますか。あなたのお考えに最も近いものを１つだけお選びください。

問 12　それでは、現在の三宅村の復興状況について、あなたはどの程度満足していますか。問 11 との同様にA～Pの項目それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを１つだけお選びください。

	問 11 復興のための重視度						問 12 復興状況の満足度					
	1 非常に重視	2 やや重視	3 どちらともいえない	4 あまり重視していない	5 全く重視していない	無回答	1 非常に満足	2 やや満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 非常に不満	無回答
A 道路の整備	18.8	29.0	20.8	16.5	7.7	7.1	16.9	41.7	24.2	8.7	2.7	5.8
B 公共交通（バス）の増便	18.5	23.5	28.5	14.2	7.5	7.9	2.9	14.6	44.6	20.6	10.6	6.7
C 空路の再開	77.3	8.5	5.6	1.5	2.7	4.4	2.1	1.7	11.5	12.3	66.9	5.4
D 港湾の拡充・整備	42.7	25.0	17.7	5.0	2.5	7.1	6.7	20.4	25.4	24.8	15.8	6.9
E 金融機関の新設・再開	16.0	21.9	32.3	12.7	8.8	8.3	10.0	23.5	38.1	16.0	5.6	6.9
F 公民館など住民が集まれる施設の再開	18.5	29.8	28.5	10.2	5.6	7.5	10.8	21.5	41.7	15.0	3.7	7.3
G 上下水道の整備	27.9	28.1	24.8	6.7	4.4	8.1	10.6	25.8	31.3	15.8	9.4	7.1
H 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	41.3	26.0	19.0	3.8	2.9	6.9	10.0	28.5	31.7	15.4	7.9	6.5
I 医療機関・医療設備	57.1	21.9	9.6	2.5	1.9	6.9	4.6	17.7	19.6	26.2	26.0	6.0
J 子どもの教育施設（学校など）の増設	15.8	14.6	44.4	9.0	7.3	8.8	5.4	13.7	57.3	8.7	7.1	7.9
K 高齢者福祉の充実	43.3	28.5	16.3	2.7	2.3	6.9	5.6	20.2	33.8	20.8	12.5	7.1
L 地域のまとまり	32.5	27.9	25.8	4.0	2.7	7.1	9.2	19.4	38.5	18.5	7.1	7.3
M 家族との人間関係	39.4	20.2	23.5	4.0	4.2	8.7	29.8	24.4	32.1	3.8	1.7	8.1
N 隣近所との人間関係	39.2	26.0	19.8	3.5	4.2	7.3	26.3	31.3	28.1	4.8	1.9	7.5
O 店舗・事業所の営業状況	33.1	26.3	24.0	5.8	2.7	8.1	8.7	18.8	31.0	22.9	11.7	6.9
P 雇用機会の拡充	31.0	22.7	32.1	2.9	3.7	7.7	3.1	6.5	47.7	21.2	14.2	7.3

問 13　あなたは、行政等が行なう復興支援として、どのようなものが必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	子どもの教育費に対する支援	21.0
2	健康保険や年金などの保険料免除の支援	39.4
3	電気、ガスなどの基本料金免除の支援	21.0
4	住宅ローンの利子補給	9.6
5	税の減免	37.3
6	医療費への補助	50.0
7	不足する生活費に対する支援	20.2
8	住宅の補修や再建への補助	31.5
9	その他（具体的に：）	4.0

無回答　14.0

問 14　それでは、全般的には、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。あてはまるものを１つお選びください。

1	非常に満足	3.1	2　やや満足	29.2	3　どちらともいえない　39.8
4	やや不満	18.5	5　非常に不満	8.7	

無回答　0.8

問 15　三宅村の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを１つお選びください。

1	今まで通り（農林水産業と観光）にすべきだ	37.7
2	今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ	14.2
3	今まで以上に、観光の島にすべきだ	26.5
4	農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ	10.2
	（→新しい産業を具体的に：　　）	
5	その他（具体的に：）	2.9

無回答　8.5

問 16　あなたは、三宅島の復興の状態について、今後、どの程度まで元に戻ると思いますか。あてはまるものを１つお選びください。

1	噴火の前の状態に、完全に戻る	2.7	2	噴火の前の状態に、部分的には戻る	36.0
3	あまり期待できない	45.6	4	ほとんど期待できない	13.3

無回答　2.5

問 17　あなたは、三宅島の地域のまとまりは、噴火前と比べて今後はどのようになると思いますか。あてはまるものを１つお選びください。

1	噴火前以上に取り戻すだろう	6.5	2	噴火前と同じ程度まで取り戻すだろう	31.3
3	噴火前のように取り戻すのは難しいだろう	60.4			

無回答　1.7

問18　今後の三宅島での生活をよりよいものとしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。
次の①から④について、あなたの考えに近いものをそれぞれ3つまでお選びください。

① 高齢者が安心して楽しく暮らせるようにするためには

1	シルバー人材センターへ優先的に仕事を委託する	30.6
2	老人ホーム（特養）を増設する	43.5
3	在宅介護支援など高齢者福祉を充実させる	57.3
4	高齢者医療を完備した医療機関を充実させる	56.9
5	敬老会など皆で集えるイベントを充実させる	14.4
6	村営バスを増便し、気軽に出歩けるようにする	23.8
7	その他（具体的に：）	2.1

無回答　3.7

② 若者が戻ったり、新しく受け入れられるようにするためには

1	地場産業を興して働ける場所を作る	73.1
2	医療・介護・教育を充実させる	35.8
3	住宅を整備し、入居に資金援助をする	35.6
4	事業を始める人（起業家）に援助する	25.0
5	引越し費用の負担などの援助をする	8.8
6	企業と人（若者）を一緒に誘致する	23.8
7	映画館・パチンコなどの娯楽施設を作る	4.2
8	その他（具体的に：）	2.7

無回答　5.4

③ 子どもを安心して産み、教育できるようにするためには

1	産科医や小児科医の専門医が常駐する医療機関を充実させる	69.4
2	保育所や幼稚園を増やす	14.4
3	児童公園など遊び場や遊具を充実させる	16.9
4	児童育児手当等の福祉施策を充実させる	38.7
5	子育てを支援するサポートセンター等を充実させる	30.6
6	その他（具体的に：）	3.1

無回答　13.8

④　観光客を増やすようにするためには

1	定期の船便を一日に２便に増やす　20.0
2	定期航空路が再開できないのであれば、セスナ機や大型ヘリコプターを就航させる　73.5
3	民宿など宿泊施設を増やす　24.0
4	目玉となる観光名産品を作る　38.3
5	ゴルフ場や温泉などレジャー施設を作る　20.8
6	「三宅島オートバイレース」を成功させ、定着させる　16.5
7	その他（具体的に：）　9.0

無回答　5.6

問19　あなたは、村がどのような状態になったら復興したと感じると思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1	人口が噴火前程度に回復したとき　44.6	2	空路が再開されたとき　61.7
3	立入り規制が解除されたとき　47.5	4	村から硫黄臭がなくなったとき　44.2
5	枯れ木がなくなり、緑が回復したとき　47.5	6	工事関係車両がなくなったとき　10.6
7	注意報や警報の放送がなくなったとき　42.9	8	村の将来像が見えてきたとき　33.5
9	その他（具体的に：）　3.8		

無回答　3.1

問20　あなたは三宅島に対して、どの程度愛着を感じていますか。あてはまるものを１つお選びください。

1	強い愛着を感じる　67.1	2	少し愛着を感じる　22.5
3	あまり愛着を感じない　8.5	4	ほとんど愛着を感じない　1.2

無回答　0.8

問21　全体として、あなたは帰島されたことをどう思っていますか。あてはまるものを１つお選びください。

1	良かった　63.7	2	どちらかというと良かった　14.6
3	どちらともいえない　17.1	4	どちらかというと後悔している　2.7
5	後悔している　1.0		

無回答　1.0

問 22　今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

◎ 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。

Ｆ１　あなたの性別をお答えください。

1　男性　51.9	2　女性　48.1

Ｆ２　あなたの現在の年齢はおいくつですか。あてはまるものを１つお選びください。

1　20～29 歳　1.0	2　30～39 歳　4.2	3　40～49 歳　9.2	4　50～59 歳　19.4
5　60～69 歳　21.2	6　70～79 歳　31.7	7　80 歳以上　13.3	

Ｆ３　現在のお住まいは持ち家ですか、それとも借家などですか。あてはまるものを１つお選びください。

1　持家　82.9	2　借家　5.0	3　社宅　0.2	4　村営住宅　11.7

無回答　0.2

Ｆ４　あなたは三宅島のご出身ですか。あてはまるものを１つお選びください。

1　三宅島の出身　71.0	2　三宅島以外の出身　28.8

無回答　0.2

Ｆ５　噴火前、あなたはどちらにお住まいでしたか。あてはまるものを１つお選びください。

1　阿古（現在の高濃度地区）　2.5	2　阿古（現在の高濃度地区以外）　27.7
3　伊ヶ谷　6.7	4　伊豆　13.3
5　神着　19.8	6　坪田（現在の高濃度地区）　6.5
7　坪田（現在の高濃度地区以外）　23.1	

無回答　0.4

Ｆ６　あなたの世帯では避難中に何回ぐらい一時帰宅ができましたか。あてはまるものを１つお選びください。

1　１回も帰宅しなかった　8.5	2　１～５回　52.9	3　６～10 回　25.4
4　11～20 回　7.3	5　21 回以上　4.4	

無回答　1.5

Ｆ６－１　（Ｆ６で「１　１回も帰宅しなかった」以外にお答えの方にお聞きします）

ご家族のうち主にどなたが帰宅していましたか。

Ｆ７　昨年４月にもアンケート調査を実施しましたが、その際にはお答えいただきましたか。

1　回答した　44.8	2　回答しなかった　26.9	3　わからない　28.3

ご協力ありがとうございました

付　サーベイリサーチセンターの業務案内

会社概要

商　　号	株式会社サーベイリサーチセンター
設　　立	昭和50年２月
資　　本	6,000万円
年　　商	50億円（平成18年度）
代 表 者	代表取締役　藤澤士朗
社 員 数	176名
顧　　問	竹内郁郎（東京大学名誉教授）
取引銀行	三井住友銀行　赤羽支店
	百十四銀行　東京支店
	みずほ銀行　尾久支店
	三菱東京UFJ銀行　日暮里支店
	商工中央金庫　押上支店
所属団体	㈶日本世論調査協会
	㈳日本マーケティング・リサーチ協会
	㈳日本マーケティング協会
	㈳交通工学研究会
	日本災害情報学会　他

沿革

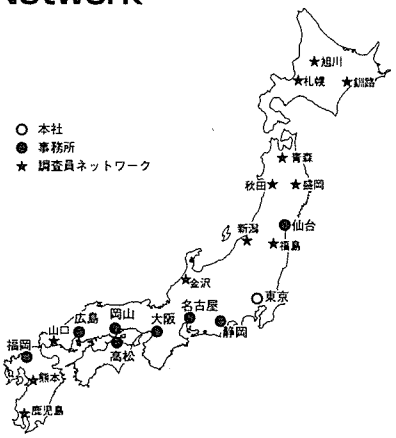
昭和50年２月　資本金1,000万円にて設立
昭和51年６月　大阪事務所開設
昭和54年１月　静岡事務所開設
昭和61年９月　名古屋事務所開設
昭和63年４月　本社社屋竣工
平成２年４月　東北事務所開設
平成４年１月　広島事務所開設
平成５年６月　資本金を4,000万円に増資
平成９年３月　本社社屋増築
平成９年４月　九州事務所開設
平成10年４月　岡山事務所開設
平成12年７月　資本金を6,000万円に増資
平成15年４月　四国事務所開設

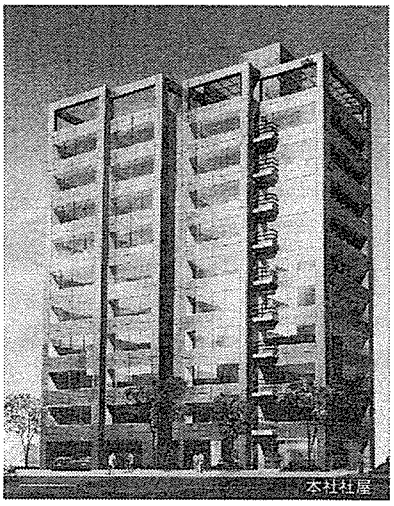
取得認証・登録資格

ISO9001（JMAQA-676）
プライバシーマーク（C820008(04)）
建設コンサルタント（道路部門 建13第7120号）

組織図

Network




本社社屋

マスコミに掲載された防災・災害の自主調査

● 第3回三宅島帰島住民アンケート調査

平成19年5月15日

MAINICHI 毎日新聞 夕刊

二輪レース不人気

三宅島民、集客期待は17%

民間アンケ

石原慎太郎・東京都知事の肝いりで三宅島（三宅村）の噴火災害復興策として計画されているオートバイレースについて、観光客の増加につながると考える帰島世帯は2割弱にとどまることが、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区）が行ったアンケート調査で分かった。レースは11月に開催予定だが、都の思惑と島民の意識の違いが浮かんだ。

調査は4月に行われ、全世帯の約3分の1に当たる520世帯から回答を得た。

集客が望める観光事業を尋ねた質問で、「『三宅島オートレース』を成功させ、定着させる」は17%。「定期航空路が再開できないのであれば、軽飛行機や大型ヘリコプターを就航させる」の74%がトップで、「目玉となる観光名産品を作る」38%▽「民宿など宿泊施設を増やす」24%▽「ゴルフ場や温泉などレジャー施設を造る」21%――の順だった。

レースは当初、周回都道（延長30・4キロ）で計画されたが、ライダーや二輪車メーカーから「安全確保が困難」との意見が相次ぎ断念。別の方法で検討している。石原知事は「形を変えてでも、ぜひ実施したい」と述べている。【木村健二】

平成19年5月18日

しんぶん赤旗

「観光客増」は2割弱

民間アンケート調査で

バイクレース

石原慎太郎都知事がトップダウンで進める三宅島（三宅村）の公道オートバイレース計画について、観光客を増やすと考えている村民は17%しかいないことが、民間の調査機関「サーベイリサーチセンター」（本社・荒川区）が行ったアンケート調査で分かりました。

アンケート調査は、同社が四月、三宅島に帰島した世帯に対し、帰島状況や復興に対する考えなどを聞いたもので、島の約三割の五百二十世帯が回答しました。

これによると、復興について「観光客を増やすようにするためには」との質問（三つまで回答）で、「定期航空路が再開できないのであればセスナ機などを就航させる」が74%、「目玉となる観光名産品を作る」が38%、「民宿など宿泊施設を増やす」が24%だったのに対し、「三宅島オートバイレースを成功させ、定着させる」は17%にとどまりました。

「どのような状態になったら村が復興したと感じるか」については、「空路が再開された時」が62%、「立ち入り規制が解除された時」「枯れ木がなくなり、緑が回復した時」がともに48%でした。

また、行政が行う復興支援策として必要なものについては、「医療費への補助」が50%を占め、次いで「健康保険や年金などの保険料免除の支援」が39%、「税の減免」が37%、「住宅の補修や再建への補助」が32%などとなっていました。

平成 18 年５月２日

朝日新聞 夕刊

三宅帰島の６割「火山ガス不安」

世帯主らアンケート

噴火による全島避難が昨年2月解除され、伊豆諸島・三宅島に戻った人の6割が火山ガスの発生に不安を抱いている。民間の調査会社サーベイリサーチセンター（本社・東京都荒川区）が4月末、帰島民に実施したアンケートでわかった。

489世帯を訪問調査し、世帯主かそれに準じる人から回答を得た。噴火前の経済状況を100%とすると、回答の平均は70%で、帰島直後に調査したときの65%より少し上向きになった。噴火前と比べた生計の見通しは、「苦しくなりそうだ」が50%で、帰島直後の70%より減少した。

この1年余で良くなったもの（複数回答）としては、「道路の整備」（54%）、「泥流、火山噴火などの防災対策」（33%）などがあげられた。現在の不安（複数回答）について聞くと、60%が「火山ガスの発生」をあげた。「自分や家族の健康」も46%。今後の三宅島復興については、「あまり期待できない」が43%、「ほとんど期待できない」と合わせると56%で過半数を占めた。（瀬川茂子）

平成 18 年５月17日

MAINICHI 毎日新聞

三宅島住民アンケ

収入は噴火前の70・7%

7割強が帰島「良かった」

三宅島の避難指示が解除されてから1年が過ぎたのに合わせ、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区）が帰島した世帯を対象にアンケートしたところ、経済状況については噴火前を100とした場合、現在は平均70・7%にとどまっていることがわかった。住民の苦しい生計が続く一方、7割強が帰島して「良かった」と答えるなど、島への強い愛着がうかがわれた。

アンケートは帰島後の住民意識などを探るために実施したもので、昨年に続き2回目。4月22～25日、調査員12人が島内を回り489世帯から回答を得た。三宅村の昨年9月の発表によると、昨年2月の避難指示解除以降、帰島したのは124世帯2158人となっている。

帰島後の世帯の主な収入源は、年金が47・6%で最も多く、▽建設業12・5%▽観光産業以外のサービス業など9・8%▽公務員7・6%▽観光産業6・5%――などと続いた。帰島したことへの思いを巡っては「良かった」が74・6%に上り、「どちらともいえない」が20・2%、「後悔している」が4・5%だった。

現在の不安（複数回答可）については、「火山ガスの発生」が59・7%とトップで、▽「自分や家族の健康」46・4%▽「医療機関・設備」39・9%▽「雄山の再噴火」36%――など。行政などの復興支援として必要なもの（同）は、▽「住宅の補修や再建への補助」43・4%▽「医療費への補助」42・5%▽「健康保険や年金などの保険料免除の支援」39・5%▽「税の減免」31・3%――などの回答が多かった。

アンケート結果について、田中淳・東洋大教授（災害心理学）は「仮住まいを離れ帰島できた住民の安どは大きいが、先行き不安は強い。社会全体が、自分たちだけで生活復興できない住民の気持ちをくむ必要がある」と分析している。【木村健二】

平成17年5月9日

朝日新聞 夕刊

帰島後 厳しい生計

三宅島民 民間調査 経済、噴火前の60％

「帰島してよかった半面、生計の見通しは苦しい」。噴火による全島避難が2月に解除され、伊豆諸島・三宅島に戻った人の大半が、そんな思いを抱いている。民間の調査会社サーベイリサーチセンター（本社・東京都荒川区）が4月末、帰島民に初めて実施したアンケートでわかった。

アンケートは503世帯を訪問し、364世帯の世帯主またはそれに準ずる人から回答を得た。

噴火前の経済状況を100％とすると、回答の平均は「60％」だった。「変化がない」は4人に1人どまり。噴火前と比べた生計の見通しは、「少し苦しくなりそう」が42％、「相当苦しくなりそう」が28％で、合わせて7割を占めた。

現在の不安（複数回答）については「火山ガスの発生」が57％と、半数を超えた。回答者の6割以上が60歳以上で、「医療体制・設備」（48％）、「自分や家族の健康悪化」（42％）など医療面での不安も目立った。

火山ガス警報が出て避難する必要がある場合、「おそらく避難できないだろう」と答えた人は18％いた。理由として「避難場所が遠い」「家族に小さな子供や病人がいる」などが挙げられた。

一方、さまざまな不安を抱えながらも、「帰島してよかった」と思う人が54％いた。「どちらかというとよかった」を含めると7割近くを占め、「後悔している」人は1％しかいなかった。

平成17年5月19日

MAINICHI 毎日新聞

高齢化進み課題も

45％が年金暮らし

3人に2人が60歳以上、半数近くが年金暮らし―。三宅島で、高齢化が進んでいる実態が、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区西日暮里）が4月末、帰島した島民に行った調査で分かった。

調査期間は4月22～25日。帰島したとみられる島内の家屋503軒を回り、世帯主など364人から回答を得た。

それによると、60歳以上が3人に2人を占め、80歳以上が1割を超えた。世帯の主な収入源を聞いたところ、最も多かったのが「年金」だった。噴火前は25％だったが、避難生活中に40％、帰島後は45％と増え続けている。

また、火山ガスが高濃度に達し、警報が発令された場合の対応について、「おそらく避難できない」と答えた人が18％いた。理由を聞いたところ、「避難場所が遠い」が4割、「家族に小さな子どもや病人がいる」が3割、「どこに避難すればよいかわからない」が2割いた。

噴火前と比べた今後の生計の見通しは、「苦しくなる」が7割を占めた。それでも、帰島したことについては7割が「よかった」と答えた。

平成17年5月19日

讀賣新聞

帰島「良かった」7割

三宅 「生計苦しくなる」も7割

島への愛着は感じるが、生計の見通しは厳しい―。帰島が本格化し、今月から観光客の受け入れが始まった三宅島（三宅村）の帰島者を対象とした初めてのアンケート調査がまとまり、こんな結果が浮き彫りになった。

民間会社が調査

調査は、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区）が4月22日～25日、島内で調査に応じた364世帯を対象に実施。帰島前後の意識の変化や、家計、島の復興などについて、20歳以上の世帯主らに面接で聞き取った。

それによると、帰島したことについて「良かった」「どちらかというと良かった」が、計69・5％と7割近くに上り、島への愛着も、「強い愛着を感じる」「少し愛着を感じる」で計9割を超えた。

一方で、現在の不安（複数回答）については、「火山ガスの発生」（56・9％）をはじめ、「自分や家族の健康の悪化」（41・8％）など、有毒な火山ガスの放出が続く島内の現状に対する不安がにじんでいる。

また、回答者の半数以上が60歳以上で、収入源を「年金」とする世帯は45％を占めた。このため、今後の生計については、噴火前より「相当苦しくなりそう」「少し苦しくなりそう」が合わせて7割に達した。

このほか、復興に関する質問では、9割を超える人が港湾・空港などの整備を「重要」と回答した。火山ガスの高濃度地区内にある三宅島空港は現在、救急患者などの搬送時以外は使用されておらず、東京・竹芝桟橋から約6時間要する定期便の利用が続く状況が背景とみられる。

アンケート結果について、平野祐康村長は、「島民の思いがおおむね反映されたものと思う。帰島して間もない段階で不安もあるだろうが、観光を柱に、苦しい時期を何とか乗り越えていきたい」と話している。

防災、防災計画関係の実績一覧

平成19年5月

防災

阪神・淡路大震災に関する調査＜第１回目＞　自主企画調査　７年
阪神・淡路大震災に関する調査＜第２回目＞　自主企画調査　７年
阪神・淡路大震災に関する調査＜第３回目＞　自主企画調査　９年
芸予地震に関する住民意識調査　自主企画調査　13年
静岡県中部地震に関する住民意識調査　自主企画調査　13年
H15宮城県沖の地震に関するアンケート調査　自主企画調査　15年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査
自主企画調査　15年
H17宮城県沖の地震に関するアンケート調査　自主企画調査　17年
福岡県西方沖地震についての住民調査　自主企画調査　17年
三宅島帰島住民についての調査＜第１回目＞　自主企画調査　17年
三宅島帰島住民についての調査＜第２回目＞　自主企画調査　18年
新潟県中越地震に関する調査　茨城大学　18年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査　埼玉県　15年
防災に関する世論調査　東京都　17年
市町村防災研修事業に資するためのアンケート
(財)消防科学総合センター　18年
地下街利用者の災害に関する意識調査
(財)河川情報センター　11年
集中豪雨による水害についての住民調査
(財)河川情報センター　17年
砂防施設計画検討調査　(財)砂防・地すべり技術センター　11年
浅間山噴火についての住民アンケート
(財)砂防・地すべり技術センター　16年
台風14号地すべり災害についての住民調査
(財)砂防・地すべり技術センター　17年
平成18年7月豪雨による土砂災害警戒避難に関する調査
(財)砂防・地すべり技術センター　18年
桜島島民の防災意識に関するアンケート調査
(財)砂防・地すべり技術センター　18年
活断層長期予測デルファイ調査
(財)地震予知総合研究振興会　12年
地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査
(財)地震予知総合研究振興会　17年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査
(財)日本気象協会　12･13年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査　(財)日本気象協会　15年
富士山噴火情報についての自治体調査　(財)日本気象協会　15年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査
(財)日本気象協会　16年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査
(独)防災科学技術研究所　14年
水害ハザードマップ調査　(独)防災科学技術研究所　15年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査　(独)防災科学技術研究所　15年
名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査　(独)防災科学技術研究所　16年
新潟豪雨についての住民アンケート
(独)防災科学技術研究所　16年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査
NHK放送文化研究所　12年
有珠山避難者アンケート調査　NHK放送文化研究所　12年
東京都民の災害に関するアンケート調査　NHK報道局　14年
新潟県中越地震に関する住民調査　NHK放送文化研究所　16年
新潟豪雨災害に関する住民調査
NHK報道局気象災害センター　16年
震災５年後意識調査　NHK大阪局　11年
阪神淡路大震災に関する住民意識調査　NHK神戸局　16年
地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート
NPO環境防災総合政策研究機構　16年
新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査
NPO環境防災総合政策研究機構　16年
市町村における住民向け防災広報に関するアンケート調査
消防研究センター　18年
市町村における降雨災害時の住民向け対応調査
消防研究センター　18年
日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災体制の現状および課題に関する調査　消防庁　18年
旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査　東京経済大学　14年
家屋の耐震化に関するアンケート調査　東京経済大学　15年
水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査
東京経済大学　16年
救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査
東洋大学　16年
台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査
東洋大学　16年
東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査
東洋大学　16年
新潟中越についての十日町市民アンケート調査　東洋大学　16年
山古志村の復興に関する住民意識調査　東洋大学　17年
福岡県西方沖地震グループインタビュー　東洋大学　17年
救急医療と通信システムについての災害拠点病院アンケート調査
東洋大学　18年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査
東洋大学　18年
首都圏における通信行動についての住民アンケート調査
東洋大学　18年
原子力事業者アンケート調査　東洋大学　18年
旧山古志村復興意識調査　東洋大学　18年
観光地災害ヒヤリハット調査　常磐大学　18年
緊急地震速報に関する学生アンケート調査　日本大学　18年
災害報道内容分析　日本大学　18年
一人暮らしの若者の防災意識調査　日本大学　18年
「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査　富士常葉大学　16年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査　消防基金　９年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査　消防基金　10年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査　消防基金　11年
阪神大震災３年後の住民意識調査　朝日新聞社　９年
阪神大震災に関する住民意識調査　朝日新聞社　13･15･16年
災害等に関する意識調査　朝日新聞社　13年
阪神大震災に関する住民意識調査　朝日新聞社　13年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査　朝日新聞社　13年
広域連携についてのアンケート調査及び災害NPOアンケート調査
朝日新聞社　14年
阪神・淡路大震災８年後の被災者意識調査　朝日新聞社　14年
自治体復興・被災者支援制度アンケート調査　朝日新聞社　17年
十勝沖地震緊急調査　東京経済大学　15年
過密空間における人間行動意識に関する調査
東京大学社会情報研究所　９年
帰宅難民対応についての事業所調査
東京大学社会情報研究所　10年
大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査
東京大学社会情報研究所　10年
平成10年８月集中豪雨災害についての調査
東京大学社会情報研究所　10年
河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査
東京大学社会情報研究所　11･12年
東海村臨界事故時の行動に関する調査
東京大学社会情報研究所　11年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査
東京大学社会情報研究所　11年
防災用語についてのアンケート　東京大学社会情報研究所　11年
災害写真データベース作成　東京大学　12年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査
東京大学社会情報研究所　12年
東海水害被災者調査　東京大学社会情報研究所　12年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査
東京大学社会情報研究所　12年
富士山噴火住民アンケート　東京大学　13年

「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査
東京大学社会情報研究所　13年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査
東京大学社会情報研究所　13年
BSE（狂牛病）についての住民アンケート調査
東京大学社会情報研究所　13年
芸予地震に関する住民アンケート調査
東京大学社会情報研究所　13年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査　東京大学　14年
災害や事故が社会生活に与える影響調査　東京大学　14年
災害情報に対する民間企業の対応調査　東京大学　14年
自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査　東京大学　14年
富士山噴火による企業影響調査　東京大学　14年
2003年５月宮城県沖を震源とする地震住民調査
東京大学社会情報研究所　15年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析
東京大学社会情報研究所　15年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査
東京大学社会情報研究所　15年
宮城県北部地震に関するアンケート
東京大学社会情報研究所　15年
富士山噴火についての住民意識調査
東京大学社会情報研究所　15年
富士山噴火自治体調査　東京大学社会情報研究所　15年
東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査
東京大学社会情報研究所　15年
平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査
東京大学大学院情報学環　16年
「東海地震情報についての防災ビデオ」作成
東京大学大学院情報学環　16年
民間放送局の災害報道に関する調査
東京大学大学院情報学環　16年
新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査
東京大学大学院情報学環　16年
インターネットと携帯電話に関するアンケート　東京大学　18年
子供の安全と災害に対する意識調査　東京大学　18年
地震時の地域防災に関するアンケート　東京大学　18年
安全観についての住民アンケート調査　東洋大学　14～16年
北海道駒ケ岳噴火についての住民意識調査　東洋大学　14年
苫小牧市民の火山防災意識調査　東洋大学　15年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査
東洋大学　17年
災害弱者に関する調査　文教大学　10年
防災についてのアンケート調査　文教大学　10年
集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査　世田谷区　17年
街頭設置消火器実態調査　東久留米市　12年
東海地震についての県民意識調査　静岡県　3･5･7･9･11･13･17年
地域防災アンケート　静岡県　10･14･15年
防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査　静岡県　15年
防犯まちづくりアンケート調査　静岡県　15年
東海地震県民意識・企業防災実態調査　静岡県　17年
静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート
(財)静岡総合研究機構　13年
市町村消防団実態調査　愛知県　18年
津波浸水予想図印刷　二見町　17年
災害情報の提示方法に関する調査　大阪大学　18年
災害情報の提示方法に関する調査
大阪大学デザインセンター　17年
家屋等の耐震化に関する住宅調査
(財)人と防災未来センター　14年
東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査　(財)人と防災未来センター　16年
風水害時における自治体の災害対応に関する調査
(財)人と防災未来センター　16年

防災計画

地域防災計画修正　騎西町　17年
地域福祉計画　北杜市　18年
地域防災計画策定　豊富村　9年
地域防災計画　西桂町　18年
地域防災計画　忍野村　18年
地域防災計画　鳴沢村　18年
地域防災計画修正　掛川市　12年
掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定　掛川市　16年
地域福祉計画　御殿場市　18年
伊豆市地域防災計画策定　伊豆市　16年
防災パンフレット作成　伊豆長岡町　9年
地域防災計画修正　伊豆長岡町　14年
地域防災計画修正　土肥町　15年
地域防災計画策定　榛原町　8･13年
域防災計画修正　榛原町　14年
地域防災計画修正　吉田町　12年
地域福祉計画　川根本町　18年
地域防災計画策定　安曇野市　18年
地域防災計画策定　中津川市　17年
地域防災計画策定　伊豆の国市　17年
特殊災害救助活動計画策定　愛知県　18年
職員初動マニュアル作成　東郷町　14年
地域防災計画策定　東郷町　13･14年
防災マップ作成　東郷町　14年
避難誘導計画策定　東郷町　17年
地域防災計画策定　西春町　15年
防災新聞作成　西春町　15年
地域防災計画等修正　甚目寺町　14・15年
防災に関する講演会　甚目寺町　15年
洪水ハザードマップ作成　甚目寺町　16年
新市地域防災計画策定　津市　17年
地域防災計画策定　いなべ市　17年
地域防災計画　伊賀市　17年
自主防災組織活動マニュアル作成　二見町　15年
職員災害初動マニュアル等作成　二見町　15年
津波ハザードマップ作成　御薗村　17年
地域防災計画　江津市　17年
地域防災計画改定　早島町　18年
防災マップ作成　鏡野町　18年
防災対策アクションプラン策定　三原市　18年
地域防災計画　中土佐町　18年

第3回 三宅島帰島住民アンケート調査

平成19年7月

株式会社　サーベイリサーチセンター

（本　　社）〒116-8581　東京都荒川区西日暮里2-40-10
TEL　03-3802-6711（代）
FAX　03-3802-6730
（社会情報部）　TEL　03-3802-6716
FAX　03-3802-6738

本書の記載内容の無断転載を禁ず。
なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、
社会情報部 中島宛（E-mail ： naka_r@surece.co.jp）にお申し出ください。

株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO., LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号　〒116-8581
TEL：(03)3802-6711(大代表)/FAX：(03)3802-6730

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号　〒980-0802
TEL：(022) 225-3871 (代) /FAX：(022) 225-3866

静岡事務所
静岡市葵区呉服町1丁目6番11号　〒420-0031
TEL：(054) 251-3661 (代) /FAX：(054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号　〒450-0002
TEL：(052) 561-1251 (代) /FAX：(052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号　〒530-6011
TEL：(06) 4801-9231 (代) /FAX：(06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市大供2丁目1番1号　〒700-0913
TEL：(086) 226-8031 (代) /FAX：(086) 226-8030

広島事務所
広島市中区幟町13番14号　〒730-0016
TEL：(082) 227-7511 (代) /FAX：(082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号　〒760-0047
TEL：(087) 811-2671 (代) /FAX：(087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前4丁目4番21号　〒812-0011
TEL：(092) 411-8811 (代) /FAX：(092) 411-8851

ホームページ　http://www.surece.co.jp/